

平成 29 年度

# 秋 田 県 水 防 計 画

〔資 料 編〕

秋 田 県

# 目 次

## 第1章 水 防 施 設

1－1	水防管理団体倉庫一覧表	1
1－2	県管理倉庫一覧表	5

## 第2章 重要水防区域

2－1	国土交通省重要水防区域評定基準	6
2－2	国土交通省重要水防区域一覧表	
	能代河川国道事務所管内 重要水防箇所別調書	7
	秋田河川国道事務所管内 重要水防箇所別調書	18
	湯沢河川国道事務所管内 重要水防箇所別調書	35
2－3	秋田県重要水防区域評定基準	57
2－4	秋田県重要水防区域一覧表	
	鹿角支部管内	58
	北秋田支部管内	59
	山本支部管内	64
	秋田支部管内	67
	由利支部管内	69
	仙北支部管内	73
	平鹿支部管内	77
	雄勝支部管内	80

## 第3章 水位観測所

3－1	県所管水位観測所	81
3－2	国土交通省所管水位観測所	85

## 第4章 雨量観測所

4－1	消防機関設置雨量観測所	87
4－2	気象庁所管雨量観測所	88
4－3	県所管雨量観測所	89

## 第5章 予報及び警報

5－1	直轄河川洪水予報発表形式	93
5－2	直轄河川洪水予報伝達系統図	96
5－3	秋田県管理河川洪水予報発表形式	99
5－4	秋田県管理河川洪水予報伝達系統図	100
5－5	直轄河川、秋田県管理河川水位到達情報通知発表形式	101
5－6	直轄河川水防警報伝達系統図	105
5－7	秋田県管理河川水防警報、水位到達情報通知の伝達系統図	108

5-8	直轄河川水防警報発表形式	109
5-9	秋田県管理河川水防警報の発表形式	110
第6章 水防作業及び工法		
6-1	水防工法一覧表	113
6-2	本県の河川に適していると思われる水防工法	117
第7章 隣接市町村に対する水防警報		
7-1	隣接市町村に対する水防警報	124
第8章 ダム一覧表		
8-1	秋田県内ダム一覧表	127
第9章 水防報告		
9-1	水防活動報告書様式(例)	129
第10章 水防協力団体の申請・指定及び運用		
10-1	水防協力団体指定要領	131
10-2	水防協力団体指定申請書様式	133
10-3	水防協力団体協力活動業務計画書	134
10-4	水防協力団体認定書様式	135
10-5	水防協力団体との水防協働活動実施要領	136
10-6	水防協力団体協力活動報告書様式	137
付則資料		
○秋田県水防協議会		
1	秋田県水防協議会委員名簿	138
2	秋田県水防協議会条例	139
○関係法令		
1	水防法	140
2	水防法施行規則	161
3	水防施設費国庫補助規則	167
4	激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律(抄)	169
5	激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律施行令(抄)	169
6	気象業務法(抄)	170
7	気象業務法施行令(抄)	172
8	退職水防団員等報償規程	174
9	水防功労者表彰規則	175

# 第 1 章 水防施設

# 第1章 水 防 施 設

## 1－1 水防管理団体倉庫一覧表

### 1. 水防倉庫

水防管理団体管理の水防倉庫は、その重要水防地域内に、次の基準により設置し必要な資 材を備えておくものとする。

- (1) 設置場所は、水防活動に便利な所を選ぶものとし、適当な場所がないときには、堤防裏法の定規断面外、その他治水上支障のない所に設置するものとする。
- (2) 常湿地帯で、土のう用土砂の採取不可能な地区については、水防管理団体において適当に土砂を備蓄するものとする。

### 2. 水防管理団体倉庫一覧表

郡市、市町村別

郡市別設置棟数

(棟)

郡市別	市	鹿 角	北秋田	山 本	南秋田	仙 北	雄 勝	合 計
棟 数	62	1	1	6	1	1	1	73

水防管理団体別水防倉庫数

市町村名	棟 数	市町村名	棟 数	市町村名	棟 数
秋 田 市	3	大 仙 市	11	三 種 町	3
能 代 市	4	鹿 角 市	3	五 城 目 町	1
横 手 市	8	北 秋 田 市	2	羽 後 町	1
大 館 市	4	仙 北 市	4	上 小 阿 仁 村	1
由 利 本 荘 市	10	美 郷 町	1	八 峰 町	2
湯 沢 市	10	小 坂 町	1		
に か ほ 市	3	藤 里 町	1		

水系別・河川別 水防倉庫所在表

米代川水系

市 町 村 名	河 川 名	設 置 場 所
能代市 (4)	常 盤 川	常磐字高森下162
	米 代 川	緑町2-22
	〃	沢口56-4
	〃	飛根字上野130
大館市 (4)	米代川 長木川 下内川 乱 川 花岡川 大森川	字長木川南269-2
	米 代 川	比内町扇田字長岡85-4
	犀 川	比内町大葛字大葛家後87
	米 代 川	岩瀬字下軽石野3-17
鹿角市 (3)	米 代 川	花輪字新田町11-4
	〃	花輪字下川原40
	大 湯 川	十和田毛馬内字上陣場19-5
北秋田市 (2)	米 代 川	鷹巣字北中家下85
	阿 仁 川	米内沢字田ノ沢32-3
小坂町 (1)	小 坂 川	小坂字中前田68-1
藤里町 (1)	藤琴川・粕毛川	粕毛字清水岱7番地の2
上小阿仁村 (1)	小 阿 仁 川	小沢田字向川原216

雄物川水系

市 町 村 名	河 川 名	設 置 場 所
秋田市 (3)	雄 物 川	新屋比内町
	太 平 川	太平字上目長崎
	岩 見 川	岩見三内字道山131
大仙市 (11)	雄 物 川	大曲あけぼの町
	〃	協和上淀川字中島17-1
	〃	神宮寺字蓮沼
	〃	北檜岡字北檜岡
	〃	南外南檜岡字下木直古川端
	〃	刈和野字清光院後
	玉 川	花館字間倉
	〃	松倉字松倉
	〃	北長野字谷地中29-3
	丸 子 川	高梨字田茂木
	川 口 川	太田町太田字新田中嶋111-1
	横 手 川	条里一丁目1-1
横手市 (8)	〃	上境字館
	成 瀬 川	増田町萩袋字真当72
	雄 物 川	大森町字大中島248
	〃	雄物川町今宿字鳴田1
	〃	大雄字阿気13番地
	皆 瀬 川	平鹿町浅舞字野々助158-3
	〃	十文字町植田字古川端
	雄 物 川	裏門207-3
湯沢市 (10)	〃	山田字松ノ木
	〃	下関字下本内
	〃	小野字東水口122
	皆 瀬 川	角間字白山下
	〃	岩崎字岩崎105
	〃	川連町字上平城120
	〃	川向字沢梨台35-1
	白 子 川	倉内字三屋31
	高 松 川	相川字須川
	玉 川	白岩広久内字舟場
仙北市 (4)	桧 木 内 川	川原字寺前
	〃	岩瀬字西の川原
	〃	門屋字漆原88-2
	丸 子 川	六郷字押切11
美郷町 (1)	出 川	
羽後町 (1)	西馬音内川	貝沢字拾三本塚25

子吉川水系

市 町 村 名	河 川 名	設 置 場 所
由利本荘市 (9)	芋 川	松本字上川原
	〃	岩谷字日渡
	〃	小栗山字小栗山
	〃	前郷字前郷
	石 沢 川	館字石沢館31
	〃	老方字台山
	〃	東由利田代高戸屋41
	子 吉 川	石脇字田尻
	〃	矢島町20

その他の水系

市 町 村 名	河 川 名	設 置 場 所
にかほ市 (3)	白 雪 川	樋目野字百目木1-1
	奈 曽 川	関字村ノ上22-3
	〃	本郷字盛160
由利本荘市 (1)	君ヶ野 川	由利本荘市岩城内道川字新鶴潟
三種町 (3)	三 種 川	鵜川字岩谷子8
	〃	豊岡金田字森沢1-2
	鹿 渡 川	鹿渡字東二本柳29-3
八峰町 (2)	真 瀬 川	八森字中浜63
	塙 川	峰浜田中字鳥矢場11-1
五城目町 (1)	馬 場 目 川	石田六ヵ村堰添113-6



## 1－2 県管理倉庫一覧表

県管理倉庫一覧表

支 部 名	設 置 場 所
鹿角支部	鹿角市花輪字六月田1番地 （鹿角地域振興局庁舎敷地内）
北秋田支部	北秋田市鷹巣字東中岱29-3
山本支部	能代市御指南町1-10 （山本地域振興局庁舎敷地内）
秋田支部	秋田市向浜一丁目2-2
仙北支部	大仙市大曲上栄町13-62 （仙北地域振興局庁舎敷地内）
由利支部	由利本荘市水林366 （由利地域振興局庁舎敷地内）
平鹿支部	横手市赤坂字仁坂105-12
雄勝支部	湯沢市千石町2丁目1-10 （雄勝地域振興局庁舎敷地内）

## 第 2 章 重要水防区域

## 2-1 国土交通省直轄河川区間重要水防区域評定基準

種 別	重 要 度		要 注 意 区 間
	A 水防上最も重要な区間	B 水防上重要な区間	
堤防高(流下能力)	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）が現況の堤防高を越える箇所。	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）と現況の堤防高との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
堤 防 断 面	現況の堤防断面あるいは天端幅が、計画の堤防断面あるいは計画の天端幅の2分の1未満の箇所。	現況の堤防断面あるいは、天端幅が計画の堤防断面あるいは計画の天端幅に対して不足しているが、それぞれ2分の1以上確保されている箇所。	
法崩れ・すべり	法崩れまたはすべりの実績があるが、その対策が未施工の箇所。	法崩れまたはすべりの実績があるが、その対策が暫定施工の箇所。法崩れまたはすべりの実績はないが、堤体あるいは基礎地盤の土質、法勾配等からみて法崩れまたはすべりが発生するおそれがある箇所で所要の対策が未施工の箇所。	
漏 水	漏水の履歴があるが、その対策が未施工の箇所。	漏水の履歴があり、その対策が暫定施工の箇所。 漏水の履歴はないが、破堤跡または旧川跡の堤防であること、あるいは基礎地盤及び堤体の土質等からみて、漏水が発生するおそれのある箇所、 所要の対策が未施工の箇所。	
水 衝・洗 掘	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れしているがその対策が未施工の箇所。 橋台取付部やその他の工作物の突出箇所、堤防護岸の根固め等が洗われ一部破損しているが、その対策が未施工の箇所。 波浪による河岸の決壊等の危険に瀕した実績があるが、その対策が未施工の箇所。	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れにならない程度に洗掘されているが、その対策が未施工の箇所。	
工 作 物	河川管理施設等応急対策基準に基づく改善措置が必要な堰、橋梁、樋管その他の工作物の設置されている箇所。橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等が計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）以下となる箇所。	橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等と計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあっては計画高潮位）との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
工 事 施 工			出水期間中に堤防を開削する工事箇所または仮締切等により本堤に影響を及ぼす箇所。
新堤防・破堤跡・旧川跡			新堤防で築造後3年以内の箇所。破堤跡または旧川跡の箇所。
陸 閘			陸閘が設置されている箇所。
特 定 の 区 間			風水害発生時における内閣としての初動措置始動の基準となっている「破堤により甚大な被害が予想される河川」で内閣危機管理監が定めた区間。

## 重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その1）

河川名	距離標	地区名	評定種別	平成29年度評定				距離標	地区名	評定種別	平成28年度評定				対 策	変更理由等	関連 計画 等	水防警 報対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
		及 び	及 び	堤 防(m)		工作物 (箇所)	及 び		及 び	堤 防(m)		工作物 (箇所)	水 防							
		左右岸別	図面番号	A	B	A	B		A	B	A	B	工法名							
米代川	2.7	中島 (左)	工作物 橋梁 (1)				1									米代川橋梁	改修	向能代	能代市	二 ツ 井 出 張 所
	4.6～ 5.2	中川原 (左)	旧川跡 漏水					4.6～ 5.2	中川原 (左)	旧川跡 漏水 (1)	850				釜段工	重点監視の手引き(案) による評価した結果 対象外とする	改修	〃	〃	
	5.6～ 6.5	〃	堤防高 (2)		1,285										避難	完成堤	改修	〃	〃	
	6.5～ 6.6	〃	堤防高 (3)	100											〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	7.6～ 12.0	鶴形 (左)	堤防高 (4)		3,146										〃	完成堤	改修	〃	〃	
	9.0	〃	工作物 橋梁 (5)				1									米代新橋	改修	〃	〃	
	9.6	〃	工作物 樋管 (6)			1		9.6	鶴形 (左)	工作物 樋管 (2)			1		積土土工	門柱高不足 道地揚水樋管 S17年設置	応対	〃	〃	
	13.0	〃	工作物 樋管 (7)			1		13.0	〃	工作物 樋管 (3)			1		〃	門柱高不足・門扉木製 鶴形用水樋管 S17年設置	応対	〃	〃	
	3.0～ 4.1	吹越 (右)	法崩れ・ すべり					3.0～ 4.1	吹越 (右)	法崩れ・ すべり (4)		1,321			シート張工	H27年度対策済なので 重要水防箇所の延長見直し	改修	〃	〃	
	4.1～ 6.2	〃	漏 水					4.1～ 6.2	〃	漏 水 (5)		885			釜段工	H27年度対策済なので 重要水防箇所の延長見直し	改修	〃	〃	
	7.3～ 7.4	〃	水衝・ 洗掘					7.3～ 7.4	〃	水衝・ 洗掘 (6)	100				木流し工	根固めブロックの 流失及び移動	改修	〃	〃	
	7.6～ 8.2	〃	水衝・ 洗掘 (8)		420			7.6～ 8.2	〃	水衝・ 洗掘 (7)		420			〃	背後地集落有 無堤	改修	〃	〃	
	7.6～ 8.2	〃	堤防高					7.6～ 8.2	〃	堤防高 (8)		669			避難	無堤	改修	〃	〃	
	7.6～ 8.2	〃	堤防断面					7.6～ 8.2	〃	堤防断面 (9)	669				〃	無堤	改修	〃	〃	
7.6～ 7.8	〃	堤防高 (9)	198											〃	無堤	改修	〃	〃		

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その2）

米代川	7.6～	吹越	堤防断面	198										避難	無堤	改修	向能代	能代市	二 ツ 井 出 張 所
	7.8	(右)	(10)																
	9.2～	朴瀬・常盤	堤防高		2,154									〃	完成堤	改修	〃	〃	
	12.0	(右)	(11)																
	11.9～	常盤	漏 水					11.9～	常盤	漏 水		1,096		釜段工	H25年度対策済なので 重要水防箇所の延長見直し	改修	〃	〃	
	13.3	(右)	(10)					13.3	(右)	(10)									
	16.4～	常盤上流	堤防高					16.4～	常盤上流	堤防高	386			避難	無堤	改修	〃	〃	
	16.8	(右)	(11)					16.8	(右)	(11)									
	16.4～	〃	堤防断面					16.4～	〃	堤防断面	386			〃	無堤	改修	〃	〃	
	16.8		(12)					16.8		(12)									
	18.6～	〃	水衝・洗掘 (12)	100				18.6～	〃	水衝・洗掘 (13)	100			木流し工	背後地県道 民家有	改修	〃	〃	
	18.7							18.7											
	12.8～	鶴形	漏 水	296										釜段工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	13.1	(左)	(13)																
	18.7～	常盤上流	漏 水	403				18.7～	常盤上流	漏 水	403			釜段工	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	19.0	(右)	(14)					19.0	(右)	(14)									
	18.8～	〃	堤防高	770										避難	完成堤	改修	〃	〃	
	19.2		(15)																
	15.6～	富根	堤防高	3,046										〃	完成堤	改修	〃	〃	
	19.4	(左)	(16)																
	19.1～	〃	漏 水					19.1～	富根	漏 水	407			月の輪工	詳細設計に基づく 対策不要箇所	改修	〃	〃	
	19.5							19.5	(左)	(15)									
	19.8	〃	工作物 橋梁 (17)			1									富根橋 桁下高不足	改修	二ツ井	〃	
	19.8～	〃	堤防高	696				19.8～	富根	堤防高	1,057			避難	無堤	改修	〃	〃	
	20.4		(18)					20.6	(左)	(16)									
	19.8～	〃	堤防断面	696				19.8～	〃	堤防断面	1,057			〃	無堤	改修	〃	〃	
	20.4		(19)					20.6		(17)									
	21.0～	切石	堤防高	3,911										〃	完成堤	改修	〃	〃	
	25.2	(左)	(20)																
	25.8	〃	工作物 橋梁 (21)			1									米代川橋梁 桁下高不足	改修	〃	〃	

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その3）

米代川	25.9	切石 (左)	工作物 橋梁 (22)				1								新米代川橋梁 桁下高不足	改修	二ツ井	能代市
	27.4～	二ツ井左岸	堤防高		1,054								避難		改修	〃	〃	
	28.4	(左)	(23)											完成堤				
	20.8	富田 (右)	工作物 樋管 (24)			1		20.8	富田 (右)	工作物 樋管 (18)			1	積土糞工	門扉フラップ 富田樋管 S34年設置	応対	〃	〃
	21.6～	〃	水衝・ 洗掘 (25)	200				21.6～	〃	水衝・ 洗掘 (19)	200			木流し工	根固めブロックの流失	改修	〃	〃
	21.8							21.8										
	20.0～	〃	堤防高		2,202									避難		改修	〃	〃
	22.4		(26)												完成堤			
	22.0	〃	工作物 樋管 (27)			1		22.0	富田 (右)	工作物 樋管 (20)			1	積土糞工	門柱高不足・門扉木製 富田用水樋管 S28年設置	応対	〃	〃
	22.4	〃	工作物 樋管 (28)			1		22.4	〃	工作物 樋管 (21)			1	〃	門扉フラップ 種梅用水樋管 S29年設置	応対	〃	〃
	26.4	二ツ井 右岸(右)	工作物 橋梁 (29)				1	26.4	二ツ井 右岸(右)	工作物 橋梁 (22)				1	米白橋 桁下高不足	改修	〃	〃
	26.4～	〃	堤防高		690									避難		改修	〃	〃
	27.4		(30)												完成堤 銀杏橋			
	28.4	〃	工作物 橋梁 (31)				1								桁下高不足	改修	〃	〃
28.6～	〃	堤防高		1,214										避難		改修	〃	〃
29.8		(32)												完成堤				
29.0～	二ツ井	堤防高					29.0～	二ツ井	堤防高		813		〃	完成堤、特殊堤	改修	〃	〃	
29.8	右岸(右)						29.8	右岸(右)	(23)									
31.4～	七座右岸	堤防高		175			31.4～	七座右岸	堤防高		175		〃		改修	〃	〃	
31.6	(右)	(33)					31.6	(右)	(24)					完成堤 七座橋				
34.0	〃	工作物 橋梁 (34)				1								桁下高不足	改修	〃	〃	
米代川 二ツ井出張所 小計				2,088	20,866	5	8				4,705	6,289	5	1				

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その4）

米代川	43.1～ 43.5	南鷹巣 (左)	法崩れ・ すべり (35)		406			43.1～ 43.5	南鷹巣 (左)	法崩れ・ すべり (26)		406			シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	鷹巣	北秋田市
	43.6～ 44.6	〃	漏 水 (36)		1,031										釜段工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ		〃	〃
	43.2～ 45.2	〃	堤防高 (37)		1,885										避難	完成堤	改修	〃	〃
	46.8～ 48.0	摩当 (左)	堤防高 (38)		1,171										〃	完成堤	改修	〃	〃
	36.4～ 48.4	坊沢・舟場 ・鷹巣右岸 (右)	堤防高 (39)		11,255										避難	完成堤	改修	〃	〃
	41.1	坊沢 (右)	工作物 橋梁 (40)			1										坊沢大橋	改修	〃	〃
	43.1	舟場 (右)	工作物 橋梁 (41)			1										桁下高不足 米代川橋梁	改修	〃	〃
	44.1	〃	工作物 橋梁 (42)				1									桁下高不足 西鷹巣大橋	改修	〃	〃
	48.4～ 48.6	鷹巣右岸 (右)	堤防高 (43)	209											避難	完成堤	改修	〃	〃
	48.6～ 49.6	〃	堤防高 (44)		1,061										〃	完成堤	改修	〃	〃
	38.5～ 41.8	〃	漏 水 (45)		3,229			38.5～ 42.0	坊沢 (右)	漏 水 (25)		3,566			月の輪工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ H20年度一部対策済	改修	〃	〃
	42.0～ 42.4	舟場 (右)	漏 水					42.0～ 42.4	舟場 (右)	漏 水 (27)		400			釜段工	詳細設計に基づく 対策不要箇所	改修	〃	〃
	42.7～ 43.2	〃	漏 水					42.7～ 43.2	〃	漏 水 (28)		212			〃	H20年度対策済なので 重要水防箇所の延長見直し	改修	〃	〃
	43.2～ 43.6	〃	法崩れ・ すべり (46)		258			43.2～ 43.6	〃	法崩れ・ すべり (29)		258			シート張工	詳細点検による 表法すべり破壊おそれ	改修	〃	〃
	43.6～ 44.7	〃	漏 水 (47)		1,083			43.6～ 44.7	〃	漏 水 (30)		1,083			月の輪工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ	改修	〃	〃
	44.7	鷹巣右岸 (右)	工作物 橋梁 (48)			1										鷹巣橋 桁下高不足	改修	〃	〃

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その5）

米代川	46.0	鷹巣右岸 (右)	工作物 橋梁 (49)				1								東鷹巣橋 桁下高不足	改修	鷹巣	北秋田市	鷹 巣 出 張 所
	46.2～ 46.4	〃	漏 水					46.2～ 46.4	鷹巣右岸 (右)	漏 水 (31)	190			釜段工	対策不要区間	改修	〃	〃	
	46.6～ 47.0	〃	漏 水					46.6～ 47.0	〃	漏 水 (32)	330			〃	対策不要区間	改修	〃	〃	
	47.4	〃	工作物 橋梁 (50)				1								架橋 桁下高不足	改修	〃	〃	
	49.4	糠沢 (右)	工作物 橋梁 (51)				1								向黒沢橋 桁下高不足	改修	〃	〃	
	53.8～ 53.9	外川原 (左)	法崩れ・ すべり (52)		98			53.8～ 53.9	外川原 (左)	法崩れ・ すべり (33)		98		シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	十二所	大館市	
	53.8～ 53.9	〃	漏 水 (53)		98			53.8～ 53.9	〃	漏 水 (34)		98		釜段工	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	53.8～ 55.4	〃	堤防高 (54)	1,503										避難	完成堤	改修	〃	〃	
	55.0	〃	工作物 橋梁 (55)				1								外川原橋 桁下高不足	改修	〃	〃	
	53.6～ 54.2	〃	堤防高					53.6～ 54.2	外川原 (左)	堤防高 (35)		514		避難	完成堤	改修	〃	〃	
	54.2～ 54.6	〃	堤防高					54.2～ 54.6	〃	堤防高 (36)		198		〃	完成堤	改修	〃	〃	
	54.6～ 55.6	〃	堤防高					54.6～ 55.6	〃	堤防高 (37)		791		〃	完成堤	改修	〃	〃	
	55.1～ 55.4	〃	法崩れ・ すべり (56)		269			55.1～ 55.4	〃	法崩れ・ すべり (38)		269		シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	〃	〃	
	55.1～ 55.4	〃	漏 水 (57)		269			55.1～ 55.4	〃	漏 水 (39)		269		月の輪工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	57.4～ 58.2	板沢 (左)	堤防高					57.4～ 58.2	板沢 (左)	堤防高 (40)	817			避難	暫々堤	改修	〃	〃	
	57.4～ 58.2	〃	堤防断面					57.4～ 58.2	〃	堤防断面 (41)	817			〃	暫々堤	改修	〃	〃	



重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その6）

米代川	57.4～ 60.4	板沢 (左)	堤防高 (58)	3,041										避難	暫々堤	改修	十二所	大館市
	57.4～ 60.4	〃	堤防断面 (59)	3,041										避難	暫々堤	改修	〃	〃
	58.2	〃	工作物 橋梁 (60)			1									新真中橋 桁下高不足	改修	〃	〃
	58.4～ 59.0	〃	堤防高				58.4～ 59.0	板沢 (左)	堤防高 (42)		672			避難	暫々堤	改修	〃	〃
	59.0～ 60.2	〃	堤防高				59.0～ 60.2	〃	堤防高 (43)		1,282			〃	暫々堤	改修	〃	〃
	58.4～ 60.2	〃	堤防断面				58.4～ 60.2	〃	堤防断面 (44)	1,954				〃	暫々堤	改修	〃	〃
	60.2～ 60.4	〃	堤防高				60.2～ 60.4	〃	堤防高 (45)	211				〃	暫々堤	改修	〃	〃
	60.2～ 60.4	〃	堤防断面				60.2～ 60.4	〃	堤防断面 (46)	211				〃	暫々堤	改修	〃	〃
	55.4～ 55.6	早口 (右)	堤防高 (61)	228										〃	無堤	改修	〃	〃
	56.6～ 57.8	〃	堤防高				56.6～ 57.8	川口 (右)	堤防高 (47)	1,306				〃	無堤	改修	〃	〃
	56.6～ 57.6	〃	堤防断面				56.6～ 57.6	〃	堤防断面 (48)	1,105				〃	無堤	改修	〃	〃
	56.6～ 60.0	早口・川口 (右)	堤防高 (62)	3,499										〃	暫々堤	改修	〃	〃
	56.6～ 60.0	〃	堤防断面 (63)	3,499										〃	暫々堤	改修	〃	〃
	57.6～ 58.0	〃	堤防断面				57.6～ 58.0	川口 (右)	堤防断面 (49)	501				〃	暫定堤	改修	〃	〃
	57.8～ 58.0	〃	堤防高				57.8～ 58.0	〃	堤防高 (50)		300			〃	暫定堤	改修	〃	〃
	58.2～ 60.0	〃	堤防高				58.2～ 60.0	〃	堤防高 (51)		1,978			〃	暫定堤	改修	〃	〃

鷹巣出張所

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その7）

米代川	58.2～ 60.0	吉富士 (左)	堤防断面				58.2～ 60.0	川口 (右)	堤防断面 (52)	1,978				避難	暫定堤	改修	十二所	大館市	鷹 巣 出 張 所
	60.6～ 62.9	〃	法崩れ・ すべり (64)	2,216			60.6～ 62.9	吉富士 (左)	法崩れ・ すべり (53)	2,216				シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	〃	〃	
	61.5～ 61.6	〃	水衝・ 洗掘 (65)	100			61.5～ 61.6	〃	水衝・ 洗掘 (54)	100				木流し工	完成堤	改修	〃	〃	
	62.7	〃	工作物 橋梁 (66)			1									H26.3出水で被災 田中橋	改修	〃	〃	
	62.9～ 65.3	〃	法崩れ・ すべり (67)	2,400			62.9～ 65.3	吉富士 (左)	法崩れ・ すべり (55)	2,399				シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	〃	〃	
	62.9～ 65.3	〃	漏 水 (68)	2,400			62.9～ 65.3	〃	漏 水 (56)	2,399				月の輪工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	63.3～ 63.4	〃	水衝・ 洗掘 (69)	80			63.3～ 63.4	〃	水衝・ 洗掘 (57)	80				木流し工	完成堤	改修	〃	〃	
	63.9～ 64.0	〃	水衝・ 洗掘 (70)	90			63.9～ 64.0	〃	水衝・ 洗掘 (58)	90				〃	H26.3出水で被災 完成堤	改修	〃	〃	
	60.2～ 62.4	山田渡 (右)	堤防高 (71)	2,265			60.2～ 60.8	山田渡 (右)	堤防高 (59)	655				避難	暫定堤	改修	〃	〃	
	60.2～ 60.8	〃	堤防断面 (72)	655			60.2～ 60.8	〃	堤防断面 (60)	655				〃	暫定堤 (HWL堤)	改修	〃	〃	
	60.8～ 61.8	〃	堤防断面 (73)	1,008										〃	暫々堤 (輪中堤内は103号下 のBOXを積土囊)	改修	〃	〃	
	62.0～ 62.8	〃	堤防断面 (74)	801			62.0～ 62.8	山田渡 (右)	堤防断面 (68)	801				〃	暫々堤	改修	〃	〃	
	60.8～ 61.0	〃	堤防高				60.8～ 61.0	〃	堤防高 (61)	120				避難 積土囊工	暫々堤 (輪中堤内は103号下 のBOXを積土囊)	改修	〃	〃	
	60.8～ 61.0	〃	堤防断面				60.8～ 61.0	〃	堤防断面 (62)	120				避難 積土囊工	暫々堤 (輪中堤内は103号下 のBOXを積土囊)	改修	〃	〃	
	61.2～ 61.4	〃	堤防高				61.2～ 61.4	〃	堤防高 (63)	38				避難	暫定堤	改修	〃	〃	
	62.4～ 68.2	山田渡・ 小館花 (右)	堤防高 (75)	5,699										〃	暫定堤	改修	〃	〃	

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その8）

米代川	61.2～ 61.4	山田渡 (右)	堤防断面					61.2～ 61.4	山田渡 (右)	堤防断面 (64)	38				避難	暫定堤	改修	十二所	大館市	鷹 巣 出 張 所
	61.0～ 61.8	〃	堤防高					61.0～ 61.8	〃	堤防高 (65)		850			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	61.0～ 61.8	〃	堤防断面					61.0～ 61.8	〃	堤防断面 (66)	850				〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	62.0～ 62.2	〃	堤防高					62.0～ 62.2	〃	堤防高 (67)		199			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	64.4～ 68.6	二井田 (左)	堤防高 (76)		4,449										〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	64.4～ 68.6	〃	堤防断面 (77)		4,449										〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	65.0～ 65.4	〃	堤防高					65.0～ 65.4	二井田 (左)	堤防高 (69)		346			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	65.6～ 67.2	〃	堤防高					65.6～ 67.2	〃	堤防高 (70)		1,586			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	64.4～ 67.2	〃	堤防断面					64.4～ 67.2	〃	堤防断面 (71)		2,865			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	65.4～ 65.6	〃	漏 水					65.4～ 65.6	〃	漏 水 (72)		240			釜段工	対策不要区間 二井田大橋 桁下高不足	改修	〃	〃	
	65.6	〃	工作物 橋梁 (78)			1											改修	〃	〃	
	66.0～ 66.8	〃	漏 水					66.0～ 66.8	二井田 (左)	漏 水 (73)		700			月の輪工	対策不要区間 米代川第16橋梁 桁下高不足	改修	〃	〃	
	67.2	〃	工作物 橋梁 (79)			1											改修	〃	〃	
	67.2～ 67.4	扇田 (左)	堤防高					67.2～ 67.4	扇田 (左)	堤防高 (74)		287			避難	暫定堤	改修	〃	〃	
	67.2～ 67.4	〃	堤防断面					67.2～ 67.4	〃	堤防断面 (75)		287			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	67.4～ 68.6	〃	堤防高					67.4～ 68.6	〃	堤防高 (76)		1,297			避難	暫定堤	改修	〃	〃	

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その9）

米代川	67.4～ 68.6	扇田 (左)	堤防断面					67.4～ 68.6	扇田 (左)	堤防断面 (77)		1,297			避難	暫定堤	改修	十二所	大館市	鷹 巣 出 張 所
	62.8～ 65.6	小館花 (右)	堤防断面					62.8～ 65.6	小館花 (右)	堤防断面 (79)		2,793			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	62.8～ 66.2	〃	堤防断面 (80)		3,401										〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	64.0～ 64.2	〃	漏 水					64.0～ 64.2	小館花 (右)	漏 水 (80)		285			釜段工	漏水履歴不明	改修	〃	〃	
	64.3～ 66.1	〃	漏 水 (81)		1,795			64.3～ 66.1	〃	漏 水 (81)		1,795			月の輪工	詳細点検による 堤体漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	64.6～ 65.4	〃	堤防高					64.6～ 65.4	〃	堤防高 (82)		789			避難	暫々堤	改修	〃	〃	
	65.6～ 66.2	金谷 (右)	堤防断面					65.6～ 66.2	金谷 (右)	堤防断面 (83)		608			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	65.8～ 66.4	〃	堤防高					65.8～ 66.4	〃	堤防高 (84)		602			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	66.1～ 67.5	〃	漏 水 (82)		1,417			66.1～ 67.5	〃	漏 水 (85)		1,417			釜段工	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	66.2～ 66.8	〃	堤防断面 (83)	521				66.2～ 66.8	〃	堤防断面 (87)	521				避難	暫々堤	改修	〃	〃	
	66.8～ 68.2	〃	堤防断面 (84)		1,295			66.8～ 68.2	〃	堤防断面 (88)		1,295			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	66.4～ 68.2	〃	堤防高					66.4～ 68.2	〃	堤防高 (86)		1,557			〃	暫定堤	改修	〃	〃	
	67.5～ 68.0	〃	漏 水					67.6～ 68.0	〃	漏 水 (89)		500			釜段工	対策不要区間	改修	〃	〃	
	68.2	〃	工作物 橋梁 (85)				1	68.2	〃	工作物 橋梁 (78)				1		扇田橋 桁下高不足	改修	〃	〃	
米代川 鷹巣出張所 小 計				19,615	52,559	5	8					11,788	42,703	0	1					

重要水防箇所別調書前年度比較表（能代河川国道事務所 その１０）

藤琴川																			二ツ井出張所	
	藤琴川 小 計			0	0	0	0				0	0	0	0						
小猿部川	0.0～ 1.2	小猿部川 (左)	法崩れ・ すべり (86)		1,175			0.0～ 1.2	小猿部川 (左)	法崩れ・ すべり (90)		1,175			シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	鷹 巢	北秋田市	鷹 巢 出 張 所
	0.2～ 0.3	小猿部川 (右)	漏 水 (87)		93			0.2～ 0.3	小猿部川 (右)	漏 水 (91)		93			釜段工	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	0.3～ 1.0	〃	漏 水 (88)		749			0.3～ 1.0	〃	漏 水 (92)		749			〃	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	0.3～ 1.0	〃	法崩れ・ すべり (89)		749			0.3～ 1.0	〃	法崩れ・ すべり (93)		749			シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	〃	〃	
	1.8	〃	漏 水 (90)		50			1.8	〃	漏 水 (94)		50			釜段工	詳細点検による 基盤漏水のおそれ	改修	〃	〃	
	1.8	〃	法崩れ・ すべり (91)		50			1.8	〃	法崩れ・ すべり (95)		50			シート張工	詳細点検による 裏法すべり 破壊のおそれ	改修	〃	〃	
	小猿部川 小 計			0	2,866	0	0					0	2,866	0	0					
支川小計				0	2,866	0	0				1,602	2,866	0	0						
合 計				21,703	76,291	10	16				16,493	51,858	5	2						

「特定の区間」調書 (能代河川国道事務所)

河 川 名	距 離 標	地区名及び 左右岸別	延 長	図面番号	水防警報対象観測所	関連市町村	出 張 所
米代川	該 当 区 間 な し						
合 計			0.0km				

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その1）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄 物 川 下 流	3.4k+100 5.2k+140	豊巻 左岸	水衝洗掘 1		1,870 1,870				1,870 1,870			木流し工 シート張り工			椿 川	秋 田 市	出 張 所
	5.9k 6.4k+70	豊巻 左岸	水衝洗掘 2		500 500				500 500			木流し工 シート張り工					
	6.6k+10 7.0k+80	小山 左岸	水衝洗掘 3		500 500				500 500			木流し工 シート張り工					
	10.5k+208 11.6k	小山 左岸	堤防高 (無堤) 4	830 830				830 830			避難連絡						
	10.5k+208 11.6k	小山 左岸	堤防断面 (無堤) 5	830 0				830 0			避難連絡						
	11.6k 12.1k	小山 左岸	堤防高 (流下能力) 6		467 467				467 467			避難連絡					
	11.6k 12.1k	小山 左岸	堤防断面 (流下能力) 7	467 467				467 467			避難連絡						
	12.1k 13.8k+424	黒瀬 左岸	堤防高 (暫定堤) 8		2,305 2,305				2,305 2,305			避難連絡					
	12.1k 13.8k+424	黒瀬 左岸	堤防断面 (暫定堤) 9	2,305 2,305				2,305 2,305			避難連絡						
	15.8k+130 16.2k	黒瀬 左岸	堤防高 (無堤) 10	176 176				176 176			避難連絡						
	15.8k+130 16.2k	黒瀬 左岸	堤防断面 (無堤) 11	176 0				176 0			避難連絡						
	16.6k+279 16.8k+193	黒瀬 左岸	堤防高 (無堤) 12	264 264				264 264			避難連絡						
	16.6k+279 16.8k+193	黒瀬 左岸	堤防断面 (無堤) 13	264 0				264 0			避難連絡						
	16.8k+264 19.6k	黒瀬 左岸	堤防高 (無堤) 14	2,898 2,898				2,898 2,898			避難連絡						
	16.8k+264 19.6k	黒瀬 左岸	堤防断面 (無堤) 15	2,898 0				2,898 0			避難連絡						
	19.6k 20.4k	黒瀬 左岸	堤防高 (暫定堤) 16		575 575				575 575			避難連絡					
	19.6k 20.4k	黒瀬 左岸	堤防断面 (暫定堤) 17	575 575				575 575			避難連絡						
小 計				11,683 7,515	6,217 6,217	0 0	0 0	11,683 7,515	6,217 6,217	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その2）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水 防 警 報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄 物 川 下 流	20.4k 20.8k	黒瀬 左岸	堤防高 (無堤) 18	352 352				352 352				避難連絡			椿 川	秋 田 市	茨 島 出 張 所
	20.4k 20.8k	黒瀬 左岸	堤防断面 (無堤) 19	352 0				352 0				避難連絡					
	20.8k 21.2k+275	黒瀬・女米木 左岸	堤防高 (暫定堤) 20		536 536			536 536				避難連絡					
	20.8k 21.2k+275	黒瀬・女米木 左岸	堤防断面 (暫定堤) 21	536 536			536 536				避難連絡						
	23.2k+255 25.6k	女米木 左岸	堤防高 (無堤) 22	2,236 2,236			2,236 2,236				避難連絡						
	23.2k+255 25.6k	女米木 左岸	堤防断面 (無堤) 23	2,236 0			2,236 0				避難連絡						
	25.6k 26.0k	女米木 左岸	堤防高 (無堤) 24		290 290			290 290				避難連絡					
	25.6k 26.0k	女米木 左岸	堤防断面 (無堤) 25	290 290			290 290				避難連絡						
	26.0k 26.4k	女米木 左岸	堤防高 (無堤) 26	287 287			287 287				避難連絡						
	26.0k 26.4k	女米木 左岸	堤防断面 (無堤) 27	287 0			287 0				避難連絡						
	26.4k 27.2k	女米木 左岸	堤防高 (暫定堤) 28		817 817			817 817				避難連絡					
	26.4k 27.2k	女米木 左岸	堤防断面 (暫定堤) 29	817 817			817 817				避難連絡						
	27.2k 27.6k	新波 左岸	堤防高 (暫定堤) 30		314 314			314 314				避難連絡					
	27.2k 27.6k	新波 左岸	堤防断面 (暫定堤) 31	314 314			314 314				避難連絡						
	27.6k 30.4k	新波 左岸	堤防高 (無堤) 32	3,439 3,439			3,439 3,439				避難連絡	暫々堤整備中					
	27.6k 30.4k	新波 左岸	堤防断面 (無堤) 33	3,439 0			3,439 0				避難連絡	暫々堤整備中					
	30.4k 30.81k	新波 左岸	堤防高 (暫定堤) 34		424 424				424 424			避難連絡	暫々堤整備中				
小 計				14,585 8,271	2,381 2,381	0 0	0 0	14,585 8,271	2,381 2,381	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長



重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その3）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対策水防 工 法 名	変更理由等	関連 計画 等	水防警報 対象 観測所	関連 市町村	出張 所			
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)										
				A	B	A	B	A	B	A	B									
雄物川 下流	30.4k 30.81k	新波 左岸	堤防断面 (暫定堤) 35	424 424				424 424				避難連絡	暫々堤整備中		椿 川	秋 田 市	茨 島 出 張 所			
	30.81k 31.0k	新波 左岸	堤防高 (暫定堤) 36	134 134				134 134				避難連絡	暫々堤整備中							
	30.81k 31.0k	新波 左岸	堤防断面 (暫定堤) 37	134 0				134 0				避難連絡	暫々堤整備中							
	31.0k 32.0k	新波 左岸	堤防高 (無堤) 38		154 154				154 154			避難連絡	暫々堤整備中							
	31.0k 32.0k	新波 左岸	堤防断面 (無堤) 39	154 154				154 154				避難連絡	暫々堤整備中							
	32.0k 32.2k	新波 左岸	堤防高 (無堤) 40	357 357				357 357				避難連絡	暫々堤整備中							
	32.0k 32.2k	新波 左岸	堤防断面 (無堤) 41	357 0				357 0				避難連絡	暫々堤整備中							
	32.2k 32.2k+230	新波 左岸	堤防高 (暫定堤) 42		230 230				230 230			避難連絡	暫々堤整備中							
	32.2k 32.2k+230	新波 左岸	堤防断面 (暫定堤) 43	230 230				230 230				避難連絡	暫々堤整備中							
	34.0k+130 34.0k+290	新波 左岸	堤防高 (暫定堤) 44		160 160				160 160			避難連絡								
	34.0k+130 34.0k+290	新波 左岸	堤防断面 (暫定堤) 45	160 160				160 160				避難連絡								
	小 計				1,950 1,459	544 544	0 0	0 0	1,950 1,459	544 544	0 0	0 0								
	左 岸 計				28,218 17,245	9,142 9,142	0 0	0 0	28,218 17,245	9,142 9,142	0 0	0 0								

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その4）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄 物 川 下 流	16.8k+317 17.0k	椿川 右岸	堤防高 (無堤) 46	31 31				31 31				避難連絡			椿 川	秋 田 市	茨 島 出 張 所
	16.8k+317 17.0k	椿川 右岸	堤防断面 (無堤) 47	31 0				31 0				避難連絡					
	17.0k 17.2k	椿川 右岸	堤防高 (無堤) 48		231 231				231 231			避難連絡					
	17.0k 17.2k	椿川 右岸	堤防断面 (無堤) 49	231 231				231 231				避難連絡					
	17.2k 17.2k+406	椿川 右岸	堤防高 (暫定堤) 50		406 406				406 406			避難連絡					
	17.2k 17.2k+406	椿川 右岸	堤防断面 (暫定堤) 51	406 406				406 406				避難連絡					
	20.0k+90 20.4k+130	種沢 右岸	水衝洗掘 52		540 47				540 47			木流し工 シート張り工					
	20.0k+136 20.4k+176	種沢 右岸	堤防高 (無堤) 53	540 540				540 540				避難連絡					
	20.0k+136 20.4k+176	種沢 右岸	堤防断面 (無堤) 54	540 0				540 0				避難連絡					
	20.8k+315 24.0k+476	種沢 右岸	堤防高 (無堤) 55	3,301 3,301				3,301 3,301				避難連絡					
	20.8k+315 24.0k+476	種沢 右岸	堤防断面 (無堤) 56	3,301 0				3,301 0				避難連絡					
	26.0k+231 27.6k	種沢 右岸	堤防高 (無堤) 57	1,051 1,051				1,051 1,051				避難連絡					
	26.0k+231 27.6k	種沢 右岸	堤防断面 (無堤) 58	1,051 0				1,051 0				避難連絡					
	27.6k 28.4k	左手子 右岸	堤防高 (暫定堤) 59		718 718				718 718			避難連絡					
	27.6k 28.4k	左手子 右岸	堤防断面 (暫定堤) 60	718 718				718 718				避難連絡					
	28.4k 28.8k	左手子 右岸	堤防高 (暫定堤) 61		599 599				599 599			避難連絡					
	28.4k 28.8k	左手子 右岸	堤防断面 (暫定堤) 62	599 599				599 599				避難連絡					
小 計				11,800 6,877	2,494 2,001	0 0	0 0	11,800 6,877	2,494 2,001	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その５）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川 名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出張所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川 下流	28.4k	左手子	堤防高	2,185				2,185				避難連絡			椿 川	秋 田 市	茨 島 出 張 所
	31.0k	右岸	(無堤) 63	2,185				2,185									
	28.4k	左手子	堤防断面	2,185				2,185				避難連絡					
	31.0k	右岸	(無堤) 64	0				0									
小 計				4,370	0	0	0	4,370	0	0	0						
				2,185	0	0	0	2,185	0	0	0						
右 岸 計				16,170	2,494	0	0	16,170	2,494	0	0						
				9,062	2,001	0	0	9,062	2,001	0	0						
雄物川合計				44,388	11,636	0	0	44,388	11,636	0	0						
				26,307	11,143	0	0	26,307	11,143	0	0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川下流	13.0k	黒瀬・椿川	黒瀬橋 65				1				1		桁下余裕高不足		椿 川	秋 田 市	茨 島 出 張 所
	16.2k+90	黒瀬・椿川	水沢橋 66				1				1		桁下余裕高不足				
橋 梁 計							2 0				2 0						
雄物川下流 合 計				0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	2 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その6）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名及び左右岸別	評定種別及び図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子吉川	0.6k+50 0.6k+140	中島 左岸	水衝洗掘 1		90 90				90 90			木流し工 シート張り工			二十六木橋	由利本荘市	子吉川出張所
	3.4k+90 4.0k+90	本荘 左岸	漏水		0 0				0 0			釜段工	詳細点検				
	3.6k 5.2k	本荘 左岸	堤防高 (流下能力) 2		1,469 1,469				1,469 1,469			積み土のう工 (避難連絡)					
	5.4k 11.2k+54	本荘・岡本 左岸	堤防高 (流下能力) 3		5,760 5,760				5,760 5,760			積み土のう工 (避難連絡)					
	11.4k+70 11.6k+140	南福田 左岸	漏水 4		303 0				303 0				詳細点検 基盤漏水		明法		
	11.4k+91 11.8k	南福田 左岸	堤防高 (流下能力) 5		363 363				363 363			積み土のう工 (避難連絡)					
	11.8k 12.2k	南福田 左岸	堤防高 (流下能力) 6	404 404				404 404				積み土のう工 (避難連絡)					
	12.2k 13.2k	南福田 左岸	堤防高 (流下能力) 7		999 999				999 999			積み土のう工 (避難連絡)					
	13.0k+80 13.0k+130	南福田 左岸	水衝洗掘 8		50 0				50 0			木流し工 シート張り工					
	13.2k+67 15.4k+120	黒沢 左岸	堤防高 (流下能力) 9		2,347 2,347				2,347 2,347			積み土のう工 (避難連絡)					
	13.2k+67 13.4k	黒沢 左岸	漏水 10		237 0				237 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水				
	13.4k 13.6k+25	黒沢 左岸	漏水 11		250 0				250 0			釜段工					
	13.6k+25 15.6k+90	黒沢 左岸	漏水 12		2,042 0				2,042 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水				
	13.4k 13.4k+200	黒沢 左岸	法崩れ・すべり	0 0				0 0				シート張り工					
	13.4k 13.4k+180	黒沢 左岸	法崩れ・すべり 13	180 0				180 0				シート張り工	詳細点検 重点監視区間				
	15.4k+120 15.8k	黒沢 左岸	堤防高 (暫定堤)	0 0				0 0				積み土のう工 (避難連絡)					
	小 計				584 404	13,910 11,028	0 0	0 0	584 404	13,910 11,028	0 0	0 0					

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その7）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子吉川	15.4k+120 15.8k	黒沢 左岸	堤防断面 (暫定堤)		0 0				0 0			シート張り工			矢 島	由 利 本 荘 市	子 吉 川 出 張 所
	15.8k 16.0k	黒沢 左岸	堤防高 (暫定堤)	0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)						
	15.8k 16.0k	黒沢 左岸	堤防断面 (暫定堤)		0 0				0 0			シート張り工					
	15.4k+120 16.0k	黒沢 左岸	堤防高 (暫定堤)	14 486				486 486			積み土のう工 (避難連絡)						
	15.4k+120 16.0k	黒沢 左岸	堤防断面 (暫定堤)	15		486 0			486 0			シート張り工					
	15.8k+190 16.8k+150	川西 左岸	漏水		0 0				0 0			釜段工	詳細点検 H25川表遮水				
	15.8k+190 16.2k	川西 左岸	漏水	16		199 0			199 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水				
	16.0k 16.0k+117	川西 左岸	堤防高 (流下能力)	17		117 117			117 117			積み土のう工 (避難連絡)					
	16.0k+117 18.4k+81	川西 左岸	堤防高 (暫定堤)	18	2,375 2,375				2,375 2,375			積み土のう工 (避難連絡)					
	16.0k+117 18.4k+81	川西 左岸	堤防断面 (暫定堤)	19		2,375 0			2,375 0			シート張り工					
	16.2k 16.4k+93	川西 左岸	漏水		0 0				0 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水				
	16.2k 16.6k+150	川西 左岸	漏水	20		543 0			543 0				詳細点検 基盤漏水				
	16.4k 16.4k+50	川西 左岸	法崩れ・すべり	21	50 0				50 0			シート張り工	詳細点検 重点監視区間				
	16.8k+150 17.0k+142	川西 左岸	漏水		0 0				0 0			釜段工	詳細点検				
	17.0k 17.0k+50	川西 左岸	法崩れ・すべり	22		50 0			50 0			シート張り工	詳細点検				
	18.0k+20 19.8k	川西 左岸	漏水	23		1,744 0			1,744 0				詳細点検 基盤漏水				
小 計				2,911 2,861	5,514 117	0 0	0 0	2,911 2,861	5,514 117	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その8）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水 防 警 報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子 吉 川	18.4k+81 19.8k	川西 左岸	堤防高 (流下能力) 24	1,268 1,268				1,268 1,268				積み土のう工 (避難連絡)			矢 島	由 利 本 荘 市	子 吉 川 出 張 所
	19.8k+135 20.2k	川西 左岸	堤防高 (暫定堤) 25	162 162				162 162				積み土のう工 (避難連絡)					
	19.8k+135 20.2k	川西 左岸	堤防断面 (暫定堤) 26	162 0				162 0				シート張り工					
	20.2k 20.4k+64	川西 左岸	堤防高 (無堤) 27	272 272				272 272				避難連絡					
	20.2k 20.4k+64	川西 左岸	堤防断面 (無堤) 28	272 0				272 0				避難連絡					
	22.4k 22.6k	吉沢 左岸	堤防高 (暫定堤) 29	234 234				234 234				積み土のう工 (避難連絡)					
	22.4k 22.6k	吉沢 左岸	堤防断面 (暫定堤) 30	234 0				234 0				シート張り工					
	22.6k 23.4k	吉沢 左岸	堤防高 (無堤) 31	846 846				846 846				避難連絡					
	22.6k 23.4k	吉沢 左岸	堤防断面 (無堤) 32	846 0				846 0				避難連絡					
	小 計				4,296 2,782	0 0	0 0	0 0	4,296 2,782	0 0	0 0	0 0					
左岸合計				7,791 6,047	19,424 11,145	0 0	0 0	7,791 6,047	19,424 11,145	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その9）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名及び左右岸別	評定種別及び図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水 防 警 報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子吉川	0.0k+60 0.2k+80	田尻 右岸	水衝洗掘 33	284 284				284 284				木流し工 シート張り工			二十六木橋	由利本荘市	子吉川出張所
	0.2k 0.2k+80	石脇 右岸	漏水 34		80 0				80 0				詳細点検 基盤漏水				
	0.2k+80 1.4k+6	石脇 右岸	漏水 35		962 962				962 962				詳細点検 基盤漏水				
	2.4k+100 3.0k+70	石脇 右岸	水衝洗掘 36		743 743				743 743			木流し工 シート張り工					
	3.2k 3.4k	石脇 右岸	堤防高 (流下能力) 37		180 180				180 180			積み土のう工 (避難連絡)					
	3.2k+100 3.4k	石脇 右岸	水衝洗掘 38		80 0				80 0			木流し工 シート張り工					
	4.0k+32 5.4k+47	川口 右岸	堤防高 (無堤) 39	1,597 1,597				1,597 1,597				避難連絡					
	4.0k+32 5.4k+47	川口 右岸	堤防断面 (無堤) 40	1,597 0				1,597 0				避難連絡					
	6.0k+86 7.0k+40	土谷 右岸	堤防高 (流下能力) 41		963 963				963 963			積み土のう工 (避難連絡)					
	7.4k+22 9.0k+93	二十六木 右岸	堤防高 (流下能力) 42		1,372 1,372				1,372 1,372			積み土のう工 (避難連絡)					
	7.4k+22 9.0k+93	二十六木 右岸	漏水 43		1,372 0				1,372 0				詳細点検 基盤漏水				
	9.6k+60 9.6k+160	二十六木 右岸	水衝洗掘 44		100 100				100 100			木流し工 シート張り工					
	10.0k+194 10.2k+443	荒町 右岸	堤防高 (流下能力) 45		679 679				679 679			積み土のう工 (避難連絡)					
	10.4k 10.8k+170	荒町 右岸	漏水	0 0				0 0				釜段工	詳細点検 H26川表遮水				
	10.2k+120 10.6k+90	荒町 右岸	漏水 46		599 0				599 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水				
10.8k+10 10.8k+170	荒町 右岸	漏水 47		150 0				150 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水					
小 計				3,478 1,881	7,280 4,999	0 0	0 0	3,478 1,881	7,280 4,999	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１０）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式－2－2

河川名	距離標	地区名及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防  工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子吉川	10.2k+443 11.4k+12	荒町 右岸	堤防高 (暫定堤) 48	1,258 1,258				1,258 1,258				積み土のう工 (避難連絡)			二十六木橋	由利本荘市	子吉川出張所
	10.2k+443 11.4k+12	荒町 右岸	堤防断面 (暫定堤) 49		1,258 0				1,258 0			シート張り工					
	10.8k 11.0k	荒町 右岸	法崩れ・すべり 50		200 0				200 0			シート張り工					
	11.0k 11.2k+100	荒町 右岸	漏水	0 0				0 0				釜段工					
	11.4k 11.6k+75	荒町 右岸	漏水	0 0				0 0				釜段工					
	11.4k 11.6k+75	荒町 右岸	法崩れ・すべり 51		250 0				250 0			シート張り工					
	11.4k+12 11.6k+192	荒町 右岸	堤防高 (暫定堤) 52	345 345				345 345				積み土のう工 (避難連絡)					
	11.4k+12 11.6k+192	荒町 右岸	堤防断面 (暫定堤) 53	345 0				345 0				シート張り工					
	11.6k+70	荒町 右岸	向中島 揚水機 54			1				1				東由利 土地改 良区			
	12.0k+317 12.4k+35	荒町 右岸	堤防高 (無堤) 55	410 410				410 410				避難連絡					
	12.0k+317 12.4k+35	荒町 右岸	堤防断面 (無堤) 56	410 0				410 0				避難連絡					
	12.4k+35 12.6k	妻屋下 右岸	堤防高 (流下能力)		0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)			明 法		
	12.6k 12.8k	妻屋下 右岸	堤防高 (流下能力)		0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)					
	12.8k 14.2k+119	妻屋下・曲沢 右岸	堤防高 (流下能力)		0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)					
	12.4k+35 14.2k+119	妻屋下・曲沢 右岸	堤防高 (流下能力) 57		1,841 1,841				1,841 1,841			積み土のう工 (避難連絡)					
	13.2k+150 13.8k+96	曲沢 右岸	漏水 58		500 0				500 0			釜段工					
	小 計				2,768 2,013	4,049 1,841	1 0	0 0	2,768 2,013	4,049 1,841	1 0	0 0					

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長



重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１１）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
子 吉 川	13.2k+150 13.8k+96	曲沢 右岸	法崩れ・すべり 59		500 0				500 0			シート張り工			明 法	由 利 本 荘 市	子 吉 川 出 張 所
	13.8k+96 14.2k	曲沢 右岸	漏水 60		359 0				359 0			釜段工					
	14.8k 15.8k	前郷 右岸	堤防高 (流下能力) 61		1,134 1,134				1,134 1,134			積み土のう工 (避難連絡)					
	15.8k 16.4k+154	前郷 右岸	堤防高 (流下能力) 62	762 762				762 762				積み土のう工 (避難連絡)					
	16.4k+154 16.8k+73	久保田 右岸	堤防高 (暫定堤) 63	309 309				309 309				積み土のう工 (避難連絡)					
	16.4k+154 16.8k+73	久保田 右岸	堤防断面 (暫定堤) 64		309 0				309 0			シート張り工					
	16.6k+110 17.4k+110	久保田 右岸	漏水		0 0				0 0			月の輪工	詳細点検				
	16.8k+73 18.4k+131	久保田 右岸	堤防高 (流下能力) 65		1,642 1,642				1,642 1,642			積み土のう工 (避難連絡)					
	17.4k+20 18.6k	久保田 右岸	漏水 66		1,005 0				1,005 0				詳細点検 基盤漏水				
	17.4k+160 17.6k+40	久保田 右岸	水衝洗掘 67		93 0				93 0			木流し工 シート張り工					
	17.4k+110 17.6k+38	久保田 右岸	法崩れ・すべり 68		100 0				100 0			シート張り工					
	19.2k 21.4k	山本 右岸	堤防高 (暫定堤) 69	2,108 2,108				2,108 2,108				積み土のう工 (避難連絡)					
	19.2k 21.4k	山本 右岸	堤防断面 (暫定堤) 70	2,108 0				2,108 0				シート張り工					
	19.4k+100 19.4k+170	山本 右岸	水衝洗掘 71		70 0				70 0			木流し工 シート張り工					
	21.4k 22.0k	山本 右岸	堤防高 (流下能力) 72	545 545				545 545				積み土のう工 (避難連絡)					
	22.0k 22.2k	山本 右岸	堤防高 (流下能力) 73		199 199				199 199			積み土のう工 (避難連絡)					
	小 計				5,832 3,724	5,411 2,975	0 0	0 0	5,832 3,724	5,411 2,975	0 0	0 0					

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１２）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川 名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防 工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
小 計				0	0	0	0	0	0	0	0						
				0	0	0	0	0	0	0	0						
右岸合計				12,078	16,740	1	0	12,078	16,740	1	0						
				7,618	9,815	0	0	7,618	9,815	0	0						
子吉川合計				19,869	36,164	1	0	19,869	36,164	1	0						
				13,665	20,960	0	0	13,665	20,960	0	0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１３）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式－2－2

河川名	距離標	地区名及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防  工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
石 沢 川	0.0k 0.2k	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 74		226 0				226 0			積み土のう工 (避難連絡)			鮎 瀬	由 利 本 荘 市	子 吉 川 出 張 所
	0.0k 0.2k	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 75	226 226			226 226				シート張り工		東由利 土地改 良区				
	0.0k 1.2k+110	石沢川 左岸	法崩れ・すべり 76	250 0	1,002 0		250 0	1,002 0			シート張り工	重点監視区間					
	0.0k 1.2k+110	石沢川 左岸	漏水	0 0			0 0				釜段工 月の輪工	詳細点検					
	0.0k 1.2k+20	石沢川 左岸	漏水 77		1,162 225			1,162 225			釜段工 月の輪工	詳細点検 基盤漏水					
	0.2k 0.4k	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 78	200 200			200 200				積み土のう工 (避難連絡)						
	0.2k 0.4k	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 79	200 0			200 0				シート張り工						
	0.4k 0.4k+169	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 80		169 0			169 0			積み土のう工 (避難連絡)						
	0.4k 0.4k+169	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 81	169 169			169 169				シート張り工						
	0.4k+169 1.0k	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 82		376 376			376 376			積み土のう工 (避難連絡)						
	0.4k+169 1.0k	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 83		376 0			376 0			シート張り工						
	1.2k+25 1.8k	石沢川 左岸	堤防高 (無堤) 84	584 584			584 584				避難連絡						
	1.2k+25 1.8k	石沢川 左岸	堤防断面 (無堤) 85	584 0			584 0				避難連絡						
	1.8k 1.8k+225	石沢川 左岸	堤防高 (無堤) 86		225 225			225 225			避難連絡						
	1.8k 1.8k+225	石沢川 左岸	堤防断面 (無堤) 87	225 0			225 0				避難連絡						
	2.0k+10 2.6k	石沢川 左岸	漏水		0 0				0 0			釜段工					
小 計				2,438 1.179	3,536 826	0 0	0 0	2,438 1.179	3,536 826	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１４）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防  工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
石沢川	2.0k+70 2.2k	石沢川 左岸	漏水 88		167 167				167 167			釜段工	詳細点検 基盤漏水		鮎瀬	由利本荘市	子吉川出張所
	2.0k+127 2.2k	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 89	128 0				128 0			積み土のう工 (避難連絡)						
	2.0k+127 2.2k	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 90		128 0			128 0			シート張り工						
	2.2k 2.6k	石沢川 左岸	堤防高 (暫定堤) 91	372 372			372 372			積み土のう工 (避難連絡)							
	2.2k 2.6k	石沢川 左岸	堤防断面 (暫定堤) 92	372 0			372 0			シート張り工							
	2.2k 2.55k	石沢川 左岸	漏水 93	357 0			357 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水・重点監視区間						
	2.3k 2.6k	石沢川 左岸	法崩れ・すべり 94	300 0			300 0			シート張り工	重点監視区間						
	2.55k 2.6k	石沢川 左岸	漏水 95		15 0			15 0			釜段工	詳細点検 基盤漏水					
小 計				1,529 372	310 167	0 0	0 0	1,529 372	310 167	0 0	0 0						
左岸合計				3,967 1,551	3,846 993	0 0	0 0	3,967 1,551	3,846 993	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１５）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式－2－2

河川名	距離標	地区名及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防  工 法 名	変更理由等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
石 沢 川	0.0k+218 0.4k	石沢川 右岸	堤防高 (流下能力)		0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)			鮎 瀬	由 利 本 荘 市	子 吉 川 出 張 所
	0.2k 0.4k	石沢川 右岸	堤防高 (流下能力) 96		176 176				176 176			積み土のう工 (避難連絡)					
	1.2k+8 1.6k+187	石沢川 右岸	堤防断面 (暫定堤)	0 0				0 0				シート張り工					
	1.2k+8 1.8k	石沢川 右岸	堤防断面 (暫定堤) 97	552 552				552 552				シート張り工					
	1.6k 2.0k+65	石沢川 右岸	堤防高 (暫定堤)		0 0				0 0			積み土のう工 (避難連絡)					
	1.8k 1.8k+137	石沢川 右岸	堤防高 (暫定堤) 98		137 137				137 137			積み土のう工 (避難連絡)					
	1.8k+137 2.0k+65	石沢川 右岸	堤防高 (暫定堤) 99	65 65				65 65				積み土のう工 (避難連絡)					
	1.6k 2.0k+65	石沢川 右岸	堤防断面 (暫定堤) 100	202 0				202 0				シート張り工					
	1.6k+70 1.8k+100	石沢川 右岸	水衝洗掘 101		220 0				220 0			木流し工 シート張り工					
	2.0k+65 2.6k	石沢川 右岸	堤防高 (暫定堤) 102	474 474				474 474				積み土のう工 (避難連絡)					
	2.0k+65 2.6k	石沢川 右岸	堤防断面 (暫定堤) 103	474 0				474 0				シート張り工					
	右 岸 計				1,767 1,091	533 313	0 0	0 0	1,767 1,091	533 313	0 0	0 0					
石沢川合計				5,734 2,642	4,379 1,306	0 0	0 0	5,734 2,642	4,379 1,306	0 0	0 0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

重要水防箇所別調書前年度比較表（秋田河川国道事務所 その１６）

平成29年度 重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対 策 水 防  工 法 名	変 更 理 由 等	関 連 計 画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市町村	出 張 所	
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)								
				A	B	A	B	A	B	A	B							
子吉川 (橋梁)	7.6k	二十六木 ・岡本	新二十六木橋 104			1				1			桁下余裕高不足		六十二 木橋	由利本 荘市	子吉川 出張所	
	15.2k+170	黒沢・前郷	滝沢橋梁 105			1				1			桁下余裕高不足					明法
	16.6k+120	川西 ・久保田	森子橋 106			1				1			桁下余裕高不足					矢島
	20.0k+70	川西・山本	長瀬橋 107			1				1			桁下余裕高不足					
	小 計						4 0	0			4 0	0						

注）堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

「特定の区間」調書（秋田河川国道事務所 その１）

様式－４

河 川 名	距 離 標	地 区 名 及 び 左右岸別	延 長	図面番号	水防警報対象観測所	関連市町村	出 張 所
雄物川下流	2.1k～8.0k	割山地区～仁井田地区 右岸	5,900		椿川	秋田市	茨島出張所
合 計			5,900				

「特定の区間」調書（秋田河川国道事務所 その２）

様式－４

河 川 名	距 離 標	地 区 名 及 び 左右岸別	延 長	図面番号	水防警報対象観測所	関連市町村	出 張 所
子吉川		該 当 な し			二十六木橋	由利本荘市	子吉川出張所
支川石沢川		該 当 な し			鮎 瀬		
合 計			0				

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その1）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対策水防 工法名	変更理由等	関連 計画 等	水防警報 対象 観測所	関連 市町村	出張所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	30.8 ～ 32.0	福部羅右岸	堤防高1 (暫々堤)	1,342 1,342				1,342 1,342				避難誘導	H21 H.W.L-2m堤整備		神宮寺	大仙市 (協和地区)	大曲出張所
	30.8 ～ 32.0	〃右岸	堤防断面2 (暫々堤)		1,342 0				1,342 0				H21 H.W.L-2m堤整備		神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	32.0 ～ 37.9	〃右岸	堤防高3 (暫々堤)	5,245 5,245				5,245 5,245				避難誘導	H21 H.W.L-2m堤整備		神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	32.0 ～ 37.9	〃右岸	堤防断面4 (暫々堤)		5,245 0				5,245 0				H21 H.W.L-2m堤整備		神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	36.2 ～ 40.4	強首左岸	堤防高5 (無堤)	3,843 3,843				3,843 3,843				避難誘導	H27まで H.W.L-2m堤整備 36.6k～40.4k : L=3,419m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	36.2 ～ 40.4	〃左岸	堤防断面6 (無堤)	563 0	3,280 0			563 0	3,280 0				H27まで H.W.L-2m堤整備 36.6k～40.4k : L=3,419m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	36.9	強首福部羅橋	福部羅橋7				1				1		桁下高不足		神宮寺	大仙市 (西仙北 協和地区)	
	42.0 ～ 42.2	強首左岸	堤防高8 (暫々堤)	270 270				270 270				避難誘導	H26まで H.W.L-2m堤整備 L=270m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	42.0 ～ 42.2	〃左岸	堤防断面9 (暫々堤)		270 0				270 0				H26まで H.W.L-2m堤整備 L=270m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	41.7 ～ 42.0	湯野沢右岸	堤防高10 (無堤)	276 276				276 276				避難誘導			神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	41.7 ～ 42.0	〃右岸	堤防断面11 (無堤)	276 0				276 0							神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	42.0 ～ 44.8	岩瀬右岸	堤防高12 (無堤)	2,763 2,763				2,763 2,763				避難誘導			神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	42.0 ～ 44.8	〃右岸	堤防断面13 (無堤)	2,763 0				2,763 0							神宮寺	大仙市 (協和地区)	
	42.2 ～ 43.1	寺館大巻左岸	堤防高14 (暫々堤)	1,093 1,093				1,093 1,093				避難誘導	H22 HWL-2m堤整備 (42.2～43.3)		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	42.2 ～ 43.1	〃左岸	堤防断面15 (暫々堤)		1,093 0				1,093 0				H22 HWL-2m堤整備 (42.2～43.3)		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
43.1 ～ 43.3	〃左岸	堤防高16 (暫々堤)	215 215				215 215				避難誘導	H22 HWL-2m堤整備 (42.2～43.3)		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
43.1 ～ 43.3	〃左岸	堤防断面17 (暫々堤)		215 0				215 0				H22 HWL-2m堤整備 (42.2～43.3)		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
43.3 ～ 47.0	〃左岸	堤防高18 (暫々堤)	3,817 3,817				3,817 3,817				避難誘導	H27まで H.W.L-2m堤整備 L=1,636m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
小計				22,466 18,864	11,445 0	0	1	22,466 18,864	11,445 0	0	1						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ①



重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その2）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対策水防 工法名	変更理由等	関連 計画等	水防警報 対象 観測所	関連 市町村	出張所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	43. <sup>3</sup> ～47. <sup>0</sup>	寺館大巻 左岸	堤防断面 (暫々堤) 19	2,177 0	1,640 0			2,377 0	1,640 0				H27まで H.W.L-2m堤整備 L=1,636m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	大曲出張所
	45. <sup>0</sup> ～47. <sup>6</sup>	中村 右岸	堤防高 (無堤) 20	2,763 2,763			2,763 2,763				避難誘導			神宮寺	大仙市 (協和地区)		
	45. <sup>0</sup> ～47. <sup>6</sup>	〃 右岸	堤防断面 (無堤) 21	2,763 0			2,763 0					中村地区(45.0～47.6) 45.0～45.5k 在来堤有り		神宮寺	大仙市 (協和地区)		
	47. <sup>6</sup> ～48. <sup>5</sup>	芦沢 右岸	堤防高 (無堤) 22	1,044 1,044			1,044 1,044				避難誘導			神宮寺	大仙市 (協和地区)		
	47. <sup>6</sup> ～48. <sup>5</sup>	〃 右岸	堤防断面 (無堤) 23	1,044 0			1,044 0							神宮寺	大仙市 (協和地区)		
	48. <sup>5</sup> ～48. <sup>8</sup>	刈和野 右岸	堤防高 (無堤) 24	239 239			239 239				避難誘導			神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
	48. <sup>5</sup> ～48. <sup>8</sup>	〃 右岸	堤防断面 (無堤) 25	239 0			239 0							神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
	47. <sup>0</sup> ～48. <sup>6</sup>	北野目 左岸	堤防高 (暫々堤) 26	1,373 1,373			1,373 1,373				避難誘導	H27まで H.W.L-2m堤整備 L=1,373m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
	47. <sup>0</sup> ～48. <sup>6</sup>	〃 左岸	堤防断面 (暫々堤) 27		1,373 0				1,373 0				H27まで H.W.L-2m堤整備 L=1,373m		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	49. <sup>2</sup> ～50. <sup>0</sup>	刈和野 右岸	堤防高 (特殊堤) 28		797 797				797 797			避難誘導	流下能力不足		神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	48. <sup>8</sup> ～50. <sup>4</sup>	北野目 左岸	堤防高 (暫々堤) 29	1,455 1,455			1,455 1,455				避難誘導			神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
	48. <sup>8</sup> ～50. <sup>4</sup>	〃 左岸	堤防断面 (暫々堤) 30	18 0	1,437 0			18 0	1,437 0						神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	50. <sup>2</sup> ～50. <sup>7</sup>	刈和野 右岸	堤防高 (暫々堤) 31	531 531			531 531				避難誘導			神宮寺	大仙市 (西仙北地区)		
	50. <sup>2</sup> ～50. <sup>7</sup>	〃 右岸	堤防断面 (暫々堤) 32	0 0	531 0			0 0	531 0						神宮寺	大仙市 (西仙北地区)	
	50. <sup>7</sup> ～52. <sup>0</sup>	宇留井谷地 右岸	堤防高 (暫々堤) 33	1,378 1,378			1,378 1,378				避難誘導			神宮寺	大仙市 (神岡地区)		
	50. <sup>7</sup> ～52. <sup>0</sup>	〃 右岸	堤防断面 (暫々堤) 34		1,378 0				1,378 0						神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	52. <sup>0</sup> ～52. <sup>4</sup>	〃 右岸	堤防高 (無堤) 35	402 402			402 402				避難誘導			神宮寺	大仙市 (神岡地区)		
	52. <sup>0</sup> ～52. <sup>4</sup>	〃 右岸	堤防断面 (無堤) 36	402 0			402 0							神宮寺	大仙市 (神岡地区)		
小計				15,828 9,185	7,156 797	0	0	16,028 9,185	7,156 797	0	0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ②

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その3）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対策水防 工法名	変更理由等	関連 計画 等	水防警報 対象 観測所	関 連 市 町 村	出張所
				堤防 (m)		工作物 (箇所)		堤防 (m)		工作物 (箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	52. <sup>4</sup> ～ 54. <sup>6</sup>	神宮寺 右岸	堤防高 37 (暫々堤)	1,941 1,941	263 263			1,941 1,941	263 263			避難誘導			神宮寺	大仙市 (神岡地区)	大曲出張所
	52. <sup>4</sup> ～ 54. <sup>6</sup>	" 右岸	堤防断面 38 (暫々堤)		2,054 0				2,054 0					神宮寺	大仙市 (神岡地区)		
	54. <sup>6</sup> ～ 54. <sup>7</sup>	" 右岸	堤防高 39 (完成堤)		50 50				50 50			避難誘導	流下能力不足		神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	54. <sup>6</sup> ～ 54. <sup>7</sup>	" 右岸	漏水 41		100 0				100 0			釜段工			神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	54. <sup>7</sup> ～ 55. <sup>3</sup>	" 右岸	堤防高 42 (暫堤)	465 465				465 465				避難誘導			神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	54. <sup>7</sup> ～ 55. <sup>3</sup>	" 右岸	堤防断面 43 (暫堤)		465 0				465 0						神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	52. <sup>6</sup> ～ 52. <sup>8</sup>	西板戸 左岸	堤防高 44 (無堤)	383 383				383 383				避難誘導			神宮寺	大仙市 (南外地区)	
	52. <sup>6</sup> ～ 52. <sup>8</sup>	" 左岸	堤防断面 45 (無堤)	383 0				383 0							神宮寺	大仙市 (南外地区)	
	54. <sup>0</sup> ～ 55. <sup>7</sup>	" 左岸	堤防高 46 (無堤)	1,871 1,871				1,871 1,871				避難誘導	H27 HWL堤整備 54.2k～55.7k L=701m		神宮寺	大仙市 (南外地区)	
	54. <sup>2</sup> ～ 55. <sup>7</sup>	" 左岸	堤防断面 47 (無堤)	1,071 0	800 0			1,871 0							神宮寺	大仙市 (南外地区)	
	55. <sup>3</sup> ～ 56. <sup>6</sup>	神宮寺 右岸	堤防高 48 (暫堤)	1,457 1,457				1,457 1,457				避難誘導			神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	55. <sup>3</sup> ～ 56. <sup>6</sup>	" 右岸	堤防断面 49 (暫堤)		1,457 0				1,457 0						神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	55. <sup>7</sup> ～ 56. <sup>6</sup>	" 右岸	漏水 50	200 0	796 0			200 0	796 0			釜段工	詳細点検による基盤漏水の恐れ 55.9km～56.1km 重点監視区間		神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	56. <sup>6</sup> ～ 59. <sup>9</sup>	" 右岸	堤防高 51 (完成堤)		3,393 3,393				3,393 3,393			避難誘導	流下能力不足		神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	57. <sup>0</sup> ～ 57.2	" 右岸	漏水 52		250 0				250 0			釜段工			神宮寺	大仙市 (神岡地区)	
	55. <sup>8</sup> ～ 56. <sup>5</sup>	檜岡川 左岸	堤防高 53 (無堤)	505 505				505 505				避難誘導			神宮寺	大仙市 (南外地区)	
	55. <sup>8</sup> ～ 56. <sup>5</sup>	" 左岸	堤防断面 54 (無堤)	505 0				505 0							神宮寺	大仙市 (南外地区)	
小 計				8,781 6,622	9,628 3,706	0	0	9,581 6,622	8,828 3,706	0	0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ③

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その4）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																	
様式-2-2																	
河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評定種別 及 び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	56. <sup>5</sup> ～ 59. <sup>1</sup>	南 外 左 岸	堤 防 高 55 (完成堤)		2,590 2,590				2,590 2,590			避難誘導	流下能力不足		神 宮 寺	大仙市 (南外地区)	大 曲 出 張 所
	56. <sup>5</sup> ～ 59. <sup>0</sup>	" 左 岸	漏 水 56	200	2,674 284			200	2,674 284			釜 段 工	詳細点検による基盤漏水の恐れ 56.5km～56.7km 重点監視区間		神 宮 寺	大仙市 (南外地区)	
	56. <sup>5</sup> ～ 59. <sup>0</sup>	" 左 岸	法崩れ・すべり 56-2	200	2,674 0			200	2,674 0			シート張り工	詳細点検による裏法すべり破壊の恐れ 56.5km～56.7km 重点監視区間		神 宮 寺	大仙市 (南外地区)	
	58. <sup>5</sup> ～ 58. <sup>6</sup>	神 宮 寺 右 岸	漏 水 59		100 0				100 0			釜 段 工			神 宮 寺	大仙市 (神岡地区)	
	59. <sup>0</sup>	南 外 神 宮 寺	岳 見 橋 61				1				1		流下能力不足 桁下高不足		神 宮 寺	大仙市 (神岡 南外地区)	
	59. <sup>0</sup>	" "	岳 見 橋 62 側 道 橋				1				1		流下能力不足 桁下高不足		神 宮 寺	大仙市 (神岡 南外地区)	
	59. <sup>9</sup> ～ 60. <sup>4</sup>	神 宮 寺 右 岸	堤 防 高 63 (無堤)	231 231	324 324			231 231	324 324			避難誘導			神 宮 寺	大仙市 (神岡地区)	
	59. <sup>9</sup> ～ 60. <sup>4</sup>	" 右 岸	堤 防 断 面 64 (無堤)	231 0				231 0							神 宮 寺	大仙市 (神岡地区)	
	60. <sup>4</sup> ～ 60. <sup>6</sup>	" 右 岸	堤 防 高 65 (完成堤)		189 189				189 189			避難誘導	流下能力不足		神 宮 寺	大仙市 (大曲地区)	
	60. <sup>6</sup> ～ 60.8	間 倉 右 岸	堤 防 高 66 (完成堤)		257 257				257 257			避難誘導	流下能力不足		神 宮 寺	大仙市 (神岡地区)	
	60. <sup>8</sup> ～ 60. <sup>9</sup>	" 右 岸	堤 防 高 67 (完成堤)		105 105				105 105			避難誘導	流下能力不足		神 宮 寺	大仙市 (神岡地区)	
	60. <sup>9</sup> ～ 61. <sup>0</sup>	" 右 岸	堤 防 高 69 (完成堤)		111 111				111 111			避難誘導	流下能力不足		神 宮 寺	大仙市 (大曲地区)	
	61. <sup>0</sup> ～ 61. <sup>4</sup>	" 右 岸	堤 防 高 70 (完成堤)		459 459				459 459			避難誘導	流下能力不足		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)	
	61. <sup>7</sup> ～ 63. <sup>6</sup>	花 館 右 岸	堤 防 高 71 (完成堤)		1,530 1,530				1,530 1,530			避難誘導	流下能力不足		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)	
小 計					862 231	11,013 5,849	0 2	862 231	11,013 5,849	0 2							

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ④

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜き は、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ④

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その5）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																	
様式 - 2 - 2																	
河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評定種別 及 び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	63.6 ～ 66.0	大曲右岸 右岸	法崩れ・すべり 72		2,422 2,422				2,422 2,422			シート張り工	詳細点検結果による表・裏 法すべり破壊の恐れ		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	大曲出張所
	63.6 ～ 66.0	大曲右岸 右岸	漏水 72-2		1,904 0				1,904 0			釜段工	詳細点検結果による基盤漏 水の恐れ		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	62.1 ～ 66.2	大曲左岸 左岸	堤防高 73 (完成堤)		3,345 3,345				3,345 3,345			避難誘導	流下能力不足		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	62.4 ～ 62.6	大曲左岸 左岸	漏水 74		250 0				250 0			釜段工	旧河道 1種側帯計画 有		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	62.8 ～ 62.9	" 左岸	漏水 75		80 0				80 0			釜段工	旧河道 1種側帯計画 有		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	63.6	大曲左岸 大曲右岸	姫神橋 77				1				1		流下能力不足		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	63.6 ～ 66.0	大曲右岸 右岸	堤防高 78 (完成堤)		1,513 1,513				1,513 1,513			避難誘導	流下能力不足		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	66.0 ～ 67.8	" 右岸	法崩れ・すべり 79		1,875 1,875				1,875 1,875			シート張り工	詳細点検結果による基盤漏 水の恐れ		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	65.2	大曲左岸 大曲右岸	大曲橋 81				1				1		橋長不足 流下能力不足		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	66.7 ～ 67.0	" 右岸	漏水 83		290 0				290 0			釜段工			大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	67.1 ～ 67.3	" 右岸	漏水 84		340 0				340 0			釜段工			大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	67.7	" 右岸	漏水 85		70 0				70 0			釜段工	旧河道 1種側帯計画 有		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	67.8 ～ 69.4	" 右岸	法崩れ・すべり 86	200 200	1,444 1,444			200 200	1,444 1,444			シート張り工	詳細点検結果による裏法すべり破壊の恐れ 68.4km～68.6km 重点監視区間		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	67.8 ～ 69.4	" 右岸	漏水 87	200	1,444 0			200	1,444 0			釜段工	詳細点検による基盤漏水の恐れ 68.4km～68.6km 重点監視区間		大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
	68.3 ～ 68.8	" 右岸	漏水 87-1	468 0				0 0				釜段工	H27.9出水により漏水発生	災害	大曲橋	大仙市 (大曲地区)	
68.0 ～ 68.1	大曲左岸 左岸	漏水 89		80 0				80 0			釜段工	旧河道 1種側帯計画 有		大曲橋	大仙市 (大曲地区)		
68.5 ～ 68.7	" 左岸	漏水 90		150 0				150 0			釜段工	旧河道 1種側帯計画 有		大曲橋	大仙市 (大曲地区)		
小 計				868 200	15,207 10,599	0	2	400 200	15,207 10,599	0	2						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ⑤

白抜きは、危険水位設定箇所

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ⑤

河川名	距離標	地区名及び左右岸別	評定種別及び図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防工法名	変更理由等	関連計画等	水防警報対象観測所	関連市町村	出張所
				堤防(m)		工作物(箇所)		堤防(m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	68. <sup>0</sup> ~ 70. <sup>3</sup>	大曲左岸左岸	法崩れ・すべり 91		1,645 1,645				1,645 1,645			シート張り工	詳細点検結果による表法すべり破壊の恐れ		大曲橋雄物川橋	大仙市(大曲地区)	大曲出張所
	70. <sup>2</sup> ~ 71. <sup>3</sup>	大曲左岸左岸	堤防高(無堤) 92	1,390 1,390	671 671			1,390 1,390	671 671				山付け堤防有り		雄物川橋	大仙市(大曲地区)	
	70. <sup>2</sup> ~ 71. <sup>3</sup>	"左岸	堤防断面(無堤) 93	2,061	0 0			2,061	0 0				山付け堤防有り		雄物川橋	大仙市(大曲地区)	
	71. <sup>4</sup> ~ 72. <sup>5</sup>	小中島左岸	堤防高(暫堤) 95		1,163 1,163				1,163 1,163			避難誘導			雄物川橋	横手市(大森地区)	十文字出張所
	71. <sup>4</sup> ~ 72. <sup>5</sup>	"左岸	堤防断面(暫堤) 96		1,163 0				1,163 0					雄物川橋	横手市(大森地区)		
	74. <sup>0</sup>	角間川第二右岸	布晒揚水樋管 97			0				1			H27ゲート設備改善許可工作物		雄物川橋	大仙市(大曲地区)	
	74. <sup>6</sup> ~ 75. <sup>2</sup>	野崎右岸	堤防高(暫堤) 98		631 631				631 631			避難誘導			雄物川橋	大仙市(大曲地区)	雄物川 ⑥
	74. <sup>6</sup> ~ 75. <sup>2</sup>	"右岸	堤防断面(暫堤) 99		631 0				631 0					雄物川橋	大仙市(大曲地区)		
	74. <sup>5</sup> ~ 75. <sup>3</sup>	川西左岸	漏水 100		700 700				700 700			釜段工			雄物川橋	横手市(大森地区)	
	76. <sup>5</sup> ~ 76. <sup>6</sup>	阿気右岸	水衝・洗掘 100-1	70 0				70 0				木流し工	H27.9出水により漏水発生	災害	雄物川橋	横手市(大森地区)	雄物川 ⑥
	77. <sup>5</sup> ~ 77. <sup>8</sup>	館合右岸	水衝・洗掘 100-2	326 0				326 0				木流し工	H27.9出水により漏水発生	災害	雄物川橋	横手市(大森地区)	
	78. <sup>2</sup> ~ 78. <sup>6</sup>	"右岸	堤防断面(暫堤) 101		185 185				185 185						雄物川橋	横手市(大森地区)	
	79. <sup>4</sup> ~ 79. <sup>8</sup>	鳥屋場右岸	堤防断面(暫堤) 102		185 185				185 185						雄物川橋	横手市(雄物川地区)	雄物川 ⑥
	80. <sup>0</sup> ~ 80. <sup>8</sup>	"右岸	堤防高(暫堤) 103		415 415				415 415			避難誘導			雄物川橋	横手市(雄物川地区)	
	80. <sup>0</sup> ~ 80. <sup>8</sup>	"右岸	堤防断面(暫堤) 104		595 180				595 180						雄物川橋	横手市(雄物川地区)	
79. <sup>6</sup>	大森左岸	山城堰用水樋管 105			1				1				浸透路長不足許可工作物		雄物川橋	横手市(大森地区)	雄物川 ⑥
80. <sup>8</sup> ~ 82. <sup>4</sup>	鳥屋場右岸	堤防高(無堤) 106	1,562 1,562				1,562 1,562				避難誘導	H25 HWL-2.0m堤整備(81.0~81.4)		雄物川橋	横手市(雄物川地区)		
小計				5,409 2,952	7,984 5,775	1 0		5,409 2,952	7,984 5,775	2 0							

[illegible]

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その8）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	88. <sup>4</sup> ～ 88. <sup>7</sup>	鵜の巣 左 岸	堤 防 高 (無 堤) 125		124 124				124 124			避難誘導	H25.3 築堤工事終了 一部流下能力不足		雄物川橋	羽後町	↑  <

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ⑧

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その9）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																	
様式-2-2																	
河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評定種別 及 び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄 物 川	96. <sup>4</sup> ～ 96. <sup>9</sup>	柳 田 右 岸	堤 防 高 142 (暫 堤)		611 611				611 611			避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	十 文 字 出 張 所
	96. <sup>4</sup> ～ 96. <sup>9</sup>	" 右 岸	堤 防 断 面 143 (暫 堤)		611 0				611 0						柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>5</sup>	柳 田 後 羽	京 塚 橋 144				1				1		桁下高不足 流下能力不足 橋長不足		柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>9</sup> ～ 97. <sup>2</sup>	柳 田 右 岸	堤 防 高 145 (無 堤)	100 100	180 180			100 100	180 180			避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>9</sup> ～ 97. <sup>2</sup>	" 右 岸	堤 防 断 面 146 (無 堤)	100 0				100 0							柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	97. <sup>2</sup> ～ 97. <sup>6</sup>	柳 田 右 岸	堤 防 高 147 (無 堤)	50 50	112 112			50 50	112 112			避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	97. <sup>2</sup> ～ 97. <sup>6</sup>	" 右 岸	堤 防 断 面 148 (無 堤)	50 0	112 0			50 0	112 0						柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	97. <sup>7</sup>	柳 田 後 羽	柳 田 橋 149				1				1		桁下高不足 流下能力不足		柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区) 羽後町	
	95. <sup>5</sup> ～ 96. <sup>2</sup>	羽 左 岸	堤 防 高 150 (暫 堤)	158 158	532 532			158 158	532 532			避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	95. <sup>5</sup> ～ 96. <sup>2</sup>	" 左 岸	堤 防 断 面 151 (暫 堤)	158 0	532 0			158 0	532 0						柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	95. <sup>5</sup> ～ 95. <sup>6</sup>	" 左 岸	水 衝 ・ 洗 掘 152		100 50				100 50			木流し工			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	95. <sup>8</sup> ～ 96. <sup>0</sup>	" 左 岸	水 衝 ・ 洗 掘 153		100 0				100 0			木流し工			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>2</sup> ～ 96. <sup>7</sup>	" 左 岸	堤 防 高 154 (無 堤)	444 444				444 444				避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>2</sup> ～ 96. <sup>7</sup>	" 左 岸	堤 防 断 面 155 (無 堤)	444 0				444 0							柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>7</sup> ～ 97. <sup>1</sup>	" 左 岸	堤 防 高 156 (暫々堤)	83 83				83 83				避難誘導			柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	96. <sup>7</sup> ～ 97. <sup>1</sup>	" 左 岸	堤 防 断 面 157 (暫々堤)	83 0				83 0							柳 田 橋	湯 沢 市 (湯沢地区)	
	97. <sup>1</sup> ～ 97. <sup>5</sup>	" 左 岸	堤 防 高 158 (完成堤)		305 305				305 305			避難誘導			柳 田 橋	羽後町	
	97. <sup>5</sup> ～ 98. <sup>4</sup>	" 左 岸	堤 防 高 159 (暫々堤)	860 860	221 221			860 860	221 221			避難誘導			柳 田 橋 岩 館	羽後町	
小 計				2,530 1,695	3,416 2,011	0	2	2,530 1,695	3,416 2,011	0	2						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

雄物川 ⑨



[illegible]

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その11）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																		
様式 - 2 - 2																		
河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評定種別 及 び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所	
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)								
				A	B	A	B	A	B	A	B							
雄物川	102. <sup>2</sup>	山田	中川原橋	181				1				1		流下能力不足		岩 館	湯 沢 市 (湯沢地区)	↑  

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長 《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》 雄物川 ⑪  
 白抜きは、危険水位設定箇所

[illegible]

[illegible]

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その14）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																	
様式-2-2																	
河川名	距離標	地区名及び左右岸別	評定種別及び図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防工法名	変更理由等	関連計画等	水防警報対象観測所	関連市町村	出張所
				堤防 (m)		工作物(箇所)		堤防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
雄物川	109. <sup>4</sup> ～ 109. <sup>7</sup>	雄勝右岸右岸	堤防高 (完成堤) 231	216	156			216	156			避難誘導	流下能力不足		岩館	湯沢市 (雄勝地区)	
	109. <sup>8</sup> ～ 110. <sup>4</sup>	"右岸	堤防高 (完成堤) 232		401				401			避難誘導	流下能力不足		岩館	湯沢市 (雄勝地区)	
	112. <sup>0</sup>	雄勝右岸雄勝左岸	岩館橋 233				1				1		流下能力不足		岩館	湯沢市 (雄勝地区)	
	112. <sup>0</sup> ～ 112. <sup>4</sup>	雄勝右岸右岸	堤防高 (完成堤) 234		171				171			積土のう工	流下能力不足		岩館	湯沢市 (雄勝地区)	
小計				216 216	728 728	0	1	216 216	728 728	0	1						
注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長 白抜きは、危険水位設定箇所																	
《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》																	
雄物川 ⑭																	

## 重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その15）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

[illegible]

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》	《暫々堤 HWL未満の堤防》
---------------	----------------

雄物川 ⑮

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その１６）

平成 29 年度 重要 水 防 箇 所 別 調 書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成 29 年度 評 定				平成 28 年度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
玉川	0. <sup>7</sup> ～ 1. <sup>0</sup>	花館左岸	堤防高 (暫堤) 235		248 248				248 248			避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	大 曲 出 張 所
	0. <sup>7</sup> ～ 1. <sup>0</sup>	花館左岸	堤防断面 (暫堤) 236		248 0				248 0			避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	1. <sup>6</sup> ～ 2. <sup>8</sup>	〃左岸	堤防高 (完成堤) 237		1,053 1,053				1,053 1,053			避難誘導	流下能力不足		長野	大仙市 (大曲地区)	
	1. <sup>6</sup> ～ 2. <sup>2</sup>	玉川右岸下流 右岸	堤防高 (完成堤) 238		604 604				604 604			避難誘導	流下能力不足		長野	大仙市 (大曲地区)	
	2. <sup>2</sup> ～ 2. <sup>4</sup>	〃右岸	堤防高 (暫堤) 239		225 225				225 225			避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	2. <sup>2</sup> ～ 2. <sup>4</sup>	〃右岸	堤防断面 (暫堤) 240		225 0				225 0						長野	大仙市 (大曲地区)	
	2. <sup>4</sup> ～ 3. <sup>2</sup>	〃右岸	堤防高 (無堤) 241	762 762				762 762				避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	2. <sup>4</sup> ～ 3. <sup>2</sup>	〃右岸	堤防断面 (無堤) 242	762 0				762 0							長野	大仙市 (大曲地区)	
	3. <sup>2</sup> ～ 3. <sup>8</sup>	玉川右岸上流 右岸	堤防高 (暫堤) 243		609 609				609 609			避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	3. <sup>2</sup> ～ 3. <sup>8</sup>	〃右岸	堤防断面 (暫堤) 244		609 0				609 0						長野	大仙市 (大曲地区)	
	3. <sup>8</sup> ～ 4. <sup>2</sup>	〃右岸	堤防高 (暫堤) 245		206 206				206 206			避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	3. <sup>8</sup> ～ 4. <sup>2</sup>	〃右岸	堤防断面 (暫堤) 246		395 189				395 189						長野	大仙市 (大曲地区)	
	4. <sup>8</sup> ～ 5. <sup>0</sup>	玉川左岸上流 左岸	堤防断面 (暫堤) 247		20 20				20 20						長野	大仙市 (大曲地区)	
	6. <sup>6</sup> ～ 7. <sup>0</sup>	〃左岸	堤防高 (無堤) 248	190 190				190 190				避難誘導			長野	大仙市 (大曲地区)	
	6. <sup>6</sup> ～ 7. <sup>0</sup>	玉川左岸上流 左岸	堤防断面 (無堤) 249	308 118	0 0			308 118	0 0						長野	大仙市 (大曲地区)	
	7. <sup>0</sup> ～ 9. <sup>2</sup>	〃左岸	堤防高 (無堤) 250	1,847 1,847	225 225			1,847 1,847	225 225			避難誘導	山付け堤防		長野	大仙市 (中仙地区)	
	7. <sup>0</sup> ～ 9. <sup>2</sup>	〃左岸	堤防断面 (無堤) 251	2,072 0				2,072 0					山付け堤防		長野	大仙市 (中仙地区)	
玉川小計				5,941 2,917	4,667 3,379	0	0	5,941 2,917	4,667 3,379	0	0						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

玉川 ①

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その17）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																	
様式－2－2																	
河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評 定 種 別 及 び 図 面 番 号	平 成 29 年 度 評 定				平 成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所 長 野	関 連 市 町 村 大仙市 (中仙地区)	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
玉川	8.3	高瀬 左 岸	水衝・洗掘 252		500				500			木流し工					大 曲 出 張 所
小 計				00	500	0	0	00	500	0	0						
玉 川 合 計				5,941 2,917	4,717 3,379	0	0	5,941 2,917	4,717 3,379	0	0						
注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長 白抜きは、危険水位設定箇所																	
《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》																	
玉 川 ②																	



重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その18）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及 び 左右岸別	評 定 種 別 及 び 図 面 番 号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対 策 水 防  工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
丸子川																	大曲出張所
	0.0 ～ 0.9	丸子川左岸 左 岸	漏水 254		863 863			863 863			釜 段 工	詳細点検による基盤漏水の 恐れ		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.0 ～ 0.9	〃 左 岸	法崩れ・すべり 255		863 0			863 0			シート張り工	詳細点検結果による裏法す べり破壊の恐れ		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	1.0 ～ 1.2	〃 左 岸	堤 防 断 面 (暫 堤) 256		216 216			216 216			避難誘導			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	1.0 ～ 1.2	丸子川右岸 右 岸	堤 防 断 面 (暫 堤) 257		130 130			130 130			避難誘導			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
丸子川合計				—	2,072 1,209	—	—	—	2,072 1,209	—	—						
横手川																	大曲出張所
	0.2	横 手 川	藤 木 下 橋 259				1				1		桁下高不足 径間不足 流下能力不足		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)	
	0.2 ～ 1.2	〃 左 岸	堤 防 断 面 (暫 堤) 260		939 0			939 0			避難誘導			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.0 ～ 1.2	〃 左 岸	法崩れ・すべり 261		1,096 1,096			1,096 1,096			シート張り工	詳細点検結果による裏法す べり破壊の恐れ		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.3 ～ 0.6	〃 右 岸	水 衝 ・ 洗 掘 262		230 130			230 130			木流し工			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.4 ～ 0.8	〃 右 岸	堤 防 断 面 (暫 堤) 263		405 405			405 405			避難誘導			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.6	横 手 川	藤 木 上 橋 264				1				1		桁下高不足		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)	
	0.6	横 手 川	藤 木 上 橋 側 道 橋 265				1				1		桁下高不足		大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)	
	0.8 ～ 1.2	横手川右岸 右 岸	堤 防 高 (無 堤) 266	413 413				413 413			避難誘導			大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
	0.8 ～ 1.2	〃 右 岸	堤 防 断 面 (無 堤) 267	413 0				413 0						大 曲 橋	大仙市 (大曲地区)		
小 計				826 413	2,670 1,631		3	826 413	2,670 1,631		3						

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

丸子・横手川 ①

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その19）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																		
様式－2－2																		
河川名	距離標	地区名及び 左右岸別	評定種別及び 図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所	
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)								
				A	B	A	B	A	B	A	B							
皆瀬川	雄106. <sup>8</sup> ～0. <sup>1</sup>	弁左岸	天堤防高267 (暫堤)	215 215				215 215				避難誘導				岩崎橋	横手市 (十文字地区)	↑   

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
 〔暫堤 HWL以上の堤防〕 〔暫々堤 HWL未満の堤防〕  
 白抜きは、危険水位設定箇所  
 皆瀬川 ①

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その20）

平成29年度重要水防箇所別調書

様式-2-2

河川名	距離標	地区名 及び 左右岸別	評定種別 及び 図面番号	平成29年度評定				平成28年度評定				対策水防 工 法 名	変 更 理 由 等	関連 計画 等	水防警報 対 象 観 測 所	関 連 市 町 村	出 張 所
				堤 防 (m)		工作物(箇所)		堤 防 (m)		工作物(箇所)							
				A	B	A	B	A	B	A	B						
成瀬川	0.0 ～0.5	増田右岸	堤防高279 (暫々堤)	284 0	293 0			284 0	293 0			避難誘導			岩崎橋	横手市 (増田地区)	↑   

注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長  
白抜きは、危険水位設定箇所

《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》

成瀬川 ①

重要水防箇所別調書前年度比較表（湯沢河川国道事務所 その21）

平成 29 年 度 重 要 水 防 箇 所 別 調 書																		
様式－2－2																		
河川名	距離標	地区名及び左右岸別	評定種別及び図面番号	平成 29 年 度 評 定				平成 28 年 度 評 定				対策水防工法名	変更理由等	関連計画等	水防警報対象観測所	関連市町村	出張所	
				堤防 (m)		工作物(箇所)		堤防 (m)		工作物(箇所)								
				A	B	A	B	A	B	A	B							
大納川	0.0 ～ 0.2	大納川右岸	堤防断面 (暫堤) 291		243				243								横手市 (大森地区)	出張所
	0.8 ～ 1.2	" 右岸	堤防断面 (暫堤) 292		418				418								横手市 (大森地区)	
大納川合計				0 0	661 661	0	0	0 0	661 661	0	0							
注) 堤防の上段は評定延長、下段は重複を除いた延長 白抜きは、危険水位設定箇所																		
《暫堤 HWL以上の堤防》 《暫々堤 HWL未満の堤防》																		
大納川 ①																		

「特定の区間」調書（湯沢河川国道事務所）

河 川 名	新距離標	地 区 名 及 び 左右岸別	延 長	図面番号	水防警報対象観測所	関連市町村	出 張 所
雄 物 川	63. 4k ～69. 6k	大曲西根～藤木 右岸	6,091m	1	大曲橋	大仙市(大曲地区)	大曲出張所
合 計			6,091m				

## 2－3 秋田県重要水防区域評定基準

種 別	重 要 度		要 注 意 区 間
	A 水防上最も重要な区間	B 水防上重要な区間	
堤防高（流下能力）	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあつては計画高潮位）が現況の堤防高を越える箇所。	計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあつては計画高潮位）と現況の堤防高との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
堤 防 断 面	現況の堤防断面あるいは堤防の上端幅が、計画の堤防断面あるいは計画の堤防の上端幅の2分の1未満の箇所。	現況の堤防断面あるいは堤防の上端幅が、計画の堤防断面あるいは計画の堤防の上端に対して不足しているが、それぞれ2分の1以上確保されている箇所。	
法崩れ・すべり	堤防斜面の崩れ又はすべりの実績があるが、その対策が未施工の箇所。	堤防斜面の崩れ又はすべりの実績があるが、その対策が暫定施工の箇所。堤防斜面の崩れ又はすべりの実績はないが、堤体あるいは基礎地盤の土質、堤防斜面勾配等からみて堤防斜面の崩れ又はすべりが発生するおそれのある箇所で、所要の対策が未施工の箇所。	
漏 水	漏水の履歴があるが、その対策が未施行の箇所。	漏水の履歴があり、その対策が暫定施工の箇所。漏水の履歴はないが、堤防の決壊跡又は旧川跡の堤防であること、あるいは基礎地盤及び堤体の土質等からみて、漏水が発生するおそれがある	
水 衝・洗 掘	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れしているがその対策が未施工の箇所。橋台取り付け部やその他の工作物の突出箇所で、堤防護岸の根固め等が洗われ一部破損しているが、その対策が未施工の箇所。波浪による河岸の欠壊等の危険に瀕した実績があるが、その対策が未施工の箇所。	水衝部にある堤防の前面の河床が深掘れにならない程度に洗掘されているが、その対策が未施工の箇所。	
工 作 物	河川管理施設等応急対策基準に基づく改善措置が必要な堰、橋梁、樋管その他の工作物の設置されている箇所。橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等が計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあつては計画高潮位）以下となる箇所。	橋梁その他の河川横断工作物の桁下高等と計画高水流量規模の洪水の水位（高潮区間の堤防にあつては計画高潮位）との差が堤防の計画余裕高に満たない箇所。	
工 事 施 工			出水期間中に堤防を開削する工事箇所又は仮締切り等により本堤に影響を及ぼす箇所。
新堤防・破堤跡・旧川跡			新堤防で築造後3年以内の箇所。破堤跡又は旧川跡の箇所。
陸 閘			陸閘が設置されている箇所。

2 - 4      平成 2 9 年 度      秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名      鹿 角 支 部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重 要 水 防 区 域											特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	延長 (m)	予想される危険 概要	対策水防工法			
					市町村	大字	字			種別	A (m)	B (m)	A (箇所)								B (箇所)
1	米代川	米代川	鹿角市	第1, 2, 5, 9, 10, 12 12, 15分団	鹿角市	十和田 ～ 八幡平	末広 ～ 掟	両岸	堤防 断面 水衝	20, 000 20, 000							8, 000	氾濫、溢水、 河岸欠壊	土のう積 木流し		
2	米代川	大湯川	鹿角市	第12, 14, 16分団	鹿角市	十和田	毛馬内 ～ 大湯	両岸	水衝		10, 000 10, 000						7, 000 7, 000	河岸欠壊	木流し		
3	米代川	根市川	鹿角市	第4, 17分団	鹿角市	花輪 ～ 十和田	鶴田 ～ 二本柳	両岸	洗掘		7, 000 7, 000						2, 000 2, 000	河岸欠壊	木流し		
4	米代川	間瀬川	鹿角市	第3分団	鹿角市	花輪	鶴田 ～ 上台	両岸	洗掘		5, 000 5, 000						2, 500 2, 500	河岸欠壊	木流し		
5	米代川	福士川	鹿角市		鹿角市	花輪	下川原 ～ 鎌田	両岸	堤防 断面 水衝		2, 500 2, 500						500 500	氾濫、 河岸欠壊	土のう積 木流し		
6	米代川	福士川	鹿角市	第1分団	鹿角市	花輪	下夕町 ～ 産土神	両岸	堤防 断面 水衝		2, 000 2, 000						2, 000 2, 000	家屋浸水	土のう積		
7	米代川	黒沢川	鹿角市		鹿角市	花輪	玉内	両岸	堤防 断面		2, 000 2, 000						500 500	氾濫	土のう積		
8	米代川	夜明島川	鹿角市	第11分団	鹿角市	八幡平	野尻 ～ 白欠	両岸	水衝 洗掘		2, 500 2, 500						2, 500 2, 500	河岸欠壊	木流し		
9	米代川	熊沢川	鹿角市	第7, 8, 11分団	鹿角市	八幡平	長嶺 ～ 永田	両岸	水衝		6, 000 6, 000						1, 000	河岸欠壊	木流し		
10	米代川	小坂川	鹿角市 小坂町	第12, 14分団 小坂第1, 3分団	鹿角市 ～ 小坂町	十和田 ～ 小坂	毛馬内 ～ 野口	両岸	水衝 洗掘		15, 000 15, 000						7, 000 2, 500	河岸欠壊	木流し		
11	米代川	夏井川	鹿角市		鹿角市	八幡平	夏井	両岸	水衝		3, 000 3, 000						1, 000 1, 000	河岸欠壊	木流し		
12	米代川	樫内川	鹿角市		鹿角市	八幡平	樫内	両岸	水衝		2, 500 2, 500						1, 500 1, 500	河岸欠壊	木流し		
13	米代川	汁毛川	鹿角市	第12, 13分団	鹿角市	十和田	毛馬内	両岸	水衝 洗掘		5, 000 5, 000						2, 500 2, 500	河岸欠壊	木流し		
14	米代川	荒川	小坂町	小坂第4分団	小坂町	小坂	小坂	両岸	水衝		4, 000 4, 000						1, 000 1, 000	河岸欠壊	木流し		
15	米代川	砂子沢川	小坂町	小坂第2分団	小坂町	小坂	砂子沢	両岸	水衝		3, 000 3, 000						1, 000 1, 000	河岸欠壊	木流し		
16	米代川	古遠部川	小坂町	小坂第2分団	小坂町	小坂	濁川	両岸	水衝 洗掘		3, 000 3, 000						3, 000	河岸欠壊	木流し		
計	1 6 箇所									20, 000 20, 000	72, 500 72, 500						35, 000 34, 500				

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水防支部名 北秋田支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域								特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要			
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)			延長 (m)	予想される危険概 要	対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
1	米代川	米代川	大館市	大館市水防団第17分団	大館市		葛原	右岸	水衝		900					900	河岸決壊	木流し		
2	米代川	米代川	大館市	大館市水防団第17分団	大館市		十二所	左岸	洗掘		300					100	河岸決壊	木流し		
3	米代川	米代川	大館市	大館市水防団第18分団	大館市		軽井沢	右岸	堤防高		600					400	耕地冠水	積み土嚢		
4	米代川	米代川	大館市	大館市水防団第18分団	大館市		大滝	右岸	水衝		150					150	河岸決壊	木流し		
5	米代川	米代川	大館市	大館市比内水防団第1分団 大館市水防団第11・12分団	大館市	比内町扇田	犀田 中山	両岸	堤防高		1,500 1,000					1,300 500	耕地冠水	積み土嚢		町立病院・特別養護 老人ホーム
6	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第1分団	北秋田市	阿仁銀山	上新町	右岸	堤防高		800		1			400	耕地冠水	積み土嚢		
7	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第1分団	北秋田市	阿仁水無	湯口内	右岸	堤防高		1,000		2			200	耕地冠水	積み土嚢		
8	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第1分団	北秋田市	阿仁水無	湯口内	左岸	堤防高		500		1			500	河岸決壊	木流し		
9	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第5分団	北秋田市	阿仁小測	小測	右岸	堤防高		100		1			50	耕地冠水	積み土嚢		
10	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第4分団	北秋田市	阿仁吉田	吉田	左岸	洗掘		500		1			500	河岸決壊	木流し		
11	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		五味堀	右岸	堤防高		500					300	家屋浸水	積み土嚢		
12	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		神成	左岸	堤防高		200					200	家屋浸水	積み土嚢		
13	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		阿仁前田	左岸	堤防高		400					400	家屋浸水	積み土嚢		
14	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4・5分団	北秋田市		阿仁前田	両岸	堤防高		700 500					500 200	家屋浸水	積み土嚢		
15	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第3分団	北秋田市		桂瀬	右岸	堤防高		700					100	耕地冠水	積み土嚢		
16	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第3分団	北秋田市		浦田	左岸	堤防高		600					100	耕地冠水	積み土嚢		
17	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第3分団	北秋田市		桂瀬	右岸	洗掘		700					700	河岸決壊	木流し		
18	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第1分団	北秋田市		柳田	左岸	堤防高		1,500					500	耕地冠水	積み土嚢		
19	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第1分団	北秋田市		本城	左岸	洗掘		300					300	河岸決壊	木流し		



2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水防支部名 北秋田支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	延長 (m)	予想される危険概 要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
20	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 合川支団第2分団	北秋田市		木戸石	両岸	堤防高		1,700 50		1			1,700 50	耕地冠水	積み土嚢		
21	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 合川支団第2分団	北秋田市		増沢	左岸	堤防高		2,200					2,200	耕地冠水	積み土嚢		
22	米代川	羽根山沢川	北秋田市	北秋田市水防団 合川支団第3分団	北秋田市		羽根山	両岸	堤防高		800 800					600 600	耕地冠水	積み土嚢		
23	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第4分団	上小阿仁村		南沢	左岸	堤防高		800					300	耕地冠水	積み土嚢		
24	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第4分団	上小阿仁村		小田瀬	右岸	堤防高		1,000					700	耕地冠水	積み土嚢		
25	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第4分団	上小阿仁村		大林	左岸	堤防高		400					400	耕地冠水	積み土嚢		
26	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第1分団	上小阿仁村		鴨沢	両岸	堤防高		500 500					500 500	耕地冠水	積み土嚢		
27	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 機動分団	上小阿仁村		福館向	右岸	堤防高		1,000					500	耕地冠水	積み土嚢		
28	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 機動分団	上小阿仁村		小沢田	左岸	堤防高		2,000					2,000	耕地冠水	積み土嚢		
29	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 機動分団	上小阿仁村		堂川	両岸	堤防高		500 1,000					500 1,000	耕地冠水	積み土嚢		
30	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第2分団	上小阿仁村		羽立	右岸	堤防高		300					300	耕地冠水	積み土嚢		
31	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 機動分団	上小阿仁村		大阿瀬	左岸	堤防高		800					800	耕地冠水	積み土嚢		
32	米代川	小阿仁川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第2分団	上小阿仁村		長信田	右岸	堤防高		100					100	耕地冠水	積み土嚢		
33	米代川	小阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 合川支団第4分団	北秋田市		杉山田 三里	両岸	堤防断面		7,000 6,500					7,000 6,500	耕地冠水	積み土嚢		
34	米代川	小阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 合川支団第3分団	北秋田市		羽根山	両岸	漏水・法崩れ	2,300 2,300						2,300 2,300	堤防決壊	シート張り		
35	米代川	仏社川	上小阿仁村	北秋田市水防団 合川支団第5分団	上小阿仁村		大岱	両岸	堤防高		2,500 2,500					2,000 2,000	耕地冠水	積み土嚢		
36	米代川	五反沢川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第3分団	上小阿仁村		上五反沢	右岸	堤防高		100					100	耕地冠水	積み土嚢		
37	米代川	五反沢川	上小阿仁村	上小阿仁村水防団 第3分団	上小阿仁村		中五反沢	右岸	堤防高		500					500	耕地冠水	積み土嚢		
38	米代川	小又川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第6分団	北秋田市		根森田	両岸	法崩れ		600 600					460 460	耕地冠水	積み土嚢		

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 北 秋 田 支 部

番号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重 要 水 防 区 域				新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)		工事施工中又は 陸間 (箇所)	特に警戒を要する延長		関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物				延長 (m)
市町村	大字	字	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)	延長 (m)			延長 (m)						
39	米代川	小又川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		巻測	右岸	水衝		100					
											25		河岸決壊	木流し		
40	米代川	小又川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		細越	両岸	堤防高		350 200					
											100		耕地冠水	積み土嚢		
41	米代川	小椋川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第11分団	北秋田市	阿仁小椋	小椋	右岸	堤防高		500	1				
											500		耕地冠水	積み土嚢		
42	米代川	小椋川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第11分団	北秋田市	阿仁小椋	小椋	右岸	堤防高		100	1				
											100		河岸決壊	木流し		
43	米代川	今泉川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第2分団	北秋田市	今泉	今泉	両岸	堤防高		600 600					
											600		耕地冠水	積み土嚢		
44	米代川	蟹沢川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第3分団	北秋田市	坊沢	蟹沢	両岸	堤防高		1,200 1,200					
											1,000		耕地冠水	積み土嚢		
45	米代川	前山川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第2分団	北秋田市	前山	前山	両岸	堤防高		800 800					
											500		耕地冠水	積み土嚢		
46	米代川	前山川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第2分団	北秋田市	前山	前山	両岸	堤防断面		500 500					
											500		耕地冠水	積み土嚢		
47	米代川	小猿部川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第9分団	北秋田市	七日市	妹尾館	右岸	堤防断面		1,000					
											500		耕地冠水	積み土嚢		
48	米代川	小猿部川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第7分団	北秋田市	脇神	堂ヶ岱	左岸	水衝		150					
											150		河岸決壊	木流し		
49	米代川	旧小猿部	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第7分団	北秋田市	脇神	小ヶ田	右岸	堤防高		1,500					
											1,000		耕地冠水	積み土嚢		
50	米代川	小森川	大館市	大館市比内水防団 第5分団	大館市	比内町小	小坪沢	両岸	洗掘		400 400					
											400		河岸決壊	木流し		
51	米代川	小森川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第7分団	北秋田市	脇神	藤株	両岸	堤防断面		2,300 2,300					
											1,000		耕地冠水	積み土嚢		
52	米代川	品類川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第9分団	北秋田市	七日市	品類	両岸	堤防高		50 100					
											50		耕地冠水	積み土嚢		
53	米代川	綴子川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第4分団	北秋田市	綴子	綴子	右岸	堤防高		100					
											50		耕地冠水	積み土嚢		
54	米代川	綴子川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第4分団	北秋田市	綴子	田中	両岸	堤防高	3,000 2,000						
											1,500		家屋浸水	積み土嚢		
55	米代川	谷地川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第4分団	北秋田市	綴子	大堤	両岸	堤防断面		1,000 1,000					
											500		家屋浸水	積み土嚢		
56	米代川	摩当川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第6分団	北秋田市	栄	摩当	両岸	堤防断面		500 200					
											200		耕地冠水	積み土嚢		
57	米代川	摩当川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第6分団	北秋田市	栄	摩当	両岸	堤防断面		800 800					
											300		耕地冠水	積み土嚢		

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 北秋田支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	設定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	延長 (m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
58	米代川	糠沢川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第5分団	北秋田市	綴子	大畑	両岸	堤防高		500 500					300 300	河岸決壊	木流し		
59	米代川	糠沢川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第5分団	北秋田市	綴子	糠沢	両岸	堤防断面		700 700					500 500	耕地冠水	積み土嚢		
60	米代川	早口川	大館市	大館市田代水防団 第4分団	大館市		本郷	右岸	堤防高		500					200	耕地冠水	積み土嚢		
61	米代川	早口川	大館市	大館市田代水防団 第1分団	大館市		早口	左岸	堤防高		500					300	家屋浸水	積み土嚢		
62	米代川	岩瀬川	大館市	大館市田代水防団 第8分団	大館市		大石渡	両岸	堤防高		160 160					160 160	耕地冠水	積み土嚢		
63	米代川	岩瀬川	大館市	大館市田代水防団 第8分団	大館市		田茂の木	右岸	堤防高		150					50	耕地冠水	積み土嚢		
64	米代川	岩瀬川	大館市	大館市田代水防団 第3分団	大館市		下岩瀬	左岸	水衝		100					50	河岸決壊	木流し		
65	米代川	引欠川	大館市	大館市水防団 第15・16分団	大館市		大抜出川	両岸	堤防断面		2,850 2,850					2,850 2,850	耕地冠水	積み土嚢		
66	米代川	板戸川	大館市	大館市比内水防団 第5分団	大館市	比内町八	坂戸	両岸	堤防高		600 600					600 600	耕地冠水	積み土嚢		
67	米代川	山田川	大館市	大館市水防団 第9・10分団	大館市		川口	両岸	堤防断面		500 500					500 500	耕地冠水	積み土嚢		
68	米代川	長木川	大館市	大館市水防団 第7・8分団	大館市		茂内	両岸	堤防高		1,200 2,700					1,200 2,700	耕地冠水	積み土嚢		
69	米代川	長木川	大館市	大館市水防団 第3・4分団	大館市		片山	両岸	洗掘		500 500					500 500	河岸決壊	木流し		
70	米代川	長木川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		沼館	両岸	堤防高		1,700 1,400					1,700 1,400	耕地冠水	積み土嚢		
71	米代川	下内川	大館市	大館市水防団 第22・24分団	大館市		陣馬	右岸	水衝		200					100	河岸決壊	木流し		
72	米代川	下内川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		長面	右岸	堤防高		200					200	家屋浸水	積み土嚢		
73	米代川	下内川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		松峰	両岸	法崩れ		1,100 1,100					1,100 1,100	堤防決壊	木流し		
74	米代川	下内川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		松木	右岸	水衝		100					100	河岸決壊	木流し		
75	米代川	下内川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		沼館	左岸	堤防高		1,000					200	家屋浸水	積み土嚢		
76	米代川	乱川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		商人留	両岸	堤防高		200 500					200 500	耕地冠水	積み土嚢		

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 北 秋 田 支 部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										積土・要設を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	延長 (m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
77	米代川	乱川	大館市	大館市水防団 第5・6分団	大館市		釈迦内	両岸	堤防断面	100 100						100 100	家屋浸水	積み土嚢		
78	米代川	大森川	大館市	大館市水防団 第19・23分団	大館市		粕田	両岸	法崩れ		200 200					100 100	堤防決壊	木流し		
79	米代川	花岡川	大館市	大館市水防団 第19・23分団	大館市		花岡	両岸	法崩れ		500 500					500 500	家屋浸水	木流し		
80	米代川	犀川	大館市	大館市比内水防団 第3分団	大館市	比内町独結	向田	両岸	洗掘		50 50					50 50	河岸決壊	木流し		
81	米代川	犀川	大館市	大館市比内水防団 第2分団	大館市	比内町独結	独結	右岸	堤防高		300					200	耕地冠水	積み土嚢		
82	米代川	犀川	大館市	大館市比内水防団 第1分団	大館市	比内町扇田	館下	右岸	堤防断面		100					100	耕地冠水	積み土嚢		福祉保健センター
83	米代川	犀川	大館市	大館市比内水防団 第1分団	大館市	比内町扇田	森下才川	左岸	堤防断面		500					500	河岸決壊	木流し		
84	米代川	炭谷川	大館市	大館市比内水防団 第2分団	大館市	比内町独結	炭谷	左岸	堤防高		600					200	家屋浸水	積み土嚢		
85	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第3分団	北秋田市	浦田	白坂	右岸	堤防高		600					600	耕地冠水	積み土嚢		
86	米代川	谷地川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第4分団	北秋田市	繰子	掛泥	両岸	堤防断面		1,800 1,800					1,000 1,000	家屋浸水 耕地冠水	積み土嚢		
87	米代川	米代川	大館市	大館市水防団 第18分団	大館市		大滝	左岸	堤防高	150						50	家屋浸水	積み土嚢		
88	米代川	犀川	大館市	大館市比内水防団 第2分団	大館市	比内町	駒橋	両岸	堤防高		300 300					300 300	家屋浸水	積み土嚢		
89	米代川	長木川	大館市	大館市水防団 第9分団	大館市		山田渡	左岸	堤防高	100						50	家屋浸水 耕地冠水	積み土嚢		
90	米代川	大茂内川	大館市	大館市水防団 第7・8分団	大館市		大茂内	両岸	堤防高		2,000 2,000					500 500	家屋浸水 耕地冠水	積み土嚢		
91	米代川	小猿部川	北秋田市	北秋田市水防団 鷹巣支団第7・8分団	北秋田市	鷹巣	脇神～七日市	右岸	堤防高		5,500					1,500	家屋浸水 耕地冠水	積み土嚢		
92	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第1分団	北秋田市	米内沢		左岸	漏水	2,800						1,000	堤防決壊	月の輪		
93	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第4分団	北秋田市		五味堀	左岸	堤防高		500					100	耕地冠水	積み土嚢		
94	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 阿仁支団第1分団	北秋田市		吉田	左岸	堤防高		500					500	道路・耕地冠水	積み土嚢		
95	米代川	阿仁川	北秋田市	北秋田市水防団 森吉支団第5分団	北秋田市		小測	右岸	堤防高		800					800	耕地冠水	積み土嚢		
計	95箇所									8,450 4,400	53,510 58,110		2 7			47,500 45,345				

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 山 本 支 部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要		
					位 置			左右岸の区分	評定基準		堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	延長 (m)			予想される危険概要	対策水防工法
					市町村	大字	字		種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)								
1	米代川	藤琴川	藤里町	第5分団	藤 里	藤 琴	寺屋布	両岸	堤防高		300 1,000					300 1,000	耕地冠水	土のう積			
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	坊 中	右岸	〃	500						500	冠水	〃			
3	〃	〃	〃	第1分団	〃	〃	馬 坂	両岸	〃		1,200 1,200					1,200 1,200	〃	〃			
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	藤 琴	左岸	堤体強度 堤防高	1,200						1,200	破堤冠水	土のう積 杭 打			
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	烏谷場	左岸	堤体 強度		1,500					1,500	破堤	〃			
6	〃	〃	能代市	ニツ井 第6分団	能 代	ニツ井町荷上場		左岸	堤防高	2,300						2,300	冠水	土のう積			
7	〃	小比内川	藤里町	第1分団	藤 里	藤 琴	小比内	両岸	〃		1,040 1,040					200 200	〃	〃			
8	〃	内川	能代市	ニツ井 第4分団	能 代	ニツ井町小掛		左岸	〃		200					200	〃	〃			
9	〃	〃	〃	ニツ井 第5分団	〃	ニツ井町仁鮒	河原田	左岸	〃		200					200	〃	〃			
10	〃	〃	〃	ニツ井 第5分団	〃	〃	小掛道	右岸	〃	700						400	〃	〃	県単河川 改良		
11	〃	比井野川	〃	ニツ井 第1分団	〃	ニツ井町薄井		両岸	堤防 断面	300 300						200 200	〃	〃			
12	〃	種梅川	〃	ニツ井 第7分団	〃	ニツ井町梅内		両岸	堤防高		700 700					400 400	〃	〃			
13	〃	〃	〃	〃	〃	ニツ井町種		両岸	〃	1,000 1,000						500 500	〃	〃			
14	〃	常盤川	〃	能代 第12分団	〃	常 盤	山 谷	両岸	〃		300 300					300 300	〃	〃			
15	〃	常盤川	〃	能代 第12分団	〃	〃	苅橋～魔面	右岸	〃	600						600	〃	〃	県単河川 改良		
16	〃	檜山川	〃	能代 第9分団	〃	檜 山		両岸	堤防 断面	5,600 5,600						2,600 2,600	〃	〃			
17	〃	悪土川	〃	能代 第14・16分団	〃	悪 土		両岸	〃		2,000 2,000					800 800	〃	〃			
18	〃	阿仁川	〃	ニツ井 第2分団	〃	ニツ井町下田平		両岸	〃		300 300					100 100	〃	〃			
19	〃	湯の沢川	藤里町	第5分団	藤 里	湯の沢		両岸	〃		100 100					100 100	〃	〃			
20	〃	寺沢川	〃	第1分団	〃	寺 沢		左岸	〃		200					100	破堤冠水	〃			
21	〃	長場内川	〃	第4分団	〃	長場内		左岸	堤防高		300					200	冠水	〃			

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 山本支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸間 (箇所)	延長 (m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
22	米代川	粕毛川	藤里町	第3分団	藤 里	真 土		右岸	堤防高		800					500	冠水	土のう積		
23	〃	薄井沢川	〃	〃	〃	矢 坂		両岸	堤 防 断 面		300 300					200 200	破堤冠水	〃		
24	〃	院内沢川	〃	第2分団	〃	大 沢		両岸	堤防高		300 300					200 200	冠水	〃		
25	〃	大沢川	〃	〃	〃	〃		両岸	堤 防 断 面		3,000 1,000					1,000 1,000	破堤冠水	〃		
26	〃	濁川	能代市	ニツ井 第4分団	能 代	ニツ井町仙ノ台		両岸	堤防高		300 200					300 200	冠水	〃		
27	〃	天内川	〃	能代 第12分団	〃	常 盤	天 内	両岸	〃		300 300					300 300	〃	〃		
28	〃	久喜沢川	〃	能代 第15分団	〃	朴 瀬	築法師	両岸	〃		2,000 2,000					1,000 1,000	〃	〃		
29	馬場目川	三種川	三種町	八竜 第1分団	三 種	川 尻		両岸	〃	200 200						200 200	〃	〃		
30	〃	〃	〃	山本 第3分団	〃	森 岳	木戸沢	両岸	〃		200 200					200 200	〃	〃		
31	〃	〃	〃	山本 第1分団	〃	〃		両岸	〃		3,150 3,150					1,950 1,950	〃	〃	広域河川改修	
32	〃	〃	〃	山本 第2分団	〃	〃	泉八日	両岸	〃		2,500 2,500					2,500 2,500	〃	〃	〃	
33	〃	〃	〃	琴丘 第8分団	〃	落 合		両岸	堤防高		350 350					300 300	〃	〃		
34	〃	糸流川	〃	琴丘 第3分団	〃	高屋敷		両岸	堤 防 断 面		500 500					500 500	〃	〃		
35	〃	鹿渡川	〃	琴丘 第1分団	〃	鹿 渡		両岸	〃		2,000 2,000					2,000 2,000	〃	〃		
36	〃	鯉 川	〃	琴丘 第2分団	〃	鯉 川		両岸	〃	150 150						150 150	〃	〃	県単河川改良	
37	〃	種沢川	〃	琴丘 第5分団	〃	種 沢		右岸	〃		300					300	〃	〃		
38	〃	西又川	〃	琴丘 第9分団	〃	勝 平		両岸	〃		300 300					200 200	〃	〃	県単河川改良	
39	〃	小又川	〃	琴丘 第7分団	〃	二本杉		両岸	〃		1,000 1,000					200 200	〃	〃		
40	〃	添畑川	〃	山本 第7分団	〃	長 面		両岸	〃		800 800					300 300	〃	〃		
41	〃	谷地沢川	〃	山本 第8分団	〃	達 子		両岸	〃		300 300					200 200	〃	〃		
42	〃	仁助川	〃	山本 第6分団	〃	志戸橋		両岸	〃		100 100					100 100	破堤冠水	〃		

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 山本支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	位 置			左右岸の区分	重要水防区域			工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸開 (箇所)	特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					市町村	大字	字		評定基準	種別	A (m)	B (m)	A (箇所)			B (箇所)	延長 (m)	予想される危険概要			対策水防工法
43	馬場目川	金光寺川	三種町	山本 第1分団	三 種	森 岳		両岸	堤 防 断 面		200 200					300 300	冠水	土のう積			
44	〃	鵜川川	〃	山本 第6分団	〃	割 道		両岸	〃		300 300					300 300	〃	〃			
45	〃	〃	〃	山本 第5分団	〃	外 岡		右岸	〃		100					100	〃	〃			
46	真瀬川	真瀬川	八峰町	第13分団	八 峰	八 森	立 石	右岸	堤防高		100					100	〃	〃			
47	塙 川	塙 川	〃	第6分団	〃	峰浜塙	塙	両岸	〃		500 500					500 500	〃	〃			
48	〃	〃	〃	第7分団	〃	峰浜塙	横 内	左岸	〃		200					200	〃	〃			
49	〃	〃	〃	第3分団	〃	峰浜田中	川 向	両岸	堤 防 断 面	900 900						900 900	〃	〃			
50	〃	〃	〃	第1分団	〃	峰浜高野野	真 山	両岸	堤 防 断 面		500 500					500 500	〃	〃			
51	竹生川	竹生川	能代市	能代 第13分団	能 代	竹 生		両岸	〃		300 300					300 300	〃	〃			
52	〃	〃	〃	〃	〃	比八田		両岸	〃	350 350						350 350	〃	〃			
53	〃	〃	〃	能代 第17分団	〃	竹 生		両岸	〃		500 500					400 400	〃	〃			
54	水沢川	水沢川	八峰町	第1分団	八 峰	峰浜水沢	下中田表	左岸	〃		200					200	〃	〃			
55	〃	〃	〃	第4分団	〃	〃	手遣坂	左岸	〃		200					200	〃	〃			
	1級河川	28								10,400 8,700	14,540 11,540					15,400 12,300					
	2級河川	27								1,600 1,600	14,100 14,000					12,950 12,850					
	計	55								12,000 10,300	28,640 25,540					28,350 25,150					
A		八森海岸	八峰町	第10分団	八 峰	八 森	浜 田		浸 食 高 潮		3,100					1,500	家屋耕地流失	消波直立護岸 ブロック			
B		峰浜海岸	〃	第3分団	〃	峰浜沼田 ～水沢			〃		5,600					200	耕地流失	〃			
C		浅内海岸	能代市	能代 第11分団	能 代	浅 内			〃		8,000					500	家屋流失	消波ブロック			
D		八竜海岸	三種町	八竜 第7分団	三 種	釜 谷			浸 食		6,300					700	耕地流失	〃			
	計										23,000					2,900					

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 秋 田 支 部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長					関連計画等	摘 要
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破壊跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸開(箇所)	延長(m)	予想される危険概要	対策水防工法			
					市町村	大字	字			A (箇所)	B (箇所)										
1	馬場目川	馬場目川	五城目町	第9分団	五城目町	馬場目	杉沢恋地	左岸 右岸	堤防高		3,400 3,400					400	冠水	土のう積			
2	馬場目川	馬場目川	五城目町	第6分団	五城目町	馬場目	寺庭	左岸 右岸	堤防高		2,300 2,300					300	冠水	土のう積			
3	馬場目川	馬場目川	五城目町	第5分団	五城目町	馬場目	門前	左岸 右岸	堤防高		1,400 1,400					500	冠水	土のう積			
4	馬場目川	馬場目川	五城目町	第3分団	五城目町	馬場目	帝釈寺	左岸 右岸	堤防高		1,200 1,200					100	冠水	土のう積			
5	馬場目川	馬場目川	五城目町	第1分団	五城目町	馬場目	高崎	左岸 右岸	堤防高		1,500 1,500					300	冠水	土のう積	県単河川改良		
6	馬場目川	富津内川	五城目町	第9分団	五城目町	富津内	脇村	左岸 右岸	通水断面		6,000 6,000					200	河川断面狭小 のため冠水	土のう積			
7	馬場目川	富津内川	五城目町	第8分団	五城目町	富津内	下山内	左岸 右岸	堤防高		1,500 1,500					300	冠水	土のう積			
8	馬場目川	内川川	五城目町	第10分団	五城目町	湯ノ又	上川原	左岸 右岸	堤防高		3,000 3,000					300	冠水	土のう積			
9	馬場目川	井川	井川町	第7分団	井川町	施田	中の目	左岸 右岸	堤防高		2,500 2,500					100	冠水	土のう積	ほ場整備関連		
10	馬場目川	井川	井川町	第8分団	井川町	上井川	井内	左岸 右岸	堤防高		1,100 1,100					200	冠水	土のう積			
11	馬場目川	豊川	湯上市	昭和支団 第10分団	湯上市	豊川	塔田	左岸 右岸	堤防高		800 800					600 600	河川断面狭小 のため冠水	土のう積			
12	馬場目川	豊川	湯上市	昭和支団 第11分団	湯上市	豊川	小泉新所	左岸 右岸	堤防高		1,600 1,600					400 400	堤防決壊氾濫	土のう積			
13	馬場目川	豊川	湯上市	飯田川支団 第1分団	湯上市	下虻川	土場向	左岸 右岸	水衝部		100					100	堤防法尻決壊	木流し工			
14	馬場目川	馬踏川	秋田市	金足分団	秋田市	金足	岩瀬	左岸 右岸	水衝部	5,600 5,400						600 600	堤防法尻決壊	木流し工	広域河川改修		
15	馬場目川	西部承水路	大湯村	大湯村水防団	大湯村	西部	承水路	左岸 右岸	水衝部		2,000					400	堤防法尻決壊	木流し工			
16	馬場目川	赤沢川	井川町	第6分団	井川町	井川	大倉	左岸 右岸	水衝部		1,500 1,500					500 500	堤防法尻決壊	木流し工	ほ場整備関連		
17	雄物川	旭川	秋田市	旭川・保戸野・秋田 旭・秋田中央分団	秋田市	旭川		左岸 右岸	堤防高		7,000 7,000						冠水	土のう積			
18	雄物川	岩見川	秋田市	河辺第2分団	秋田市	河辺戸島	豊成	左岸 右岸	堤防高		1,400						堤防法尻決壊	土のう積			
19	雄物川	岩見川	秋田市	河辺第3分団	秋田市	河辺岩見	東	左岸 右岸	堤防高		2,000 2,000					700	堤防法尻決壊	土のう積			
20	雄物川	新波川	秋田市	雄和第1分団	秋田市	雄和大正寺	壹ヶ沢	左岸 右岸	堤防高		2,300 2,300					600	河川断面狭小 のため冠水	土のう積			
21	雄物川	新波川	秋田市	雄和第1分団	秋田市	雄和大正寺	梵天野	左岸 右岸	堤防高		3,000 2,500					700	河川断面狭小 のため冠水	土のう積			
22	雄物川	草生津川	秋田市	外旭川分団	秋田市	外旭川	外旭川	左岸 右岸	通水断面		3,800 3,800					1,100	河川断面狭小 のため冠水	土のう積	広域河川改修		
23	下浜鮎川	下浜鮎川	秋田市	下浜分団	秋田市	下浜	田中	左岸 右岸	通水断面		4,500 5,000					1,000	河川断面狭小 のため冠水	土のう積			



2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 秋田支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理 団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長					関連計画等	摘 要
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川 (延長m)	工事施工中又は 陸間 (箇所)	延長 (m)	予想される危険概要	対策水防工法			
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)								
24	下浜鮎川	下浜鮎川	秋田市	下浜分団	秋田市	下 浜	羽 川	左岸 右岸	通水断面		800 800						河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
25	雄物川	太平川	秋田市	下北手・秋田東・秋田 中央・牛島・城東分団	秋田市	太 平		左岸 右岸	通水断面		8,000 8,000					1,000	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
26	雄物川	猿田川	秋田市	仁井田分団	秋田市	仁井田	福 島	左岸 右岸	通水断面		5,000 5,000					900	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
27	雄物川	八田川	秋田市	太平分団	秋田市	太 平	八 田	左岸 右岸	通水断面		2,200 2,800					700	河川断面狭小のため 冠水	土のう積	広域河川改修		
28	雄物川	梵字川	秋田市	河辺第2分団	秋田市	河辺和田	黒 沼	左岸 右岸	通水断面		2,150 2,150					1,000	河川断面狭小のため 冠水	土のう積	広域河川改修		
29	雄物川	神内川	秋田市	河辺第1分団	秋田市	河辺奥出	奥 出	左岸 右岸	通水断面		2,700 2,700					1,000	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
30	雄物川	三内川	秋田市	河辺第3分団	秋田市	河辺三内	砂子測	左岸 右岸	通水断面		700 700						河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
31	雄物川	平尾島川	秋田市	雄和第3分団	秋田市	雄和平尾島	竹ノ花	左岸 右岸	通水断面		2,200 2,200					500	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
32	滝川	滝川	男鹿市	第8分団	男鹿市	男鹿中	山 田	左岸 右岸	通水断面		3,500 3,500					300 300	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
33	滝川	滝川	男鹿市	第8分団	男鹿市	男鹿中	浜間口	左岸 右岸	通水断面		500 500					200 200	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
34	比詰川	比詰川	男鹿市	第3分団	男鹿市	船川港	比 詰	左岸 右岸	通水断面		2,500 2,500					300 300	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
35	鮎川川	鮎川川	男鹿市	第7分団	男鹿市	五里合	谷 地	左岸 右岸	通水断面		2,000 2,000					200 200	河川断面狭小のため 冠水	土のう積			
36	雄物川	新城川	秋田市	下新城分団	秋田市	下新城		左岸 右岸	通水断面		5,000 5,000					2,000 2,000	河川断面狭小のため 冠水	土のう積	広域河川改修		
	河川 計	合 計	36箇所							5,600 5,400	91,150 88,250					12,700 9,900					
A	日本海	浜間口海岸	男鹿市	第8分団	男鹿市	男鹿中	浜間口		侵食		3,700					2,500	家屋耕地流失				
B	日本海	門前海岸	男鹿市	第2分団	男鹿市	船川港	小 浜		侵食		700					500	家屋耕地流失				
C	日本海	台島海岸	男鹿市	第2分団	男鹿市	船川港	台 島		侵食		1,400					500	家屋耕地流失				
D	日本海	脇本海岸	男鹿市	第4分団	男鹿市	船川港	脇 本		侵食		1,000					500	家屋耕地流失				
	海岸 計	合 計	4箇所								6,800					4,000					

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 由 利 支 部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域											特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要
					位 置			左右岸の区分	経度基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸揚(箇所)	延長(m)	予想される危険概要	対策水防工法		
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
1	子吉川	子吉川	由利本荘市	矢島支団 第4分団	由利本荘	矢島 元町	新 所	左 岸	水 衝 洗 掘		400 0					400 0	家屋耕地流失	土 俵 杭 打		
2	子吉川	子吉川	由利本荘市	矢島支団 第4分団	由利本荘	矢島 元町	郷 内	左 岸	堤防高		200 0					200 0	家屋耕地流失	土 俵 杭 打		
3	子吉川	子吉川	由利本荘市	鳥海支団 第1分団	由利本荘	鳥海 伏見	久 保	右 岸	堤防高		0 400					0 400	氾濫溢水	土俵積		
4	子吉川	芋 川	由利本荘市	大内支団 第2分団	由利本荘	西ノ沢		左 岸	堤防高		500 0					0 0			広域河川 改修工事	
5	子吉川	芋 川	由利本荘市	大内支団 第2分団	由利本荘	加賀沢	加賀沢	両 岸	堤防高		2,700 3,100					0 0			広域河川 改修工事	
6	子吉川	芋 川	由利本荘市	大内支団 第4分団	由利本荘	松 本	前 野	両 岸	堤防高		700 800					0 200	破堤越水	土俵積		
7	子吉川	芋 川	由利本荘市	大内支団 第4分団	由利本荘	平 嶋	上 野	両 岸	堤防高		500 600					0 600	破堤越水	土俵積		
8	子吉川	芋 川	由利本荘市	本荘支団 第4分団	由利本荘	葛 岡	宮ノ越	左 岸	堤防高		600 0					600 0	氾濫溢水	土俵積		
9	子吉川	赤田川	由利本荘市	本荘支団 第6分団	由利本荘	赤 田	西部岡 ～牛寺	両 岸	堤防高		1,800 1,900					400 0	破堤越水	土俵積	県単河川 改良工事	
10	子吉川	小友川	由利本荘市	本荘支団 第3分団	由利本荘	大 沢	南 関	両 岸	堤 防 断 面		1,400 1,000					1,400 0	破堤越水	土俵積		
11	子吉川	小友川	由利本荘市	本荘支団 第3分団	由利本荘	金 山	須 郷	両 岸	堤 防 断 面		600 700					0 0				
12	子吉川	石沢川	由利本荘市	東由利支団 第4分団	由利本荘	東由利 蔵	島 田	左 岸	堤防高	500 0						500 0	氾濫溢水	土俵積	県単河川 改良工事	
13	子吉川	石沢川	由利本荘市	東由利支団 第3分団	由利本荘	東由利 老方	下川原	右 岸	堤防高	0 200						0 200	氾濫溢水	土俵積	県単河川 改良工事	
14	子吉川	祝沢川	由利本荘市	東由利支団 第3分団	由利本荘	東由利方	寺 田	両 岸	堤防高	200 100						200 100	氾濫溢水	土俵積	県単河川 改良工事	
15	子吉川	鮎川	由利本荘市	由利支団 第5分団	由利本荘	平 石	平 石	両 岸	堤防高	400 400						400 400	氾濫溢水	土俵積	県単河川 改良工事	
16	子吉川	田沢川	由利本荘市	矢島支団 第4分団	由利本荘	矢島町 元町	大川原	両 岸	堤防高		400 400					400 400	氾濫溢水	土俵積		
17	子吉川	鶯川	由利本荘市	鳥海支団 第2分団	由利本荘	鳥海町 下川内	牛 越	両 岸	堤防高	100 100						100 100	氾濫溢水	土俵積		
18	子吉川	笹子川	由利本荘市	鳥海支団 第1分団	由利本荘	鳥海町 伏見	久 保	右 岸	堤防高		0 100					0 100	氾濫溢水	土俵積		
19	子吉川	笹子川	由利本荘市	鳥海支団 第2分団	由利本荘	鳥海町 栗 沢	芦ヶ淵	右 岸	堤防高		0 200					0 200	氾濫溢水	土俵積		

2 - 4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 由利支部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	判定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸開(箇所)	延長(m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
20	子吉川	百宅川	由利本荘市	島海支団 第7分団	由利本荘	島海町 百 宅	中 村	左 岸	堤 防 断 面		300 0					0 0				
21	白雪川	白雪川	にかほ市	仁賀保地区 第5分団	にかほ	三 森	浜 田	両 岸	堤防高		2.100 2.100					300 300	破堤越水	土俵積		
22	白雪川	白雪川	にかほ市	仁賀保地区 第5分団	にかほ	田 狐	石 脇	両 岸	水衝 洗掘		3.900 3.900					500 500	破堤越水	土俵積		
23	衣川	衣川	由利本荘市	本荘支団 第7分団	由利本荘	松ヶ崎	荒 町 北 側	左 岸	堤防高		100 0					100 0	氾濫溢水	土俵積		
24	衣川	衣川	由利本荘市	岩城支団 第3分団	由利本荘	岩 城 滝 俣	観音前	左 岸	堤防高	200 0						200 0	氾濫溢水	土俵積		
25	衣川	蛇川	由利本荘市	岩城支団 第2分団	由利本荘	岩 城 上 蛇田	御所ノ前	両 岸	堤防高	800 800						800 800	氾濫溢水	土俵積		
26	君ヶ野川	君ヶ野川	由利本荘市	岩城支団 第4分団	由利本荘	岩 城 内道川	川 向	両 岸	堤防高		200 200					0 0				
27	君ヶ野川	君ヶ野川	由利本荘市	岩城支団 第4分団	由利本荘	岩 城 内道川	岩ノ沢	右 岸	堤防高		0 400					0 400	氾濫溢水	土俵積		
28	象潟川	象潟川	にかほ市	仁賀保地区 第1分団	にかほ	象 潟	弁天島	右 岸	堤防高		0 400					0 400	氾濫溢水	土俵積		
29	二古川	二古川	由利本荘市	岩城支団 第4分団	由利本荘	岩 城 二 古	川 尻	右 岸	堤防高		0 100					0 0				
30	奈曹川	清水川	にかほ市	仁賀保地区 第2分団	にかほ	横 岡	仲 岡	左 岸	堤防高		600 0					600 0	氾濫溢水	土俵積		
31	奈曹川	清水川	にかほ市	仁賀保地区 第2分団	にかほ	本 郷	盛	左 岸	堤防高		200 0					200 0	氾濫溢水	土俵積		
32	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第5分団	にかほ	平 沢	書書面	右 岸	堤防高		0 300					0 300	破堤溢水	土俵積		
33	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第5分団	にかほ	平 沢	島ノ子淵	両 岸	堤防高		700 700					700 700	氾濫溢水	土俵積	総合流域 防災対策工事	
34	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第6分団	にかほ	院 内	杉 山	左 岸	堤防高		300 0					300 0	氾濫溢水	土俵積		
35	西目川	西目川	由利本荘市	西目支団 第4分団	由利本荘	西目町 海士割	海士割下	右 岸	堤防高		0 500					0 500	氾濫溢水	土俵積		
36	赤石川	赤石川	にかほ市	仁賀保地区 第4分団	にかほ	金 浦	赤 石	左 岸	堤防高	300 0						300 0	氾濫溢水	土俵積		
37	赤石川	赤石川	にかほ市	仁賀保地区 第4分団	にかほ	大 竹	下 後	両 岸	堤防高	400 400						400 400	氾濫溢水	土俵積		
	河川 計	合 計	37箇所							2,900 2,000	10,000 10,800					12,700				

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 由 利 支 部

番号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要		
					位 置			左右岸の区分	経 路 基 準		堤 防		工 作 物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸間(箇所)	延長(m)			予想される危険概要	対策水防工法
					市町村	大字	字		種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)								
A	日本海	岩城海岸	由利本荘市	岩城支団 第5分団	由利本荘	岩 城 新 谷			浸 食		900					391	家屋耕地流失		海岸浸食対策		
B	日本海	岩城海岸	由利本荘市	岩城支団 第4分団	由利本荘	岩 城 内道川			浸 食		375					0	家屋耕地流失				
C	日本海	岩城海岸	由利本荘市	岩城支団 第4分団	由利本荘	岩 城 二 古			浸 食		110					0	家屋耕地流失				
D	日本海	本荘海岸	由利本荘市	岩城支団 第7分団	由利本荘	神 沢	神 沢		浸 食		400					0	家屋耕地流失				
E	日本海	本荘海岸	由利本荘市	本荘支団 第7分団	由利本荘	芦 川	折 林				1,050					956	家屋耕地流失		海岸浸食対策		
F	日本海	本荘海岸	由利本荘市	本荘地区 第7分団	由利本荘	芦 川					150					0	家屋耕地流失				
G	日本海	本荘海岸	由利本荘市	本荘支団 第1分団	由利本荘	浜三川	三 川 1 号				250					0	家屋耕地流失				
H	日本海	本荘海岸	由利本荘市	西目支団 第1分団	由利本荘	浜三川	三 川 2 号				200					0	家屋耕地流失				
I	日本海	本荘海岸	由利本荘市	西目支団 第1分団	由利本荘	浜三川	三 川 3 号				300					0	家屋耕地流失				
J	日本海	西目海岸	由利本荘市	西目支団 第4分団	由利本荘	西目町 出 戸	中高屋 1 号				350					350	家屋耕地流失				
K	日本海	西目海岸	由利本荘市	西目支団 第4分団	由利本荘	西目町 出 戸	中高屋 2 号				350					350	家屋耕地流失				
L	日本海	西目海岸	由利本荘市	西目支団 第4分団	由利本荘	西目町 出 戸	上高屋				350					350	家屋耕地流失				
M	日本海	西目海岸	由利本荘市	西目支団 第1分団	由利本荘	西目町 出 戸	出戸				600					0	家屋耕地流失				
N	日本海	象潟海岸	にかほ市	仁賀保地区 第3分団	にかほ	立 石					700					700	家屋耕地流失				
O	日本海	象潟海岸	にかほ市	仁賀保地区 第3分団	にかほ	関					200					0	家屋耕地流失				
	海岸 計	合 計	15箇所								6,285					3,097	家屋耕地流失				

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 由利支部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する区域				関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準		堤防		工作物		新堤・破壊跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸障(箇所)	延長(m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字		種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)								
あ	子吉川	芋川	由利本荘市	大内支団 第2分団	由利本荘									徳沢橋							
い	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第4分団	にかほ	平 沢	鳥の子測							市道橋							
う	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第2分団	にかほ	平 沢								国道橋							
え	大沢川	大沢川	にかほ市	仁賀保地区 第2分団	にかほ	平 沢	田角森							JR橋							
	工作物 計	合 計	4箇所																		

2 - 4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 仙北支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域				特に警戒を要する延長					関連計画等	摘 要					
					位 置			左右岸の区分	判定基準 種別	堤防		工作物				新堤、破堤跡、 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸開(箇所)	延長(m)	予想される危険概要	対策水防工法
市町村	大字	字	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)														
1	雄物川	淀川	大仙市	協和支団 第7分団	大仙市	協和	小種	右 岸	流下能力		1,180						家田畑浸水	土のう積		
2	〃	〃	〃	協和支団 第7分団	〃	〃	下淀川	左 岸	〃		800				300		〃	〃		
3	〃	大沢川	〃	西仙北支団 第7分団	〃	円行寺	坂紫	左 岸	堤防高		300				200		〃	〃		
4	〃	〃	〃	西仙北支団 第7分団	〃	大沢郷宿	円行寺 八木山	左 岸 右 岸	〃		3,100 2,000				300		田畑浸水	〃		
5	〃	〃	〃	西仙北支団 第7分団	〃	〃	金剛寺 箱井	左 岸 右 岸	〃		3,200 2,500				2,100 2,100		〃	〃		
6	〃	土貫川	〃	西仙北支団 第2、7分団	〃	土川	小杉山	左 岸 右 岸	流下能力		3,500 4,000				900 900		家田畑浸水	〃		
7	〃	〃	〃	西仙北支団 第2、5分団	〃	〃	半導寺	左 岸 右 岸	〃		1,200 2,054				1,200 2,054		〃	〃		
8	〃	〃	〃	西仙北支団 第2分団	〃	〃	〃	左 岸 右 岸	新堤防		295 272				295 272		〃	〃	総合流域防災事業	H19まで
9	〃	心像川	〃	西仙北支団 第3分団	〃	〃	添ノ又	右 岸	流下能力		1,400				500		田畑浸水	〃		
10	〃	〃	〃	西仙北支団 第2分団	〃	〃	今泉	左 岸	〃		900				400		〃	〃		
11	〃	大滝川	〃	西仙北支団 第3分団	〃	〃	添ノ又	左 岸 右 岸	〃		500 500				300		家田畑浸水	〃		
12	〃	棚平川	〃	西仙北支団 第7分団	〃	大沢郷宿	滝ノ沢	左 岸	〃		500				100		〃	〃		
13	〃	〃	〃	西仙北支団 第7分団	〃	〃	尊仏	左 岸 右 岸	〃		3,200 700				500		〃	〃		
14	〃	布又川	〃	西仙北支団 第7分団	〃	円行寺	布又	左 岸 右 岸	〃		100 100						田畑浸水 道路通行止	〃		
15	〃	〃	〃	西仙北支団 第7分団	〃	〃	下布又	右 岸	〃		1,000						〃	〃		
16	〃	橋岡川	〃	南外支団 第2分団	〃	南 外	田尻	左 岸 右 岸	〃		2,800 3,400				400		家田畑浸水	〃		
17	〃	〃	〃	南外支団 第2分団	〃	〃	金屋	左 岸 右 岸	〃		1,700 2,800				300		家田畑浸水	〃		
18	〃	〃	〃	南外支団 第4分団	〃	〃	鞆田	右 岸	〃		700				700		田畑浸水 道路通行止	〃		
19	〃	〃	〃	南外支団 第5分団	〃	〃	揚土	左 岸	流下能力		200				200		田畑浸水 道路通行止	〃		
20	〃	〃	〃	南外支団 第1分団	〃	〃	田中	左 岸	〃		500 500				200 500		田畑浸水 道路通行止	〃		
21	〃	小出川	〃	南外支団 第4分団	〃	〃	小出	左 岸 右 岸	〃		1,200				600		家田畑浸水	〃		
22	〃	西の又川	〃	南外支団 第6分団	〃	〃	西の又	左 岸	〃		1,400				600		〃	〃		
23	〃	〃	〃	南外支団 第6分団	〃	〃	及位	左 岸	〃		1,400				600		田畑浸水	〃		
24	〃	〃	〃	南外支団 第6分団	〃	〃	落合	左 岸 右 岸	〃		400				400		家田畑浸水	〃		

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 仙北支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸開(箇所)	延長(m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
25	雄物川	玉川	大仙市	中仙支団 第2分団	大仙市	下鷲野	遠藤	左 岸	堤防断面 水衝洗掘		3,300					3,200	家田畑浸水	川倉 シート張り		
26	〃	〃	仙北市	仙北市 第7分団	仙北市	岩瀬	下夕野	右 岸	新堤防		474					474	〃	土のう積	広域基幹改修事業	H19まで
27	〃	〃	〃	仙北市 第8分団	〃	園田	古川	左 岸	堤防断面 水衝洗掘		590					590	〃	川倉 シート張り		
28	〃	〃	〃	仙北市 第8分団	〃	白岩広久内	舟場	左 岸	堤防断面		800					400	〃	土のう積		
29	〃	〃	〃	仙北市 第9分団	〃	雲然	掟	右 岸	堤防断面 水衝洗掘		4,000					600	〃	川倉 シート張り		
30	〃	〃	〃	仙北市 第3分団	〃	生保内	舟場	左 岸	流下能力		1,000					1,000	下水処理場 田畑浸水	土のう積		
31	〃	〃	〃	仙北市 第1分団	〃	田沢	下田沢	左 岸 右 岸	堤防断面		1,000 180					800	田畑浸水	〃		
32	〃	〃	〃	仙北市 第1分団	〃	〃	見付田	左 岸	〃		700					300	田畑浸水	〃		
33	〃	〃	〃	仙北市 第1分団	〃	〃	鍾畑	左 岸	〃		800					400	田畑浸水	〃		
34	〃	入見内川	〃	仙北市 第9分団	〃	西長野	月見堂	右 岸	流下能力		210					210	家田畑浸水	〃		
35	〃	〃	〃	仙北市 第9分団	〃	〃	川下田	左 岸 右 岸	流下能力		2,100 2,100					1,000 1,000	〃	〃		
36	〃	楡木内川	〃	仙北市 第5分団	〃	門屋	上門屋	左 岸	新堤防		481					481	〃	〃	広域基幹改修事業	H19まで
37	〃	〃	〃	仙北市 第5分団	〃	小山田	高野	左 岸	水衝洗掘		800					700	〃	〃		
38	〃	〃	〃	仙北市 第6分団	〃	下楨内	下田	右 岸	流下能力		1,000					500	〃	〃		
39	〃	〃	〃	仙北市 第6分団	〃	上楨内	柗沢	左 岸 右 岸	〃		2,600 3,300					700 2,600	〃	〃		
40	〃	〃	〃	仙北市 第6分団	〃	〃	鳥屋森	左 岸	堤防高さ		300						〃	〃		
41	〃	〃	〃	仙北市 第6分団	〃	小山田	西下戸沢	左 岸	〃		200					100	〃	〃		
42	〃	院内川	〃	仙北市 第4分団	〃	岡崎	新屋敷	左 岸 右 岸	流下能力		1,500 700					500 200	〃	〃	県単改良	H19まで
43	〃	刺市川	〃	仙北市 第4分団	〃	梅沢	東田	左 岸	〃		600					500	〃	〃		
44	〃	〃	〃	仙北市 第4分団	〃	〃	〃	右 岸	〃		500						〃	〃		
45	〃	堀内沢川	〃	仙北市 第6分団	〃	上楨木内	堀内	左 岸 右 岸	〃		200 200					200 200	〃	〃		
46	〃	小先達川	〃	仙北市 第1分団	〃	生保内	小先達	左 岸 右 岸	〃		800 800					400	家屋浸水	〃		
47	〃	福部内川	大仙市	大曲支団 第1分団	大仙市	大曲	須和町	右 岸	〃		1,600					400	〃	〃		
48	〃	産堀川	〃	大田支団 第1分団	〃	太田	東今泉	左 岸 右 岸	〃		400 400					400 400	家田畑浸水	〃		

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 仙北支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	位 置			左右岸の区分	重要水防区域			工作物		新堤・破壊跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸間(箇所)	延長(m)	特に警戒を要する区域		関連計画等	摘 要
					市町村	大字	字		認定基準 種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)				予想される危険概要	対策水防工法		
49	雄物川	川口川	大仙市	大田支団 第3分団	大仙市	太田	三本扇	左 岸 右 岸	〃		1,000 1,000						家田畑浸水	土のう積		
50	〃	矢島川	美郷町	美郷町 第2分団	美郷町	本堂城回	吉清水	左 岸 右 岸	〃		600 600					600 600	田畑浸水	〃		
51	〃	〃	〃	美郷町 第1分団	〃	浪花	一丈木	左 岸 右 岸	〃		600 600					300 300	〃	〃		
52	〃	赤倉川	〃	美郷町 第2分団	〃	千屋	小森	左 岸	〃		500					300	家田畑浸水	〃		
53	〃	小友川	大仙市	大曲支団 第5分団	大仙市	内小友	館前	左 岸 右 岸	〃		1,000 1,000					500 500	〃	〃		
54	〃	出川	美郷町	美郷町 第14分団	美郷町	仙南	野荒町	左 岸 右 岸	〃		100 145						田畑浸水	〃		
55	〃	〃	〃	美郷町 第13分団	〃	〃	〃	左 岸 右 岸	新堤防		187 165					187 165	〃	〃	総合流域防災事業	H18年まで
56	〃	土煎川	仙北市	仙北市 第6分団	西木村	下楡木内	畑中	左 岸 右 岸	流下能力		1,500 1,500						家田畑浸水	土のう積		
57	〃	上総川	大仙市	大曲支団 第1、7分団	大仙市	下深井	南谷地	左 岸	〃		600						道家田畑浸水	〃		
			美郷町	美郷町 第12分団	美郷町			右 岸			600									
58	〃	斎内川	大仙市	中仙支団 第4分団	大仙市	豊川	八丁堀	右 岸	洗掘		400					200	家田畑浸水	土のう積		
59	〃	〃	〃	中仙支団 第4、5分団	〃	栗沢	柏木野	右 岸	〃		300					300	〃	シート張り		
60	〃	上総川	美郷町	美郷町 第6分団	美郷町	六郷	大町	左 岸 右 岸	新堤防		70					70	家田畑浸水	土のう積		
61	〃	淀川	大仙市	協和支団 第7分団	大仙市	協和	小種	左 岸	新堤防		139			139			家田畑浸水	土のう積	広域基幹	H18まで
62	〃	淀川	大仙市	協和支団 第7分団	大仙市	協和	小種	右 岸	新堤防		20			20			家田畑浸水	土のう積	広域基幹	H18まで
63	〃	〃	〃	西仙北支団 第2分団	〃	〃	〃	左 岸 右 岸	新堤防		274					274	〃	〃	総合流域防災事業	H20まで
64	〃	楡木内川	仙北市	仙北市 第5分団	〃	門屋	上門屋	左 岸	新堤防		413					413	〃	〃	広域基幹改修事業	H25まで
65	〃	出川	美郷町	美郷町 第13分団	〃	〃	〃	左 岸 右 岸	新堤防		355 400					355 400	〃	〃	総合流域防災事業	H19まで
66	〃	丸子川	大仙市	大田支団 第3分団	大仙市	高梨	上川原	左 岸 右 岸	新堤防		350 300					350 300	家田畑浸水	土のう積	県単改良	H25まで
67	雄物川	田沢湖	仙北市		仙北市	田沢湖湯	経児堂	左 岸	堤防高		50					0	田畑浸水	土のう積		
68	〃	〃	〃		仙北市	田沢湖湯	一ノ渡	左 岸	堤防高		150					0	田畑浸水	土のう積		
69	〃	〃	〃		仙北市	西木町西明寺	滝尻	右 岸	堤防高		350					350	歩道浸水	土のう積		
70	〃	〃	〃		仙北市	西木町楡木内	相内潟	右 岸	堤防高		100					100	家浸水	土のう積		
71	〃	〃	〃		仙北市	西木町楡木内	相内潟	右 岸	堤防高		400					400	歩道浸水	土のう積		



2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 仙北支部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	堤防			工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 除隔(箇所)	延長(m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字		種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
72	〃	〃	〃		仙北市	田沢湖田沢		右 岸	堤防高		450					450	田畑浸水	土のう積		
73	〃	〃	〃		仙北市	田沢湖田沢	潟前	右 岸	堤防高		150					150	田畑浸水	土のう積		
74	〃	〃	〃		仙北市	田沢湖田沢	潟前	左 岸	堤防高		300					300	歩道浸水	土のう積		
75	〃	〃	〃		仙北市	田沢湖田沢	潟前	左 岸	堤防高		300					300	歩道浸水	土のう積		
計	75箇所										53,180 47,724			139 20		23,341 19,999				

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県 重 要 水 防 区 域 一 覧 表

水 防 支 部 名 平 鹿 支 部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長				関連計画等	摘 要		
					位 置			左右岸の区分	特定区域			堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸揚(箇所)	延長(m)			予想される危険概要	対策水防工法
					市町村	大字	字		種別	A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)									
1	雄物川	櫛岡川	横手市	大森消防団 第5分団	横手市	大森町 八沢木	上八沢木	左 岸 右 岸	水衝 堤防断面		1,700 1,700						1,150 1,250	河岸決壊 耕地冠水	土のう積			
2	雄物川	櫛岡川	横手市	大森消防団 第5分団	横手市	大森町 八沢木	太平宮脇	左 岸 右 岸	水衝 堤防断面		3,300 3,300						2,300 2,300	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積			
3	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内三又	粕子瀬 松沢	左 岸 右 岸	洗 掘	2,300 2,300							1,000 1,000	河岸決壊 家屋浸水	木流し 土のう積			
4	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内南郷	上南郷	左 岸 右 岸	堤防断面		900 900						900 900	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積			
5	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内南郷	下南郷	左 岸 右 岸	堤防高 洗掘		1,700 900						1,500 900	家屋浸水 耕地冠水	木流し 土のう積			
6	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内南郷	沢田	左 岸 右 岸	堤防断面		500 500						500 500	耕地冠水	土のう積			
7	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内南郷	高林	左 岸 右 岸	堤防断面		400 400						400 400	耕地冠水	土のう積			
8	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内平野沢	相野々	左 岸 右 岸	洗掘		800 800						800 800	河岸決壊	土のう積			
9	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内土沢	岩瀬	左 岸 右 岸	水衝 堤防断面		1,500 1,000						1,500 1,000	河岸決壊 耕地冠水	土のう積			
10	雄物川	横手川	横手市		横手市	山内土沢	板井沢	左 岸 右 岸	水衝 堤防高		1,000 1,000						1,000 1,000	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積			
11	雄物川	横手川	横手市	横手消防団 第7分団	横手市	黒川	落合	左 岸 右 岸	堤防断面	600 600							600 600	耕地冠水	土のう積			
12	雄物川	横手川	横手市	横手消防団 第2分団	横手市	大沢	羽根山 回立	左 岸 右 岸	水衝 堤防高		1,200 1,200						1,200 1,200	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積			
13	雄物川	横手川	横手市	横手消防団 第1～3分団	横手市	睦成	本郷	左 岸 右 岸	堤防高 洗掘		6,000 6,000						2,600 2,800	家屋浸水 耕地冠水	木流し 土のう積			
14	雄物川	横手川	横手市	横手消防団 第6分団	横手市	安本		左 岸 右 岸	堤防断面		3,300 3,300						500 500	河岸決壊	木流し			
15	雄物川	横手川	横手市	横手消防団 第7分団	横手市	黒川	寺村	左 岸 右 岸	水衝 洗掘		2,600 2,600						500 1,500	堤防決壊 耕地冠水	木流し シート張り			
16	雄物川	厨川	横手市	横手消防団 第8分団	横手市	金沢中野		左 岸 右 岸	洗掘		2,000 2,000						2,000 2,000	河床洗掘	土のう積			
17	雄物川	大戸川	横手市	横手消防団 第4, 6, 7分団	横手市	塚堀、下境 黒川		左 岸 右 岸	堤防断面 堤防高		5,500 5,500						1,000 1,000	家屋浸水 耕地冠水	土のう積			
18	雄物川	頭無川	横手市	横手消防団 第5分団	横手市	婦気		左 岸 右 岸	堤防断面		500 500						500 500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積			
19	雄物川	頭無川	横手市	横手消防団 第4分団	横手市	前郷、赤坂		左 岸 右 岸	堤防断面		2,000 2,000						1,000 1,000	家屋浸水 耕地冠水	土のう積			
20	雄物川	皿川	横手市	横手消防団 第4分団	横手市	猪岡		左 岸 右 岸	堤防断面		500 500						300 300	耕地冠水	土のう積			
21	雄物川	杉沢川	横手市	横手消防団 第3分団	横手市	杉沢		左 岸 右 岸	堤防断面		3,900 3,900						1,000 1,000	耕地冠水	土のう積			
22	雄物川	黒沢川	横手市		横手市	山内小松川	岩瀬	左 岸 右 岸	堤防断面		1,400 1,400						1,400 1,400	家屋浸水 耕地冠水	土のう積			
23	雄物川	黒沢川	横手市		横手市	山内小松川	落合	左 岸	堤防高		400						400	耕地冠水	土のう積			

2 - 4 平成 2 9 年度 秋 田 県重要水防区域一 覧 表

水防支部名 平鹿支部

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	位置			左右岸の区分	重要水防区域			工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸間(箇所)	特に警戒を要する延長			関連計画等	摘要
					市町村	大字	字		種別	A(m)	B(m)	A(箇所)	B(箇所)			延長(m)	予想される危険概要	対策水防工法		
24	雄物川	黒沢川	横手市		横手市	山内平野沢	相野々	左岸 右岸	水衝		1,700 1,900					500 900	河岸決壊	木流し		
25	雄物川	松川	横手市		横手市	山内大松川	赤倉	左岸 右岸	洗掘		1,400 1,400					800	河岸決壊	木流し		
26	雄物川	松川	横手市		横手市	山内大松川	落合	左岸 右岸	堤防高		2,100 2,100					150 100	家屋浸水 耕地冠水	木流し		
27	雄物川	武道川	横手市		横手市	山内平野沢	武道	左岸 右岸	堤防断面		1,000 1,000					1,000 1,000	河岸決壊 家屋浸水	木流し 土のう積		
28	雄物川	武道川	横手市		横手市	山内平野沢	吉谷地	左岸 右岸	堤防断面		500 500					500 500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
29	雄物川	武道川	横手市		横手市	山内平野沢	検沢	左岸 右岸	水衝 堤防断面		500 500					500 500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
30	雄物川	大納川	横手市	大森消防団 第3分団	横手市	大森町猿田	鉢山	左岸 右岸	堤防断面		500 500					500 500	耕地冠水	土のう積		
31	雄物川	大納川	横手市	大森消防団 第3分団	横手市	大森町猿田	中村	左岸 右岸	堤防断面		350 350					350 350	耕地冠水	土のう積		
32	雄物川	大納川	横手市	大森消防団 第2分団	横手市	大森町	菅生田	右岸	堤防断面		2,500					1,000	耕地冠水	土のう積		
33	雄物川	上満川	横手市	大森消防団 第4分団	横手市	大森町上満	末野	左岸 右岸	堤防断面		1,800 1,800					1,000 1,100	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
34	雄物川	上満川	横手市	大森消防団 第1分団	横手市	大森町	本郷	左岸 右岸	堤防断面 堤防高		3,600 3,600					1,500 1,500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
35	雄物川	七滝川	横手市	大森消防団 第3分団	横手市	大森町上満	武道	右岸	水衝 堤防断面		500					300	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
36	雄物川	七滝川	横手市	雄物川消防団 第1分団	横手市	雄物川町 二井山	水沢	左岸 右岸	堤防断面		700 700					700 700	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
37	雄物川	七滝川	横手市	大森消防団 第3分団	横手市	大森町上満	極楽寺	左岸 右岸	堤防断面		900 900					300 300	耕地冠水	土のう積		
38	雄物川	七滝川	横手市	大森消防団 第3分団	横手市	大森町上満	横沢	左岸 右岸	堤防断面		800 800					800 800	河岸決壊 耕地冠水	土のう積		
39	雄物川	上法寺川	横手市	雄物川消防団 第5分団	横手市	雄物川大沢	上法寺	左岸 右岸	水衝 堤防断面		3,200 3,200					2,500 2,500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
40	雄物川	地竹川	横手市	雄物川消防団 第5分団	横手市	雄物川大沢	坂ノ下	左岸 右岸	堤防断面		1,800 1,800					1,800 1,800	耕地冠水	木流し 土のう積		
41	雄物川	地竹川	横手市	雄物川消防団 第5分団	横手市	雄物川大沢	意ヶ沢	左岸 右岸	堤防高		900 900					900 900	耕地冠水	土のう積		
42	雄物川	成瀬川	横手市	増田消防団 第3分団	横手市	増田町増田	真人	左岸 右岸	堤防断面		700 700					700 700	家屋浸水 耕地冠水	木流し 土のう積		
43	雄物川	狙半内川	横手市	増田消防団 第4分団	横手市	増田町 狙半内	中村	左岸 右岸	堤防断面 堤防高	4,600 4,600						1,300 1,300	家屋浸水 耕地冠水	木流し 土のう積		
44	雄物川	狙半内川	横手市	増田消防団 第4分団	横手市	増田町 狙半内	小栗山	左岸 右岸	堤防断面 堤防高		500 500					500 500	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
45	雄物川	皆瀬川	横手市	増田消防団 第1分団	横手市	増田町戸波	戸波	左岸 右岸	堤防高		1,000 1,000					1,000 1,000	耕地冠水	土のう積		
46	雄物川	皆瀬川	横手市	増田消防団 第1分団	横手市	増田町戸波	戸波	左岸	堤防高		200					200	家屋浸水	土のう積		
47	子吉川	坂部川	横手市	大森消防団 第10分団	横手市	大森町坂部	金井神	左岸 右岸	水衝 堤防断面		1,000 1,000					1,000 1,000	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		

2－4 平成29年度 秋田県重要水防区域一覧表

水防支部名 平鹿支部

番 号	水系名	河 川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名 (消防)	重要水防区域										特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準 種別	堤防		工作物		新堤・破堤跡・ 旧河川(延長m)	工事施工中又は 陸障(箇所)	延長 (m)	予想される危険概要			対策水防工法
					市町村	大字	字			A (m)	B (m)	A (箇所)	B (箇所)							
48	子吉川	坂部川	横手市	大森消防団 第10分団	横手市	大森町坂部	開	左岸 右岸	水衝 堤防断面		800 800					800 800	河岸決壊 耕地冠水	木流し 土のう積		
	雄物川	4 6 箇所								7,500 7,500	65,250 66,550					40,750 42,900				
	子吉川	2 箇所								0 0	1,800 1,800					1,800 1,800				
計	4 8 箇所									7,500 7,500	67,050 68,350					42,550 44,700				

番号	水系名	河川 海岸名	担当水防管理団体名	水防分団名（消防）	重要水防区域											特に警戒を要する延長			関連計画等	摘 要	
					位 置			左右岸の区分	評定基準			工作物		新堤・破堤跡・旧河川（延長m）	工事施工中又は陸揚（箇所）	延長（m）	予想される危険概要	対策水防工法			
					市町村	大字	字		種別	A（m）	B（m）	A（箇所）	B（箇所）								
1	雄物川	雄物川	湯沢市	院内分団	湯沢市	下院内	馬場	両 岸	堤防高	1,930 1,930							430	家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
2	雄物川	新町川	羽後町	第5分団	羽後町	林崎		左 岸 右 岸	堤防高		1,100 900							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
3	雄物川	西馬音内川	羽後町	第6分団	羽後町		赤沢口	左 岸 右 岸	堤防高		1,200 1,750						400 700	河岸欠陥 田畑冠水	積土のう 木流し		
4	雄物川	羽後大戸川	湯沢市	山田分団	湯沢市	石塚		両 岸	堤防高		2,000 2,000							家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
5	雄物川	羽後大戸川	羽後町	第1分団	羽後町	杉宮		両 岸	水衝 洗掘		600 600							家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
6	雄物川	田沢川	羽後町	第2分団	羽後町	田沢		左 岸 右 岸	堤防高		1,700 800							河岸欠陥 家屋浸水	積土のう		
7	雄物川	切畑川	湯沢市	山田分団	湯沢市	松岡	切畑	両 岸	堤防高		1,200 1,200						300 300	家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
8	雄物川	菅瀬川	湯沢市	稲庭分団	湯沢市	稲庭町	稲庭	右 岸	水衝 洗掘		750						500	田畑冠水	積土のう		
9	雄物川	菅瀬川	湯沢市	稲庭分団	湯沢市	稲庭町	岩城	左 岸	水衝 洗掘		500						100	堤防欠陥 田畑流出	積土のう 木流し		
10	雄物川	菅瀬川	湯沢市	川達分団	湯沢市	川達町	大館	右 岸	水衝 洗掘		600							家屋浸水	積土のう 木流し		
11	雄物川	菅瀬川	湯沢市	駒形分団	湯沢市	駒形町		左 岸	法崩れ すべり		150							河川埋塞	土砂搬去		
12	雄物川	成瀬川	東成瀬村	第2分団	東成瀬村	岩井川	真戸	両 岸	堤防高		600 600							河岸欠陥 田畑冠水	積土のう		
13	雄物川	成瀬川	東成瀬村	第3分団	東成瀬村	櫛川	谷地	左 岸	すべり		4,500						500	河川埋塞	土砂搬去		
14	雄物川	大沢川	東成瀬村	第1分団	東成瀬村	田子内	下田	左 岸 右 岸	堤防高		350 300							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
15	雄物川	駒形黒沢川	湯沢市	駒形分団	湯沢市	駒形町	東福寺	両 岸	堤防高	3,000 3,000							1,000 1,000	家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
16	雄物川	白子川	湯沢市	湯沢分団	湯沢市		大島	両 岸	堤防高	820 820							820 820	家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
17	雄物川	姉倉沢川	湯沢市	弁天分団	湯沢市		森	両 岸	堤防高	500 500							500 500	家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
18	雄物川	戸沢川	湯沢市	三関分団	湯沢市	関口	本内	両 岸	工作物 J R橋									家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
19	雄物川	戸沢川	湯沢市	三関分団	湯沢市		戸沢	右 岸	堤防高		800							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
20	雄物川	立川	湯沢市	三関分団	湯沢市		下関	両 岸	堤防高	1,400 1,400								家屋浸水 田畑冠水	積土のう		
21	雄物川	高松川	湯沢市	須川分団	湯沢市	高松	須川	両 岸	堤防高		400 400						400 400	家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
22	雄物川	宇留院内川	湯沢市	須川分団	湯沢市	高松	霞長	両 岸	堤防高		1,200 1,200							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
23	雄物川	役内川	湯沢市	秋ノ宮分団	湯沢市	秋ノ宮	磯	両 岸	堤防高		2,000 2,000							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
	1級 雄物川	小計	2 3箇所							6,250 6,250	18,900 15,300						4,020 4,650				
24	子吉川	石沢川	羽後町	第7分団	羽後町	上剱米	古米沢	両 岸	堤防高		14,000 14,000							家屋浸水 田畑冠水	積土のう 木流し		
	2級 子吉川	小計	1箇所								14,000 14,000										
計	2 4箇所									6,250 6,250	32,900 29,300						4,020 4,650				

## 第 3 章 水位観測所

# 第 3 章 水 位 観 測 所

## 3 - 1 県 所 管 水 位 観 測 所

市 町 村 名	河 川 名	水 防 団 待機水位	氾 濫 注意水位	観 測 所 名	設 置 場 所	観 測 者 名	電 話 番 号
鹿 角 市	米 代 川	1.50	2.00	花 輪	尾去沢字下モ平	鹿 角 地 域 振 興 局 建 設 部	0186 (23) 2316
〃	〃	1.50	2.20	末 広	十和田末広	〃	〃
〃	熊 沢 川	1.50	2.00	谷 内	八幡平字谷内	〃	〃
〃	小 坂 川	1.00	2.00	毛 馬 内 1	十和田瀬田石	〃	〃
〃	大 湯 川	1.50	1.80	毛 馬 内 2	十和田毛馬内	〃	〃
〃	間 瀬 川	1.50	2.00	間 瀬 川	花輪字高市向	〃	〃
〃	福 士 川	0.50	0.65	福 士 川	花輪字下沢田	〃	〃
小 坂 町	古 遠 部 川	1.50	2.00	古 遠 部 川	小坂字新田	〃	〃
大 館 市	長 木 川	1.20	2.00	有 浦	有浦六丁目	北 秋 田 地 域 振 興 局 建 設 部	0186 (62) 3111
〃	〃	1.20	2.00	餅 田	餅田石渕袋	〃	〃
〃	下 内 川	1.30	1.60	松 峰	松峰村下	〃	〃
〃	〃	0.80	1.00	白 沢	白沢伊勢堂下	〃	〃
〃	引 欠 川	1.50	2.00	小 袴	小袴家の下	〃	〃
〃	犀 川	1.50	2.00	二 井 田	二井田上出向	〃	〃
北 秋 田 市	綴 子 川	1.35	1.85	田 中	綴子柳中	〃	〃
〃	小 猿 部 川	2.00	2.50	脇 神	脇神広砂坂	〃	〃
〃	糠 沢 川	1.50	2.00	大 畑	大畑家下	〃	〃
大 館 市	米 代 川	2.70	3.50	扇 田	扇田本道端	〃	〃
北 秋 田 市	阿 仁 川	2.10	3.00	阿 仁 前 田	阿仁前田下川端	〃	〃
〃	〃	2.50	3.00	米 内 沢	米内沢出向井中島	〃	〃
〃	〃	2.50	3.00	新 田 目	新田目川向	〃	〃
〃	〃	3.00	4.30	木 戸 石	木戸石上務田	〃	〃
〃	小阿仁川	1.80	2.20	三 木 田	三木田	〃	〃
上小阿仁村	小 阿 仁 川	1.60	2.30	杉 花	堂川杉花	〃	〃

市 町 村 名	河 川 名	水 防 団 待機水位	氾 濫 注意水位	観 測 所 名	設 置 場 所	観 測 者 名	電 話 番 号
能 代 市	桧 山 川	1.00	1.50	桧 山	桧 山	山 本 地 域 振 興 局 建 設 部	0185 (52) 6109
〃	悪 土 川	2.00	2.40	悪 土 川	下 悪 土	〃	〃
〃	常 盤 川	1.30	1.80	常 盤	常 盤	〃	〃
〃	竹 生 川	1.60	2.10	竹 生	能代市竹生	〃	〃
〃	藤 琴 川	3.00	3.50	高 岩 橋	荷上場字町館	〃	〃
〃	比 井 野 川	1.28	1.36	比 井 野 川	字下野川端	〃	〃
〃	阿 仁 川	2.50	3.00	下 田 平	麻生字下田平	〃	〃
三 種 町	三 種 川	2.50	3.00	森 岳	森岳字小中野	〃	〃
〃	〃	2.30	2.80	下 岩 川	下岩川	〃	〃
藤 里 町	藤 琴 川	1.80	2.30	藤 琴	藤琴字相の図	〃	〃
八 峰 町	塙 川	1.30	3.80	塙 川	高野野字真山	〃	〃
秋 田 市	太 平 川	1.60	2.60	太 平 本 町	太平本町	秋 田 地 域 振 興 局 建 設 部	018 (860) 3482
〃	〃	2.00	3.00	牛 島	牛 島	〃	〃
〃	馬 踏 川	0.90	1.70	金 足 堀 内	金足堀内	〃	〃
〃	草 生 津 川	1.80	2.80	寺 内	寺 内	〃	〃
〃	新 城 川	1.20	1.40	笠 岡	下新城笠岡	〃	〃
〃	猿 田 川	1.40	2.30	仁 井 田	仁 井 田	〃	〃
〃	下 浜 鮎 川	1.90	3.00	下 浜 羽 川	下浜羽川	〃	〃
〃	旭 川	2.20	2.73	中 島	保戸野中町	〃	〃
五 城 目 町	内 川 川	1.10	1.90	黒 土	黒 土	〃	〃
〃	馬 場 目 川	2.00	2.60	久 保	久 保	〃	〃
潟 上 市	豊 川	1.40	1.60	槻 木	昭和豊川槻木	〃	〃
井 川 町	井 川	0.80	1.30	施 田	施 田	〃	〃
秋 田 市	岩 見 川	1.20	2.30	坂 本	河辺坂本	〃	〃
〃	梵 字 川	1.20	1.90	和 田	河辺和田	〃	〃
〃	新 波 川	1.40	2.30	新 波	雄和新波	〃	〃
由 利 本 荘 市	赤 田 川	1.00	1.50	御 橋	赤田字代官免	由 利 地 域 振 興 局 建 設 部	0184 (22) 5439



市 町 村 名	河 川 名	水 防 団 待機水位	氾 濫 注意水位	観 測 所 名	設 置 場 所	観 測 者 名	電 話 番 号
由利本荘市	芋 川	3.20	4.30	館 前	内越字家ノ前	由利地域振興局建設部	0184 (22) 5439
〃	衣 川	0.80	1.80	荒 町	松ヶ崎館下川原	〃	〃
にかほ市	白 雪 川	1.50	2.50	中 野	中三地字堰端	〃	〃
〃	大 沢 川	1.50	2.00	院 内	院内字沢田	〃	〃
由利本荘市	子 吉 川	2.00	3.10	立 石	矢島町城内字築館	〃	〃
〃	芋 川	2.00	2.50	見 岫	小栗山字見岫	〃	〃
〃	〃	2.90	3.50	松 本	松本字前野	〃	〃
〃	石 沢 川	1.00	1.60	老 方	東由利老方字下川原	〃	〃
〃	子 吉 川	1.50	2.00	伏 見	鳥海町伏見字久保	〃	〃
〃	笹 子 川	1.50	2.00	樋 ノ 木 平	鳥海町小川字倉隅	〃	〃
大 仙 市	丸 子 川	4.00	5.80	昭 和 橋	大曲大花町	仙北地域振興局建設部	0187 (63) 3111
〃	福 部 内 川	1.20	1.60	福 見	大曲福見町	〃	〃
〃	窪 堰 川	1.40	2.10	高 関 上 郷	高関上字鳥屋場	〃	〃
〃	土 買 川	1.00	1.50	土 川	土川字関田	〃	〃
〃	心 像 川	1.50	2.10	殿 屋 敷	土川字高林	〃	〃
仙 北 市	入 見 内 川	2.30	3.30	田 中	雲然字田中	〃	〃
〃	桧 木 内 川	2.60	3.90	古 城 橋	岩瀬字北野	〃	〃
大 仙 市	玉 川	3.40	5.00	下 鶯 野	下鶯野字長瀬	〃	〃
仙 北 市	〃	3.70	4.10	岩 瀬	岩瀬字下夕野	〃	〃
大 仙 市	斉 内 川	1.40	1.70	新 町	長野字新町	〃	〃
仙 北 市	桧 木 内 川	2.10	3.20	赤 平 橋	角館東前郷	〃	〃
大 仙 市	淀 川	1.40	1.90	船 岡	協和船岡字下船岡	〃	〃
〃	荒 川	1.60	2.00	荒 川	協和上荒川	〃	〃
〃	丸 子 川	3.00	4.00	田 茂 木	高梨字田茂木	〃	〃
〃	〃	2.00	2.30	仙 北 上 郷	弘田字高柳	〃	〃
〃	川 口 川	2.60	4.00	板 見 内	板見内字蛇塚	〃	〃

市町村名	河川名	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	観測所名	設置場所	観測者名	電話番号
美郷町	矢島川	0.90	1.60	本堂城回	本堂城回字島田	仙北地域振興 局建設部	0187 (63)3111
大仙市	檜岡川	2.20	3.50	南檜岡	南外字中宿	〃	〃
仙北市	桧木内川	1.40	1.70	宮田	上桧木内字寺村	〃	〃
〃	〃	2.00	2.70	門屋	小山田字高野	〃	〃
〃	〃	1.60	2.62	吉田	下桧木内字吉田	〃	〃
美郷町	出川	1.90	2.70	金沢西根	金沢西根字上糠渕	〃	〃
横手市	横手川	1.00	2.00	上の橋	羽黒町	平鹿地域振興 局建設部	0182 (32)6205
〃	〃	1.50	2.50	寺村	黒川字寺村	〃	〃
〃	〃	1.50	2.50	朝倉	朝倉	〃	〃
〃	横手大戸川	2.10	3.40	横手大戸	黒川字余目	〃	〃
〃	成瀬川	1.50	2.50	安養寺	安養寺	〃	〃
〃	上溝川	2.00	2.50	町田	町田	〃	〃
〃	黒沢川	2.00	2.50	相野々	相野々	〃	〃
〃	横手川	2.00	2.50	岩瀬	土渕字下虫内	〃	〃
〃	松川	1.25	2.45	大松川	大松川	〃	〃
湯沢市	戸沢川	1.10	1.40	関口	下関字下本内	雄勝地域振興 局建設部	0183 (73)6164
〃	白子川	1.00	1.40	森	森	〃	〃
〃	雄物川	1.20	1.70	下院内	下院内上野田	〃	〃
〃	役内川	1.00	1.50	横堀	横堀	〃	〃
〃	高松川	2.00	2.42	三ツ村	桑ヶ崎字上川原	〃	〃
〃	皆瀬川	2.00	2.30	川連	川連町	〃	〃
羽後町	西馬音内川	1.35	1.90	元西	元西	〃	〃
〃	羽後大戸川	1.70	2.40	大戸川橋	杉宮字西杉宮	〃	〃
東成瀬村	成瀬川	1.50	2.50	田子内橋	田子内若宮下	〃	〃

水位観測所 101カ所

3 - 2 国土交通省所管水位観測所

河川国道 事務所	観測所	市町村	河川名	場所	水 位			
					水 防 団 待 機 水 位	氾 濫 注 意 水 位 ( 警 戒 水 位 )	避 難 判 断 位 水 難 断 位	氾 濫 危 険 水 位
能代河川国道	十二所	大館市	米代川	十二所橋流下	2.50	3.00	6.10	6.40
	鷹巣	北秋田市	〃	鷹巣橋流上	5.60	6.10	7.80	7.90
	二ツ井	能代市	米代川 藤琴川	比井野	3.00	4.50	6.30	6.80
	向能代	能代市	米代川	能代橋流下	1.50	1.90	3.00	3.40
	堂ヶ岱	北秋田市	小猿部川	堂ヶ岱橋流下	1.70	2.70	4.00	4.90
秋田河川国道	椿川	秋田市	雄物川	黒瀬橋	5.60	6.60	無堤部 8.00 有堤部 9.70	無堤部 8.10 有堤部 9.80
	新屋	〃	〃	新屋水門	3.23	3.80	—	—
	矢島	由利本荘市	子吉川	長泥橋	2.90	4.10	—	—
	明法	〃	〃	滝沢橋	1.50	2.20	4.00	4.70
	二十六木橋	〃	〃	二十六木橋	3.30	4.00	5.60	6.00
	由利橋	〃	〃	由利橋	2.20	2.80	—	—
	鮎瀬	〃	石沢川	鮎瀬橋	2.50	3.40	4.20	—
湯沢河川国道	岩館	湯沢市	雄物川	岩館橋	2.60	3.10	3.20	3.90
	柳田橋	〃	〃	柳田橋	1.40	2.00	3.50	4.20
	岩崎橋	〃	皆瀬川	十文字大橋上流	1.00	1.70	2.40	2.60
	安養寺	横手市	成瀬川	萱刈場	1.50	2.40	3.50	※ 3.80
	雄物川橋	横手市	雄物川	雄物川橋	2.00	3.00	4.20	4.50
	大曲橋	大仙市	〃	大曲橋	2.50	3.40	6.00	6.20
	神宮寺	〃	〃	岳見橋上流	3.50	5.00	5.50	5.70
	長野	〃	玉川	長野大橋	2.30	2.90	3.70	4.00

※安養寺観測所：氾濫危険水位に記載している水位「3.8m」は特別警戒水位。

水位観測所 20カ所

## 第 4 章 雨量觀測所

## 第 4 章 雨 量 観 測 所

### 4 - 1 消 防 機 関 設 置 雨 量 観 測 所

機 関 名	設 置 場 所	電 話
鹿角広域行政組合消防署 小坂分署	鹿角郡小坂町小坂字中前田68-1	0186 (29) 2119
鹿角広域行政組合消防署	鹿角市花輪字向畑100-2	0186 (23) 5601
北秋田市消防署 阿仁分署	北秋田市阿仁銀山新下町41-14	0186 (82) 2119
能代山本広域市町村圏組合 二ツ井消防署	能代市二ツ井町字中坪41-4	0185 (73) 2327
能代山本広域市町村圏組合 二ツ井消防署 藤里分署	山本郡藤里町粕毛字家の下9-2	0185 (79) 1119
能代山本広域市町村圏組合 三種消防署	山本郡三種町川尻字東大堤下23-1	0185 (85) 3100
能代山本広域市町村圏組合 能代消防署	能代市緑町2-22	0185 (52) 3311
能代山本広域市町村圏組合 八峰消防署	山本郡八峰町峰浜目名潟字下タ谷地152-3	0185 (76) 3119
五城目町消防署	五城目町字石田六ヶ村堰添113-6	018 (852) 2028
秋田市消防本部河辺消防署	秋田市河辺北野田高屋字黒沼下堤下20-14	018 (882) 3301
本荘消防署	由利本荘市尾崎17	0184 (22) 0011
由利本荘市消防本部 岩城分署	由利本荘市岩城二古字狐森43-1	0184 (73) 2100
同 大内分署	由利本荘市岩谷町字日渡117	0184 (65) 2020
同 東由利分署	由利本荘市東由利老方西浜9-9	0184 (69) 2214
同 西目分署	由利本荘市西目町沼田字新道下2-6	0184 (33) 2350
矢島消防署	由利本荘市矢島町矢島81	0184 (55) 2529
大曲仙北広域市町村圏組合 大曲消防署	大仙市大曲栄町13-47	0187 (63) 0150

機 関 名	設 置 場 所	電 話
横 手 市 消 防 本 部	横手市条里一丁目1-1	0182 (32) 1111
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署	湯沢市材木町2-1-3	0183 (73) 3151
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署 稲 川 分 署	湯沢市川連町字上平城2-1	0183 (42) 2330
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署 雄 勝 分 署	湯沢市寺沢字中川原1-2	0183 (52) 3080
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署 羽 後 分 署	羽後町西馬音内堀廻字元城下112-5	0183 (62) 0119
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署 東 成 瀬 分 署	東成瀬村田子内字仙人下30-1	0182 (47) 2189
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防署 皆 瀬 分 署	湯沢市皆瀬字沢梨台55-1	0183 (46) 2101

# 4 - 2 気 象 庁 所 管 雨 量 観 測 所

観 測 所 名	所 在 地	観 測 所 名	所 在 地
八 森	山本郡八峰町八森字チコキ47-1	仁 別	秋田市仁別字マンタラメ115-6
藤 里	山本郡藤里町藤琴字大落4-5	鎧 畑	仙北市田沢湖町田沢字鎧畑121-1
陣 場	大館市長走字陣場25	雄 和	秋田市雄和椿川字山籠49
藤 原	鹿角郡小坂町上向字藤原40-2	角 館	仙北市角館町小勝田鶴の崎45-4
能 代	能代市緑町2-22	田 沢 湖	仙北市田沢湖生保内字宮の後39
鷹 巣	北秋田市旭町4-32	田 沢 湖 高 原	仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-24
大 館	大館市出川字上野30-2	大 正 寺	秋田市雄和新波字寺沢32-8
鹿 角	鹿角市花輪字荒田4-1	大 曲	大仙市四ツ屋字下古道3
脇 神	北秋田市脇神字藁岱21-144	本 荘	由利本荘市埋田字用堰南68
湯 瀬	鹿角市八幡平湯瀬字一羽根45-2	東 由 利	由利本荘市東由利老方字後田70-3
八 幡 平	鹿角市八幡平字熊沢外8国有林 130林班イ小班	横 手	横手市横手町字大樋18-4
男 鹿 真 山	男鹿市北浦相川字小屋ヶ沢18-4	に か ほ	にかほ市金浦字南金浦12-1
男 鹿	男鹿市脇本脇本字上野62-1	矢 島	由利本荘市矢島町城内字築館451番地
大 湍	南秋田郡大湍村大湍6	笹 子	由利本荘市鳥海町上笹子字川合37-1
五 城 目	南秋田郡五城目町上樋口字屋岸123	湯 沢	湯沢市金谷字樋ノ口136
阿 仁 合	北秋田市阿仁水無字畑町東裏143	東 成 瀬	雄勝郡東成瀬村田子内字仙人下36
比 立 内	北秋田市阿仁幸屋渡字山根31	湯 の 岱	湯沢市秋ノ宮字湯ノ岱82-2
桧 木 内	仙北市西木町上桧木内字宮田54		
秋 田	秋田市山王7丁目1-4		
岩 見 三 内	秋田市河辺三内字外川原34-1		

# 4 - 3 県所管雨量観測所

観測所名	観測者	位 置	河 川 名	観測器の種類
鹿 角 建 設	鹿角地域振興局建設	鹿角市花輪字六月田1番地	—	テレメータ
谷 内	〃	鹿角市八幡平字谷内	熊 沢 川	〃
小 坂 川	〃	小坂町小坂字湯ノ谷	小 坂 川	〃
小 坂	〃	小坂町小坂字中前田44	—	〃
大 湯 川	〃	鹿角市十和田大湯字白沢	大 湯 川	〃
	〃	鹿角市八幡平字熊沢国有林133林班	大 沼 局	〃
	〃	鹿角市八幡平字湯坂62-19	水 沢 局	〃
	〃	鹿角市十和田大湯字下の湯51	大 湯 局	〃
	〃	小坂町十和田湖字大川岱	大川岱局	〃
北 秋 田 建 設	北秋田地域振興局建設	北秋田市鷹巣字東中岱	—	〃
米 内 沢	〃	北秋田市米内沢字出向中島	阿 仁 川	〃
阿 仁 前 田	〃	北秋田市阿仁前田字下モ川端	〃	〃
有 浦	〃	大館市有浦六丁目	長 木 川	〃
長 走	〃	大館市長走	—	〃
雪 沢	〃	大館市雪沢薺ヶ岱	—	〃
浦 山	〃	大館市軽井沢字曲谷地	—	〃
大 葛	〃	大館市比内町大葛字大葛家後	—	〃
湯 ノ 岱	〃	北秋田市小森字湯ノ岱	—	〃
岩 瀬	〃	大館市岩瀬字羽貫野地中島80-2	—	〃
大 野	〃	大館市早口字墓所岱65-3	—	〃
木 戸 石	〃	北秋田市木戸石字東屋布岱	—	〃



観測所名	観測者	位置	河川名	観測器の種類
沖田面	北秋田地域振興局建設	上小阿仁村沖田面字野中	—	テレメータ
山本建設	山本地域振興局建設	能代市御指南町	—	〃
八森	〃	八峰町字椿台	真瀬川	〃
藤琴	〃	藤里町藤琴相の図	藤琴川	〃
比井野川	〃	能代市二ツ井町字下野川端	比井野川	〃
上岩川	〃	三種町上岩川字小新沢	三種川	〃
塙川	〃	八峰町高野野	塙川	〃
岩館	〃	八峰町字ノケソリ	—	〃
琴丘	〃	三種町鯉川	鯉川	〃
桧山	〃	能代市桧山	桧山川	〃
森岳	〃	三種町森岳	三種川	〃
松長布	〃	能代市松長布	悪土川	〃
下岩川	〃	三種町下岩川	三種川	〃
秋田建設	秋田地域振興局建設	秋田市山王四丁目	—	〃
水沢	〃	五城目町水沢	馬場目川	〃
新波	〃	秋田市雄和新波	新波川	〃
太平本町	〃	秋田市太平本町	太平川	〃
金足堀内	〃	秋田市金足堀内	馬踏川	〃
由利建設	由利地域振興局建設	由利本荘市水林	—	〃
小栗山	〃	由利本荘市小栗山字森ノ腰	芋川	〃
笹子	〃	由利本荘市鳥海町笹子字落合	笹子川	〃
川内	〃	由利本荘市鳥海町川内字泥ノ木台	子吉川	〃
老方	〃	由利本荘市東由利老方字下川原	石沢川	〃
中野	〃	にかほ市中三地字堰端	白雪川	〃
見岫	〃	由利本荘市小栗山字見岫	芋川	〃

観測所名	観測者	位置	河川名	観測器の種類
滝 俣	由利地域振興局 建設部	由利本荘市岩城滝俣字谷地	衣 川	テレメータ
仙 北 建 設	仙北地域振興局 建設部	大仙市大曲上栄町	雄 物 川	〃
小 神 成	〃	大仙市太田町斉内字栗木	窪 堰 川	〃
真 木	〃	大仙市太田町太田字真木	斉 内 川	〃
六 郷 東 根	〃	美郷町六郷東根	湯田沢川	〃
小 山 田	〃	仙北市西木町小山田字石川原	大石沢川	〃
下 鶯 野	〃	大仙市下鶯野字長瀬	玉 川	〃
宮 田	〃	仙北市西木町上桧木内字寺村	桧木内川	〃
南 外 ダ ム	〃	大仙市南外字細越	西ノ又川	〃
平 鹿 建 設	平鹿地域振興局 建設部	横手市旭川	—	〃
山 内	〃	横手市山内三又	横 手 川	〃
雄 勝 建 設	雄勝地域振興局 建設部	湯沢市千石町二丁目	—	〃
秋 の 宮	〃	湯沢市秋の宮字水無	役 内 川	〃
三 途 川	〃	湯沢市高松字大日台	高 松 川	〃
ダ ム 関 係				
素 波 里 ダ ム	素 波 里 ダ ム	山本郡藤里町粕毛	藤琴川	テレメータ
大 白 岳	〃	〃	〃	〃
駒 ケ 岳	〃	〃	〃	〃
萩 形 ダ ム	萩 形 ダ ム	北秋田郡上小阿仁村南沢	小阿仁川	〃
高 穀 沢	〃	〃	〃	〃
森吉ダムサイト	森 吉 ダ ム	北秋田市砂子沢	小 又 川	〃
旭 川 ダ ム	旭 川 ダ ム	秋田市仁別字マンタラメ	旭 川	〃
旭 又	〃	秋田市仁別字務沢国有林	〃	〃
皆 瀬 ダ ム	皆 瀬 ダ ム	湯沢市皆瀬	皆 瀬 川	〃
秣 岳	〃	〃	〃	〃

観測所名	観測者	位 置	河川名	観測器の種類
滝ノ沢	皆瀬ダム	湯沢市皆瀬	皆瀬川	テレメータ
鎧畑ダム	鎧畑ダム	仙北市田沢湖中山	玉川	〃
赤沢	〃	〃	〃	〃
様沢	〃	〃	〃	〃
栲森	〃	〃	〃	〃
水沢ダム	水沢ダム	山本郡八峰町峰浜水沢	水沢川	〃
鰐沢	〃	〃	〃	〃
協和ダム	協和ダム	大仙市協和船岡	淀川	〃
大倉沢	〃	〃	〃	〃
早口ダム	早口ダム	大館市早口	早口川	〃
澄川沢	〃	〃	〃	〃
鳥帽子	〃	〃	〃	〃
岩見ダム	岩見ダム	秋田市河辺三内	三内川	〃
小屋沢	〃	〃	〃	〃
井出の舞沢	〃	〃	〃	〃
山瀬ダム	山瀬ダム	大館市岩瀬	岩瀬川	〃
路原	〃	〃	〃	〃
内町沢	〃	〃	〃	〃
大松川ダム	大松川ダム	横手市山内大松川	横手川	〃
外山	〃	〃	〃	〃
砂子沢ダム	砂子沢ダム	小坂町大字小坂字向	小坂川	〃

雨量観測所 91ヶ所

## 第5章 予報及び警報

資料 5－1 直轄河川洪水予報発表形式（能代河川国道事務所）

発表者

国土交通省 能代河川国道事務所  
気象庁 秋田地方気象台

→

第1受報者

機関名

→

第2受報者

機関名

→

第3受報者

機関名

正規

米代川はん濫注意情報

米代川洪水予報第〇号  
洪水注意報（発表）  
平成〇〇年〇〇月〇〇日〇〇時〇〇分  
能代河川国道事務所 秋田地方気象台 共同発表

（見出し）

米代川では、はん濫注意水位（レベル2）に到達、水位はさらに上昇

（注 文）

米代川の〇〇水位観測所（〇〇市）では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に、はん濫注意水位（レベル2）に達しました。水位はさらに上昇する見込みです。今後の洪水予報に注意して下さい。

（雨量）

多いところで1時間に〇〇ミリの雨が降っています。  
この雨は今後一層強まるでしょう。

流域	〇〇日〇〇時〇〇分～〇〇日〇〇時〇〇分 までの流域平均雨量	〇〇日〇〇時〇〇分～〇〇日〇〇時〇〇分 までの流域平均雨量の見込み
米代川流域	〇〇ミリ	〇〇ミリ

（水位）

米代川の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます。

観測所名	水位危険度		レベル1				レベル2				レベル3				レベル4			
	水位(m)又は流量(m <sup>3</sup> /s)		水防団 待機		はん濫 注意		避難 判断		はん濫 危険									
十二所 水位観測所 (大館市)	〇〇日〇〇時〇〇分の状況	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
鷹巣 水位観測所 (北秋田市)	〇〇日〇〇時〇〇分の状況	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
二ツ井 水位観測所 (能代市)	〇〇日〇〇時〇〇分の状況	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
向能代 水位観測所 (能代市)	〇〇日〇〇時〇〇分の状況	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																
	〇〇日〇〇時〇〇分の予測	0.00 -																

水位のグラフは各水位間を按分したものです。  
レベル4については、はん濫危険水位と計画高水位を按分しており、はん濫危険水位＝計画高水位の場合は最大になります。

（注意事項）

（参考資料）

93

資料 5－1 直轄河川洪水予報発表形式（秋田河川国道事務所）

付図 3-1 洪水予報の発表形式イメージ（雄物川下流）

発表者

国土交通省 秋田河川国道事務所  
気 象 庁 秋田地方気象台

→

第1受報者

機関名

→

第2受報者

機関名

→

第3受報者

機関名

正 規

雄物川下流 氾濫注意情報

雄物川下流洪水予報第〇号  
洪水注意報（発表）  
平成〇〇年〇月〇日〇時〇〇分  
秋田河川国道事務所・秋田地方気象台 共同発表

（見出し）

雄物川下流では、氾濫注意水位（レベル2）に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込み

（主 文）

雄物川の樺川水位観測所（秋田県秋田市雄和樺川）では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に、  
「氾濫注意水位（レベル2）」に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込みです。  
洪水に関する情報に注意して下さい。

（雨量）

所により1時間に〇〇ミリの雨が降っています。  
今後もこの雨は降り続く見込みです。

流域	00日00時00分～00日00時00分 までの流域平均雨量	00日00時00分～00日00時00分 までの流域平均雨量の見込み
雄物川流域	〇〇〇ミリ	〇〇ミリ

（水位）

雄物川下流の水位観測所における水位は次のとおりと見込まれます。

観測所名	水位危険度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	水位(m)又は流量(m3/s)	水防団 待機	氾濫 注意	避難 判断	氾濫 危険
樺川 水位観測所 （秋田市）	00日00時00分の状況 XXX.X				
	00日01時00分の予測 XXX.X				
	00日02時00分の予測 XXX.X				
	00日03時00分の予測 XXX.X				

水位のグラフは各水位間を按分したものです。  
レベル4については、氾濫危険水位と計画高水位を按分しており、氾濫危険水位＝計画高水位の場合は最大になります。

（注意事項）

資料 5－1 直轄河川洪水予報発表形式（湯沢河川国道事務所）

洪水予報の発表形式イメージ（雄物川上流）

発表者

国土交通省 湯沢河川国道事務所  
気 象 庁 秋田地方気象台

→

第 1 受報者

機関名

→

第 2 受報者

機関名

→

第 3 受報者

機関名

正規

雄物川上流 氾濫注意情報

雄物川上流洪水予報第〇号  
洪水注意報（発表）  
平成〇〇年〇月〇日〇時〇〇分  
湯沢河川国道事務所・秋田地方気象台 共同発表

（見出し）

雄物川上流では、氾濫注意水位（レベル2）に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込み

（主 文）

雄物川の雄物川橋水位観測所（横手市）では、〇〇日〇〇時〇〇分頃に、

「氾濫注意水位（レベル2）」に到達し、今後、水位はさらに上昇する見込みです。

洪水に関する情報に注意して下さい。

（雨量）

所により1時間に〇〇ミリの雨が降っています。

今後もこの雨は降り続く見込みです。

流域	00日00時00分～00日00時00分 までの流域平均雨量	00日00時00分～00日00時00分 までの流域平均雨量の見込み
雄物川上流域	〇〇〇ミリ	〇〇ミリ

（水位）

雄物川上流の水位観測所における水位は次のとおりと見込まれます。

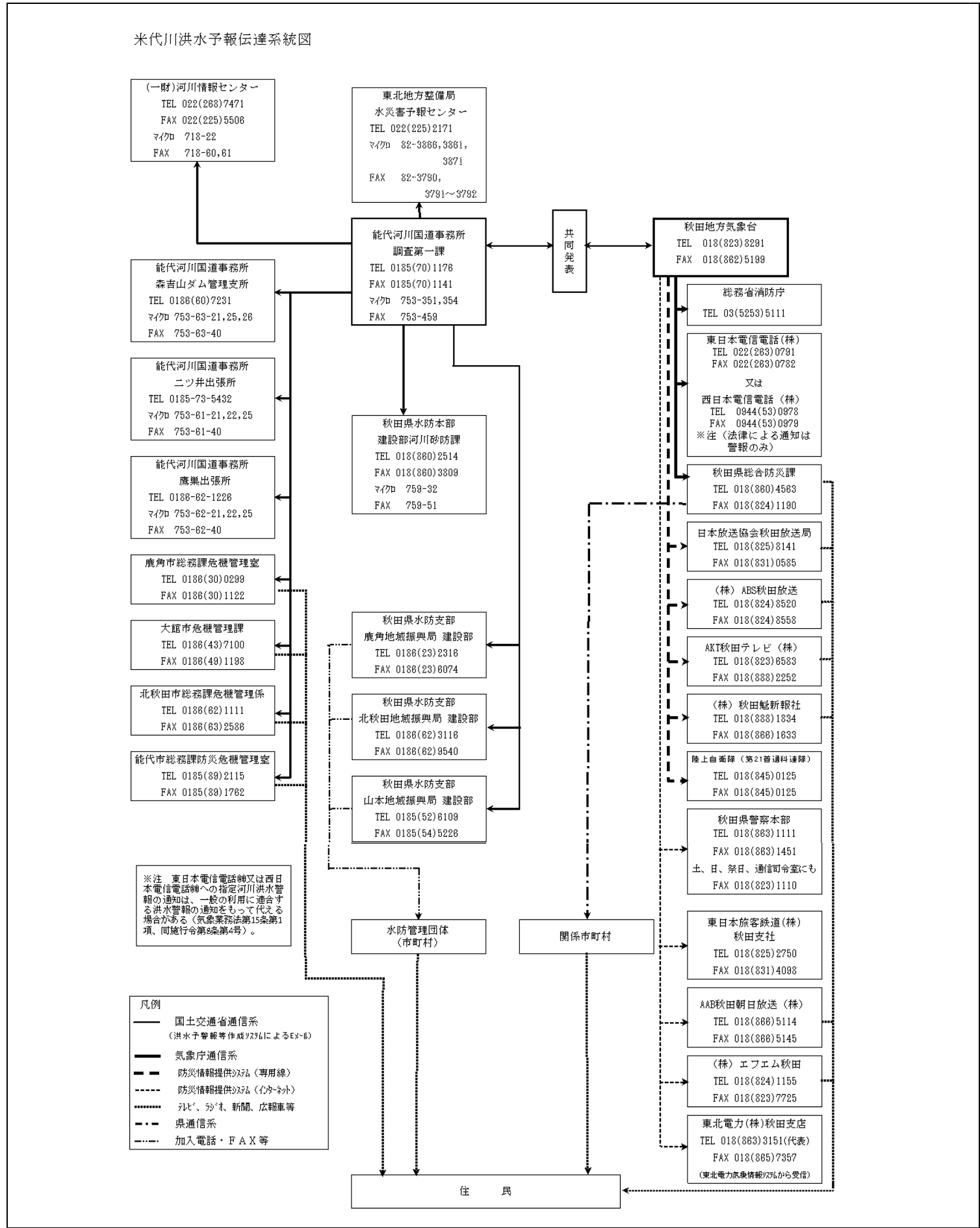
観測所名	水位危険度		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	水位(m)又は流量(m3/s)		水防団 待機	氾濫 注意	避難 判断	氾濫 危険
岩館 水位観測所 （湯沢市）	00日00時00分の状況	xxx.x↑				
	00日01時00分の予測	xxx.x				
	00日02時00分の予測	xxx.x				
	00日03時00分の予測	xxx.x				
柳田橋 水位観測所 （湯沢市）	00日00時00分の状況	xxx.x↑				
	00日01時00分の予測	xxx.x				
	00日02時00分の予測	xxx.x				
	00日03時00分の予測	xxx.x				
雄物川橋 水位観測所 （横手市）	00日00時00分の状況	xxx.x↑				
	00日01時00分の予測	xxx.x				
	00日02時00分の予測	xxx.x				
	00日03時00分の予測	xxx.x				
大曲橋 水位観測所 （大仙市）	00日00時00分の状況	xxx.x↑				
	00日01時00分の予測	xxx.x				
	00日02時00分の予測	xxx.x				
	00日03時00分の予測	xxx.x				
神宮寺 水位観測所 （大仙市）	00日00時00分の状況	xxx.x↑				
	00日01時00分の予測	xxx.x				
	00日02時00分の予測	xxx.x				
	00日03時00分の予測	xxx.x				

水位のグラフは各水位間を按分したものです。

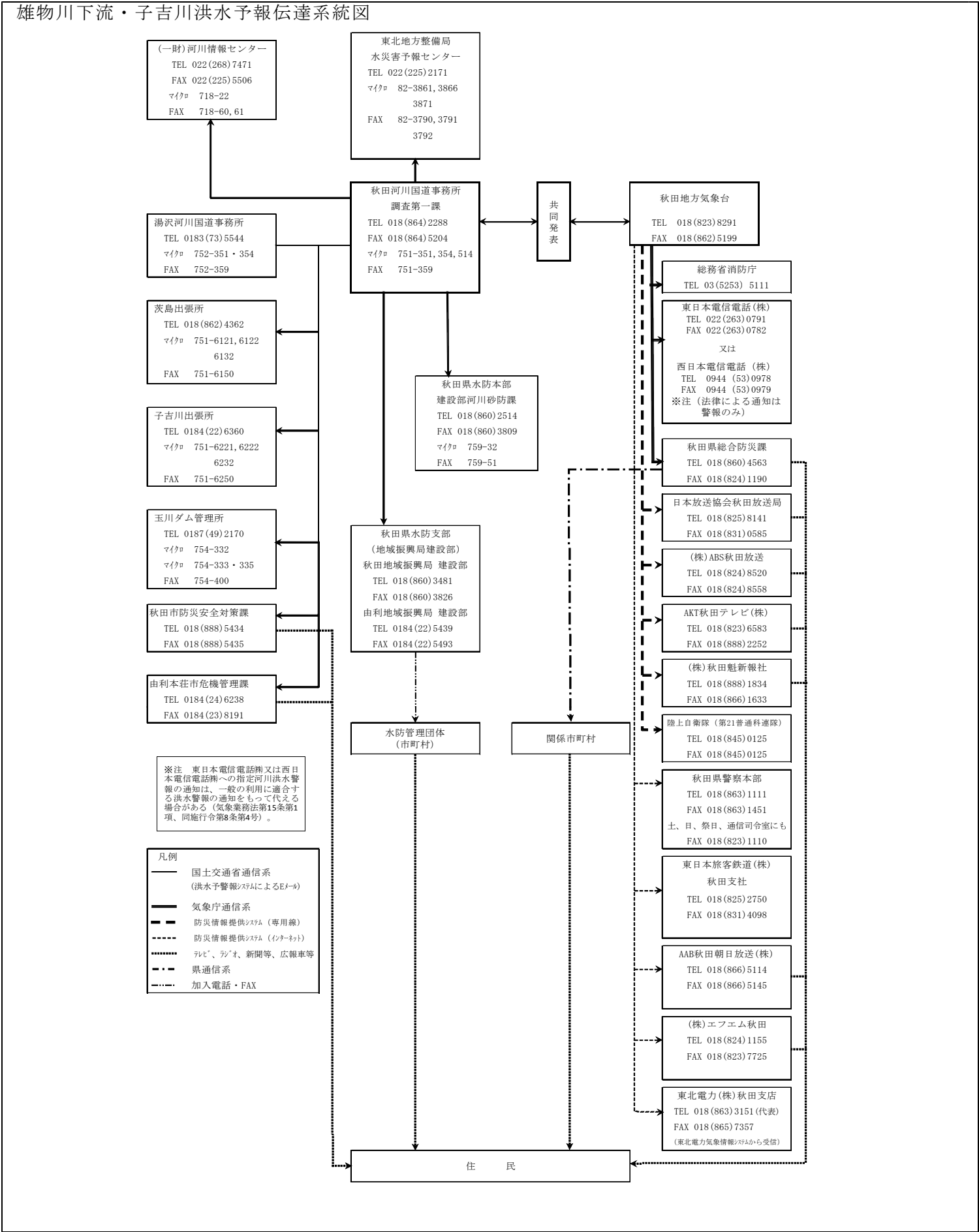
レベル4については、氾濫危険水位と計画高水位を按分しており、氾濫危険水位＝計画高水位の場合は最大になります。

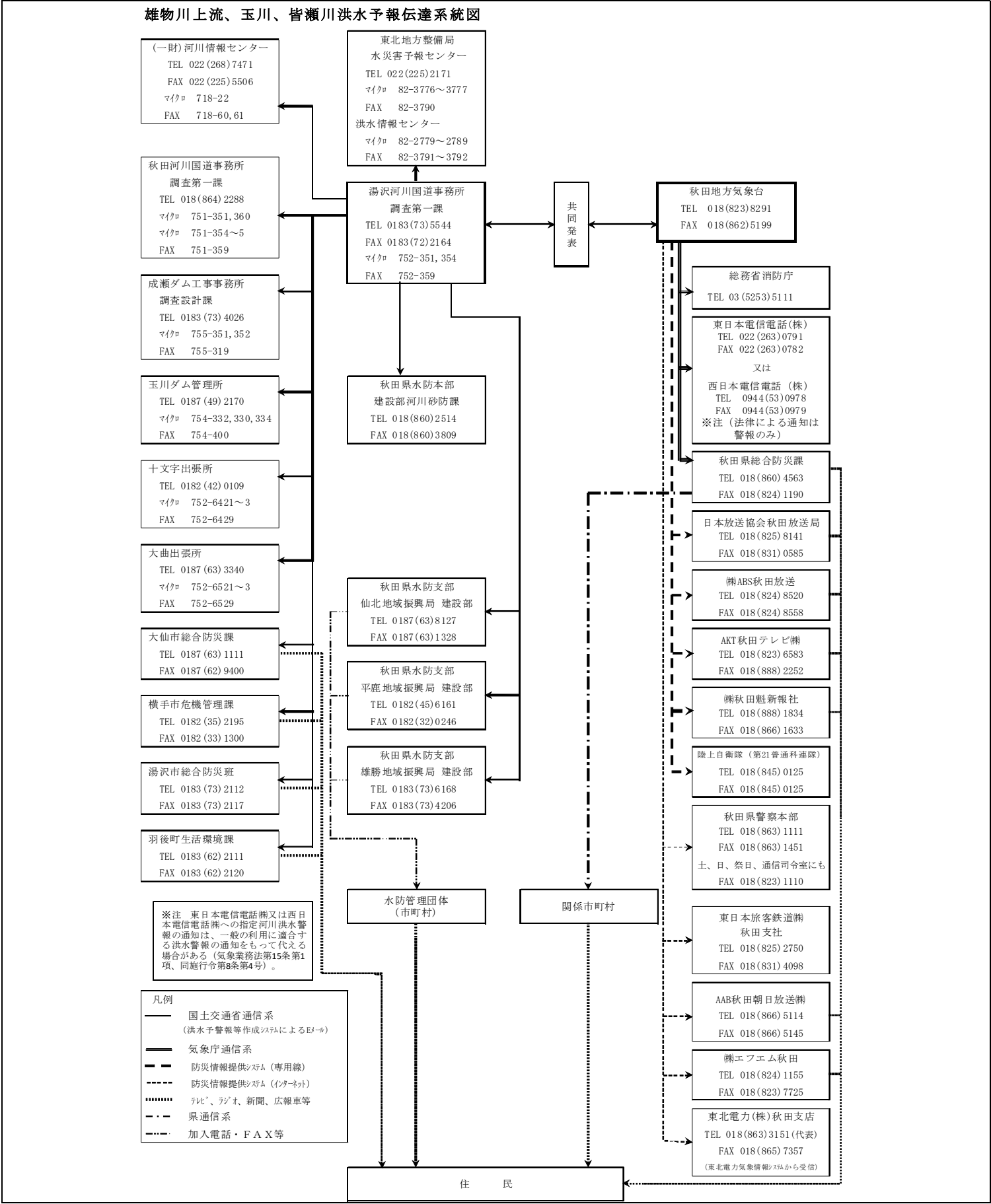
（注意事項）

95









資料5-3 秋田県管理河川洪水予報発表形式



太平川はん濫注意情報

秋田県洪水予報第○号  
 はん濫注意第○号  
 平成○年○月○日 時○分  
 秋田県建設部河川砂防課 秋田地方気象台 気象情報

(発出し)

太平川では、はん濫注意水位(レベル2)に到達、水位はさらに上昇

(主 文)

太平川の牛島水位観測所(秋田市橋山)では、○○時☆時□分頃に、はん濫注意水位(レベル2)に達しました。水位はさらに上昇する見込みです。今後の洪水予報に注意して下さい。

(雨 量)

多い所で1時間に10ミリの雨が降っています。  
この雨は当分の伏流が続くでしょう。

流域	15日0時00分～17時30分頃までの流域平均雨量	18日0時00分～11時30分頃までの流域平均雨量の見込み
太平川流域	70ミリ	80ミリ

(水 位)

太平川の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます

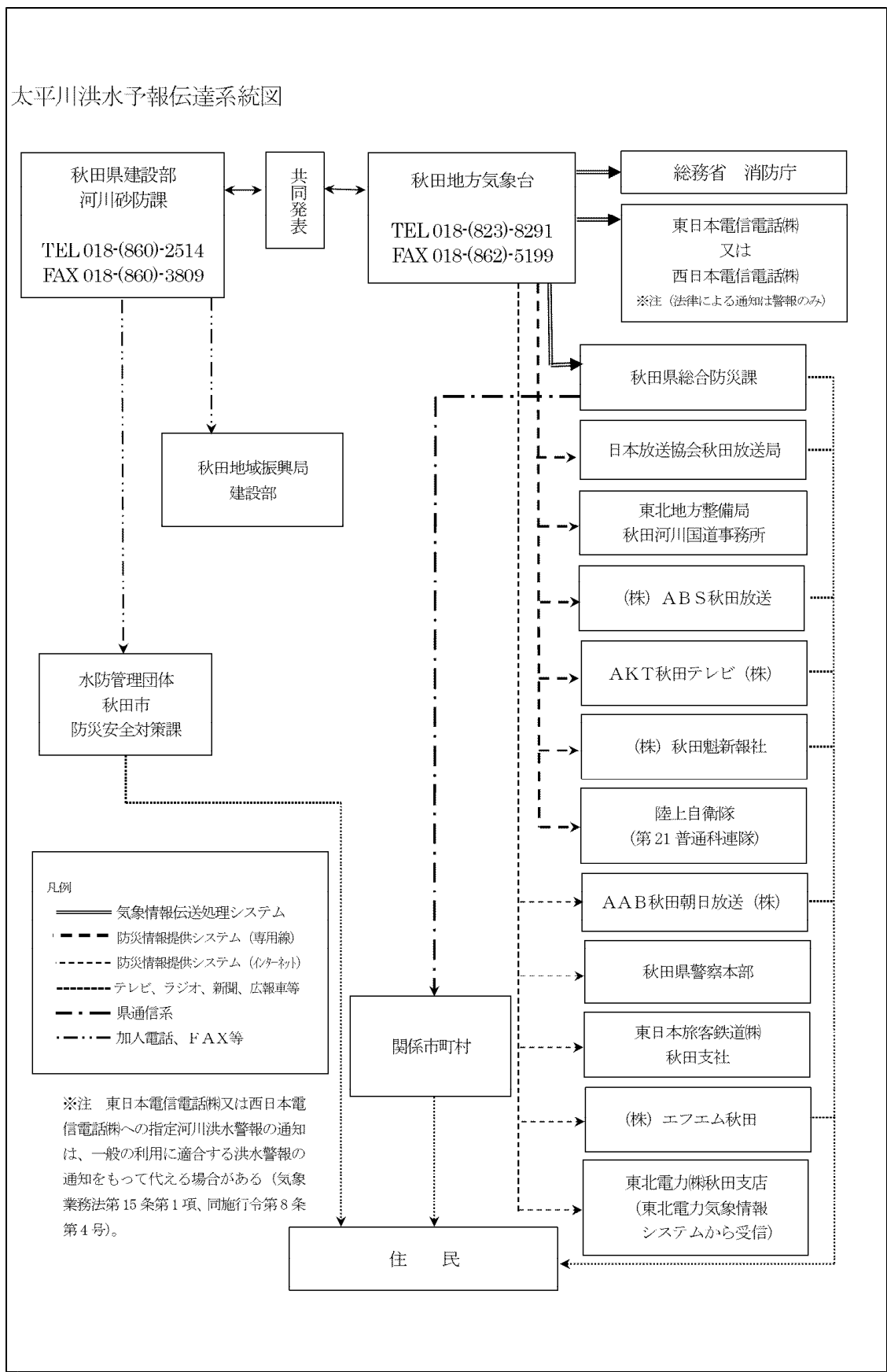
観測所名	水位と流量		はん濫注意水位(レベル)			
	水位(メートル)	流量(立方メートル)	はん濫注意水位	はん濫注意水位	はん濫注意水位	はん濫注意水位
牛島 水位観測所 (秋田市)	15日 02時00分	3.15				
	15日 07時00分	3.17				
	15日 12時00分	3.21				
	15日 17時30分	3.23				
	15日 11時30分	3.25				
	15日 17時30分	3.27				
	15日 12時00分	3.29				

このグラフは水位観測所を単位としたものです。  
 レベル4については、はん濫注意水位とはん濫注意水位を単位としており、はん濫注意水位とはん濫注意水位の場合は最大となります。  
 予報データについては、その時刻の観測所の観測値を単位とします。

(参考資料)

観測所名	はん濫注意水位		はん濫注意水位(メートル)
	はん濫注意水位	はん濫注意水位	
はん濫注意水位	3.10		
はん濫注意水位	3.20		
はん濫注意水位	3.30		
はん濫注意水位	3.40		
はん濫注意水位	3.50		
はん濫注意水位	3.60		
はん濫注意水位	3.70		
はん濫注意水位	3.80		
はん濫注意水位	3.90		
はん濫注意水位	4.00		
はん濫注意水位	4.10		
はん濫注意水位	4.20		
はん濫注意水位	4.30		
はん濫注意水位	4.40		
はん濫注意水位	4.50		
はん濫注意水位	4.60		
はん濫注意水位	4.70		
はん濫注意水位	4.80		
はん濫注意水位	4.90		
はん濫注意水位	5.00		
はん濫注意水位	5.10		
はん濫注意水位	5.20		
はん濫注意水位	5.30		
はん濫注意水位	5.40		
はん濫注意水位	5.50		
はん濫注意水位	5.60		
はん濫注意水位	5.70		
はん濫注意水位	5.80		
はん濫注意水位	5.90		
はん濫注意水位	6.00		
はん濫注意水位	6.10		
はん濫注意水位	6.20		
はん濫注意水位	6.30		
はん濫注意水位	6.40		
はん濫注意水位	6.50		
はん濫注意水位	6.60		
はん濫注意水位	6.70		
はん濫注意水位	6.80		
はん濫注意水位	6.90		
はん濫注意水位	7.00		
はん濫注意水位	7.10		
はん濫注意水位	7.20		
はん濫注意水位	7.30		
はん濫注意水位	7.40		
はん濫注意水位	7.50		
はん濫注意水位	7.60		
はん濫注意水位	7.70		
はん濫注意水位	7.80		
はん濫注意水位	7.90		
はん濫注意水位	8.00		
はん濫注意水位	8.10		
はん濫注意水位	8.20		
はん濫注意水位	8.30		
はん濫注意水位	8.40		
はん濫注意水位	8.50		
はん濫注意水位	8.60		
はん濫注意水位	8.70		
はん濫注意水位	8.80		
はん濫注意水位	8.90		
はん濫注意水位	9.00		
はん濫注意水位	9.10		
はん濫注意水位	9.20		
はん濫注意水位	9.30		
はん濫注意水位	9.40		
はん濫注意水位	9.50		
はん濫注意水位	9.60		
はん濫注意水位	9.70		
はん濫注意水位	9.80		
はん濫注意水位	9.90		
はん濫注意水位	10.00		
はん濫注意水位	10.10		
はん濫注意水位	10.20		
はん濫注意水位	10.30		
はん濫注意水位	10.40		
はん濫注意水位	10.50		
はん濫注意水位	10.60		
はん濫注意水位	10.70		
はん濫注意水位	10.80		
はん濫注意水位	10.90		
はん濫注意水位	11.00		
はん濫注意水位	11.10		
はん濫注意水位	11.20		
はん濫注意水位	11.30		
はん濫注意水位	11.40		
はん濫注意水位	11.50		
はん濫注意水位	11.60		
はん濫注意水位	11.70		
はん濫注意水位	11.80		
はん濫注意水位	11.90		
はん濫注意水位	12.00		
はん濫注意水位	12.10		
はん濫注意水位	12.20		
はん濫注意水位	12.30		
はん濫注意水位	12.40		
はん濫注意水位	12.50		
はん濫注意水位	12.60		
はん濫注意水位	12.70		
はん濫注意水位	12.80		
はん濫注意水位	12.90		
はん濫注意水位	13.00		
はん濫注意水位	13.10		
はん濫注意水位	13.20		
はん濫注意水位	13.30		
はん濫注意水位	13.40		
はん濫注意水位	13.50		
はん濫注意水位	13.60		
はん濫注意水位	13.70		
はん濫注意水位	13.80		
はん濫注意水位	13.90		
はん濫注意水位	14.00		
はん濫注意水位	14.10		
はん濫注意水位	14.20		
はん濫注意水位	14.30		
はん濫注意水位	14.40		
はん濫注意水位	14.50		
はん濫注意水位	14.60		
はん濫注意水位	14.70		
はん濫注意水位	14.80		
はん濫注意水位	14.90		
はん濫注意水位	15.00		
はん濫注意水位	15.10		
はん濫注意水位	15.20		
はん濫注意水位	15.30		
はん濫注意水位	15.40		
はん濫注意水位	15.50		
はん濫注意水位	15.60		
はん濫注意水位	15.70		
はん濫注意水位	15.80		
はん濫注意水位	15.90		
はん濫注意水位	16.00		
はん濫注意水位	16.10		
はん濫注意水位	16.20		
はん濫注意水位	16.30		
はん濫注意水位	16.40		
はん濫注意水位	16.50		
はん濫注意水位	16.60		
はん濫注意水位	16.70		
はん濫注意水位	16.80		
はん濫注意水位	16.90		
はん濫注意水位	17.00		
はん濫注意水位	17.10		
はん濫注意水位	17.20		
はん濫注意水位	17.30		
はん濫注意水位	17.40		
はん濫注意水位	17.50		
はん濫注意水位	17.60		
はん濫注意水位	17.70		
はん濫注意水位	17.80		
はん濫注意水位	17.90		
はん濫注意水位	18.00		
はん濫注意水位	18.10		
はん濫注意水位	18.20		
はん濫注意水位	18.30		
はん濫注意水位	18.40		
はん濫注意水位	18.50		
はん濫注意水位	18.60		
はん濫注意水位	18.70		
はん濫注意水位	18.80		
はん濫注意水位	18.90		
はん濫注意水位	19.00		
はん濫注意水位	19.10		
はん濫注意水位	19.20		
はん濫注意水位	19.30		
はん濫注意水位	19.40		
はん濫注意水位	19.50		
はん濫注意水位	19.60		
はん濫注意水位	19.70		
はん濫注意水位	19.80		
はん濫注意水位	19.90		
はん濫注意水位	20.00		
はん濫注意水位	20.10		
はん濫注意水位	20.20		
はん濫注意水位	20.30		
はん濫注意水位	20.40		
はん濫注意水位	20.50		
はん濫注意水位	20.60		
はん濫注意水位	20.70		
はん濫注意水位	20.80		
はん濫注意水位	20.90		
はん濫注意水位	21.00		
はん濫注意水位	21.10		
はん濫注意水位	21.20		
はん濫注意水位	21.30		
はん濫注意水位	21.40		
はん濫注意水位	21.50		
はん濫注意水位	21.60		
はん濫注意水位	21.70		
はん濫注意水位	21.80		
はん濫注意水位	21.90		
はん濫注意水位	22.00		
はん濫注意水位	22.10		
はん濫注意水位	22.20		
はん濫注意水位	22.30		
はん濫注意水位	22.40		
はん濫注意水位	22.50		
はん濫注意水位	22.60		
はん濫注意水位	22.70		
はん濫注意水位	22.80		
はん濫注意水位	22.90		
はん濫注意水位	23.00		
はん濫注意水位	23.10		
はん濫注意水位	23.20		
はん濫注意水位	23.30		
はん濫注意水位	23.40		
はん濫注意水位	23.50		
はん濫注意水位	23.60		
はん濫注意水位	23.70		
はん濫注意水位	23.80		
はん濫注意水位	23.90		
はん濫注意水位	24.00		
はん濫注意水位	24.10		
はん濫注意水位	24.20		
はん濫注意水位	24.30		
はん濫注意水位	24.40		
はん濫注意水位	24.50		
はん濫注意水位	24.60		
はん濫注意水位	24.70		
はん濫注意水位	24.80		
はん濫注意水位	24.90		
はん濫注意水位	25.00		
はん濫注意水位	25.10		
はん濫注意水位	25.20		
はん濫注意水位	25.30		
はん濫注意水位	25.40		
はん濫注意水位	25.50		
はん濫注意水位	25.60		
はん濫注意水位	25.70		
はん濫注意水位	25.80		
はん濫注意水位	25.90		
はん濫注意水位	26.00		
はん濫注意水位	26.10		
はん濫注意水位	26.20		
はん濫注意水位	26.30		
はん濫注意水位	26.40		
はん濫注意水位	26.50		
はん濫注意水位	26.60		
はん濫注意水位	26.70		
はん濫注意水位	26.80		
はん濫注意水位	26.90		
はん濫注意水位	27.00		
はん濫注意水位	27.10		
はん濫注意水位	27.20		
はん濫注意水位	27.30		
はん濫注意水位	27.40		
はん濫注意水位	27.50		
はん濫注意水位	27.60		
はん濫注意水位	27.70		
はん濫注意水位	27.80		
はん濫注意水位	27.90		
はん濫注意水位	28.00		
はん濫注意水位	28.10		
はん濫注意水位	28.20		
はん濫注意水位	28.30		
はん濫注意水位	28.40		
はん濫注意水位	28.50		
はん濫注意水位	28.60		
はん濫注意水位	28.70		
はん濫注意水位	28.80		
はん濫注意水位	28.90		
はん濫注意水位	29.00		
はん濫注意水位	29.10		
はん濫注意水位	29.20		
はん濫注意水位	29.30		
はん濫注意水位	29.40		
はん濫注意水位	29.50		
はん濫注意水位	29.60		
はん濫注意水位	29.70		
はん濫注意水位	29.80		
はん濫注意水位	29.90		
はん濫注意水位	30.00		
はん濫注意水位	30.10		
はん濫注意水位	30.20		
はん濫注意水位	30.30		
はん濫注意水位	30.40		
はん濫注意水位	30.50		
はん濫注意水位	30.60		
はん濫注意水位	30.70		
はん濫注意水位	30.80		
はん濫注意水位	30.90		
はん濫注意水位	31.00		
はん濫注意水位	31.10		
はん濫注意水位	31.20		
はん濫注意水位	31.30		
はん濫注意水位	31.40		
はん濫注意水位	31.50		
はん濫注意水位	31.60		
はん濫注意水位	31.70		
はん濫注意水位	31.80		
はん濫注意水位	31.90		
はん濫注意水位	32.00		
はん濫注意水位	32.10		
はん濫注意水位	32.20		
はん濫注意水位	32.30		
はん濫注意水位	32.40		
はん濫注意水位	32.50		
はん濫注意水位	32.60		
はん濫注意水位	32.70		
はん濫注意水位	32.80		
はん濫注意水位	32.90		
はん濫注意水位	33.00		
はん濫注意水位	33.10		
はん濫注意水位	33.20		
はん濫注意水位	33.30		
はん濫注意水位	33.40		
はん濫注意水位	33.50		
はん濫注意水位	33.60		
はん濫注意水位	33.70		
はん濫注意水位	33.80		
はん濫注意水位	33.90		
はん濫注意水位	34.00		
はん濫注意水位	34.10		
はん濫注意水位	34.20		
はん濫注意水位	34.30		
はん濫注意水位	34.40		
はん濫注意水位	34.50		
はん濫注意水位	34.60		

資料 5 - 4 秋田県管理河川洪水予報伝達経路（太平川）



〇〇川 氾濫注意情報

第1報

平成 年 月 日  
時 分 発表  
△△河川国道事務所  
又は秋田県

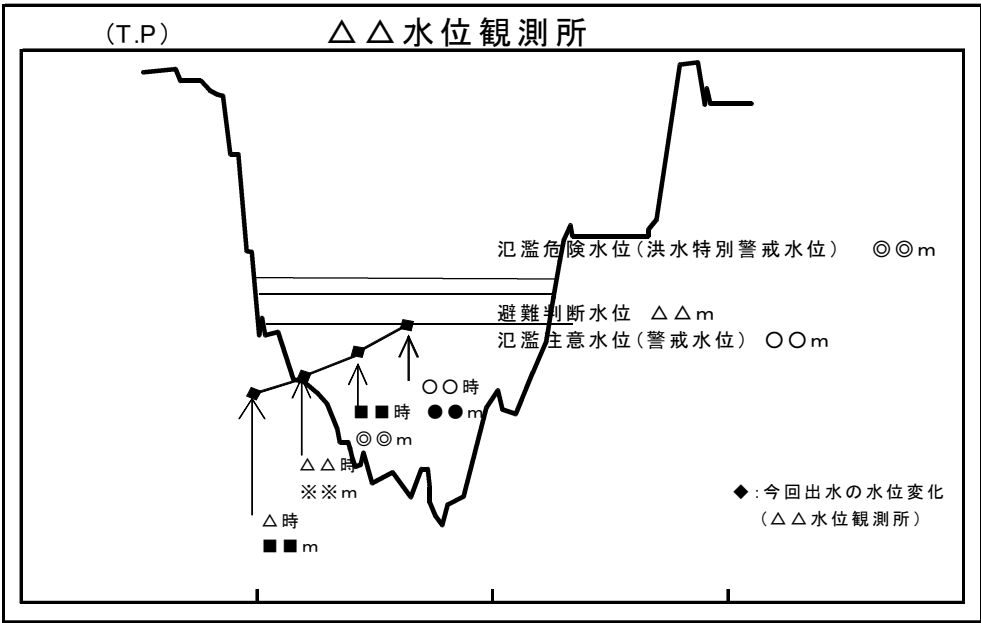
【主文】

〇〇川は、〇〇日〇〇時に、■■市△△水位観測所で、水防団出動の目安のひとつとなる、氾濫注意水位（警戒水位）〇〇m〔危険度レベル2〕に達しました。

△△水位観測所では、〇〇日〇〇時から〇〇時の1時間に、約〇.〇〇m水位が上昇し、今後とも水位の上昇が見込まれます。  
また、△△水位観測所の受け持つ区間（左岸：■■市〇〇字△△～〇〇川合流点、右岸：■■市〇〇字△△～◎◎川合流点）では氾濫のおそれがありますので、各自十分安全確保を図るとともに、市町村長が発する避難情報や河川周囲の状況に留意をお願いします。

（参考）

〇〇川 △△水位観測所（■■市〇〇字△△）  
（受け持ち区間は左岸：■■市〇〇字△△～〇〇川合流点、右岸：■■市〇〇字△△～◎◎川合流点まで）  
氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）： ◎◎m  
避難判断水位： △△m  
氾濫注意水位（警戒水位）： 〇〇m



【参考】 水位危険度レベル  
■レベル5 氾濫の発生  
■レベル4 氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）  
超過（◎◎m～）  
■レベル3 避難判断水位超過（△△m～◎◎m）  
■レベル2 氾濫注意水位（警戒水位）  
超過（※※m～△△m）

（問い合わせ先）  
△△河川国道事務所（又は秋田県）  
TEL:

# 〇〇川 氾濫警戒情報

## 第2報

平成 年 月 日  
時 分 発 表  
△△河川国道事務所  
又は秋田県

【主文】

【〇〇】川は、〇〇日〇〇時に、■市△△水位観測所で、避難準備等の目安のひとつとなる水位である、避難判断水位〔危険度レベル3〕〇〇mに達しました。

△△水位観測所では、〇〇日〇〇時～〇〇時の1時間に、約〇.〇〇m水位が上昇し、今後とも水位の上昇が見込まれます。

また、△△水位観測所の水位が、あと▲. ▲m上昇すると、△△水位観測所の受け持ち区間(左岸: ■■■市○○大字△△～○○川合流点、右岸■■■市○○大字△△～○○川合流点)のうち、特に堤防の低い箇所では、氾濫のおそれがあります。

本情報は避難準備等の目安の一つとなる情報ですので、市長が発する避難情報に十分注意して下さい。

(参考)

〇〇川

△△水位観測所(■市○○字△△)

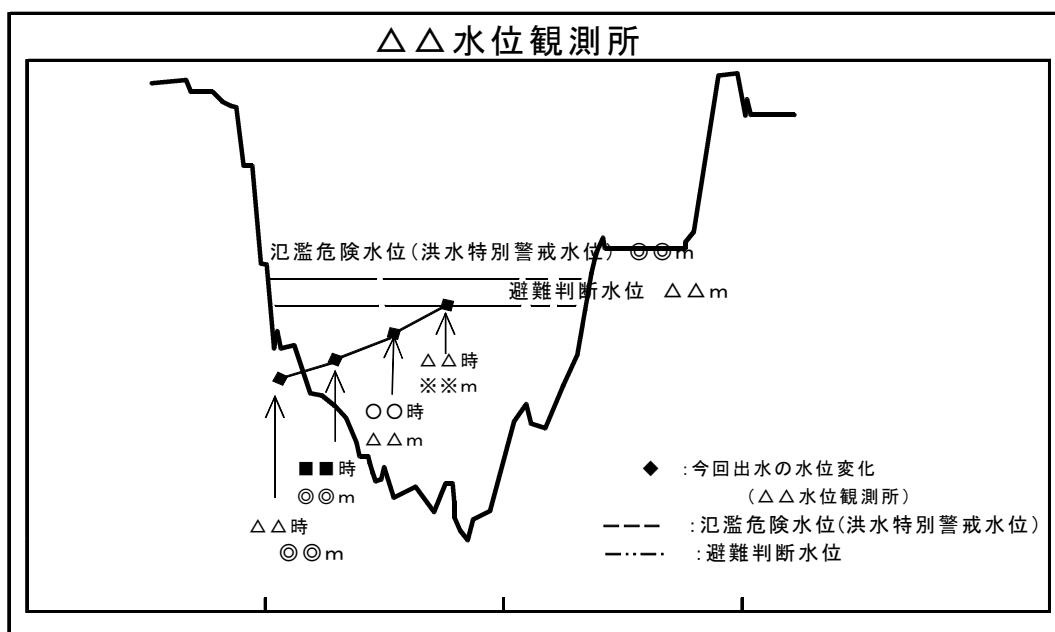
受け持ち区間は、 左岸:■■市〇〇大字△△

右岸：■■市○○大字△△

～〇〇川合流点まで

氾濫危險水位(洪水特別警戒水位): ◎◎m

避難判断水位:  $\Delta\Delta\text{m}$



【参考】 水位危険度レベル

## ■レベル5 氾濫の発生

■レベル4 氾濫危険水位(洪水特別警戒水位)

超過(◎◎m~)

■レベル3 避難判断水位超過(△m~◎m)

■レベル2 氾濫注意水位(警戒水位)

超過( $\times m \sim \Delta m$ )

(問い合わせ先)

△△河川国道事務所(又は秋田県)

TEL:

# 〇〇川 氾濫危険情報

### 第3報

平成 年 月 日  
時 分 発表  
△△河川国道事務所  
又は秋田県

【主文】

〇〇川は、〇〇日〇〇時に、■市△△水位観測所で、避難勧告等の目安のひとつとなる水位である、氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）〔水位危険度レベル4〕〇〇mに達しました。

△△水位観測所での水位は、さらに上昇する見込みです。  
△△水位観測所の受け持ち区間(左岸:■■市〇〇大字△△～〇〇川合流点、右岸■■市〇〇大字△△～〇〇川合流点)では“氾濫するおそれ”がありますので、厳重な警戒をし、■■市長からの避難情報に十分注意して下さい。

(参考)

○○川

△△水位観測所(■市○○字△△)

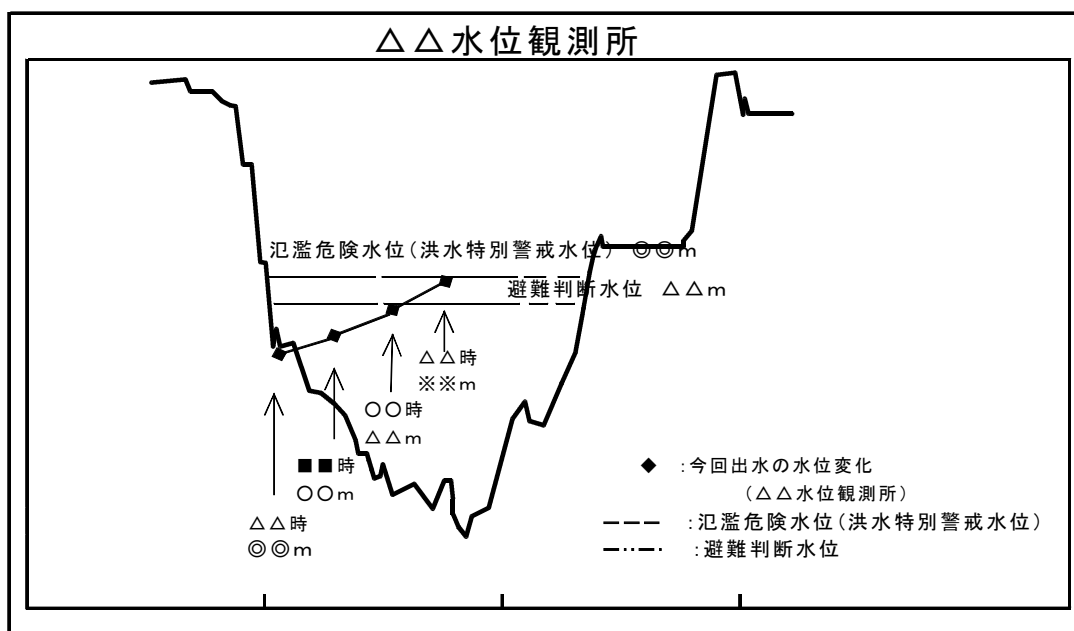
受け持ち区間は、 左岸:■■市〇〇大字△△

右岸：■■市○○大字△△

～〇〇川合流点まで

氾濫危險水位(洪水特別警戒水位): ◎◎m

避難判断水位:  $\Delta\Delta\text{m}$



【参考】 水位危険度レベル

- レベル5 氾濫の発生
- レベル4 氾濫危険水位(洪水特別警戒水位)  
超過(◎◎m~)
- レベル3 避難判断水位超過(△m◎m)
- レベル2 氾濫注意水位(警戒水位)  
超過(※m~△m)

(問い合わせ先)

△△河川国道事務所(又は秋田県)  
TEL:

〇〇川 氾濫発生情報

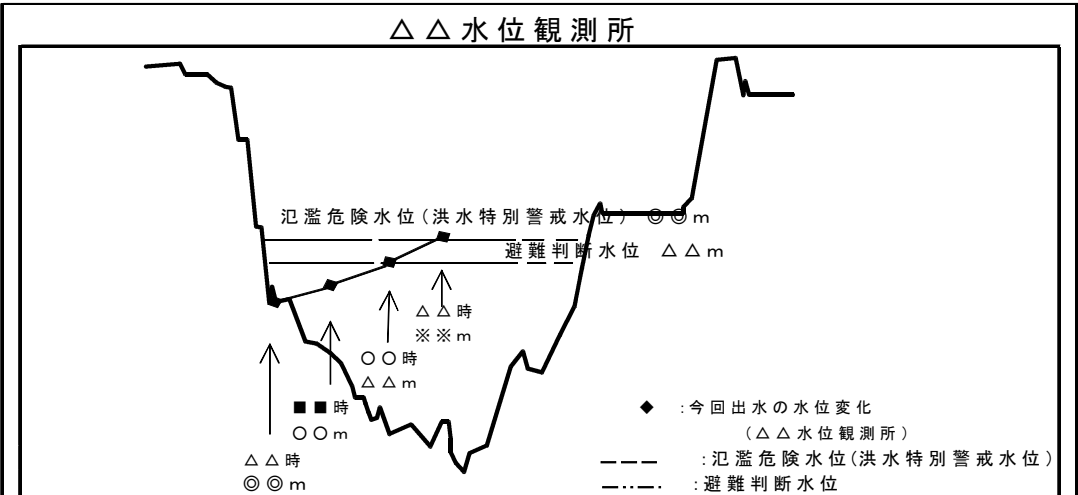
第4報

平成 年 月 日  
時 分 発表  
△△河川国道事務所  
又は秋田県

【主文】  
〇〇川は、〇〇日〇〇時に、■■市□□地区（左岸・右岸）より氾濫し、水位危険度レベルはレベル5に移行しました。

このため、現在、◇◇◇◇◇で浸水しています。  
引き続き、高い水位が続く見込みであり、氾濫が拡大するおそれがありますので、氾濫による浸水が予想される地域では、厳重な警戒をして下さい。

（参考） 〇〇川 △△水位観測所（■■市〇〇字△△）  
受け持ち区間は、 左岸：■■市〇〇大字△△  
右岸：■■市〇〇大字△△ } ~〇〇川合流点まで  
氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）： ◎◎m  
避難判断水位： △△m

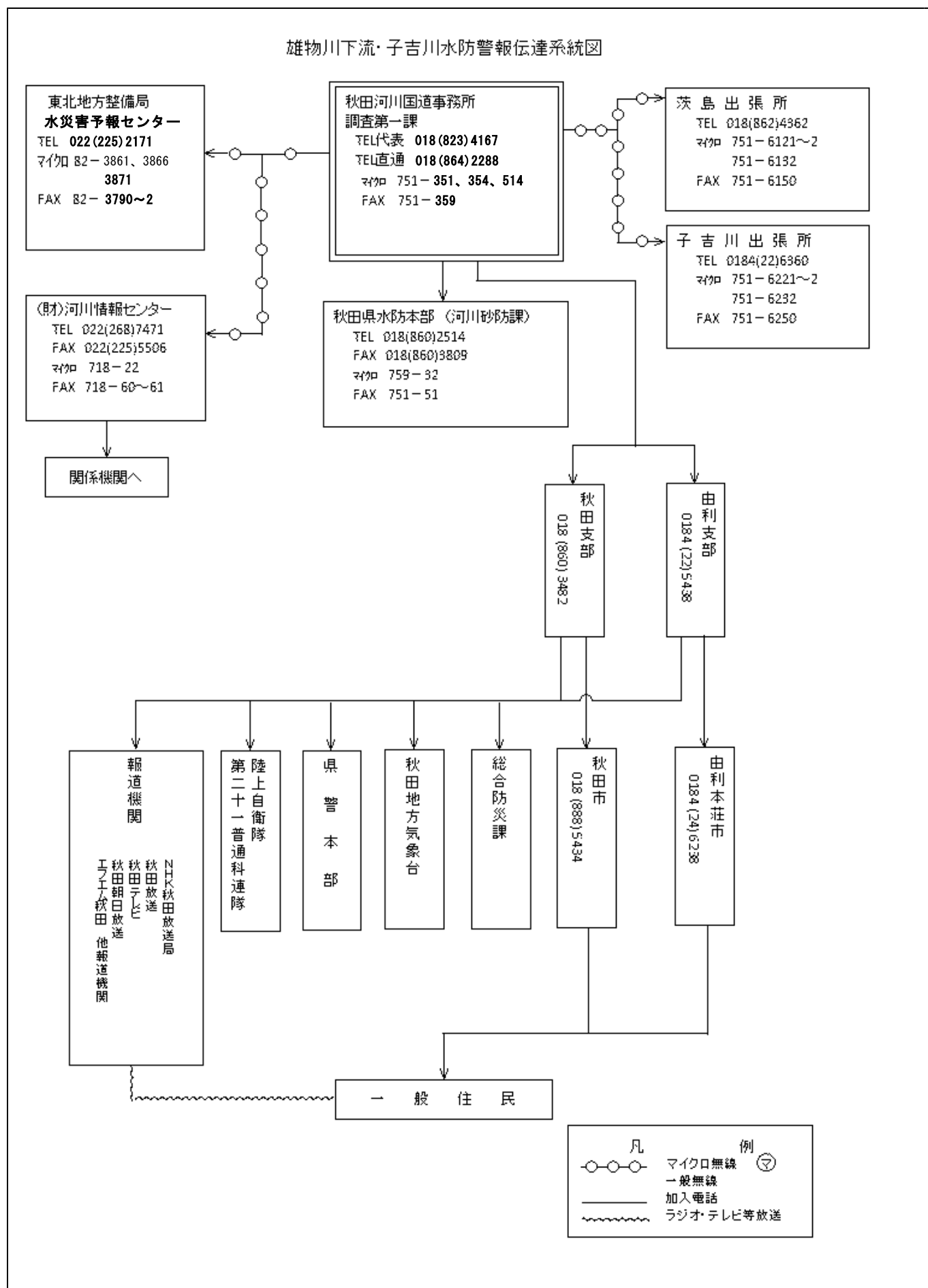


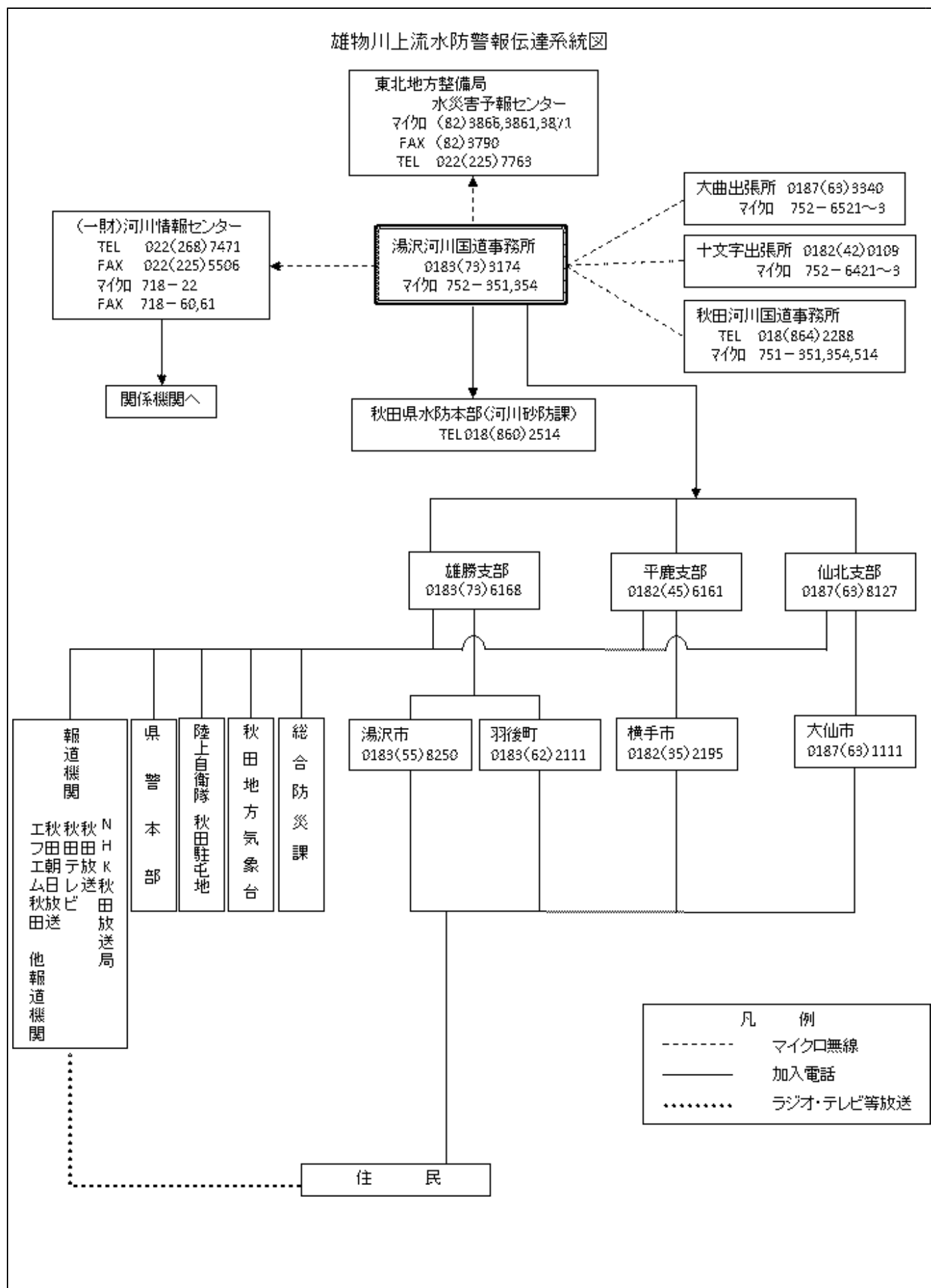
【参考】 水位危険度レベル  
■レベル5 氾濫の発生  
■レベル4 氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）  
超過（◎◎m～）  
■レベル3 避難判断水位超過（△m～◎m）  
■レベル2 氾濫注意水位（警戒水位）  
超過（※m～△m）

（問い合わせ先）  
△△河川国道事務所（又は秋田県）  
TEL:



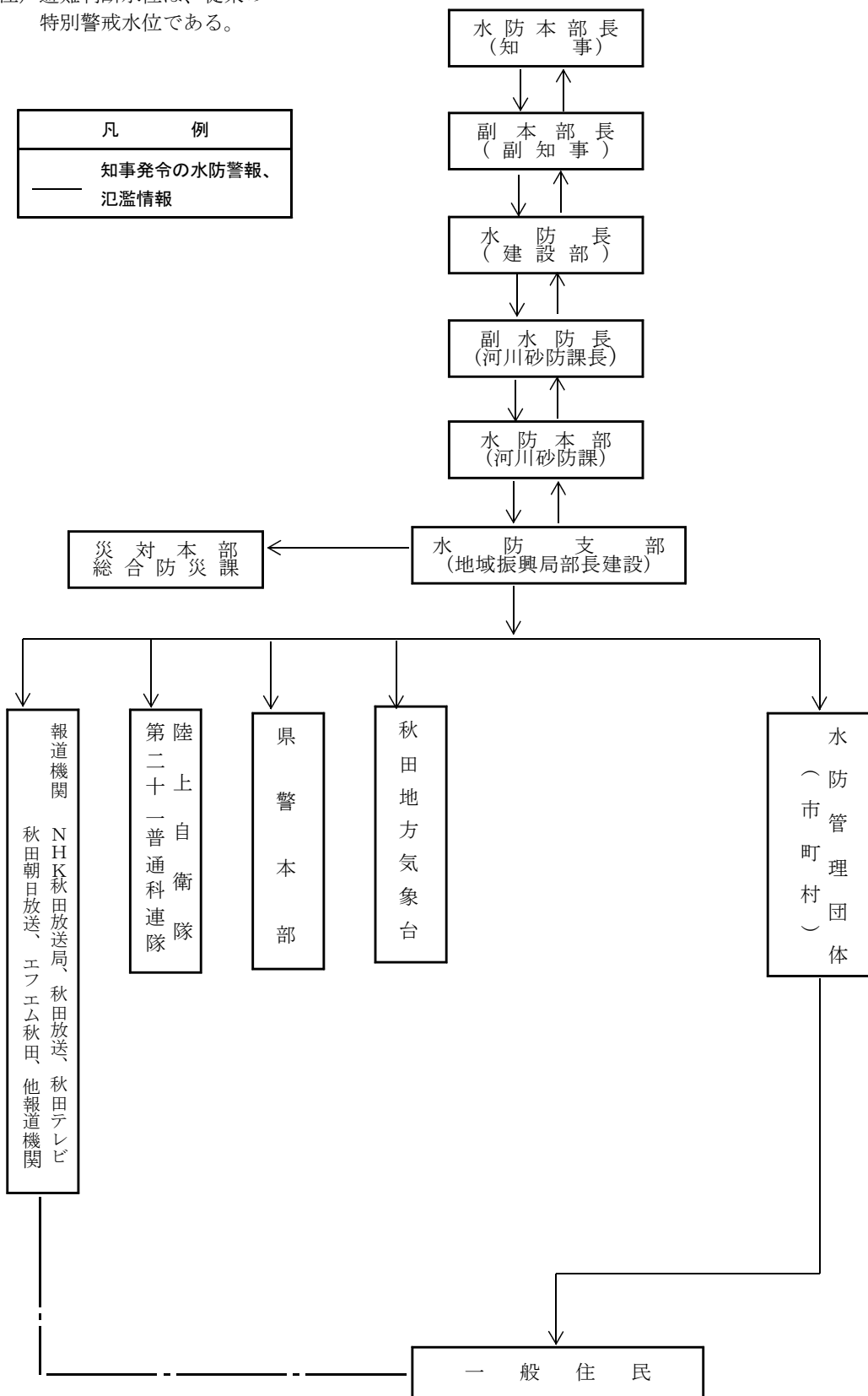






## 資料 5-7 秋田県管理河川 水防警報、水位到達情報通知の伝達系統図

注) 避難判断水位は、従来の特別警戒水位である。



- ① 法第10条の6の1及び同3項の規定により地整河川国道事務所より水防警報の通知を受けた場合関係機関及び一般住民に通知する系統を示す。
- ② 水防指令は県における水防体制に基づき、関係機関及び一般に通知する系統を示す。

資料 5－8 直轄河川水防警報発表形式

(水防本部)

本部長	副本部長	水防長	本部付	副水防長	水防要員						
平成 年 月 日 時 分					受信取扱者						
能代河川国道 秋田河川国道 事務所 湯沢河川国道					受信取扱者						
河川名	警報	種類	発表番号	発表日時	発表事務所						
	水防報	待機 準備 出動	第 号	平成 年 月 日 時 分	能代河川国道 秋田河川国道 湯沢河川国道						
水位観測所の水位は 時現在 mに達し											
なお増水する見込みです。 氾濫注意水位を mを超えており、なお増水のおそれがあるので、 引続き減水する見込みです。											
より まで水防団の <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>待</td><td>機</td></tr> <tr><td>準</td><td>備</td></tr> <tr><td>出</td><td>動</td></tr> </table> を要します。 水防警報を解除します。						待	機	準	備	出	動
待	機										
準	備										
出	動										

資料5-9 秋田県管理河川での水防警報の発表形式

【準備】

(水 防 支 部)

支 部 長	副支部長	総括責任者	副総括責任者	水 防 要 員	
平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分				発信取扱者 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 〇〇 〇〇	
発信機関名	秋田県 〇〇地域振興局				
河 川 名	警 報	種 別	発表番号	発 表 日 時	発表支部
新 城 川	水 防	準 備		平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分	〇〇 地域振興局
〇〇水位観測所の水位は〇〇:〇〇分現在 〇. 〇〇mに達し、 (水防団待機水位: 〇. 〇〇m、氾濫注意水位: 〇. 〇〇m)					
なお、増水する見込みです。					
〇〇〇〇〇 より 〇〇〇〇〇 までの 水防団の 準備 を要します。					
〇〇市	TEL: (昼) — — (夜) — —			受信時刻:	
	FAX: (昼) — — (夜) — —			受信者名:	
水防本部 (建設部河川砂防課)	TEL: 018-860-2514			受信時刻:	
	FAX: 018-860-3809			受信者名:	
秋田地方气象台	TEL: 018-823-8291			受信時刻:	
	FAX: 018-824-0418			受信者名:	
県警本部 (警備二課)	TEL: (昼)018-863-1111 (内 5724) (夜・休)018-863-1111 (内 2070)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-863-1451 (夜・休)018-863-1111 (内 2079)→FAX切換			受信者名:	
総合防災課	TEL: 018-860-4563			受信時刻:	
	FAX: 018-824-1190			受信者名:	
自衛隊	TEL: (昼)018-845-0125 (内 228) (夜・休)018-845-0125 (内 302)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-845-0125 (内 228)→FAX切換 (夜・休)018-845-0125 (内 302)→FAX切換			受信者名:	

【問い合わせ先】 秋田県 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 TEL — —  
 秋田県 建設部 河川砂防課 TEL 018-860-2514

資料5-9 秋田県管理河川での水防警報の発表形式

【出勤】

(水防支部)

支 部 長	副支部長	総括責任者	副総括責任者	水 防 要 員	
平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分				発信取扱者 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 〇〇 〇〇	
発信機関名	秋田県 〇〇地域振興局				
河 川 名	警 報	種 別	発表番号	発 表 日 時	発表支部
新 城 川	水 防	出 動		平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分	〇〇 地域振興局
〇〇水位観測所の水位は〇〇:〇〇分現在 〇. 〇〇mに達し、 (氾濫注意水位: 〇. 〇〇m、避難判断水位: 〇. 〇〇m)					
氾濫注意水位(警戒水位)を〇. 〇〇mを超えており、なお増水のおそれがあるので、					
〇〇〇〇〇 より 〇〇〇〇〇 までの 水防団の 出 動 を要します。					
〇〇市	TEL: (昼) — — (夜) — —			受信時刻:	
	FAX: (昼) — — (夜) — —			受信者名:	
水防本部 (建設部河川砂防課)	TEL: 018-860-2514			受信時刻:	
	FAX: 018-860-3809			受信者名:	
秋田地方気象台	TEL: 018-823-8291			受信時刻:	
	FAX: 018-824-0418			受信者名:	
県警本部 (警備二課)	TEL: (昼)018-863-1111 (内 5724) (夜・休)018-863-1111 (内 2070)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-863-1451 (夜・休)018-863-1111 (内 2079)→FAX切替			受信者名:	
総合防災課	TEL: 018-860-4563			受信時刻:	
	FAX: 018-824-1190			受信者名:	
自衛隊	TEL: (昼)018-845-0125 (内 228) (夜・休)018-845-0125 (内 302)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-845-0125 (内 228)→FAX切替 (夜・休)018-845-0125 (内 302)→FAX切替			受信者名:	

【問い合わせ先】 秋田県 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 TEL —  
 秋田県 建設部 河川砂防課 TEL 018-860-2514

資料5-9 秋田県管理河川での水防警報の発表形式

【解除】

(水 防 支 部)

支 部 長	副支部長	総括責任者	副総括責任者	水 防 要 員	
平成〇〇年〇〇月〇〇日 発 信 〇〇時〇〇分				発信取扱者 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 〇〇 〇〇	
発信機関名	秋田県 〇〇地域振興局				
河 川 名	警 報	種 別	発表番号	発 表 日 時	発表支部
新 城 川	水 防	解 除		平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分	〇〇 地域振興局
〇〇水位観測所の水位は〇〇:〇〇分現在 〇. 〇〇mに達し、 (水防団待機水位: 〇. 〇〇m、氾濫注意水位: 〇. 〇〇m)					
引き続き、減水する見込みです。					
〇〇〇〇〇 より 〇〇〇〇〇 までの 水防警報を 解除 します。					
〇〇市	TEL: (昼) — — (夜) — —			受信時刻:	
	FAX: (昼) — — (夜) — —			受信者名:	
水防本部 (建設部河川砂防課)	TEL: 018-860-2514			受信時刻:	
	FAX: 018-860-3809			受信者名:	
秋田地方気象台	TEL: 018-823-8291			受信時刻:	
	FAX: 018-824-0418			受信者名:	
県警本部 (警備二課)	TEL: (昼)018-863-1111 (内 5724) (夜・休)018-863-1111 (内 2070)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-863-1451 (夜・休)018-863-1111 (内 2079)→FAX切換			受信者名:	
総合防災課	TEL: 018-860-4563			受信時刻:	
	FAX: 018-824-1190			受信者名:	
自衛隊	TEL: (昼)018-845-0125 (内 228) (夜・休)018-845-0125 (内 302)			受信時刻:	
	FAX: (昼)018-845-0125 (内 228)→FAX切換 (夜・休)018-845-0125 (内 302)→FAX切換			受信者名:	

【問い合わせ先】 秋田県 〇〇地域振興局 建設部 〇〇課 TEL — —  
 秋田県 建設部 河川砂防課 TEL 018-860-2514



## 第 6 章 水防作業及び工法

## 第6章 水防作業及び工法

### 1 水防作業

洪水時において堤防に異常の起こる時期は、洪水時間にもよるが、おおむね水位の時又はその前後である。然し法崩れ陥没等の通常減水時に生ずる場合が多いことから最盛期を過ぎても完全に通過するまで警戒を解いてはならない。

工法を選ぶにあたっては、堤防の組成材料、流速、法面、護岸の状態等を考慮して最も有効でしかも使用材料がその附近で入手し易い工法を施行するが、当初の工法で成果が認められないときはこれに代わるべき工法を次々に行い極力防止に努めなければならない。水防作業を必要とする異常な状態は概ね次の通りである。

- (1) 漏水
- (2) 表法のかげ崩れ
- (3) 天端及裏法の亀裂又は欠け崩れ
- (4) 溢水
- (5) 樋門等の漏水

### 2 水防工法

水防工法には現場の状態に応じた工法を必要とする関係上、その工法も23種類位ある。

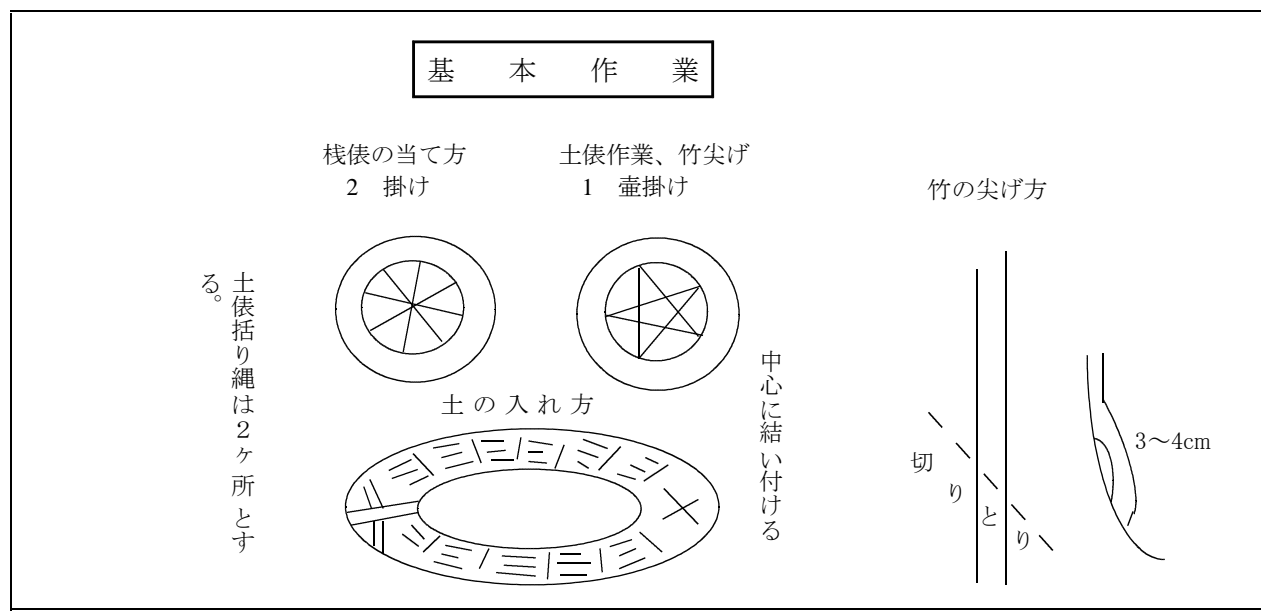
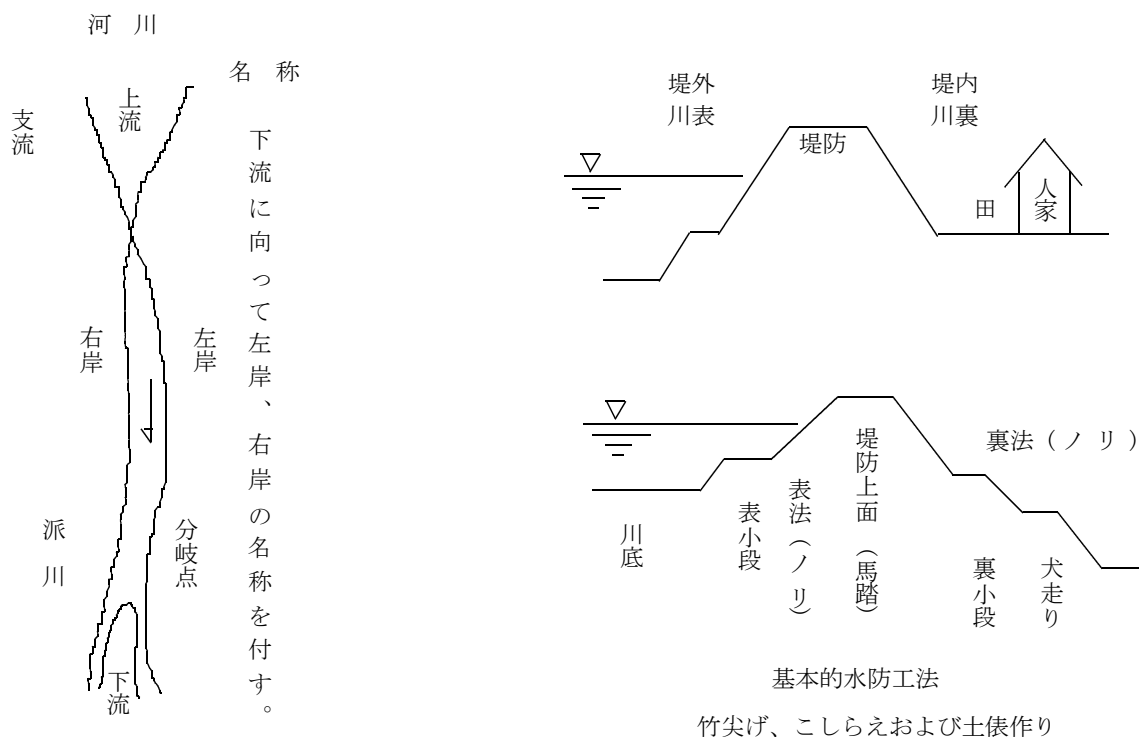
## 6－1 水防工法一覧表

原 因		工 法	工 法 の 概 要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
水 が あ ふ れ る  (越 水)		積み土のう工	堤防の上端（天端）に土のうを 数段積み上げる	一般河川	土のう、鉄筋棒、 防水シート
		せき板工	堤防の上端（天端）にくいを打 ちせき版をたてる	都市周辺河川 （土のうの入手困難）	鋼製支柱、軽量鋼 板
		蛇かご積み工	堤防の上端（天端）に土のうの 代わりに蛇かごを置く	急流河川	鉄線蛇かご、玉石、 防水シート
		水マット工 （連結水のう工）	堤防の上端（天端）にビニロン 帆布製水マットを置く	都市周辺河川 （土のう、板など入 手困難）	既製水のう、 ポンプ、鉄パイプ
		裏むしろ張り工	堤防の居住側堤防斜面（裏のり 面）をむしろで被覆する	あまり高くない堤体 の固い箇所	むしろ、半割竹、 土俵
		裏シート張り工	堤防の居住側堤防斜面（裏のり 面）を防水シートで被覆する	都市周辺河川 （むしろ、竹の入手 困難）	防水シート、 鉄筋ピン、土のう、 軽量鉄パイプ
漏  水  対 策	居 住 側  (川 裏)	釜段工 （釜築き、釜止 め）	裏小段、居住側堤防斜面（裏の り）先平地に円形に積み、土俵 にする	一般河川	土のう、鉄筋棒、 防水シート、 ビニールパイプ
		水マット式 釜段工	裏小段、居住側堤防斜面（裏の り）先平地にビニロン帆布製中 空円形水マットを積み上げる	都市周辺河川 （土砂、土のうの入 手困難）	既製水のうポンプ、 鉄パイプ
		鉄板式釜段工 （簡易釜段工）	裏小段、居住側堤防斜面（裏の り）先平地に鉄板を円筒形に組 み立てる	都市周辺河川 （土砂、土のうの入 手困難）	鉄板、土のう、 パイプ、 鉄パイプぐい
		月の輪工	居住側堤防斜面（裏のり）部 によりかかり半円形に積み土俵 する	一般河川	土のう、パイプ、 防水シート、鉄筋 棒
		水マット月の輪工	裏小段、居住側堤防斜面（裏の り）先にかかるようにビニロン 帆布製水のうを組み立てる	都市周辺河川 （土砂、土のうの入 手困難）	既製水のう、 くい土のう、 ビニロンパイプ
		たる伏せ工	裏小段、居住側堤防斜面（裏の り）先平地に底抜きたる又はお けを置く	一般河川	たる、防水シート、 土のう
		導水むしろ張り工	居住側堤防斜面（裏のり）、犬 走りにむしろなどを敷きならべ る	一般河川 （漏水量の少ない箇所）	防水シート、丸太、 竹
漏  水  対 策	川 側  (川 表)	詰め土のう工	川側堤防斜面（川表のり面）の 漏水口に土のうなどを詰める	一般河川 （構造物のあるところ、 水深の浅い部分）	土のう、木ぐい、 竹ぐい
		むしろ張り工	川側（川表）の漏水面にむしろ を張る	一般河川 （水深の浅い所）	むしろ、竹、土の う、竹ピン
		継ぎむしろ張り工	川側（川表）の漏水面に継ぎむ しろを張る	一般河川 （漏水面の広い所）	むしろ、なわ、く い、ロープ、竹、 土のう

原 因		工 法	工 法 の 概 要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
漏 水	川 側	シート張り工	川側（川表）の漏水面に防水シートを張る	都市周辺河川 （むしろが入手困難）	防水シート、くい、鉄パイプ、ロープ、土のう
	（川 表） 対策	たたみ張り工	川側（川表）の漏水面にたたみを張る	一般河川 （水深の浅いところ）	土俵の代わりに土のう
深 掘 れ  （洗 掘 ）		むしろ張り工、 継ぎむしろ張り工、 シート張り工、 たたみ張り工	漏水防止と同じ	芝付き堤防で比較的 緩流河川	漏水防止と同じ
		木流し工 （竹流し工）	樹木（竹）に重り土のうをつけて流し、局部を被覆する	急流河川	立木、土のう、鉄線、ロープ、くい
		立てかご工	川側堤防斜面（表のり面）に蛇かごを立てて被覆する	急流河川 砂利堤防	鉄線蛇かご、くい、詰め石、鉄線
		捨て土のう工、 捨て石工	川側堤防斜面（表のり面）決壊箇所に土のう又は大きな石を投入する	急流河川	土のう、石、異形コンクリートブロック
		竹網流し工	竹を格子形に結束し土のうをつけて、堤防斜面（のり面）を被覆する	緩流河川	竹、くい、ロープ、土のう
決  壊		わく入れ工	深掘れ箇所に川倉、牛わく、鳥脚などの合掌木を投入する	急流河川	わく組み、蛇かご、石俵、鉄線
		築きまわし工	堤防の川側（表）が決壊したとき、断面の不足を居住側堤防斜面（裏のり）で補うため杭を打ち中詰の土のうを入れる	凸側堤防 他の工法と併用	くい、割竹、板、土のう、くぎ
		びょうぶ返し工	竹を骨格とし、かや、よしでびょうぶを作り堤防斜面（のり面）を覆う	比較的緩流河川	竹、なわ、ロープ、わら、かや、土のう
き  裂	上端 （天端）	折り返し工	上端（天端）のき裂をはさんで両肩付近に竹をさし折り曲げて連結する	粘土質堤防	竹、土のう、ロープ
		くい打ち継ぎ工	折り返し工の竹の代わりにくいを用いて鉄線でつなぐ	砂質堤防	くい、鉄線
	上端 （天端）	控え取り工	き裂が上端（天端）から居住側堤防斜面（裏のり）にかけて生じるもので折り返し工と同じ	粘土質堤防	竹、土のう、なわ、ロープ、鉄線
	居住側 堤防斜面 （裏のり）	継ぎ縫い工	き裂が上端（天端）から居住側堤防斜面（裏のり）にかけて生じるもので控え取り工と同じ	砂質堤防	くい、竹、鉄線、土のう
		ネット張り き裂防止工	継ぎ縫い工のうち竹の代わりに鉄線を用いる	石質堤防	くい、金鋼、鉄線、土のう

原因		工 法	工 法 の 概 要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
居住側堤防斜面 (裏のり) 崩壊	き裂	五徳縫い工	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂を竹で縫い崩壊を防ぐ	粘土質堤防	竹、なわ、ロープ、鉄線、土のう
		五徳縫い工（くい打ち）	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂をはさんでくいを打ちロープで引き寄せる	粘土質堤防	くい、ロープ、土のう、丸太
		竹さし工	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂が浅いとき、堤防斜面（のり面）がすべらないように竹をさす	粘土質堤防	竹、土のう
		力ぐい打ち工	居住側堤防斜面（裏のり）先付近にくいを打ちこむ	粘土質堤防	くい、土のう
		かご止め工	居住側堤防斜面（裏のり面）にひし形状にくいを打ち、竹又は鉄線で縫う	砂質堤防	くい、竹、鉄線、土のう
	崩壊	立てかご工	居住側堤防斜面（裏のり面）に蛇かごを立て被覆する	急流河川	鉄線蛇かご、くい、詰め石、そだ
		くい打ち積み 土のう工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくいを打ち込み、中詰めに土のうを入れる	砂質堤防	くい、布木、鉄線、土のう
		土のう羽口工	居住側堤防斜面（裏のり面）に土のうを小口に積み上げる	一般堤防	竹ぐい、土砂、土のう
		つなぎくい打ち工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくいを数列打ちこれを連結して中詰めに土のうを入れる	一般堤防	くい、土のう、布木、鉄線、土砂
		さくかき詰め 土のう工	つなぎくい打ちとほぼ同じでさくを作る	一般堤防	くい、竹、そだ、鉄線、土のう
		築きまわし工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくい打ちさくを作り中詰め土のうを入れる	一般堤防	くい、さく材、布木、土のう
その他		流下物除去作業	橋のピアなどに堆積した流木の除去	一般河川	長尺竹、とび口
		水防対策車	現地対策本部の設置	一般河川	指揮車、無線車

## 6-2 本県の河川に適していると思われる水防工法

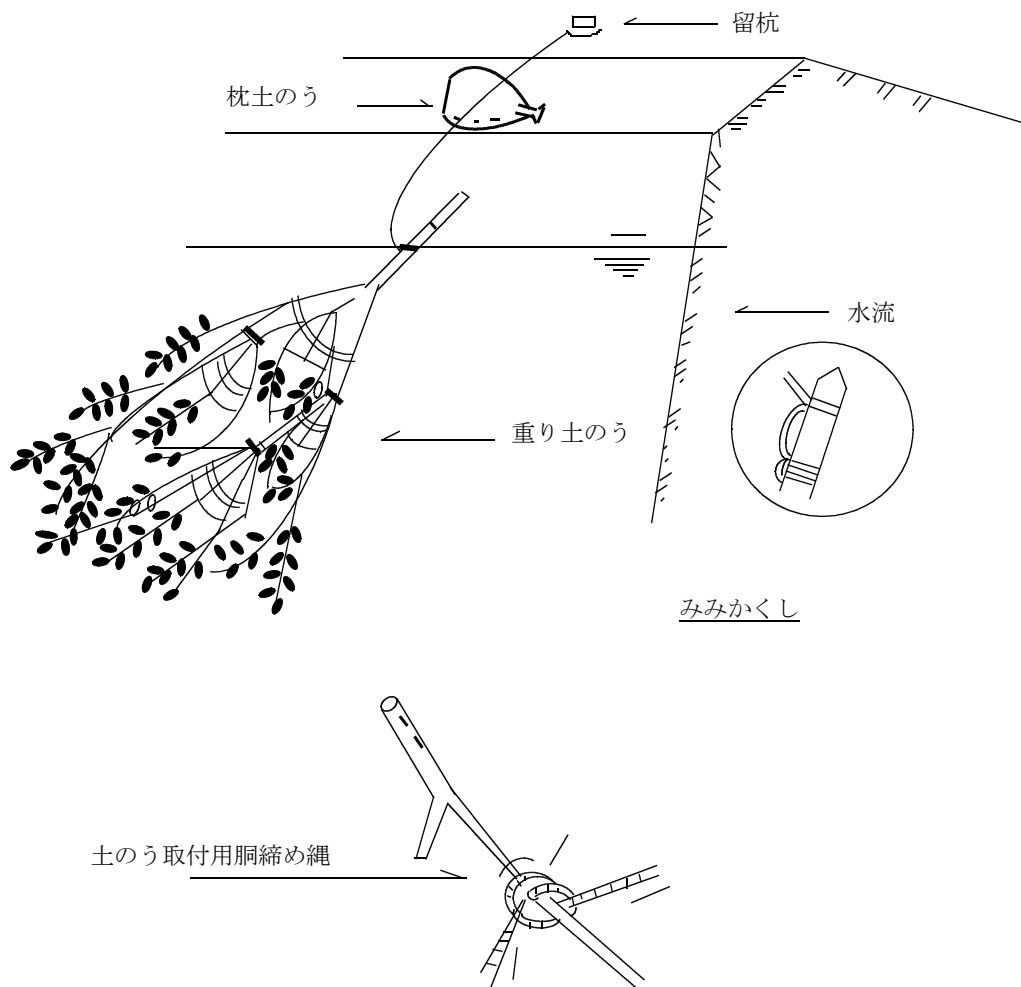


竹尖げの方法は、竹の経の5倍のあいだを斜めにそいで、割れを防ぐため図のように節を残す。

竹の太い場合には節の後方の両側をそぐ、竹天げの数が多い場合などを用いるが、数の多い場合で、迅速に行わねばならない時には竹天げ専用の鎌を使用する。

土俵作りの方法は、空俵の両端に栈俵を当て、1壺がけ、又は2壺がけに取りつけ、（普通は2壺がけを用いる）、次に俵の腹を縦に鎌で切り開き、土砂を50～60kg位になるべく均等に詰め、胴を2～3ヶ所縄で2重巻にして強く締める。

# 第 1 図 木 流 し 工



## 木流し工（掛け木）

### 目 的

流水を緩和して川表堤防腹崩壊の拡大を防止する。

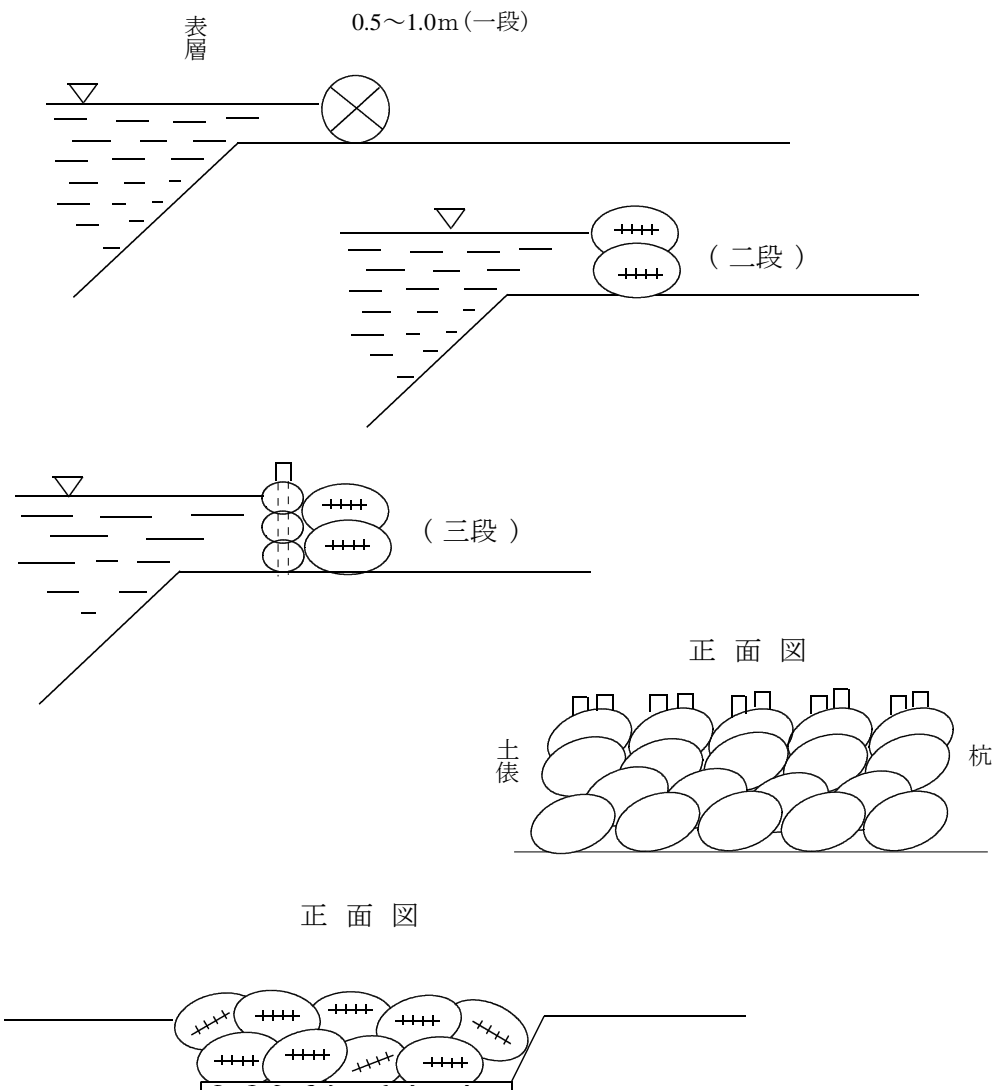
### 考 え 方

急流部に適する工法で、樹木を根本から伐り、枝に重り土のう（又は石俵）をつけ、根本は鉄線又は縄でしばり、その一端を留杭に結束し、上流より流しかけて崩壊面に固定させる。枝を用いる場合は数本結束して用いる。

### 用 材

松、杉、柳などの枝葉の茂ったもの、土のう、鉄線、（縄）杭

## 第 2 図 積 土 の う 工



### 積 土 の う 工

#### 目 的

溢水防止

#### 拵 え 方

表層が欠け込んでも差支えないように川表層から 50cm 乃至 1 米引退けて所要の高さに土俵を積み上げる。

1 段積のときは長手又は小口積とし、俵の継目に土を填めて充分にふみ固め葎や藁などを押しあて透水を防ぐ。

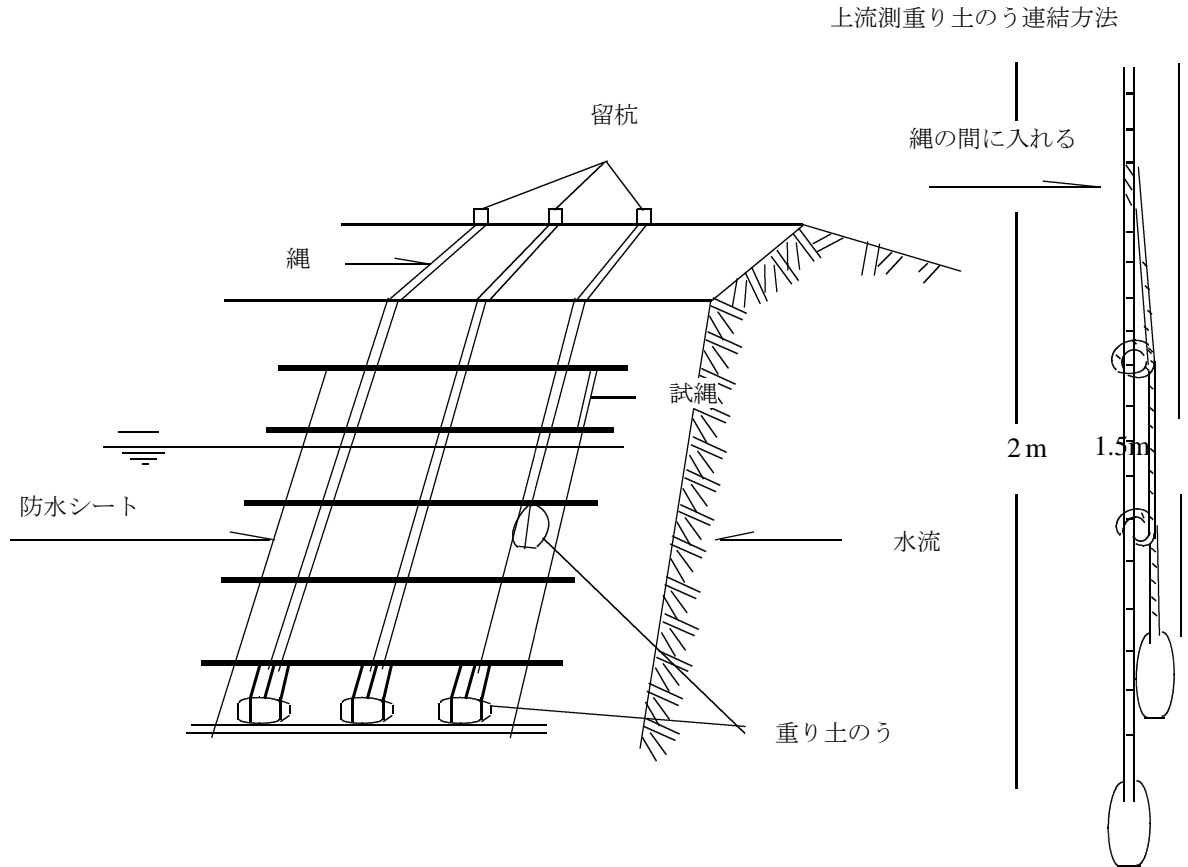
3 俵重ねのときは木杭を串差とする。

#### 用 材

土のう、木杭、塊土



### 第 3 図 シート張り工



#### シート張り工

#### 目 的

堤防表法崩壊及び透水防止。

#### 拵 え 方

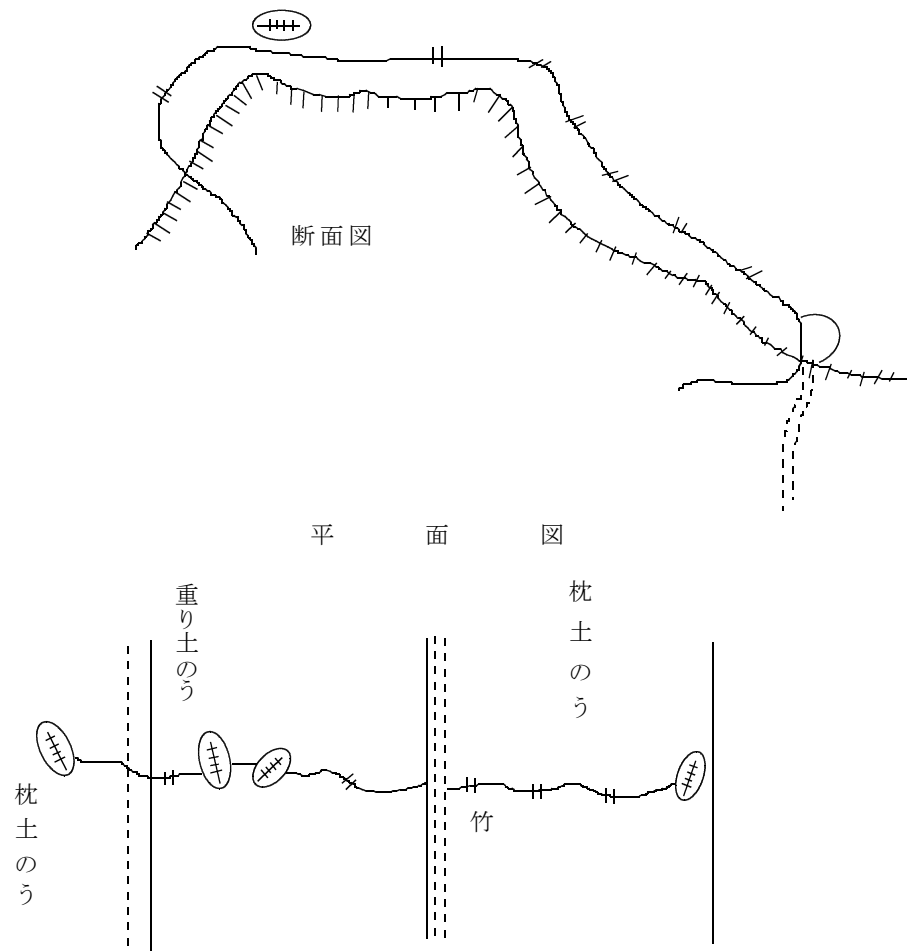
崩壊面の大きさに応じ、シートを 9 枚、12 枚或は 15 枚を縄で縫い合せ、横に 90cm 間隔に細竹をあらく縫い付け、下端に重り土俵を取り付け、これを心にして簀の子巻とし、天端から廻し縄を徐々にゆるめて垂れおろし所々針子縫をし煽りどめの重り土のうを載せて固定させる。

下端の重り土のうの荷を直接筵に負わせぬよう二本撚り縄で各々の細竹を繋ぎ天端の留杭に結束する。シートをはぎ合わすには細竹で拵えた縫針を使うのが便利である。

#### 用 材

シート、二子縄、土俵、竹、(簀子用)、留杭

# 第 4 図 控 取 り



## 控 取 り 目 的

堤防天端及び裏法面の亀裂をしぼって崩壊を防止する。

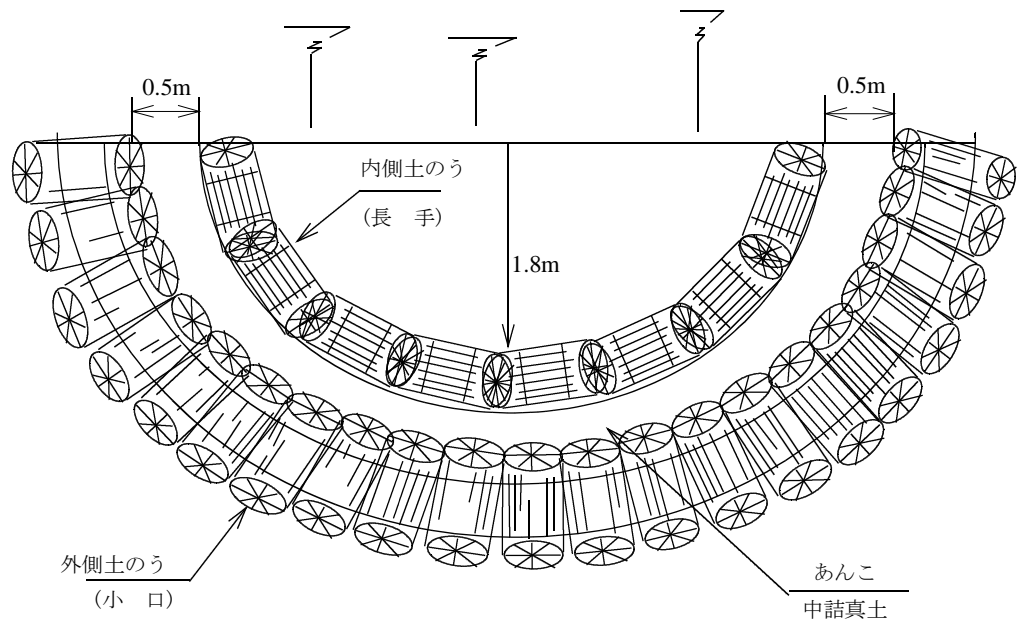
## 控 え 方

川裏の法尻に2米乃至5米間隔に土のうをおき、竹で蛇腹縫して固定させる。これに竹をつき差し、双方の竹を折返して縄にして結束する。折返し部分には栈俵などを中心にして又折返し工と同様枕土のうを用いる。

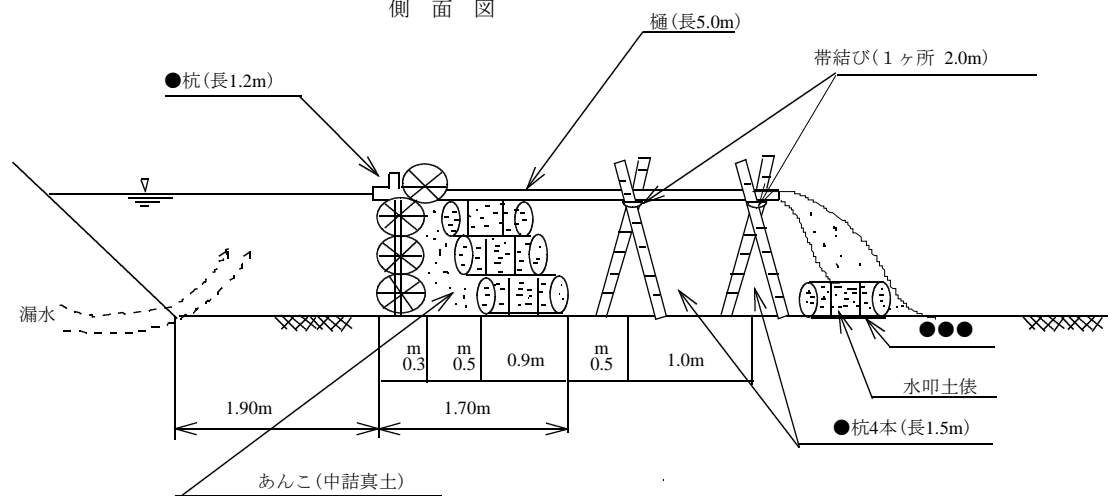
## 用 材

土のう、栈俵、竹

第 5 図  
月 の 輪 工



月の輪  
側面図



## 月の輪工 目的

堤防裏法の漏水を堰き上げて圧力を弱める。

## 拵え方

漏水口の周囲尻法に土のうを半月状に積み上げ、この中に漏れ水を淀ませて上透水を堤内の水路などに放流させる。

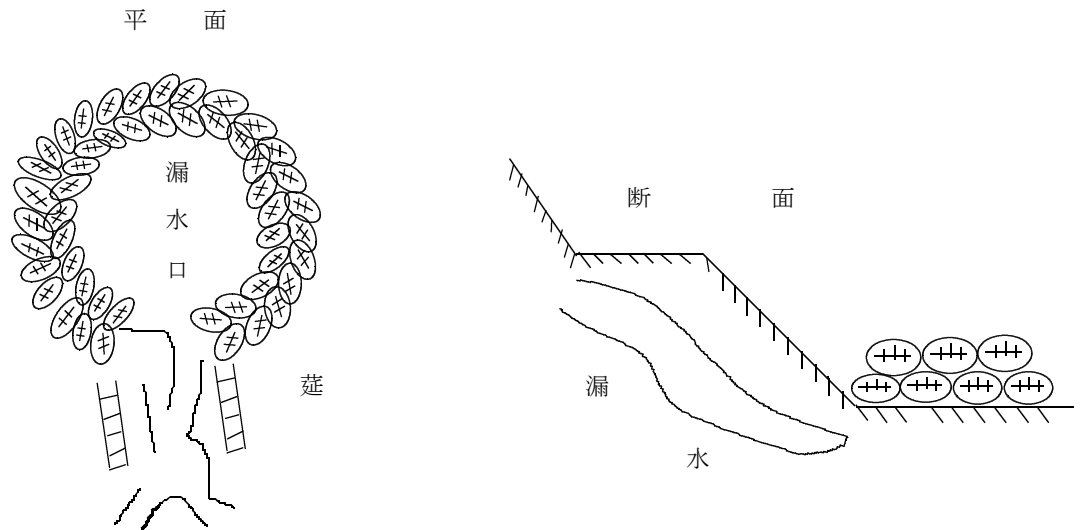
土のう積の高さは水压を弱めうる程度でよく、若し三俵重ね以上になるときは留杭又は欄杭を打ち、土のうの頂部を蛇腹縫にする場合もある。上透水の流し口には筵をあげ、その先に樋をかけて導く。

土俵と土俵の間には塊土を詰め充分ふみ固めて空隙より漏水を防ぐ。

月の輪の大きさは普通半径 1.5 米～2 米位。

用 材 土のう、塊土、樋、杭木

第 6 図  
釜 段 工



釜築き（釜段）

目 的

堤防裏法尻平場の噴水をせき上げて圧力を弱める。

拵 え 方

漏水口又は噴出口の周囲に環状に土のうを積み上げこの内に水をせき上げて圧力を弱め、水流から上透水をすみやかに放流させる。

噴出口の小さい場合は底抜きの樋、樽、又は土管で足りる。

土のうと土のうの間には塊土を飼い込んで十分にふみ固め漏れ水を防ぐ。水流しには葎を当て、その先に樋を仕掛ける場合もある。

釜築きの大きさは普通直径2～3米。

3段以上のときは杭棚にして崩れを防ぐ。

用 材

土のう（空俵）、塊土、葎（棚杭用）、柳（棚用）

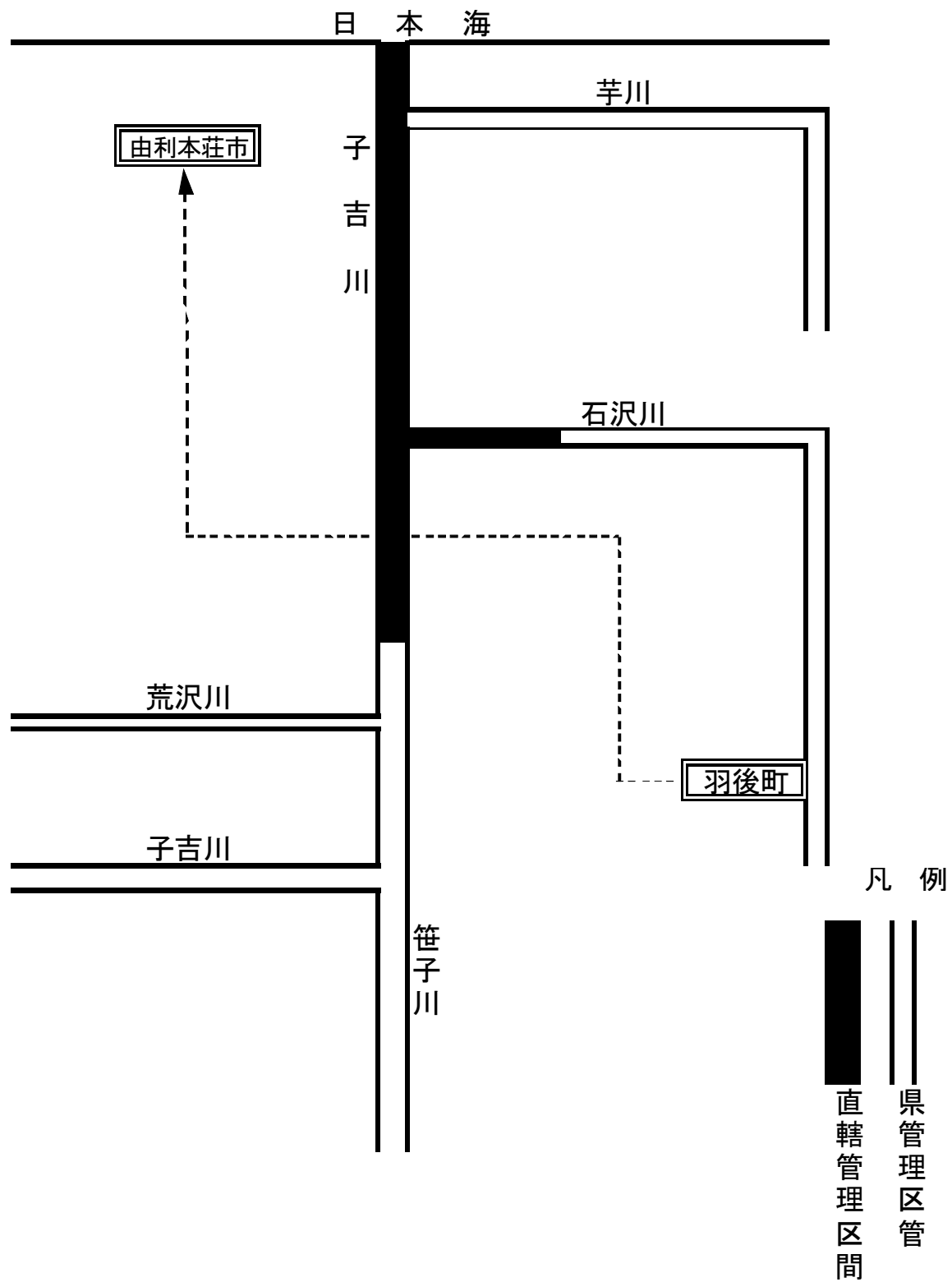
## 第 7 章

# 隣接市町村に対する水防警報

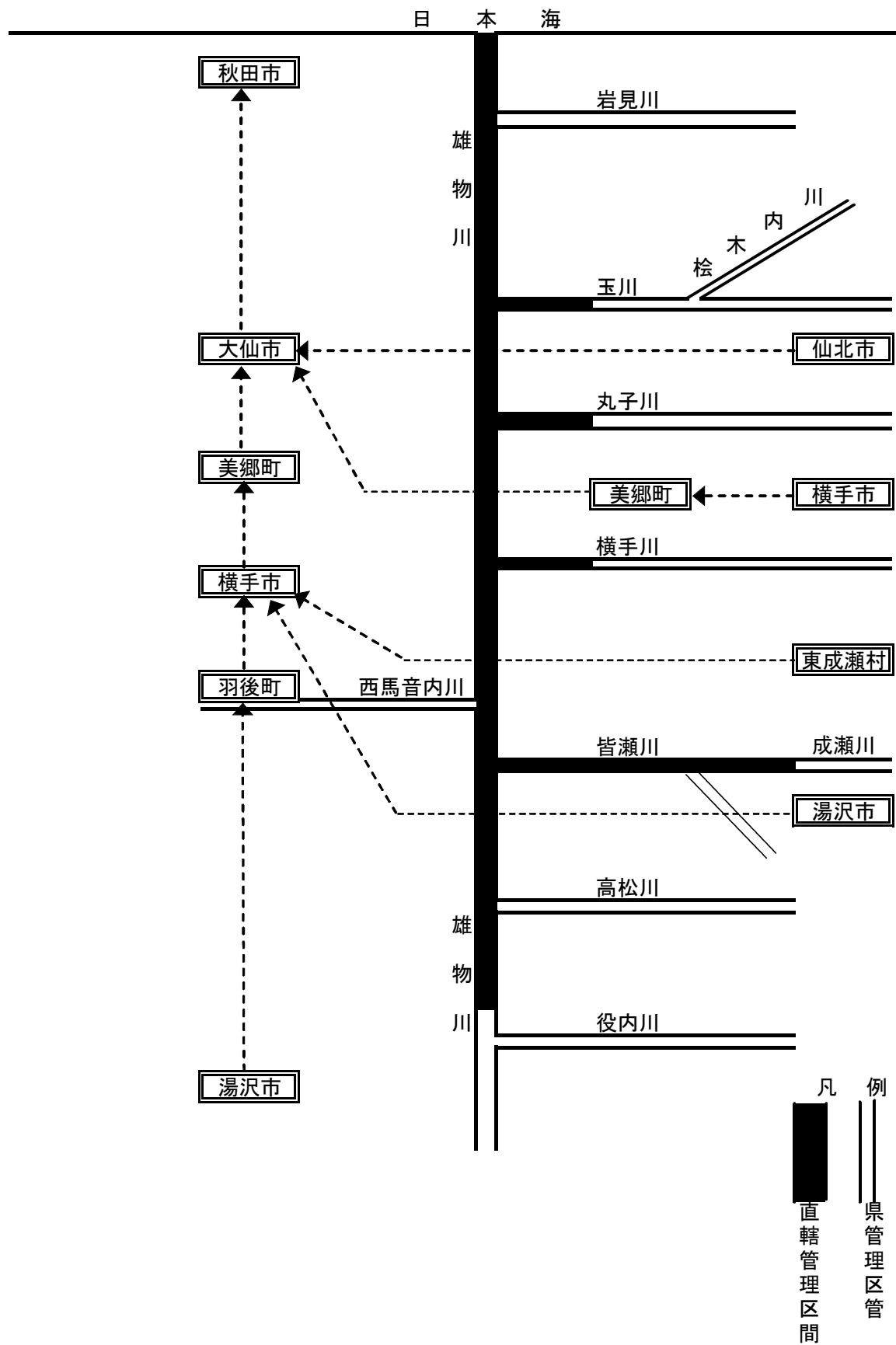
## 第7章 隣接市町村に対する水防通報

### 7-1 隣接市町村に対する水防通報

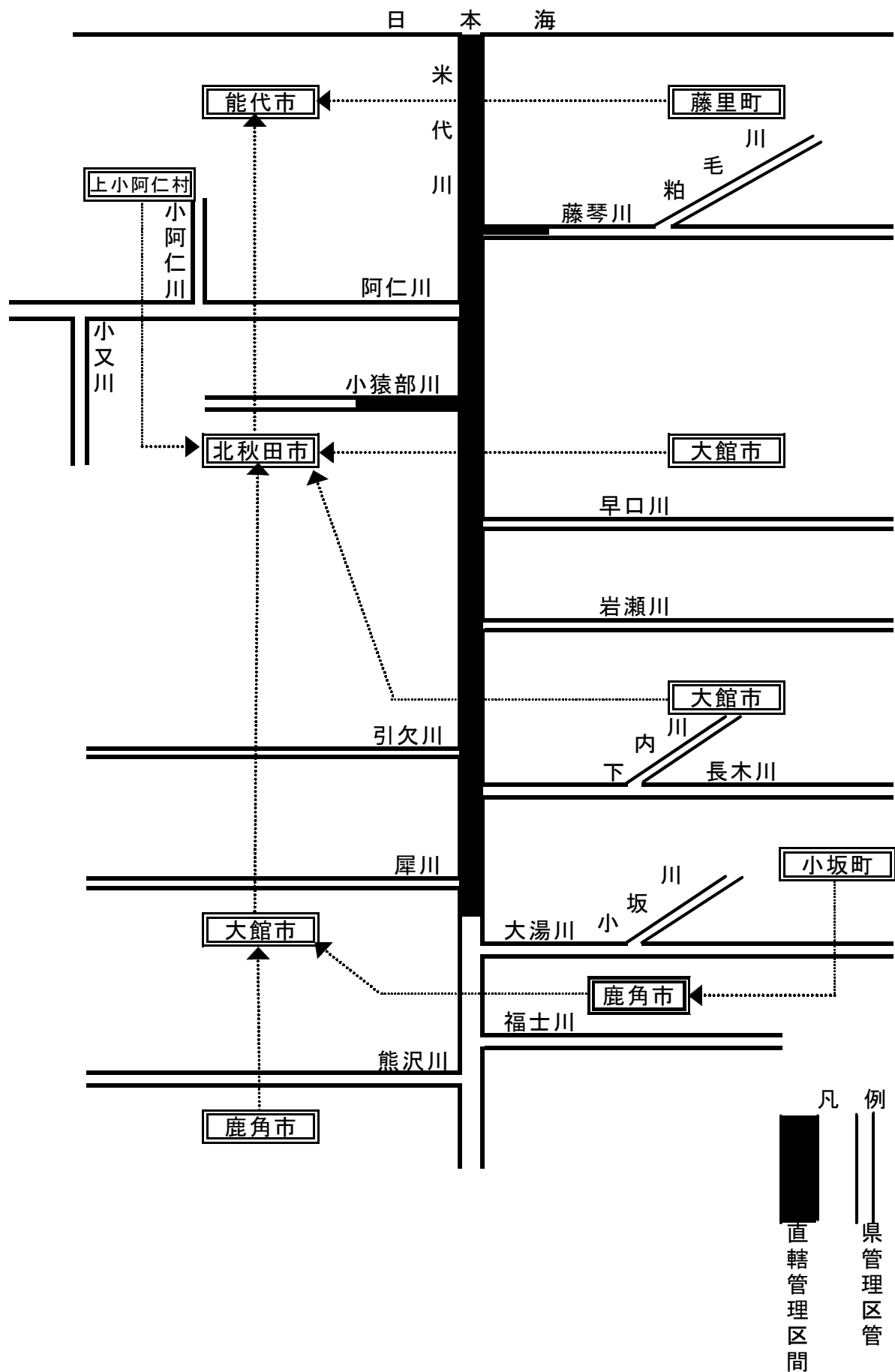
(子吉川水系)



(雄物川水系)



(米代川水系)





## 第 8 章 ダム一覧表

## 第8章 ダム一覧表

### 8-1 秋田県内ダム一覧表

ダム名	萩 形	森 吉	早 口	山 瀬	素 波 里	水 沢	旭 川
諸 元	米代川左支川 小阿仁川	米代川左支川 小又川	米代川右支川 早口川	米代川右支川 岩瀬川	米代川右支川 粕毛川	水沢川本川	雄物川右支川 旭川
型 式	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	中 央 コ ア 型 ロックフィル	重 力 式 コンクリート	中 央 コ ア 型 ロックフィル	重 力 式 コンクリート
堤 高	m 61.0	62.0	61.0	62.0	72.0	46.5	51.5
堤 頂 長	m 173.0	105.0	178.0	380.0	142.0	235.0	380.0
堤 体 積	m <sup>3</sup> 111,000	75,000	199,000	1,625,000	115,000	568,000	125,000
堤 頂 標 高	m 227.0	353.0	316.0	198.0	152.0	186.5	146.5
集 水 面 積	km <sup>2</sup> 86.7	直接125.0間節14.0	48.5	67.2	100.0	27	34.4
貯 水 池 面 積	km <sup>2</sup> 0.85	1.56	0.33	0.94	1.92	0.24	0.35
総 貯 水 容 量	m <sup>3</sup> 14,950,000	37,200,000	6,550,000	12,900,000	42,500,000	3,001,000	5,200,000
有 効 貯 水 容 量	m <sup>3</sup> 11,650,000	26,900,000	5,050,000	10,900,000	39,500,000	2,596,000	4,200,000
堆 砂 容 量	m <sup>3</sup> 3,300,000	4,000,000	1,500,000	2,000,000	3,000,000	405,000	1,000,000
サ ー チ ャ ー ジ 容 量	m <sup>3</sup> 2,750,000	3,400,000	800,000	1,800,000	3,000,000	1,726,000	4,200,000
予 備 放 流 量	m <sup>3</sup> 520,000	4,300,000	150,000	-	1,000,000	-	-
洪水調節容量	m <sup>3</sup> 10,000,000	9,800,000	5,050,000	7,900,000	13,000,000	2,312,000	4,200,000
常 時 満 水 位	m 223.0	350.0	311.5	190.80	149.6	172.5	128.5
サ ー チ ャ ー ジ 水 位	m 226.0	352.0	314.0	192.70	151.0	181.5	144.5
洪水期間制限水位	m 211.5	348.6	290.2	181.50	144.2	168.0	-
予 備 放 流 水 位	m 210.25	洪水期融雪期345.6 348.6	289.0	-	143.5	-	-
堆 砂 位	m 205.50	320.0	289.0	173.50	110.6	165.0	125.0
計 画 高 水 流 量	m <sup>3</sup> /s 650	440	630	760	900	188.5	220
計 画 放 流 量	m <sup>3</sup> /s 50	190	170	200	250	27.0	50
調 節 流 量	m <sup>3</sup> /s 600	250	460	560	650	161.5	170
洪 水 流 量	m <sup>3</sup> /s 50	82	50	100	100	60	40
発電最大使用水量	m <sup>3</sup> /s 14.0	16.5	6.0	5.5	12.0	-	-
発電常時使用水量	m <sup>3</sup> /s 2.58	4.59	0.85	1.73	3.30	-	-
発 電 最 大 出 力	kw 15,500	6,500	7,500	2,100	6,300	-	-
発 電 常 時 出 力	kw 1,900	1,680	740	540	970	-	-
洪水調節方式	一 定 量	一 定 率 一 定 量	一 定 率 一 定 量	自 然 調 節	一 定 率 一 定 量	自 然 調 節	自 然 調 節
着 手 年 月 日	S 37.4	S 27.4	S 46.4	S 52.4	S 42.4	S 52.4	S 43.4
完 成 年 月 日	S 42.3	S 28.10	S 52.3	H 4.3	S 46.3	H 7.3	S 48.3
放 流 設 備	クレストラジアル ゲート 1門 コンジットラジアル ゲート 1門 放流ゲート 1門 (ジェットフロー ゲート φ700)	クレストローラー ゲート 1門	クレストラジアル ゲート 2門 コンジットラジアル ゲート 1門	オリスゲート 2.47×5.0 2門 オリスゲート 2.40×3.80 1門 自由越流堤 1.90×5.0 2門 自由越流堤 3.0×100.0 1門	クレストラジアル ゲート 2門 放流管 1門 温水放流管 1門	半管路式ローラー ゲート 2門 1.3×1.3 1門 スライドゲート φ900 2門 自由越流堤 (直入式シュート型) 2.5×80.27 1門	クレストラジアル ゲート 2門 コンジットコース ターゲート 1門 コンジットラジ アルゲート 1門

岩 見	大 内	鎧 畑	協 和	大 松 川	皆 瀬	板 戸	砂 子 沢
雄物川右支川 三内川	子吉川右支川 畑川	雄物川右支川 玉川	雄物川右支川 淀川	雄物川右支川 松川	雄物川右支川 皆瀬川	雄物川右支川 皆瀬川	米代川水系右 支川砂子沢川
重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート	表面遮水壁型 ロックフィル	重 力 式 コンクリート	重 力 式 コンクリート
66.5	27.5	58.5	49.3	65.0	66.5	28.7	78.5
242.0	106.0	236.0	222.5	296.0	215.0	120.0	185.0
197,000	21,490	192,000	168,900	294,000	コ 95,000 ロ 480,000	30,900	283,000
152.5	76.0	328.5	239.3	192.0	255.0	202.0	353.5
73.1	3.37	320.3	24.4	38.15	172.0	182.0	17.0
0.95	0.13	2.55	0.49	0.74	1.5	0.21	0.44
19,300,000	724,000	51,000,000	7,800,000	12,150,000	31,600,000	1,598,000	8,650,000
16,000,000	626,000	43,000,000	7,050,000	11,000,000	26,300,000	1,371,000	7,630,000
3,300,000	98,000	8,000,000	750,000	1,150,000	5,300,000	227,000	1,020,000
3,300,000	443,000	5,000,000	5,500,000	2,900,000	1,600,000	—	2,000,000
—	—	非洪水期 4,176,000	—	—	—	—	—
12,500,000	443,000	32,000,000	5,500,000	6,300,000	16,200,000	—	2,000,000
147.5	67.0	325.0	220.4	183.7	250.0	194.9	343.0
150.5	71.0	327.0	235.3	188.0	251.0	—	348.0
133.0	—	309.5	—	177.5	237.5	—	—
排洪水期 133.0	—	非洪水期 322.97	—	—	非洪水期 237.5	—	—
124.0	63.0	299.0	212.0	160.2	222.5	184.5	314
660	45	700	390	390	1,300	—	130
30	8	200	39	45	400	—	30
630	37	500	351	345	900	—	100
30	8	200	40	45	100	—	25
12.0	—	35.0	—	2.9	12.0	15.0	—
4.29	—	11.82	—	1.11	4.58	3.82	—
5,400	—	15,700	—	1,000	5,300	2,000	—
1,100	—	3,000	—	230	2,700	480	—
一 定 量	自 然 調 節	自然調節、一定量	自 然 調 節	自 然 調 節	自然調節、一定量	—	自 然 調 節
S 47.4	H 3.4	S 27.4	S 60.4	S 58.4	S 33.4	S 56.4	H 4.4
S 54.3	H 20.3	S 33.3	H 10.3	H 11.3	S 38.10	S 60.3	H 22.9
クレストラジアル ゲート 2門 コンジットコース ターゲート 1門 コンジットホロー ジェットバルブ 1門	オリフィスゲート 1.40×1.30 1門 自由越流堤 3.0×5.5 2門	クレストラジアル ゲート 3門 オリフィスローラー ゲート 2門	オリフィスゲート 2.1×2.0 1門 自由越流堤 2.4×11.5 6門	オリフィスゲート 2.35×2.35 1門 2.15×2.45 2門 自由越流堤 2.0×11.5 11門	クレストローラー ゲート 2門 オリフィスゲート 1門 ハウエルバンガー バルブ 1門	自由越流堤 7.1×60 1門 高圧スライドゲート 1.65×1.65 1門	自由越流堤 5.0×3.9 1門 2.9×12.0 2門 ジェットフローゲート φ500×1条、 φ300×1条

## 第 9 章 水防報告

## 第9章 水防報告

資料9-1 水防活動報告書様式(例)

### 水防活動実施報告書

平成 年 月 日  
作成責任者

出水の概況	川 警戒水位 m 雨 量 mm								
水防実施箇所	川 左岸 地先 m 右岸								
日時	自 月 日 時 至 月 日 時								
出動人員	水防団員	消防団員	その他	合計					
	人	人	人	人					
水防作業の概況及び工法	箇所 m 工 法								
水防の結果	効果被害	堤防 m m	田 m <sup>2</sup> m <sup>2</sup>	畑 m <sup>2</sup> m <sup>2</sup>	家 戸 戸	鉄道 m m	道路 m m	人口 人 人	その他
使用資器材	かます、俵					居住者の 出勤状況			
	万年、土俵								
	なわ					水防関係者の 死傷			
	丸太								
	その他					雨量水位の 状況			
水防活動に関する 自己批判 備考									

(注)水防を行った箇所ごとに作成すること。

平成27年台風○号における水防活動 (○○県○○市消防団・平成27年8月○日～○日)		
<p>○概 要</p> <p>○○市消防団は、平成27年8月○日、台風○号の影響に伴う集中豪雨に際し、延べ○部隊○名が出動。市内では、1時間雨量100mmを超える豪雨により河川が増水。各地で越水により床上浸水等の被害を受ける危険な状況の中、堤防への土のう積みや住民の避難誘導、人命救助を行い人的被害の軽減のため活動した。</p>		
活動時間	出動延人数	主な活動内容
8/○～8/○ 約12時間	○名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土のう積み(300袋)</li> <li>・避難誘導(20世帯)</li> <li>・排水作業(3件)</li> </ul>
水防活動または 被害状況写真	水防活動または 被害状況写真	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 水防活動実施箇所 地図 </div>
○○川左岸(○○地先) 堤防巡視	○○川左岸(○○地先) 積み土のう工	
水防活動または 被害状況写真	水防活動または 被害状況写真	
○○川右岸(○○地先) 月の輪工	○○地区の浸水被害	

## 第 1 0 章

### 水防協力団体の申請・指定及び運用

# 第 10 章 水防協力団体の申請・指定及び運用

## 10-1 水防協力団体指定要領

### 〇〇市（町）水防協力団体指定要領

#### 1. 趣旨

〇〇市（町）では、水防団員数の減少、サラリーマン化による実際に出動できない水防団員の増加並びに市民及び民間団体が自主的に災害救援活動に取り組む動きの活発化等、近年の水災防止体制を取り巻く環境の変化を踏まえ、本市（町）における水防団及び水防を行う消防機関が行う水防上必要な監視、警戒その他水防活動に協力することを目的に、水防法（以下「法」という。）に基づき、水防協力団体を指定することとした。

#### 2. 水防協力団体の要件（法36 条第1 項関係）

水防協力団体は、法第36 条に基づき、法人その他法人でない団体であって、事務所の所在地、構成員の資格、代表者の選任方法、総会の運営、会計に関する事項その他当該団体の組織及び運営に関する事項を内容とする規約その他これに準ずるものを有し、次項に規定する業務を適正かつ確実に行うことができると認められる者とする。

#### 3. 水防協力団体の業務（法37 条関係）

水防協力団体は、次に掲げる業務の範囲内で行うものとし、水防責任を有する水防管理者の所轄下にある水防団又は消防機関が行う水防活動と調和を図るものとする。

- （1）河川巡視、土のうの袋詰め及び運搬、避難支援などの水防団又は消防機関が行う水防上必要な監視、警戒その他の水防活動に協力することとし、構成員の安全を確保した上で行うことが可能な活動
- （2）水防に必要な器具、資材又は設備の保管及びその提供
- （3）水防協力団体の業務や活動を含む水防に関する広報活動、水防に関する情報の収集及びその提供
- （4）水防に関する意識調査、実態調査等の水防に関する調査研究
- （5）講習会や研修会等の実施等の水防に関する知識の普及及び啓発
- （6）水防意識の高揚を図るための自主的なパンフレットの作成、各種行事等の開催等の前各号に掲げる業務に附帯する業務

#### 4. 水防協力団体の申請方法（法36 条第1 項・第3 項関係）

- （1）水防協力団体の要件を満たす者で、〇〇市（町）水防協力団体の指定を受けようとする者は、水防管理者（〇〇市（町）長）（〇〇市（町）△△部□□課）に「〇〇市（町）水防協力団体指定申請書」（資料10-2）に「水防協力団体活動業務計画書」（資料10-3）及び水防協力団体組織体制一覧表（連絡先）」（任意様式）を添えて、2部提出するものとする。



- (2) 水防協力団体の名称、住所、事務所の所在地、業務内容、組織体制の変更をする場合も同様とする。(任意様式)

5. 水防協力団体の指定（法第36条第2項・第4項関係）

- (1) 水防管理者（〇〇市（町）長）は前項の申請により業務を適正かつ確実に行うことができるかと認められる場合は、水防協力団体として指定することができる。また、指定をしたときは、当該水防協力団体に対し、「〇〇市（町）水防協力団体認定書」（資料10-4）を交付するとともに、当該水防協力団体の名称、住所及び事務所の所在地を公示する。
- (2) 水防協力団体の名称、住所又は事務所の所在地の変更の届出があったときは、当該届出に係る事項を公示する。

6. その他

- (1) この要領に変更が生じたときは、関係機関と調整し、その都度改訂するものとする。
- (2) その他この要領の実施に必要な事項については、別途定めるものとする。

附 則

この要領は、平成〇〇年〇〇月〇〇日から施行する。

## 10-2 水防協力団体指定申請書様式

〇〇市（町）水防協力団体指定申請書	
	年 月 日
〇〇市（町）水防管理者	
〇〇市（町）長	様
	住 所
	（事務所所在地）
	団体の名称
	代表者氏名
<p>水防法第36条第1項及び〇〇市（町）水防協力団体指定要領第4の規定に基づき、〇〇市（町）水防協力団体の指定を受けたいので、別添「水防協力団体協力活動業務計画書」（資料10-3）を添えて申請します。</p>	

## 10-3 水防協力団体協力活動業務計画書

### 水防協力団体協力活動業務計画書

下記の〇〇市（町）の実施する水防活動に協力します。

記

※ご協力いただける項目の番号に○印を記入してください

I 河川巡視、土のうの袋詰め及び運搬、避難支援などの水防団又は消防機関が行う水防上必要な監視、警戒その他の水防活動への協力（指定要領3-（1）関係）

- 1 災害時における土のうの袋詰めや運搬などの水防活動への支援
- 2 災害時における小さな子供やお年寄りなどの災害時要援護者の救護
- 3 災害時における住民に対する洪水注意報、警報などの情報の広報
- 4 災害時における住民の避難誘導、避難所開設・運営への支援

II 水防に必要な器具、資材又は設備の保管及びその提供（指定要領3-（2）関係）

具体的な資器材の種類・数量及び保管場所等

III 水防協力団体の業務や活動を含む水防に関する広報活動、水防に関する情報の収集及びその提供（指定要領3-（3）関係）

- 1 日常における河川管理施設や許可工作物の安全性の点検や巡視
- 2 災害時における河川水位状況、雨量、強風状況などの情報連絡

IV 水防に関する意識調査、実態調査等の水防に関する調査研究（指定要領3-（4）関係）

- 1 市（町）が作成する洪水ハザードマップの配布

V 講習会や研修会等の実施等の水防に関する知識の普及及び啓発（指定要領3-（5）関係）

- 1 実体験等に基づく、浸水箇所や危険箇所などの地域住民に対する水防知識の講習

VI 水防意識の高揚を図るための自主的なパンフレットの作成、各種行事等の開催等（指定要領3-（6）関係）

- 1 水防団が開催する水防演習への参加
- 2 住民の避難訓練の実施

◎その他ご協力いただける活動がありましたら内容をご記入ください。

## 10-4 水防協力団体認定書様式

〇〇市（町）水防協力団体認定書	
	年 月 日
住 所	
（事務所所在地）	
団体の名称	
代 表 者	様
	〇〇市（町）水防管理者
	〇〇市（町）長
水防法第36条第1項及び〇〇市（町）水防協力団体指定要領第4の規定に基づき、貴団体を〇〇市（町）水防協力団体に指定します。	

## 10-5 水防協力団体との水防協働活動実施要領

### 〇〇市（町）における水防協力団体との水防協働活動実施要領

#### 1. 趣旨

〇〇市（町）における水防活動は、〇〇市（町）水防計画書に活動内容を明記しているところであるが、水防法が一部改正され、水防協力団体制度が創設されたことに伴い、本市（町）において水防協力団体を指定した際に水防団及び水防活動を行う消防機関と水防協力団体との水防活動の連携、協働業務等について本要領に定めるものとする。

#### 2. 水防団等と水防協力団体との連携（水防法38 条関係）

水防法第36 条及び〇〇市（町）水防協力団体指定要領に基づき指定された水防協力団体が行う水防活動は、水防団又は水防を行う消防機関による水防活動に対する協力業務であり密接な連携の下、活動を行うものとする。

#### 3. 活動報告書の提出（水防法第39 条関係）

連携して行われる水防の効果が最大限発揮されるよう、指定された水防協力団体に対し、水防活動の活動記録についてその内容を明記した「水防協力団体活動報告書」（資料10-6）を提出させることができる。

#### 4. 情報提供等（水防法第40 条関係）

水防管理者は、〇〇市（町）水防協力団体指定要領4に基づき提出された「水防協力団体活動業務計画書」や前項の「水防協力団体活動報告書」で示された活動内容について、その活動の実施に関し、必要な情報や指導、助言を行う。

#### 5. その他

- （1）この要領に変更が生じたときは、関係機関と調整し、その都度改訂するものとする。
- （2）その他この要領の実施に必要な事項については、別途定めるものとする。

#### 附 則

この要領は、平成〇〇年〇〇月〇〇日から施行する。

## 10-6 水防協力団体協力活動報告書様式

〇〇市（町）水防協力団体協力活動報告書	
	年 月 日
〇〇市（町）水防管理者	
〇〇市（町）長	様
	住 所
	（事務所所在地）
	団体の名称
	代表者氏名
別紙のとおり水防活動を実施しましたので、〇〇市（町）水防協力団体指定要領第6の規定に基づき提出します。	

付則資料  
秋田県水防協議会

# 秋田県水防協議会

## 1 秋田県水防協議会委員名簿

平成29年6月12日現在

役職	現職名	委員氏名	就任年月日	選任の理由
会長	秋田県知事	佐竹 敬久	平成21年4月20日	水防法第8条第4項
委員	秋田県町村会副会長 八峰町長	加藤 和夫	平成28年4月1日	町村会の代表 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	秋田県指定水防管理団体 連合協議会会長	福原 淳嗣	平成27年5月1日	河川協会等の代表 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東日本旅客鉄道株式会社 執行役員秋田支社長	白石 敏男	平成27年4月1日	輸送関係者の代表 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東日本電信電話株式会社 秋田支店長	窪田 和樹	平成27年6月19日	通信関係者の代表 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東北電力株式会社 執行役員秋田支店長	阿部 聡	平成27年4月1日	工作物管理者等の代表 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	陸上自衛隊第21普通科 連隊長(兼)秋田駐屯地	前島 政樹	平成28年4月1日	水防に密接な関係者 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東北森林管理局長	瀬戸 宣久	平成28年4月1日	水防に密接な関係者 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	秋田地方気象台長	岩尾 尊徳	平成26年4月1日	気象関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東北地方整備局 秋田河川国道事務所長	渡邊 政義	平成27年4月1日	地方整備局関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東北地方整備局 能代河川国道事務所長	坂 憲浩	平成28年4月1日	地方整備局関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	東北地方整備局 湯沢河川国道事務所長	平野 明徳	平成26年4月1日	地方整備局関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	公募委員	蝦名 萬智子	平成28年4月1日	民間の知識経験者 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	秋田県警察本部長	小嶋 典明	平成27年4月1日	警察関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	秋田県総務部危機管理監 広報監(兼)総務部次長	鎌田 雅人	平成29年6月12日	消防関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)
委員	秋田県建設部長	前佛 和秀	平成28年4月1日	土木関係職員 (昭和24年建設次官通牒による)



## 2 秋田県水防協議会条例

昭和25年4月25日

秋田県条例第15号

最終改正平成26年4月1日条例第72号

秋田県水防協議会条例をここに公布する。

### 秋 田 県 水 防 協 議 会 条 例

#### (設 置)

第一条 水防法(昭和二十四年法律第百九十三号)第八条第一項の規定に基づき、水防計画その他水防に関重要な事項を調査審議するため、秋田県水防協議会(以下「協議会」という。)を置く。

#### (会 長)

第二条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

2. 会長に事故あるときは、会長のあらかじめ指定した委員が、その職務を代理する。

3. 会長及び会長の職務を代理する者に事故あるときは、出席委員のうちから互選された者が、その職務を代理する。

#### (委員)

第三条 委員の定数は、十五人以内とする。

2. 関係行政機関の職員である委員の任期は、当該職に在る期間とし、その他の委員の任期は二年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

3. 前項の委員は再任されることができる。

#### (招 集)

第四条 会長は、会議を招集し、議長となる。

#### (議 事)

第五条 協議会は、委員の二分の一以上が出席しなければ、会議を開く事ができない。

2. 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

#### (雑 則)

第六条 この条例の定めるものを除く外、協議会の運営について必要な事項は会長が定める。

#### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

#### 附 則

(平成12年条例第100号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

(平成26年条例第72号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

付則資料  
關係法令

# 関係法令

## 1 水防法

(昭和二十四年六月四日法律第百九十三号)  
最終改正：平成二七年五月二〇日法律第二二号

### 第一章 総則

#### (目的)

第一条 この法律は、洪水、雨水出水、津波又は高潮に際し、水災を警戒し、防御し、及びこれによる被害を軽減し、もって公共の安全を保持することを目的とする。

#### (定義)

第二条 この法律において「雨水出水」とは、一時的に大量の降雨が生じた場合において下水道その他の排水施設に当該雨水を排除できないこと又は下水道その他の排水施設から河川その他の公共の水域若しくは海域に当該雨水を排除できないことによる出水をいう。

2 この法律において「水防管理団体」とは、次条の規定により水防の責任を有する市町村（特別区を含む。以下同じ。）又は水防に関する事務を共同に処理する市町村の組合（以下「水防事務組合」という。）若しくは水害予防組合をいう。

3 この法律において「水防管理者」とは、水防管理団体である市町村の長又は水防事務組合の管理者若しくは長若しくは水害予防組合の管理者をいう。

4 この法律において「消防機関」とは、消防組織法（昭和二十二年法律第二百二十六号）第九条に規定する消防の機関をいう。

5 この法律において「消防機関の長」とは、消防本部を置く市町村にあつては消防長を、消防本部を置かない市町村にあつては、消防団の長をいう。

6 この法律において「水防計画」とは、水防上必要な監視、警戒、通信、連絡、輸送及びダム又は水門若しくは閘門の操作、水防のための水防団、消防機関及び水防協力団体（第三十六条第一項の規定により指定された水防協力団体をいう。以下第四章までにおいて同じ。）の活動、一の水防管理団体と他の水防管理団体との間における協力及び応援、水防のための活動に必要な河川管理者（河川法（昭和三十一年法律第百六十七号）第七条（同法第百条第一項において準用する場合を含む。）に規定する河川管理者をいう。第七条第三項において同じ。）及び同法第九条第二項又は第五項の規定により都道府県知事又は地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の十九第一項の指定都市の長が河川法第九条第二項に規定する指定区間内の一級河川（同法第四条第一項に規定する一級河川をいう。以下同じ。）の管理の一部を行う場合における当該都道府県知事又は当該指定都市の長並びに下水道管理者（下水道法（昭和三十三年法律第七十九号）第四条第一項に規定する公共下水道管理者、同法第二十五条の十一第一項に規定する流域下水道管理者及び同法第二十七条第一項に規定する都市下水路管理者をいう。第七条第四項において同じ。）の協力並びに水防に必要な器具、資材及び設備の整備及び運用に関する計画をいう。

7 この法律において「量水標等」とは、量水標、験潮儀その他の水位観測施設をいう。

8 この法律において「水防警報」とは、洪水、津波又は高潮によつて災害が発生するおそれがあるとき、水防を行う必要がある旨を警告して行う発表をいう。

### 第二章 水防組織

#### (市町村の水防責任)

第三条 市町村は、その区域における水防を十分に果すべき責任を有する。ただし、水防事務組合が水防を行う区域及び水害予防組合の区域については、この限りでない。

(水防事務組合の設立)

第三条の二 地形の状況により、市町村が単独で前条の責任を果たすことが著しく困難又は不適當であると認められる場合においては、関係市町村は、洪水、雨水出水、津波又は高潮による被害の共通性を勘案して、共同して水防を行う区域を定め、水防事務組合を設けなければならない。

(水害予防組合の区域を水防を行う区域とする水防事務組合が設けられる場合の特別措置)

第三条の三 水害予防組合法（明治四十一年法律第五十号）第十五条第一項の規定により都道府県知事が水害予防組合を廃止しようとする場合において、当該水害予防組合の区域の全部又は一部について、当該水害予防組合に代るべき水防管理団体として引き続き水防事務組合が設けられるときは、都道府県知事は、同条第三項の規定にかかわらず、当該水害予防組合が、その有する財産及び負債のうち水防の用に供せられ、又は供せられる予定となつている財産及びこれらの財産に係る負債以外の財産及び負債の処分を完了したときは、当該水害予防組合を廃止することができる。

2 前項の規定により廃止される水害予防組合は、その廃止の日において有する水防の用に供せられ、又は供せられる予定となつている財産を、当該水害予防組合の区域の全部を水防を行う区域とする一の水防事務組合が設けられる場合においては、当該水防事務組合に、当該水害予防組合の区域について二以上の水防事務組合が設けられる場合又は当該水害予防組合の区域の一部が市町村の水防を行うべき区域となる場合においては、当該水害予防組合と関係水防事務組合又は市町村との協議に基き、関係水防事務組合又は市町村に無償譲渡し、当該水防事務組合又は市町村は、それぞれ、その譲渡される財産に係る負債を引き受けなければならない。この場合においては、当該水害予防組合は、当該財産の譲渡及び負債の引継のために必要な範囲内において、当該財産の譲渡及び負債の引継を完了するまで、なお存続するものとみなす。

(水防事務組合の議会の議員の選挙)

第三条の四 水防事務組合の議会の議員は、組合規約で定めるところにより、関係市町村の議会において、当該市町村の議会の議員の被選挙権を有する者で水防に関し学識経験があり、かつ、熱意があると認められるもののうちから選挙するものとする。ただし、数市町村にわたる水防上の特別の利害を調整する必要があると認められるときは、組合規約で定めるところにより、当該市町村の議会の議員の被選挙権を有する者で水防に関し学識経験があり、かつ、熱意があると認められるものにつき当該市町村の長が推薦した者のうちから選挙することができる。この場合において、市町村の長が推薦した者のうちから選挙される議員の数は、当該市町村の議会において選挙される議員の数の二分の一をこえてはならない。

2 前項の規定により関係市町村の議会において選挙される議員の数は、水防事務組合の行う事業による受益の割合及び防護すべき施設の延長の割合を勘案して定めるものとする。

(水防事務組合の経費の分賦)

第三条の五 水防事務組合の経費の関係市町村に対する分賦は、前条第二項に規定する割合を勘案して定めるものとする。

(都道府県の水防責任)

第三条の六 都道府県は、その区域における水防管理団体が行う水防が十分に行われるように確保すべき責任を有する。

(指定水防管理団体)

第四条 都道府県知事は、水防上公共の安全に重大な関係のある水防管理団体を指定することができる。

(水防の機関)

第五条 水防管理団体は、水防事務を処理するため、水防団を置くことができる。

2 前条の規定により指定された水防管理団体（以下「指定管理団体」という。）は、その区域内に

ある消防機関が水防事務を十分に処理することができないと認める場合においては、水防団を置かなければならない。

3 水防団及び消防機関は、水防に関しては水防管理者の所轄の下に行動する。

#### （水防団）

第六条 水防団は、水防団長及び水防団員をもつて組織する。

2 水防団の設置、区域及び組織並びに水防団長及び水防団員の定員、任免、給与及び服務に関する事項は、市町村又は水防事務組合にあつては条例で、水害予防組合にあつては組合会の議決で定める。

#### （公務災害補償）

第六条の二 水防団長又は水防団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは病気にかかり、又は公務による負傷若しくは病気により死亡し、若しくは障害の状態となつたときは、当該水防団長又は水防団員の属する水防管理団体は、政令で定める基準に従い、市町村又は水防事務組合にあつては条例で、水害予防組合にあつては組合会の議決で定めるところにより、その者又はその者の遺族がこれらの原因によつて受ける損害を補償しなければならない。

2 前項の場合においては、水防管理団体は、当該水防団長若しくは水防団員又はその者の遺族の福祉に関して必要な事業を行うように努めなければならない。

#### （退職報償金）

第六条の三 水防団長又は水防団員で非常勤のものが退職した場合においては、当該水防団長又は水防団員の属する水防管理団体は、市町村又は水防事務組合にあつては条例で、水害予防組合にあつては組合会の議決で定めるところにより、その者（死亡による退職の場合には、その者の遺族）に退職報償金を支給することができる。

#### （都道府県の水防計画）

第七条 都道府県知事は、水防事務の調整及びその円滑な実施のため、当該都道府県の水防計画を定め、及び毎年当該都道府県の水防計画に検討を加え、必要があると認めるときは、これを変更しなければならない。

2 都道府県の水防計画は、津波の発生時における水防活動その他の危険を伴う水防活動に従事する者の安全の確保が図られるように配慮されたものでなければならない。

3 都道府県知事は、当該都道府県の水防計画に河川管理者（河川法第九条第二項 又は第五項 の規定により都道府県知事又は地方自治法第二百五十二条の十九第一項 の指定都市の長が河川法第九条第二項 に規定する指定区間内の一級河川の管理の一部を行う場合にあつては、当該都道府県知事又は当該指定都市の長。以下この項において同じ。）による河川に関する情報の提供、水防訓練への河川管理者の参加その他の水防管理団体が行う水防のための活動に河川管理者の協力が必要な事項を記載しようとするときは、当該事項について、あらかじめ、河川管理者に協議し、その同意を得なければならない。

4 前項の規定は、都道府県知事が、当該都道府県の水防計画に水防管理団体が行う水防のための活動に下水道管理者の協力が必要な事項を記載しようとする場合について準用する。

5 都道府県知事は、第一項の規定により当該都道府県の水防計画を定め、又は変更しようとするときは、あらかじめ、都道府県水防協議会（次条第一項に規定する都道府県水防協議会をいい、これを設置しない都道府県にあつては、災害対策基本法（昭和三十六年法律第二百二十三号）第十四条第一項に規定する都道府県防災会議とする。）に諮らなければならない。

6 二以上の都道府県に係る水防事務については、関係都道府県知事は、あらかじめ協定して当該都道府県の水防計画を定め、国土交通大臣及び消防庁長官に報告しなければならない。報告した水防計画の変更についても、同様とする。

7 都道府県知事は、第一項又は前項の規定により当該都道府県の水防計画を定め、又は変更したときは、その要旨を公表するよう努めるものとする。

#### （都道府県水防協議会）

第八条 都道府県の水防計画その他水防に関し重要な事項を調査審議させるため、都道府県に都道府

県水防協議会を置くことができる。

2 都道府県水防協議会は、水防に関し関係機関に対して意見を述べることができる。

3 都道府県水防協議会は、会長及び委員をもつて組織する。

4 会長は、都道府県知事をもつて充てる。委員は、関係行政機関の職員並びに水防に関係のある団体の代表者及び学識経験のある者のうちから都道府県知事が命じ、又は委嘱する。

5 前各項に定めるものの外、都道府県水防協議会に関し必要な事項は、当該都道府県条例で定める。

### 第三章 水防活動

#### （河川等の巡視）

第九条 水防管理者、水防団長又は消防機関の長は、随時区域内の河川、海岸堤防、津波防護施設（津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第二百二十三号）第二条第十項に規定する津波防護施設をいう。以下この条において同じ。）等を巡視し、水防上危険であると認められる箇所があるときは、直ちに当該河川、海岸堤防、津波防護施設等の管理者に連絡して必要な措置を求めなければならない。

#### （国の機関が行う洪水予報等）

第十条 気象庁長官は、気象等の状況により洪水、津波又は高潮のおそれがあると認められるときは、その状況を国土交通大臣及び関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ放送機関、新聞社、通信社その他の報道機関（以下「報道機関」という。）の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 国土交通大臣は、二以上の都府県の区域にわたる河川その他の流域面積が大きい河川で洪水により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、気象庁長官と共同して、洪水のおそれがあると認められるときは水位又は流量を、はん濫した後においては水位若しくは流量又ははん濫により浸水する区域及びその水深を示して当該河川の状況を関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

3 都道府県知事は、前二項の規定による通知を受けた場合においては、直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者（量水標等の管理者をいう。以下同じ。）に、その受けた通知に係る事項（量水標管理者にあつては、洪水又は高潮に係る事項に限る。）を通知しなければならない。

#### （都道府県知事が行う洪水予報）

第十一条 都道府県知事は、前条第二項の規定により国土交通大臣が指定した河川以外の流域面積が大きい河川で洪水により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、洪水のおそれがあると認められるときは、気象庁長官と共同して、その状況を水位又は流量を示して直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 都道府県知事は、前項の規定による指定をしようとするときは、気象庁長官に協議するものとする。

#### （水位の通報及び公表）

第十二条 都道府県の水防計画で定める水防管理者又は量水標管理者は、洪水若しくは高潮のおそれがあることを自ら知り、又は第十条第三項若しくは前条第一項の規定による通知を受けた場合において、量水標等の示す水位が都道府県知事の定める通報水位を超えるときは、その水位の状況を、都道府県の水防計画で定めるところにより、関係者に通報しなければならない。

2 都道府県の水防計画で定める量水標管理者は、量水標等の示す水位が警戒水位（前項の通報水位を超える水位であつて洪水又は高潮による災害の発生を警戒すべきものとして都道府県知事が定める水位をいう。以下同じ。）を超えるときは、その水位の状況を、都道府県の水防計画で定めるところにより、公表しなければならない。

(国土交通大臣又は都道府県知事が行う洪水に係る水位情報の通知及び周知)

第十三条 国土交通大臣は、第十条第二項の規定により指定した河川以外の河川のうち、河川法第九条第二項 に規定する指定区間外の一級河川で洪水により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、洪水特別警戒水位（警戒水位を超える水位であつて洪水による災害の発生を特に警戒すべき水位をいう。次項において同じ。）を定め、当該河川の水位がこれに達したときは、その旨を当該河川の水位又は流量を示して関係都道府県知事に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 都道府県知事は、第十条第二項又は第十一条第一項の規定により国土交通大臣又は自らが指定した河川以外の河川のうち、河川法第九条第二項 に規定する指定区間内の一級河川又は同法第五条第一項 に規定する二級河川で洪水により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定した河川について、洪水特別警戒水位を定め、当該河川の水位がこれに達したときは、その旨を当該河川の水位又は流量を示して直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

3 都道府県知事は、第一項の規定による通知を受けた場合においては、直ちに都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に、その受けた通知に係る事項を通知しなければならない。

(都道府県知事又は市町村長が行う雨水出水に係る水位情報の通知及び周知)

第十三条の二 都道府県知事は、当該都道府県が管理する公共下水道等（下水道法第二条第三号 に規定する公共下水道、同条第四号 に規定する流域下水道又は同条第五号 に規定する都市下水路をいう。以下この条において同じ。）の排水施設等（排水施設又はこれを補完するポンプ施設若しくは貯留施設をいう。以下この条及び第十四条の二第一項において同じ。）で雨水出水により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定したものについて、雨水出水特別警戒水位（雨水出水による災害の発生を特に警戒すべき水位（公共下水道等の排水施設等の底面から水面までの高さをいう。以下この条において同じ。）をいう。次項において同じ。）を定め、当該排水施設等の水位がこれに達したときは、その旨を当該排水施設等の水位を示して直ちに当該都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

2 市町村長は、当該市町村が管理する公共下水道等の排水施設等で雨水出水により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定したものについて、雨水出水特別警戒水位を定め、当該排水施設等の水位がこれに達したときは、その旨を当該排水施設等の水位を示して直ちに当該市町村の存する都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

(都道府県知事が行う高潮に係る水位情報の通知及び周知)

第十三条の三 都道府県知事は、当該都道府県の区域内に存する海岸で高潮により相当な損害を生ずるおそれがあるものとして指定したものについて、高潮特別警戒水位（警戒水位を超える水位であつて高潮による災害の発生を特に警戒すべき水位をいう。）を定め、当該海岸の水位がこれに達したときは、その旨を当該海岸の水位を示して直ちに当該都道府県の水防計画で定める水防管理者及び量水標管理者に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させなければならない。

(関係市町村長への通知)

第十三条の四 第十条第二項若しくは第十三条第一項の規定により通知をした国土交通大臣又は第十一条第一項、第十三条第二項、第十三条の二第一項若しくは前条の規定により通知をした都道府県知事は、災害対策基本法第六十条第一項 の規定による避難のための立退きの勧告若しくは指示又は同条第三項 の規定による屋内での待避等の安全確保措置の指示の判断に資するため、関係市町村の長にその通知に係る事項を通知しなければならない。

(洪水浸水想定区域)

第十四条 国土交通大臣は、第十条第二項又は第十三条第一項の規定により指定した河川について、都道府県知事は、第十一条第一項又は第十三条第二項の規定により指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土

交通省令で定めるところにより、想定最大規模降雨（想定し得る最大規模の降雨であつて国土交通大臣が定める基準に該当するものをいう。次条第一項において同じ。）により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定するものとする。

2 前項の規定による指定は、指定の区域、浸水した場合に想定される水深その他の国土交通省令で定める事項を明らかにしてするものとする。

3 国土交通大臣又は都道府県知事は、第一項の規定による指定をしたときは、国土交通省令で定めるところにより、前項の国土交通省令で定める事項を公表するとともに、関係市町村の長に通知しなければならない。

4 前二項の規定は、第一項の規定による指定の変更について準用する。

#### （雨水出水浸水想定区域）

第十四条の二 都道府県知事は、第十三条の二第一項の規定により指定した排水施設等について、市町村長は、同条第二項の規定により指定した排水施設等について、雨水出水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、想定最大規模降雨により当該指定に係る排水施設に雨水を排除できなくなつた場合又は当該指定に係る排水施設（当該指定に係るポンプ施設又は貯留施設に接続する排水施設を含む。）から河川その他の公共の水域若しくは海域に雨水を排除できなくなつた場合に浸水が想定される区域を雨水出水浸水想定区域として指定するものとする。

2 前項の規定による指定は、指定の区域、浸水した場合に想定される水深その他の国土交通省令で定める事項を明らかにしてするものとする。

3 都道府県知事又は市町村長は、第一項の規定による指定をしたときは、国土交通省令で定めるところにより、前項の国土交通省令で定める事項を公表するとともに、都道府県知事にあつては、関係市町村の長に通知しなければならない。

4 前二項の規定は、第一項の規定による指定の変更について準用する。

#### （高潮浸水想定区域）

第十四条の三 都道府県知事は、第十三条の三の規定により指定した海岸について、高潮時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、想定し得る最大規模の高潮であつて国土交通大臣が定める基準に該当するものにより当該海岸について高潮による氾濫が発生した場合に浸水が想定される区域を高潮浸水想定区域として指定するものとする。

2 前項の規定による指定は、指定の区域、浸水した場合に想定される水深その他の国土交通省令で定める事項を明らかにしてするものとする。

3 都道府県知事は、第一項の規定による指定をしたときは、国土交通省令で定めるところにより、前項の国土交通省令で定める事項を公表するとともに、関係市町村の長に通知しなければならない。

4 前二項の規定は、第一項の規定による指定の変更について準用する。

#### （浸水想定区域における円滑かつ迅速な避難の確保及び浸水の防止のための措置）

第十五条 市町村防災会議（災害対策基本法第十六条第一項 に規定する市町村防災会議をいい、これを設置しない市町村にあつては、当該市町村の長とする。次項において同じ。）は、第十四条第一項の規定による洪水浸水想定区域の指定、第十四条の二第一項の規定による雨水出水浸水想定区域の指定又は前条第一項の規定による高潮浸水想定区域の指定があつたときは、市町村地域防災計画（同法第四十二条第一項 に規定する市町村地域防災計画をいう。以下同じ。）において、少なくとも当該洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域又は高潮浸水想定区域ごとに、次に掲げる事項について定めるものとする。ただし、第四号ハに掲げる施設について同号に掲げる事項を定めるのは、当該施設の所有者又は管理者からの申出があつた場合に限る。

一 洪水予報等（第十条第一項若しくは第二項若しくは第十一条第一項の規定により気象庁長官、国土交通大臣及び気象庁長官若しくは都道府県知事及び気象庁長官が行う予報又は第十三条第一項若しくは第二項、第十三条の二若しくは第十三条の三の規定により国土交通大臣、都道府県知事若しくは市町村長が通知し若しくは周知する情報をいう。以下同じ。）の伝達方法



- 二 避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項
- 三 災害対策基本法第四十八条第一項 の防災訓練として市町村長が行う洪水、雨水出水又は高潮に係る避難訓練の実施に関する事項
- 四 浸水想定区域内（洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域又は高潮浸水想定区域をいう。第三項において同じ。）に次に掲げる施設がある場合にあっては、これらの施設の名称及び所在地
- イ 地下街等（地下街その他地下に設けられた不特定かつ多数の者が利用する施設（地下に建設が予定されている施設又は地下に建設中の施設であつて、不特定かつ多数の者が利用すると見込まれるものを含む。）をいう。次条において同じ。）でその利用者の洪水時、雨水出水時又は高潮時（以下「洪水時等」という。）の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図る必要があると認められるもの
- ロ 要配慮者利用施設（社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要する者が利用する施設をいう。第十五条の三において同じ。）でその利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図る必要があると認められるもの
- ハ 大規模な工場その他の施設（イ又はロに掲げるものを除く。）であつて国土交通省令で定める基準を参酌して市町村の条例で定める用途及び規模に該当するもの（第十五条の四において「大規模工場等」という。）でその洪水時等の浸水の防止を図る必要があると認められるもの
- 五 その他洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項
- 2 市町村防災会議は、前項の規定により市町村地域防災計画において同項第四号に掲げる事項を定めるときは、当該市町村地域防災計画において、次の各号に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める者への洪水予報等の伝達方法を定めるものとする。
- 一 前項第四号イに掲げる施設（地下に建設が予定されている施設及び地下に建設中の施設を除く。）  
当該施設の所有者又は管理者及び次条第九項に規定する自衛水防組織の構成員
- 二 前項第四号ロに掲げる施設 当該施設の所有者又は管理者（第十五条の三第一項の規定により自衛水防組織が置かれたときは、当該施設の所有者又は管理者及び当該自衛水防組織の構成員）
- 三 前項第四号ハに掲げる施設 当該施設の所有者又は管理者（第十五条の四第一項の規定により自衛水防組織が置かれたときは、当該施設の所有者又は管理者及び当該自衛水防組織の構成員）
- 3 浸水想定区域をその区域に含む市町村の長は、国土交通省令で定めるところにより、市町村地域防災計画において定められた第一項各号に掲げる事項を住民、滞在者その他の者に周知させるため、これらの事項（次の各号に掲げる区域をその区域に含む市町村にあっては、それぞれ当該各号に定める事項を含む。）を記載した印刷物の配布その他の必要な措置を講じなければならない。
- 一 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成十二年法律第五十七号）第七条第一項 の土砂災害警戒区域 同法第八条第三項 に規定する事項
- 二 津波防災地域づくりに関する法律第五十三条第一項 の津波災害警戒区域 同法第五十五条 に規定する事項

（地下街等の利用者の避難の確保及び浸水の防止のための措置に関する計画の作成等）

第十五条の二 前条第一項の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた地下街等の所有者又は管理者は、単独で又は共同して、国土交通省令で定めるところにより、当該地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画を作成しなければならない。

2 前項の地下街等の所有者又は管理者は、同項に規定する計画を作成しようとする場合において、当該地下街等と連続する施設であつてその配置その他の状況に照らし当該地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保に著しい支障を及ぼすおそれのあるものがあるときは、あらかじめ、当該施設の所有者又は管理者の意見を聴くよう努めるものとする。

3 第一項の地下街等の所有者又は管理者は、同項に規定する計画を作成したときは、遅滞なく、これを市町村長に報告するとともに、公表しなければならない。

4 前二項の規定は、第一項に規定する計画の変更について準用する。

5 市町村長は、第一項の地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るため必要があると認めるときは、前条第一項の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた連続する二以上の地下街等の所有者又は管理者に対し、第一項に規定する

計画を共同して作成するよう勧告をすることができる。

6 市町村長は、第一項の地下街等の所有者又は管理者が同項に規定する計画を作成していない場合において、当該地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るため必要があると認めるときは、当該地下街等の所有者又は管理者に対し、必要な指示をすることができる。

7 市町村長は、前項の規定による指示を受けた第一項の地下街等の所有者又は管理者が、正当な理由がなく、その指示に従わなかつたときは、その旨を公表することができる。

8 第一項の地下街等（地下に建設が予定されている施設及び地下に建設中の施設を除く。以下この条において同じ。）の所有者又は管理者は、同項に規定する計画で定めるところにより、同項の地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止のための訓練を行わなければならない。

9 第一項の地下街等の所有者又は管理者は、国土交通省令で定めるところにより、同項の地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を行う自衛水防組織を置かなければならない。

10 第一項の地下街等の所有者又は管理者は、前項の規定により自衛水防組織を置いたときは、遅滞なく、当該自衛水防組織の構成員その他の国土交通省令で定める事項を市町村長に報告しなければならない。当該事項を変更したときも、同様とする。

（要配慮者利用施設の利用者の避難の確保のための措置に関する計画の作成等）

第十五条の三 第十五条第一項の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、国土交通省令で定めるところにより、当該要配慮者利用施設の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画を作成するとともに、当該計画で定めるところにより当該要配慮者利用施設の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保のための訓練を実施するほか、当該要配慮者利用施設の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を行う自衛水防組織を置くよう努めなければならない。

2 前項の要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、同項の規定による計画を作成し、又は自衛水防組織を置いたときは、遅滞なく、当該計画又は当該自衛水防組織の構成員その他の国土交通省令で定める事項を市町村長に報告しなければならない。当該計画又は当該事項を変更したときも、同様とする。

（大規模工場等における浸水の防止のための措置に関する計画の作成等）

第十五条の四 第十五条第一項の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた大規模工場等の所有者又は管理者は、国土交通省令で定めるところにより、当該大規模工場等の洪水時等の浸水の防止を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画を作成するとともに、当該計画で定めるところにより当該大規模工場等の洪水時等の浸水の防止のための訓練を実施するほか、当該大規模工場等の洪水時等の浸水の防止を行う自衛水防組織を置くよう努めなければならない。

2 前項の大規模工場等の所有者又は管理者は、同項の規定による計画を作成し、又は自衛水防組織を置いたときは、遅滞なく、当該計画又は当該自衛水防組織の構成員その他の国土交通省令で定める事項を市町村長に報告しなければならない。当該計画又は当該事項を変更したときも、同様とする。

（市町村防災会議の協議会が設置されている場合の準用）

第十五条の五 第十五条から前条までの規定は、災害対策基本法第十七条第一項の規定により水災による被害の軽減を図るため市町村防災会議の協議会が設置されている場合について準用する。この場合において、第十五条第一項中「市町村防災会議（災害対策基本法第十六条第一項に規定する市町村防災会議をいい、これを設置しない市町村にあつては、当該市町村の長とする）」とあるのは「市町村防災会議の協議会（災害対策基本法第十七条第一項に規定する市町村防災会議の協議会をいう）」と、「市町村地域防災計画（同法第四十二条第一項に規定する市町村地域防災計画をいう）」とあるのは「市町村相互間地域防災計画（同法第四十四条第一項に規定する市町村相互間地域防災計画をいう）」と、同条第二項中「市町村防災会議」とあるのは「市町村防災会議の協議会」と、同項、同条第三項、第十五条の二第一項及び第五項、第十五条の三第一項並びに前条第一項中「市町村地域防災計画」とあるのは「市町村相互間地域防災計画」と読み替えるものとする。

(水防警報)

第十六条 国土交通大臣は、洪水、津波又は高潮により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあると認めて指定した河川、湖沼又は海岸について、都道府県知事は、国土交通大臣が指定した河川、湖沼又は海岸以外の河川、湖沼又は海岸で洪水、津波又は高潮により相当な損害を生ずるおそれがあると認めて指定したものについて、水防警報をしなければならない。

2 国土交通大臣は、前項の規定により水防警報をしたときは、直ちにその警報事項を関係都道府県知事に通知しなければならない。

3 都道府県知事は、第一項の規定により水防警報をしたとき、又は前項の規定により通知を受けたときは、都道府県の水防計画で定めるところにより、直ちにその警報事項又はその受けた通知に係る事項を関係水防管理者その他水防に係る機関に通知しなければならない。

4 国土交通大臣又は都道府県知事は、第一項の規定により河川、湖沼又は海岸を指定したときは、その旨を公示しなければならない。

(水防団及び消防機関の出動)

第十七条 水防管理者は、水防警報が発せられたとき、水位が警戒水位に達したときその他水防上必要があると認めるときは、都道府県の水防計画で定めるところにより、水防団及び消防機関を出動させ、又は出動の準備をさせなければならない。

(優先通行)

第十八条 都道府県知事の定める標識を有する車両が水防のため出動するときは、車両及び歩行者は、これに進路を譲らなければならない。

(緊急通行)

第十九条 水防団長、水防団員及び消防機関に属する者は、水防上緊急の必要がある場所に赴くときは、一般交通の用に供しない通路又は公共の用に供しない空地及び水面を通行することができる。

(水防信号)

第二十条 都道府県知事は、水防に用いる信号を定めなければならない。

2 何人も、みだりに前項の水防信号又はこれに類似する信号を使用してはならない。

(警戒区域)

第二十一条 水防上緊急の必要がある場所においては、水防団長、水防団員又は消防機関に属する者は、警戒区域を設定し、水防関係者以外の者に対して、その区域への立入りを禁止し、若しくは制限し、又はその区域からの退去を命ずることができる。

2 前項の場所においては、水防団長、水防団員若しくは消防機関に属する者がいないとき、又はこれらの者の要求があつたときは、警察官は、同項に規定する者の職権を行うことができる。

(警察官の援助の要求)

第二十二条 水防管理者は、水防のため必要があると認めるときは、警察署長に対して、警察官の出動を求めることができる。

(応援)

第二十三条 水防のため緊急の必要があるときは、水防管理者は、他の水防管理者又は市町村長若しくは消防長に対して応援を求めることができる。応援を求められた者は、できる限りその求めに応じなければならない。

2 応援のため派遣された者は、水防については応援を求めた水防管理者の所轄の下に行動するものとする。

3 第一項の規定による応援のために要する費用は、当該応援を求めた水防管理団体が負担するものとする。

4 前項の規定により負担する費用の額及び負担の方法は、当該応援を求めた水防管理団体と当該応援を求められた水防管理団体又は市町村とが協議して定める。

（居住者等の水防義務）

第二十四条 水防管理者、水防団長又は消防機関の長は、水防のためやむを得ない必要があるときは、当該水防管理団体の区域内に居住する者、又は水防の現場にある者をして水防に従事させることができる。

（決壊の通報）

第二十五条 水防に際し、堤防その他の施設が決壊したときは、水防管理者、水防団長、消防機関の長又は水防協力団体の代表者は、直ちにこれを関係者に通報しなければならない。

（決壊後の処置）

第二十六条 堤防その他の施設が決壊したときにおいても、水防管理者、水防団長、消防機関の長及び水防協力団体の代表者は、できる限りはん濫による被害が拡大しないように努めなければならない。

（水防通信）

第二十七条 何人も、水防上緊急を要する通信が最も迅速に行われるように協力しなければならない。

2 国土交通大臣、都道府県知事、水防管理者、水防団長、消防機関の長又はこれらの者の命を受けた者は、水防上緊急を要する通信のために、電気通信事業法（昭和五十九年法律第八十六号）第二条第五号に規定する電気通信事業者がその事業の用に供する電気通信設備を優先的に利用し、又は警察通信施設、気象官署通信施設、鉄道通信施設、電気事業通信施設その他の専用通信施設を使用することができる。

（公用負担）

第二十八条 水防のため緊急の必要があるときは、水防管理者、水防団長又は消防機関の長は、水防の現場において、必要な土地を一時使用し、土石、竹木その他の資材を使用し、若しくは収用し、車両その他の運搬用機器若しくは排水用機器を使用し、又は工作物その他の障害物を処分することができる。

2 水防管理団体は、前項の規定により損失を受けた者に対し、時価によりその損失を補償しなければならない。

（立退きの指示）

第二十九条 洪水、雨水出水、津波又は高潮によつて氾濫による著しい危険が切迫していると認められるときは、都道府県知事、その命を受けた都道府県の職員又は水防管理者は、必要と認める区域の居住者、滞在者その他の者に対し、避難のため立ち退くべきことを指示することができる。水防管理者が指示をする場合においては、当該区域を管轄する警察署長にその旨を通知しなければならない。

（知事の指示）

第三十条 水防上緊急を要するときは、都道府県知事は、水防管理者、水防団長又は消防機関の長に対して指示をすることができる。

（重要河川における国土交通大臣の指示）

第三十一条 二以上の都府県に関係がある河川で、公共の安全を保持するため特に重要なものの水防上緊急を要するときは、国土交通大臣は、都道府県知事、水防管理者、水防団長又は消防機関の長に対して指示をすることができる。

（特定緊急水防活動）

第三十二条 国土交通大臣は、洪水、雨水出水、津波又は高潮による著しく激甚な災害が発生した場合において、水防上緊急を要すると認めるときは、次に掲げる水防活動（以下この条及び第四十三条の二において「特定緊急水防活動」という。）を行うことができる。

一 当該災害の発生に伴い浸入した水の排除

二 高度の機械力又は高度の専門的知識及び技術を要する水防活動として政令で定めるもの

2 国土交通大臣は、前項の規定により特定緊急水防活動を行おうとするときは、あらかじめ、当該特定緊急水防活動を行おうとする場所に係る水防管理者にその旨を通知しなければならない。特定緊急水防活動を終了しようとするときも、同様とする。

3 第一項の規定により国土交通大臣が特定緊急水防活動を行う場合における第十九条、第二十一条、第二十二条、第二十五条、第二十六条及び第二十八条の規定の適用については、第十九条中「水防団長、水防団員及び消防機関に属する者」とあり、第二十一条第一項中「水防団長、水防団員又は消防機関に属する者」とあり、及び同条第二項中「水防団長、水防団員若しくは消防機関に属する者」とあるのは「国土交通省の職員」と、第二十二条中「水防管理者」とあり、第二十五条中「水防管理者、水防団長、消防機関の長又は水防協力団体の代表者」とあり、第二十六条中「水防管理者、水防団長、消防機関の長及び水防協力団体の代表者」とあり、及び第二十八条第一項中「水防管理者、水防団長又は消防機関の長」とあるのは「国土交通大臣」と、同条第二項中「水防管理団体」とあるのは「国」とする。

#### （水防訓練）

第三十二条の二 指定管理団体は、毎年、水防団、消防機関及び水防協力団体の水防訓練を行わなければならない。

2 指定管理団体以外の水防管理団体は、毎年、水防団、消防機関及び水防協力団体の水防訓練を行うよう努めなければならない。

#### （津波避難訓練への参加）

第三十二条の三 津波防災地域づくりに関する法律第五十三条第一項の津波災害警戒区域に係る水防団、消防機関及び水防協力団体は、同法第五十四条第一項第三号に規定する津波避難訓練が行われるときは、これに参加しなければならない。

### 第四章 指定水防管理団体

#### （水防計画）

第三十三条 指定管理団体の水防管理者は、都道府県の水防計画に応じた水防計画を定め、及び毎年水防計画に検討を加え、必要があると認めるときは、これを変更しなければならない。

2 指定管理団体の水防管理者は、前項の規定により水防計画を定め、又は変更しようとするときは、あらかじめ、水防協議会（次条第一項に規定する水防協議会をいう。以下この項において同じ。）を設置する指定管理団体にあつては当該水防協議会、水防協議会を設置せず、かつ、災害対策基本法第十六条第一項に規定する市町村防災会議を設置する市町村である指定管理団体にあつては当該市町村防災会議に諮らなければならない。

3 指定管理団体の水防管理者は、第一項の規定により水防計画を定め、又は変更したときは、その要旨を公表するよう努めるとともに、遅滞なく、水防計画を都道府県知事に届け出なければならない。

4 第七条第二項から第四項までの規定は、指定管理団体の水防計画について準用する。

#### （水防協議会）

第三十四条 指定管理団体の水防計画その他水防に関し重要な事項を調査審議させるため、指定管理団体に水防協議会を置くことができる。ただし、水防事務組合及び水害予防組合については、これらに水防協議会を置くものとする。

2 指定管理団体の水防協議会は、水防に関し関係機関に対して意見を述べることができる。

3 指定管理団体の水防協議会は、会長及び委員をもつて組織する。

4 会長は、指定管理団体の水防管理者をもつて充てる。委員は、関係行政機関の職員並びに水防に関係のある団体の代表者及び学識経験のある者のうちから指定管理団体の水防管理者が命じ、又は委嘱する。

5 前各項に定めるもののほか、指定管理団体の水防協議会に関し必要な事項は、市町村又は水防事務組合にあつては条例で、水害予防組合にあつては組合会の議決で定める。

(水防団員の定員の基準)

第三十五条 都道府県は、条例で、指定管理団体の水防団員の定員の基準を定めることができる。

## 第五章 水防協力団体

(水防協力団体の指定)

第三十六条 水防管理者は、次条に規定する業務を適正かつ確実に行うことができると認められる法人その他これに準ずるものとして国土交通省令で定める団体を、その申請により、水防協力団体として指定することができる。

2 水防管理者は、前項の規定による指定をしたときは、当該水防協力団体の名称、住所及び事務所の所在地を公示しなければならない。

3 水防協力団体は、その名称、住所又は事務所の所在地を変更しようとするときは、あらかじめ、その旨を水防管理者に届け出なければならない。

4 水防管理者は、前項の規定による届出があつたときは、当該届出に係る事項を公示しなければならない。

(水防協力団体の業務)

第三十七条 水防協力団体は、次に掲げる業務を行うものとする。

一 水防団又は消防機関が行う水防上必要な監視、警戒その他の水防活動に協力すること。

二 水防に必要な器具、資材又は設備を保管し、及び提供すること。

三 水防に関する情報又は資料を収集し、及び提供すること。

四 水防に関する調査研究を行うこと。

五 水防に関する知識の普及及び啓発を行うこと。

六 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(水防団等との連携)

第三十八条 水防協力団体は、水防団及び水防を行う消防機関との密接な連携の下に前条第一号に掲げる業務を行わなければならない。

(監督等)

第三十九条 水防管理者は、第三十七条各号に掲げる業務の適正かつ確実な実施を確保するため必要があると認めるときは、水防協力団体に対し、その業務に関し報告をさせることができる。

2 水防管理者は、水防協力団体が第三十七条各号に掲げる業務を適正かつ確実に実施していないと認めるときは、水防協力団体に対し、その業務の運営の改善に関し必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

3 水防管理者は、水防協力団体が前項の規定による命令に違反したときは、その指定を取り消すことができる。

4 水防管理者は、前項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公示しなければならない。

(情報の提供等)

第四十条 国、都道府県及び水防管理団体は、水防協力団体に対し、その業務の実施に関し必要な情報の提供又は指導若しくは助言をするものとする。

## 第六章 費用の負担及び補助

(水防管理団体の費用負担)

第四十一条 水防管理団体の水防に要する費用は、当該水防管理団体が負担するものとする。

(利益を受ける市町村の費用負担)

第四十二条 水防管理団体の水防によつて当該水防管理団体の区域の関係市町村以外の市町村が著しく利益を受けるときは、前条の規定にかかわらず、当該水防に要する費用の一部は、当該水防により著しく利益を受ける市町村が負担するものとする。

2 前項の規定により負担する費用の額及び負担の方法は、当該水防を行う水防管理団体と当該水防により著しく利益を受ける市町村とが協議して定める。

3 前項の規定による協議が成立しないときは、水防管理団体又は市町村は、その区域の属する都道府県の知事にあつせんを申請することができる。

4 都道府県知事は、前項の規定による申請に基づいてあつせんをしようとする場合において、当事者のうちにその区域が他の都府県に属する水防管理団体又は市町村があるときは、当該他の都府県の知事と協議しなければならない。

（都道府県の費用負担）

第四十三条 この法律の規定により都道府県が処理することとされている事務に要する費用は、当該都道府県の負担とする。

（国の費用負担）

第四十三条の二 第三十二条第一項の規定により国土交通大臣が行う特定緊急水防活動に要する費用は、国の負担とする。

（費用の補助）

第四十四条 都道府県は、第四十一条の規定により水防管理団体が負担する費用について、当該水防管理団体に対して補助することができる。

2 国は、前項の規定により都道府県が水防管理団体に対して補助するときは、当該補助金額のうち、二以上の都府県の区域にわたる河川又は流域面積が大きい河川で洪水による国民経済に与える影響が重大なものの政令で定める水防施設の設置に係る金額の二分の一以内を、予算の範囲内において、当該都道府県に対して補助することができる。

3 前項の規定により国が都道府県に対して補助する金額は、当該水防施設の設置に要する費用の三分の一に相当する額以内とする。

## 第七章 雑則

（第二十四条の規定により水防に従事した者に対する災害補償）

第四十五条 第二十四条の規定により水防に従事した者が水防に従事したことにより死亡し、負傷し、若しくは病気にかかり、又は水防に従事したことによる負傷若しくは病気により死亡し、若しくは障害の状態となつたときは、当該水防管理団体は、政令で定める基準に従い、市町村又は水防事務組合にあつては条例で、水害予防組合にあつては組合会の議決で定めるところにより、その者又はその者の遺族がこれらの原因によつて受ける損害を補償しなければならない。

（表彰）

第四十六条 国土交通大臣は、水防管理者の所轄の下に水防に従事した者で当該水防に関し著しい功労があると認められるものに対し、国土交通省令で定めるところにより、表彰を行うことができる。

（報告）

第四十七条 国土交通大臣及び消防庁長官は、都道府県又は水防管理団体に対し、水防に関し必要な報告をさせることができる。

2 都道府県知事は、都道府県の区域内における水防管理団体に対し、水防に関し必要な報告をさせることができる。

（勧告及び助言）

第四十八条 国土交通大臣は都道府県又は水防管理団体に対し、都道府県知事は都道府県の区域内における水防管理団体に対し、水防に関し必要な勧告又は助言をすることができる。

（資料の提出及び立入り）

第四十九条 都道府県知事又は水防管理者は、水防計画を作成するために必要があると認めるときは、関係者に対して資料の提出を命じ、又は当該職員、水防団長、水防団員若しくは消防機関に属する者をして必要な土地に立ち入らせることができる。

2 都道府県の職員、水防団長、水防団員又は消防機関に属する者は、前項の規定により必要な土地に立ち入る場合においては、その身分を示す証票を携帯し、関係人の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

(消防事務との調整)

第五十条 水防管理者は、水防事務と水防事務以外の消防事務とが競合する場合の措置について、あらかじめ市町村長と協議しておかなければならない。

(権限の委任)

第五十一条 この法律に規定する国土交通大臣の権限は、国土交通省令で定めるところにより、その一部を地方整備局長又は北海道開発局長に委任することができる。

## 第八章 罰則

第五十二条 みだりに水防管理団体の管理する水防の用に供する器具、資材又は設備を損壊し、又は撤去した者は、三年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

2 前項の者には、情状により懲役及び罰金を併科することができる。

第五十三条 刑法（明治四十年法律第四十五号）第二百二十一条の規定の適用がある場合を除き、第二十一条の規定による立入りの禁止若しくは制限又は退去の命令に従わなかつた者は、六月以下の懲役又は三十万円以下の罰金に処する。

第五十四条 次の各号のいずれかに該当する者は、三十万円以下の罰金又は拘留に処する。

一 みだりに水防管理団体の管理する水防の用に供する器具、資材又は設備を使用し、又はその正当な使用を妨げた者

二 第二十条第二項の規定に違反した者

三 第四十九条第一項の規定による資料を提出せず、若しくは虚偽の資料を提出し、又は同項の規定による立入りを拒み、妨げ、若しくは忌避した者

## 附 則 抄

1 この法律は、公布の日から起算して六十日を経過した日から施行する。

2 国土交通大臣又は都道府県知事は、水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律（平成十七年法律第三十七号）附則第二条の規定により、国土交通大臣又は都道府県知事が第十三条第一項又は第二項の規定により指定した河川とみなされた河川については、平成二十二年三月三十一日までに、第十四条第一項の規定による浸水想定区域の指定をしなければならない。

3 国は、平成十七年度から平成二十一年度までの各年度に限り、都道府県に対し、予算の範囲内において、前項の浸水想定区域の指定をするために必要な河川がはん濫した場合に浸水するおそれがある土地の地形及び利用の状況その他の事項に関する調査（次項において「浸水想定区域調査」という。）に要する費用の三分の一以内を補助することができる。

4 国土交通大臣は、平成二十二年三月三十一日までの間、附則第二項の浸水想定区域の指定の適正を確保するために必要があると認めるときは、都道府県に対し、浸水想定区域調査又は土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第四条第一項の規定による調査の結果について、必要な報告を求めることができる。

附 則 （昭和二十七年七月三十一日法律第二五八号） 抄



1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。

附 則 （昭和二十九年六月一日法律第一四〇号）

この法律は、公布の日から施行する。

附 則 （昭和二十九年六月八日法律第一六三号） 抄

（施行期日）

1 この法律中、第五十三条の規定は、交通事件即決裁判手続法の施行の日から、その他の部分は、警察法（昭和二十九年法律第百六十二号。同法附則第一項但書に係る部分を除く。）の施行の日から施行する。

附 則 （昭和三十一年七月一日法律第六一号） 抄

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 （昭和三十一年六月一日法律第一四一号） 抄

1 この法律は、昭和三十一年七月一日から施行する。

附 則 （昭和三十三年五月一六日法律第一〇五号） 抄

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内で政令で定める日から施行する。

附 則 （昭和三十三年三月一五日法律第八号）

この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （昭和三十五年六月三〇日法律第一一三号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、昭和三十五年七月一日から施行する。

（経過規定）

第三条 この法律の施行の際現にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定により内閣総理大臣若しくは自治庁長官がし、又は国家消防本部においてした許可、認可その他これらに準ずる処分は、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定に基づいて、自治大臣がし、又は消防庁においてした許可、認可その他これらに準ずる処分とみなす。

2 この法律の施行の際現にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定により内閣総理大臣若しくは自治庁長官又は国家消防本部に対してした許可、認可その他これらに準ずる処分の申請、届出その他の行為は、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定に基づいて、自治大臣又は消防庁に対してした許可、認可その他これらに準ずる処分の申請、届出その他の行為とみなす。

附 則 （昭和四十七年六月二三日法律第九四号） 抄

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 （昭和五十七年七月一六日法律第六六号）

この法律は、昭和五十七年十月一日から施行する。

附 則 （昭和五十九年一二月二五日法律第八七号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、昭和六十年四月一日から施行する。

附 則 （昭和六〇年六月二一日法律第六九号） 抄

（施行期日）

1 この法律は、昭和六十年十月一日から施行する。

附 則 （平成六年六月二九日法律第四九号） 抄

（施行期日）

1 この法律中、第一章の規定及び次項の規定は地方自治法の一部を改正する法律（平成六年法律第四十八号）中地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二編第十二章の改正規定の施行の日から、第二章の規定は地方自治法の一部を改正する法律中地方自治法第三編第三章の改正規定の施行の日から施行する。

附 則 （平成七年四月二一日法律第六九号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成八年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条中地方公務員災害補償法目次、第三条第一項、第三章の章名、第三十三条第一項、第四十七条、第四十八条及び第七十二条から第七十四条までの改正規定、第二条及び第三条の規定並びに第四条中消防団員等公務災害補償等共済基金法第九条の三及び第二十四条第二項の改正規定並びに次条及び附則第三条の規定 平成七年八月一日

第三条 この法律の施行（附則第一条第一号の規定による施行をいう。）前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附 則 （平成十一年七月一六日法律第八七号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条中地方自治法第二百五十条の次に五条、節名並びに二款及び款名を加える改正規定（同法第二百五十条の九第一項に係る部分（両議院の同意を得ることに係る部分に限る。）に限る。）、第四十条中自然公園法附則第九項及び第十項の改正規定（同法附則第十項に係る部分に限る。）、第二百四十四条の規定（農業改良助長法第十四条の三の改正規定に係る部分を除く。）並びに第四百七十二条の規定（市町村の合併の特例に関する法律第六条、第八条及び第十七条の改正規定に係る部分を除く。）並びに附則第七条、第十条、第十二条、第五十九条ただし書、第六十条第四項及び第五項、第七十三条、第七十七条、第二百五十七条第四項から第六項まで、第一百六十条、第一百六十三条、第一百六十四条並びに第二百二条の規定 公布の日

（国等の事務）

第百五十九条 この法律による改正前のそれぞれの法律に規定するもののほか、この法律の施行前において、地方公共団体の機関が法律又はこれに基づく政令により管理し又は執行する国、他の地方公共団体その他公共団体の事務（附則第百六十一条において「国等の事務」という。）は、この法律の施行後は、地方公共団体が法律又はこれに基づく政令により当該地方公共団体の事務として処理するものとする。

（処分、申請等に関する経過措置）

第百六十条 この法律（附則第一条各号に掲げる規定については、当該各規定。以下この条及び附則第百六十三条において同じ。）の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定によりされた許可等の処分その他の行為（以下この条において「処分等の行為」という。）又はこの法律の施行の際現に改正前のそれぞれの法律の規定によりされている許可等の申請その他の行為（以下この条において「申請等の行為」という。）で、この法律の施行の日においてこれらの行為に係る行政事務を行うべき者が異なることとなるものは、附則第二条から前条までの規定又は改正後のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の経過措置に関する規定に定めるものを除き、この法律の施行の日以後における改正後のそれぞれの法律の適用については、改正後のそれぞれの法律の相当規定によりされた処分等の行為又は申請等の行為とみなす。

2 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定により国又は地方公共団体の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、これを、改正後のそれぞれの法律の相当規定により国又は地方公共団体の相当の機関に対して報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、この法律による改正後のそれぞれの法律の規定を適用する。

（不服申立てに関する経過措置）

第百六十一条 施行日前にされた国等の事務に係る処分であつて、当該処分をした行政庁（以下この条において「処分庁」という。）に施行日前に行政不服審査法に規定する上級行政庁（以下この条において「上級行政庁」という。）があつたものについての同法による不服申立てについては、施行日以後においても、当該処分庁に引き続き上級行政庁があるものとみなして、行政不服審査法の規定を適用する。この場合において、当該処分庁の上級行政庁とみなされる行政庁は、施行日前に当該処分庁の上級行政庁であつた行政庁とする。

2 前項の場合において、上級行政庁とみなされる行政庁が地方公共団体の機関であるときは、当該機関が行政不服審査法の規定により処理することとされる事務は、新地方自治法第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務とする。

（手数料に関する経過措置）

第百六十二条 施行日前においてこの法律による改正前のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の規定により納付すべきであつた手数料については、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、なお従前の例による。

（罰則に関する経過措置）

第百六十三条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）

第百六十四条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

2 附則第十八条、第五十一条及び第百八十四条の規定の適用に関して必要な事項は、政令で定める。

（検討）

第二百五十条 新地方自治法第二条第九項第一号に規定する第一号法定受託事務については、できる限り新たに設けることのないようにするとともに、新地方自治法別表第一に掲げるもの及び新地方自治

法に基づく政令に示すものについては、地方分権を推進する観点から検討を加え、適宜、適切な見直しを行うものとする。

第二百五十一条 政府は、地方公共団体が事務及び事業を自主的かつ自立的に執行できるよう、国と地方公共団体との役割分担に応じた地方税財源の充実確保の方途について、経済情勢の推移等を勘案しつつ検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

第二百五十二条 政府は、医療保険制度、年金制度等の改革に伴い、社会保険の事務処理の体制、これに従事する職員の在り方等について、被保険者等の利便性の確保、事務処理の効率化等の視点に立って、検討し、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

附 則 （平成一一年一二月二二日法律第一六〇号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律（第二条及び第三条を除く。）は、平成十三年一月六日から施行する。

附 則 （平成一三年六月一三日法律第四六号） 抄

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附 則 （平成一七年五月二日法律第三七号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第一条のうち水防法第六条の二の次に一条を加える改正規定は、公布の日から施行する。

（水防法の一部改正に伴う経過措置）

第二条 この法律の施行の際現に第一条の規定による改正前の水防法（以下「旧法」という。）第十条第二項の規定により国土交通大臣が指定している河川以外の河川のうち河川法（昭和三十九年法律第百六十七号）第九条第二項に規定する指定区間外の一級河川（同法第四条第一項に規定する一級河川をいう。以下この条において同じ。）で旧法第十条の六第一項の規定により国土交通大臣が指定しているもの又は旧法第十条の二第一項の規定により都道府県知事が指定している河川以外の河川のうち河川法第九条第二項に規定する指定区間内の一級河川若しくは同法第五条第一項に規定する二級河川で旧法第十条の六第一項の規定により都道府県知事が指定しているもの（専ら高潮による災害について水防を行うべきものとして都道府県知事が指定するものを除く。）については、それぞれ、第一条の規定による改正後の水防法（以下「新法」という。）第十三条第一項の規定により国土交通大臣が指定した河川又は同条第二項の規定により都道府県知事が指定した河川とみなす。

第三条 旧法の規定によってした処分、手続その他の行為であつて、新法の規定に相当の規定があるものは、これらの規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。

（政令への委任）

第四条 前二条に定めるもののほか、この法律の施行に関して必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 （平成一八年六月二日法律第五〇号）

この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。

附 則 （平成二二年一月二五日法律第五二号） 抄

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成二三年六月二四日法律第七四号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附 則 （平成二三年八月三〇日法律第一〇五号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

（罰則に関する経過措置）

第八十一条 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定。以下この条において同じ。）の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第八十二条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則 （平成二三年一二月一四日法律第一二四号） 抄

（施行期日）

1 この法律は、津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第二百二十三号）の施行の日から施行する。

附 則 （平成二五年六月一二日法律第三五号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（水防法の一部改正に伴う経過措置）

第二条 この法律の施行の際現に第一条の規定による改正前の水防法第三十六条第一項の規定により指定されている水防協力団体は、第一条の規定による改正後の水防法（附則第六条において「新水防法」という。）第三十六条第一項の規定により指定された水防協力団体とみなす。

（罰則の適用に関する経過措置）

第四条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第五条 前三条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

（検討）

第六条 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、新水防法及び新河川法の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

る。

附 則 （平成二五年六月一四日法律第四四号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

二 第一条、第五条、第七条（消防組織法第十五条の改正規定に限る。）、第九条、第十条、第十四条（地方独立行政法人法目次の改正規定（「第六章 移行型地方独立行政法人の設立に伴う措置（第五十九条―第六十七条）」を「第六章 移行型地方独立行政法人の設立に伴う措置（第五十九条―第六十七条）」）

第六章の二 特定地方独立行政法人から一般地方独立行政法人への移行に伴う措置（第六十七条の二―第六十七条の七）」に改める部分に限る。）、同法第八条、第五十五条及び第五十九条第一項の改正規定並びに同法第六章の次に一章を加える改正規定を除く。）、第十五条、第二十二條（民生委員法第四条の改正規定に限る。）、第三十六条、第四十条（森林法第七十条第一項の改正規定に限る。）、第五十条（建設業法第二十五条の二第一項の改正規定に限る。）、第五十一条、第五十二条（建築基準法第七十九条第一項の改正規定に限る。）、第五十三条、第六十一条（都市計画法第七十八条第二項の改正規定に限る。）、第六十二条、第六十五条（国土利用計画法第十五条第二項の改正規定を除く。）及び第七十二条の規定並びに次条、附則第三条第二項、第四条、第六条第二項及び第三項、第十三条、第十四条（地方公務員等共済組合法（昭和三十七年法律第百五十二号）第百四十一条の二の次に二条を加える改正規定中第百四十一条の四に係る部分に限る。）、第十六条並びに第十八条の規定 平成二十六年四月一日

（罰則に関する経過措置）

第十条 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定）の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第十一条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則 （平成二五年六月二一日法律第五四号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

三 附則第七条の規定 水防法及び河川法の一部を改正する法律（平成二十五年法律第三十五号）の施行の日又はこの法律の施行の日のいずれか遅い日

（政令への委任）

第二十二條 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 （平成二六年一一月一九日法律第一〇九号） 抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して二月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 （平成二七年五月二〇日法律第二二号） 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して二月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(水防法の一部改正に伴う経過措置)

第二条 第一条の規定による改正後の水防法（以下この条において「新水防法」という。）第十四条第一項の規定により洪水浸水想定区域の指定がされるまでの間は、この法律の施行の際現に第一条の規定による改正前の水防法第十四条第一項の規定により指定されている浸水想定区域は、新水防法第十四条第一項の規定により指定された洪水浸水想定区域とみなす。

2 前項の規定により洪水浸水想定区域とみなされた浸水想定区域に対する新水防法第十五条から第十五条の四までの規定の適用については、新水防法第十五条第一項中「第十四条第一項の規定による洪水浸水想定区域の指定、第十四条の二第一項の規定による雨水出水浸水想定区域の指定又は前条第一項の規定による高潮浸水想定区域の指定があつたときは」とあるのは「水防法等の一部を改正する法律（平成二十七年法律第二十二号。以下この項において「改正法」という。）の施行後速やかに」と、「同法」とあるのは「災害対策基本法」と、「当該洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域又は高潮浸水想定区域」とあるのは「改正法の施行の際現に改正法第一条の規定による改正前の水防法第十四条第一項の規定により指定されている浸水想定区域（以下この条において単に「浸水想定区域」という。）」と、同項第一号中「、第十三条の二若しくは第十三条の三の規定」とあるのは「の規定」と、「、都道府県知事若しくは市町村長」とあるのは「若しくは都道府県知事」と、同項第三号中「洪水、雨水出水又は高潮」とあるのは「洪水」と、同項第四号中「浸水想定区域（洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域又は高潮浸水想定区域をいう。第三項において同じ。）」とあるのは「浸水想定区域」と、同号イ中「洪水時、雨水出水時又は高潮時（以下「洪水時等」という。）」とあるのは「洪水時」と、「洪水時等の」とあるのは「洪水時の」と、同号ロ及びハ並びに同項第五号並びに新水防法第十五条の二第一項、第二項、第五項、第六項、第八項及び第九項、第十五条の三第一項並びに第十五条の四第一項中「洪水時等」とあるのは「洪水時」とする。

(罰則に関する経過措置)

第五条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)

第六条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

## 2 水防法施行規則

(平成十二年十一月二十一日建設省令第四十四号)  
最終改正：平成二十七年七月十七日国土交通省令第五四号

水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第三十七条の二の規定に基づき、水防法第三十七条の二の規定により地方整備局長又は北海道開発局長に委任する権限を定める省令を次のように定める。

（洪水浸水想定区域の指定）

第一条 水防法（以下「法」という。）第十四条第一項 に規定する洪水浸水想定区域（以下単に「洪水浸水想定区域」という。）の指定は、同項 に規定する想定最大規模降雨（以下単に「想定最大規模降雨」という。）によって堤防その他の施設（以下「堤防等」という。）の決壊又は溢流が想定される地点を相当数選定して行うものとする。

2 洪水浸水想定区域の指定に当たっては、堤防等の構造及び管理の状況を勘案するものとする。

3 第一項の規定により選定する地点には、当該地点における堤防等の決壊又は溢流により浸水が想定される区域につき、当該区域が相当規模となるもの又は浸水した場合に想定される水深が相当な深さとなるものが含まなければならない。

4 第一項の規定により選定された地点における堤防等の決壊又は溢流により浸水が想定される区域が重複するときは、当該区域の全部をあわせた区域を一の区域とするものとする。

5 前項の場合において、重複する区域において想定される水深が第一項の規定により選定された地点により異なるときは、最大のものを想定される水深とする。

6 洪水浸水想定区域の指定は、想定最大規模降雨により、地上部分の浸水は想定されない地下街等（地下街その他地下に設けられた不特定かつ多数の者が利用する施設（地下に建設が予定されている施設又は地下に建設中の施設であって、不特定かつ多数の者が利用すると見込まれるものを含む。）をいう。以下同じ。）であって、当該地下街等と連続する施設から浸水するものの存する区域を含めて行うことができる。

（洪水浸水想定区域の指定の際の明示事項）

第二条 法第十四条第二項 の国土交通省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。

一 指定の区域

二 浸水した場合に想定される水深

三 浸水した場合に想定される浸水の継続時間（長時間にわたり浸水するおそれのある場合に限る。以下「浸水継続時間」という。）

四 河川法施行令（昭和四十年政令第十四号）第十条の二第二号 イに規定する基本高水の設定の前提となる降雨（第三条第二項において「計画降雨」という。）により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域及び浸水した場合に想定される水深

（洪水浸水想定区域等の公表）

第三条 法第十四条第三項 の規定による同条第二項 の国土交通省令で定める事項の公表は、当該事項を定めた旨について、国土交通大臣にあつては官報により、都道府県知事にあつては当該都道府県の公報又はウェブサイトへの掲載その他の適切な方法により行うとともに、これらを表示した図面を関係地方整備局若しくは北海道開発局又は都道府県知事の指定する場所において閲覧に供することにより行うものとする。

2 前項の図面には、洪水浸水想定区域の指定の前提となる降雨が想定最大規模降雨であること（前条第四号に掲げる事項を表示した図面にあつては、当該図面の前提となる降雨が計画降雨であること）を明示しなければならない。

（雨水出水浸水想定区域の指定）

第四条 法第十四条の二第一項 に規定する雨水出水浸水想定区域（以下単に「雨水出水浸水想定区域」という。）の指定は、下水道から河川その他の公共の水域又は海域（以下この項において「河川等」



という。)に雨水を放流する地点における当該河川等の水位の見込み、下水道の配置及び構造の状況等を勘案して行うものとする。

2 第一条第六項の規定は、雨水出水浸水想定区域の指定について準用する。

(雨水出水浸水想定区域の指定の際の明示事項)

第五条 法第十四条の二第二項 の国土交通省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。

- 一 指定の区域
- 二 浸水した場合に想定される水深
- 三 浸水継続時間
- 四 主要な地点における一定の時間ごとの水深の変化

(雨水出水浸水想定区域等の公表)

第六条 法第十四条の二第三項 の規定による同条第二項 の国土交通省令で定める事項の公表は、当該事項を定めた旨について、都道府県又は市町村の公報又はウェブサイトへの掲載その他の適切な方法により行うとともに、これらを表示した図面を都道府県知事又は市町村長の指定する場所において閲覧に供することにより行うものとする。

2 前項の図面には、雨水出水浸水想定区域の指定の前提となる降雨が想定最大規模降雨であることを明示しなければならない。

(高潮浸水想定区域の指定)

第七条 法第十四条の三第一項 に規定する高潮浸水想定区域（以下単に「高潮浸水想定区域」という。）の指定は、同項 に規定する想定し得る最大規模の高潮であって国土交通大臣が定める基準に該当するものによって堤防等の決壊が想定される当該海岸の全ての区間において堤防等が決壊することを想定して行うものとする。

2 高潮浸水想定区域の指定に当たっては、堤防等の構造及び管理の状況を勘案するものとする。

3 前項の場合には、都道府県知事は、堤防等の構造及び管理の状況について、海岸管理者その他の関係のある施設の管理者の意見を聴くものとする。

4 第一条第六項の規定は、高潮浸水想定区域の指定について準用する。この場合において、同項中「想定最大規模降雨」とあるのは、「想定し得る最大規模の高潮であって国土交通大臣が定める基準に該当するもの」と読み替えるものとする。

(高潮浸水想定区域の指定の際の明示事項)

第八条 法第十四条の三第二項 の国土交通省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。

- 一 指定の区域
- 二 浸水した場合に想定される水深
- 三 浸水継続時間

(高潮浸水想定区域等の公表)

第九条 法第十四条の三第三項 の規定による同条第二項 の国土交通省令で定める事項の公表は、当該事項を定めた旨について、都道府県の公報又はウェブサイトへの掲載その他の適切な方法により行うとともに、これらを表示した図面を都道府県知事の指定する場所において閲覧に供することにより行うものとする。

2 前項の図面には、高潮浸水想定区域の指定の前提となる高潮が想定し得る最大規模の高潮であって国土交通大臣が定める基準に該当するものであることを明示しなければならない。

(大規模な工場その他の施設の用途及び規模の基準)

第十条 法第十五条第一項第四号 ハの国土交通省令で定める基準は、工場、作業場又は倉庫で、延べ面積が一万平方メートル以上のものであることとする。

(市町村地域防災計画において定められた事項を住民等に周知させるための必要な措置)

第十一条 法第十五条第三項 の住民、滞在者その他の者（以下この条において「住民等」という。）に周知させるための必要な措置は、次に掲げるものとする。

一 第二条第一号及び第二号、第五条第一号及び第二号並びに第八条第一号及び第二号に掲げる事項を表示した図面に市町村地域防災計画において定められた法第十五条第一項 各号に掲げる事項（次のイ又はロに掲げる区域をその区域に含む市町村にあっては、それぞれイ又はロに定める事項を含む。）を記載したもの（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録を含む。）を、印刷物の配布その他の適切な方法により、各世帯に提供すること。

イ 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成十二年法律第五十七号）第七条第一項 の土砂災害警戒区域 同法第八条第三項 に規定する事項

ロ 津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第二百二十三号）第五十三条第一項 の津波災害警戒区域 同法第五十五条 に規定する事項

二 前号の図面に表示した事項及び記載した事項に係る情報を、インターネットの利用その他の適切な方法により、住民等がその提供を受けることができる状態に置くこと。

（地下街等の利用者の避難の確保及び浸水の防止のための措置に関する計画に定めるべき事項）

第十二条 法第十五条の二第一項 の地下街等の利用者の洪水時、雨水出水時又は高潮時（以下「洪水時等」という。）の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画においては、次に掲げる事項を定めなければならない。

一 地下街等における洪水時等の防災体制に関する事項

二 地下街等の利用者の洪水時等の避難の誘導に関する事項

三 地下街等における洪水時等の浸水の防止のための活動に関する事項

四 地下街等における洪水時等の避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るための施設の整備に関する事項

五 地下街等における洪水時等を想定した防災教育及び訓練の実施に関する事項

六 自衛水防組織の業務に関する次に掲げる事項

イ 法第二条第三項 に規定する水防管理者（以下単に「水防管理者」という。）その他関係者との連絡調整、利用者が避難する際の誘導、浸水の防止のための活動その他の水災による被害の軽減のために必要な業務として自衛水防組織が行う業務に係る活動要領に関する事項

ロ 自衛水防組織の構成員に対する教育及び訓練に関する事項

ハ その他自衛水防組織の業務に関し必要な事項

七 前各号に掲げるもののほか、地下街等の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時等の浸水の防止を図るために必要な措置に関する事項

２ 地下街等の所有者又は管理者は、雨水出水に係る前項の計画において同項第二号に掲げる事項を定めるときは、当該地下街等の利用者の全てが安全に避難できることを国土交通大臣が定める方法により確認するものとする。

（統括管理者の設置等）

第十三条 地下街等の自衛水防組織には、統括管理者を置かなければならない。

２ 統括管理者は、地下街等の自衛水防組織を統括する。

３ 地下街等の自衛水防組織にその業務を分掌する内部組織を編成する場合は、当該内部組織の業務の内容及び活動の範囲を明確に区分し、当該内部組織にその業務の実施に必要な要員を配置するとともに、当該内部組織を統括する者を置くものとする。

（連続する二以上の地下街等の所有者又は管理者による地下街等の自衛水防組織の設置）

第十四条 法第十五条第一項 の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた連続する二以上の地下街等の所有者又は管理者が共同して法第十五条の二第一項 に規定する計画を作成するときは、当該地下街等の所有者又は管理者は、共同して自衛水防組織を置くことができる。

（地下街等の自衛水防組織の設置に係る報告事項）

第十五条 法第十五条の二第十項 の国土交通省令で定める事項は、次に掲げるものとする。

- 一 統括管理者の氏名及び連絡先
- 二 自衛水防組織の内部組織の編成及び要員の配置
- 三 法第十五条第一項第一号 に規定する洪水予報等の伝達を受ける構成員の氏名及び連絡先

（要配慮者利用施設の利用者の避難の確保のための措置に関する計画に定めるべき事項）

第十六条 法第十五条の三第一項 の要配慮者利用施設（法第十五条第一項第四号 ロに規定する要配慮者利用施設をいう。以下同じ。）の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画においては、次に掲げる事項を定めなければならない。

- 一 要配慮者利用施設における洪水時等の防災体制に関する事項
- 二 要配慮者利用施設の利用者の洪水時等の避難の誘導に関する事項
- 三 要配慮者利用施設における洪水時等の避難の確保を図るための施設の整備に関する事項
- 四 要配慮者利用施設における洪水時等を想定した防災教育及び訓練の実施に関する事項
- 五 自衛水防組織を置く場合にあっては、当該自衛水防組織の業務に関する次に掲げる事項
- イ 水防管理者その他関係者との連絡調整、利用者が避難する際の誘導その他の水災による被害の軽減のために必要な業務として自衛水防組織が行う業務に係る活動要領に関する事項
- ロ 自衛水防組織の構成員に対する教育及び訓練に関する事項
- ハ その他自衛水防組織の業務に関し必要な事項
- 六 前各号に掲げるもののほか、要配慮者利用施設の利用者の洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置に関する事項

（自衛水防組織に関する規定の要配慮者利用施設についての準用）

第十七条 第十三条及び第十五条の規定は、要配慮者利用施設の自衛水防組織について準用する。この場合において、同条中「第十五条の二第十項」とあるのは、「第十五条の三第二項」と読み替えるものとする。

（大規模工場等における浸水の防止のための措置に関する計画に定めるべき事項）

第十八条 法第十五条の四第一項 の大規模工場等（法第十五条第一項第四号 ハに規定する大規模工場等をいう。以下同じ。）の洪水時等の浸水の防止を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画においては、次に掲げる事項を定めなければならない。

- 一 大規模工場等における洪水時等の防災体制に関する事項
- 二 大規模工場等における洪水時等の浸水の防止のための活動に関する事項
- 三 大規模工場等における洪水時等の浸水の防止を図るための施設の整備に関する事項
- 四 大規模工場等における洪水時等を想定した防災教育及び訓練の実施に関する事項
- 五 自衛水防組織を置く場合にあっては、当該自衛水防組織の業務に関する次に掲げる事項
- イ 水防管理者その他関係者との連絡調整、浸水の防止のための活動その他の水災による被害の軽減のために必要な業務として自衛水防組織が行う業務に係る活動要領に関する事項
- ロ 自衛水防組織の構成員に対する教育及び訓練に関する事項
- ハ その他自衛水防組織の業務に関し必要な事項
- 六 前各号に掲げるもののほか、大規模工場等の洪水時等の浸水の防止を図るために必要な措置に関する事項

（自衛水防組織に関する規定の大規模工場等についての準用）

第十九条 第十三条及び第十五条の規定は、大規模工場等の自衛水防組織について準用する。この場合において、同条中「第十五条の二第八項」とあるのは、「第十五条の二第十項」と読み替えるものとする。

（氾濫による被害の拡大を防止するための作業）

第二十条 水防法第三十二条第一項第二号の水防活動を定める政令（平成二十三年政令第四百二十八号）第五号 の国土交通省令で定める作業は、流水が河川外に流出した場合において、これによる災

害の発生を防止し、又は災害を軽減するために器具又は資材を設置し、水流を制御する作業とする。

（水防協力団体として指定することができる法人に準ずる団体）

第二十一条 法第三十六条第一項 の国土交通省令で定める団体は、法人でない団体であつて、事務所の所在地、構成員の資格、代表者の選任方法、総会の運営、会計に関する事項その他当該団体の組織及び運営に関する事項を内容とする規約その他これに準ずるものを有しているものとする。

（権限の委任）

第二十二条 法に規定する国土交通大臣の権限のうち、次に掲げるもの以外のものは、地方整備局長及び北海道開発局長に委任する。ただし、法第四十七条第一項 及び第四十八条 の規定に基づく権限については、国土交通大臣が自ら行うことを妨げない。

- 一 法第十条第二項 の規定により河川を指定すること。
- 二 法第十三条第一項 の規定により河川を指定すること。
- 三 法第十六条第一項 の規定により河川、湖沼又は海岸を指定すること。
- 四 法第三十一条 の規定により指示をすること。
- 五 法第四十六条 の規定により表彰を行うこと。

附 則

この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日（平成十三年一月六日）から施行する。

附 則 （平成一三年六月二六日国土交通省令第一〇二号）

この省令は、水防法の一部を改正する法律（平成十三年法律第四十六号）の施行の日（平成十三年七月三日）から施行する。

附 則 （平成一七年六月一日国土交通省令第六二号） 抄

（施行期日）

第一条 この省令は、水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行の日（平成十七年七月一日）から施行する。

附 則 （平成二三年一二月二六日国土交通省令第一〇〇号）

この省令は、津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第二百二十三号）の施行の日（平成二十三年十二月二十七日）から施行する。

附 則 （平成二五年七月五日国土交通省令第五九号）

この省令は、水防法及び河川法の一部を改正する法律の施行の日（平成二十五年七月十一日）から施行する。

附 則 （平成二五年九月一三日国土交通省令第七六号）

この省令は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律附則第一条第一号に掲げる規定の施行の日（平成二十五年九月十四日）から施行する。

附 則 （平成二七年一月一六日国土交通省令第二号） 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行の日（平成二十七年一月十八日）から施行する。

附 則 （平成二七年七月一七日国土交通省令第五四号） 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、水防法等の一部を改正する法律の施行の日（平成二十七年七月十九日）から施行する。

### 3 水防施設費国庫補助規則

(昭和二十六年三月二十九日建設省令第五号)

最終改正：平成二三年七月一日国土交通省令第五〇号

水防施設費国庫補助規則を次のように定める。

(補助の目的)

第一条 国土交通大臣は、水災を警戒し、防ぎよし、及びこれに因る被害を軽減するために必要な水防施設の充実強化を図るため、都道府県に対して、この規則の定めるところにより、補助金を交付する。

(定義)

第二条 この規則で「水防施設」とは、水防に必要な器具、資材及び設備をいう。

(補助の対象)

第三条 国は、左に掲げる費用について、毎年度予算の範囲内において、補助金を当該都道府県に対して交付する。

- 一 都道府県が水防施設を整備するために要する費用
- 二 水防管理団体が水防施設を整備するために要する費用について、都道府県が当該水防管理団体に対して助成する費用
- 三 都道府県がその助成に係る水防管理団体の水防施設の整備の状況を監督するために要する費用

(計画書の提出・内定額の通知)

第四条 都道府県知事は、水防施設について国庫の補助を受けようとするときは、あらかじめ、別に定める様式の計画書を水管理・国土保全局長に提出しなければならない。

- 2 前項の計画書に基き国庫において補助しようとする額が内定したときは、水管理・国土保全局長は、内定した金額を当該都道府県知事に通知しなければならない。

(国庫補助申請書の提出)

第五条 都道府県知事は、同条第二項の内定通知を受けたときは、都道府県の議会のこれに関する議決を経て、当該予算書の関係部分の写及び実施計画書を添えて、国土交通大臣に国庫補助申請書を提出しなければならない。

- 2 前項の実施計画書及び国庫補助申請書の様式は、別に定める。

(国庫補助通知書の交付)

第六条 国土交通大臣は、前条の国庫補助申請書を受理した場合において、その内容を審査し、適当と認めるときは、補助額を決定し、国庫補助通知書を交付するものとする。

(実施計画書の変更)

第七条 前条の国庫補助通知書を受けた後において、実施計画書の内容について著しい変更をしようとするときは、都道府県知事は、国土交通大臣の承認を受けなければならない。

(報告事項)

第八条 都道府県知事は、天災その他の災害により国庫の補助に係る水防施設に著しい被害を受けたときは、直ちにその状況を水管理・国土保全局長に報告しなければならない。

(検査)

第九条 国土交通大臣又は都道府県知事は、国庫の補助に係る水防施設に関して、必要な検査をすることができる。

(認定)

第十条 国庫の補助に係る水防施設が整備されたときは、都道府県知事は、直ちに別に定める様式の精算書を国土交通大臣に提出して、その認定を受けなければならない。

(補助金の返納)

第十一条 水防施設が整備された場合において、整備費に剰余を生じたときは、その剰余のうち、補助金に相当する額は国庫に返納しなければならない。但し、百円に満たないときは、この限でない。

(補助金の返還命令)

第十二条 補助金の交付を受けた都道府県について、左の各号の一に該当する事由が生じたときは、国土交通大臣は、既に交付した補助金の全部又は一部の返還を命ずることができる。

- 一 補助金を使用しないとき、又は補助の目的に反して使用したとき。
- 二 この規則の規定に違反したとき。
- 三 補助金交付の条件に違反したとき。

(水防管理団体に対する助成の手続)

第十三条 水防管理団体に対して都道府県が助成をする場合の手続その他必要な事項は、都道府県知事が定める。

附 則

この省令は、昭和二十六年四月一日から施行する。

附 則 (昭和二十七年七月一四日建設省令第二二号)

この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成一二年一二月二〇日建設省令第四一号) 抄

(施行期日)

- 1 この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日（平成十三年一月六日）から施行する。

附 則 (平成二三年七月一日国土交通省令第五〇号) 抄

(施行期日)

- 1 この省令は、公布の日から施行する。

## 4 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（抄）

（昭和三十七年九月六日法律第百五十号）

最終改正：平成二七年五月二七日法律第二九号

（趣旨）

第一条 この法律は、災害対策基本法（昭和三十六年法律第二百二十三号）に規定する著しく激甚である災害が発生した場合における国の地方公共団体に対する特別の財政援助又は被災者に対する特別の助成措置について規定するものとする。

（水防資材費の補助の特例）

第二十一条 激甚災害であつて政令で定める地域に発生したものに関し、都道府県又は水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第二条第二項に規定する水防管理団体が水防のため使用した資材に関する費用で政令で定めるものについては、国は、予算の範囲内において、その費用の三分の二を補助することができる。

## 5 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律施行令（抄）

（昭和三十七年十月十日政令第四百三号）

最終改正：平成二七年一二月一六日政令第四二一号

（水防資材に関する補助の特例の対象となる地域）

第三十九条 法第二十一条の政令で定める地域は、次の各号のいずれかに該当する区域とする。

一 法第二十一条の規定により都道府県に対し補助する場合にあつては、激甚災害に関し当該都道府県が水防のため使用した次条第二項の資材の取得に要した費用が百九十万円を超える都道府県の区域

二 法第二十一条の規定により水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第二条第二項に規定する水防管理団体（以下この号及び次条において「水防管理団体」という。）に対し補助する場合にあつては、激甚災害に関し当該水防管理団体が水防のため使用した次条第二項の資材の取得に要した費用が三十五万円を超える水防管理団体の区域

2 前項の区域は、国土交通大臣が告示する。

（水防資材の費用）

第四十条 法第二十一条の政令で定める費用は、激甚災害に関し水防のため使用した資材の取得に要した費用のうち、都道府県にあつては百九十万円を超える部分、水防管理団体にあつては三十五万円を超える部分とする。

2 前項の資材は、俵、かます、布袋類、畳、むしろ、縄、竹、生木、丸太、くい、板類、鉄線、くぎ、かすがい、蛇籠、置石及び土砂とする。ただし、水防の用途に再使用し、又は他の用途に使用することができるもの及び公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法施行令第四条の規定により災害復旧事業の事業費に含まれる費用に係るものを除く。



## 6 気象業務法（抄）

（昭和二十七年六月二日法律第百六十五号）  
最終改正：平成二六年六月一三日法律第六九号

### 第一章 総則

#### （目的）

第一条 この法律は、気象業務に関する基本的制度を定めることによつて、気象業務の健全な発達を図り、もつて災害の予防、交通の安全の確保、産業の興隆等公共の福祉の増進に寄与するとともに、気象業務に関する国際的協力を行うことを目的とする。

#### （定義）

第二条 この法律において「気象」とは、大気（電離層を除く。）の諸現象をいう。

（2から5項まで省略）

6 この法律において「予報」とは、観測の成果に基く現象の予想の発表をいう。

7 この法律において「警報」とは、重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報をいう。

（8項省略）

### 第三章 予報及び警報

#### （予報及び警報）

第十三条 気象庁は、政令の定めるところにより、気象、地象（地震にあつては、地震動に限る。第十六条を除き、以下この章において同じ。）、津波、高潮、波浪及び洪水についての一般の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。ただし、次条第一項の規定により警報をする場合は、この限りでない。

2 気象庁は、前項の予報及び警報の外、政令の定めるところにより、津波、高潮、波浪及び洪水以外の水象についての一般の利用に適合する予報及び警報をすることができる。

3 気象庁は、前二項の予報及び警報をする場合は、自ら予報事項及び警報事項の周知の措置を執る外、報道機関の協力を求めて、これを公衆に周知させるように努めなければならない。

第十三条の二 気象庁は、予想される現象が特に異常であるため重大な災害の起るおそれが著しく大きい場合として降雨量その他に関し気象庁が定める基準に該当する場合には、政令の定めるところにより、その旨を示して、気象、地象、津波、高潮及び波浪についての一般の利用に適合する警報をしなければならない。

2 気象庁は、前項の基準を定めようとするときは、あらかじめ関係都道府県知事の意見を聴かなければならない。この場合において、関係都道府県知事が意見を述べようとするときは、あらかじめ関係市町村長の意見を聴かなければならない。

3 気象庁は、第一項の基準を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 前二項の規定は、第一項の基準の変更について準用する。

5 前条第三項の規定は、第一項の警報（第十五条の二第一項において「特別警報」という。）をする場合に準用する。

第十四条 気象庁は、政令の定めるところにより、気象、地象、津波、高潮及び波浪についての航空機及び船舶の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。

2 気象庁は、気象、地象及び水象についての鉄道事業、電気事業その他特殊な事業の利用に適合する予報及び警報をすることができる。

3 第十三条第三項の規定は、第一項の予報及び警報をする場合に準用する。

第十四条の二 気象庁は、政令の定めるところにより、気象、津波、高潮及び洪水についての水防活動の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。

- 2 気象庁は、水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第十条第二項の規定により指定された河川について、水防に関する事務を行う国土交通大臣と共同して、当該河川の水位又は流量（はん濫した後においては、水位若しくは流量又ははん濫により浸水する区域及びその水深）を示して洪水についての水防活動の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。
- 3 気象庁は、水防法第十一条第一項の規定により指定された河川について、都道府県知事と共同して、水位又は流量を示して洪水についての水防活動の利用に適合する予報及び警報をしなければならない。
- 4 第十三条第三項の規定は、前三項の予報及び警報をする場合に準用する。この場合において、同条第三項中「前二項の予報及び警報をする場合は、」とあるのは、「第十四条の二第一項から第三項までの予報及び警報をする場合は、それぞれ、単独で、水防に関する事務を行う国土交通大臣と共同して又は都道府県知事と共同して、」と読み替えるものとする。
- 5 第二項又は第三項の規定により予報及び警報をする国土交通大臣又は都道府県知事については、第十七条及び第二十三条の規定は、適用しない。

第十五条 気象庁は、第十三条第一項、第十四条第一項又は前条第一項から第三項までの規定により、気象、地象、津波、高潮、波浪及び洪水の警報をしたときは、政令の定めるところにより、直ちにその警報事項を警察庁、消防庁、国土交通省、海上保安庁、都道府県、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社又は日本放送協会の機関に通知しなければならない。地震動の警報以外の警報をした場合において、警戒の必要がなくなつたときも同様とする。

- 2 前項の通知を受けた警察庁、消防庁、都道府県、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の機関は、直ちにその通知された事項を関係市町村長に通知するように努めなければならない。
- 3 前項の通知を受けた市町村長は、直ちにその通知された事項を公衆及び所在の官公署に周知させるように努めなければならない。
- 4 第一項の通知を受けた国土交通省の機関は、直ちにその通知された事項を航行中の航空機に周知させるように努めなければならない。
- 5 第一項の通知を受けた海上保安庁の機関は、直ちにその通知された事項を航海中及び入港中の船舶に周知させるように努めなければならない。
- 6 第一項の通知を受けた日本放送協会の機関は、直ちにその通知された事項の放送をしなければならない。

第十五条の二 気象庁は、第十三条の二第一項の規定により、気象、地象、津波、高潮及び波浪の特別警報をしたときは、政令の定めるところにより、直ちにその特別警報に係る警報事項を警察庁、消防庁、海上保安庁、都道府県、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社又は日本放送協会の機関に通知しなければならない。地震動の特別警報以外の特別警報をした場合において、当該特別警報の必要がなくなつたときも同様とする。

- 2 前項の通知を受けた都道府県の機関は、直ちにその通知された事項を関係市町村長に通知しなければならない。
- 3 前条第二項の規定は、警察庁、消防庁、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の機関が第一項の通知を受けた場合に準用する。
- 4 第二項又は前項において準用する前条第二項の通知を受けた市町村長は、直ちにその通知された事項を公衆及び所在の官公署に周知させる措置をとらなければならない。
- 5 前条第五項の規定は海上保安庁の機関が第一項の通知を受けた場合に、同条第六項の規定は日本放送協会の機関が第一項の通知を受けた場合に、それぞれ準用する。

## 7 気象業務法施行令（抄）

（昭和二十七年十一月二十九日政令第四百七十一号）

最終改正：平成二五年八月二六日政令第二四一号

（一般の利用に適合する予報及び警報）

第四条 法第十三条の規定による一般の利用に適合する予報及び警報は、定時又は随時に、次の表の区分に従い、国土交通省令で定める予報区を対象として行うものとする。

種類	内容
天気予報	当日から三日以内における風、天気、気温等の予報
週間天気予報	当日から七日間の天気、気温等の予報
季節予報	当日から一箇月間、当日から三箇月間、暖候期、寒候期、梅雨期等の天気、気温、降水量、日照時間等の概括的な予報
地震動予報	地震動（発生した断層運動による地震動をいう。以下この条及び次条において同じ。）の予報
火山現象予報	噴火、降灰等の予報
津波予報	津波の予報
波浪予報	当日から三日以内における風浪、うねり等の予報
気象注意報	風雨、風雪、強風、大雨、大雪等によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
地震動注意報	地震動によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
火山現象注意報	噴火、降灰等によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
地面現象注意報	大雨、大雪等による山崩れ、地滑り等によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
津波注意報	津波によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
高潮注意報	台風等による海面の異常上昇の有無及び程度について一般の注意を喚起するために行う予報
波浪注意報	風浪、うねり等によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
気象警報	暴風雨、暴風雪、大雨、大雪等に関する警報
地震動警報	地震動に関する警報
火山現象警報	噴火、降灰等に関する警報
地面現象警報	大雨、大雪等による山崩れ、地滑り等の地面現象に関する警報
津波警報	津波に関する警報
高潮警報	台風等による海面の異常上昇に関する警報
波浪警報	風浪、うねり等に関する警報
海面水温予報	海洋の表面における水温の予報
海流予報	海流の状況の予報
海水予報	沿岸における海水の状況の予報
浸水注意報	浸水によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
洪水注意報	洪水によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
浸水警報	浸水に関する警報
洪水警報	洪水に関する警報

（特別警報）

第五条 法第十三条の二第一項の規定による特別警報は、次の表の区分に従い、国土交通省令で定める予報区を対象として行うものとする。

種類	内容
気象特別警報	暴風雨、暴風雪、大雨、大雪等に関する特別警報
地震動特別警報	地震動に関する特別警報
火山現象特別警報	噴火、降灰等に関する特別警報
地面現象特別警報	大雨、大雪等による山崩れ、地滑り等の地面現象に関する特別警報
津波特別警報	津波に関する特別警報
高潮特別警報	台風等による海面の異常上昇に関する特別警報
波浪特別警報	風浪、うねり等に関する特別警報

(水防活動の利用に適合する予報及び警報)

第七条 法第十四条の二第一項 の規定による予報及び警報は、随時に、次の表の区分に従い、水防活動の利用に適合するように行うものとする。

種類	内容
水防活動用気象注意報	風雨、大雨等によつて水害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う
水防活動用気象警報	暴風雨、大雨等によつて重大な水害が起こるおそれがある場合に、その旨を警告して行う予報
水防活動用津波注意報	津波によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
水防活動用津波警報	津波に関する警報
水防活動用高潮注意報	台風等による海面の異常上昇の有無及び程度について注意を喚起するために 行う予報
水防活動用高潮警報	台風等による海面の異常上昇に関する警報
水防活動用洪水注意報	洪水によつて災害が起こるおそれがある場合に、その旨を注意して行う予報
水防活動用洪水警報	洪水に関する警報

(警報事項の通知)

第八条 法第十五条第一項 の規定による通知は、次に掲げるところにより行うものとする。

一 法第十三条第一項 の規定による警報の種類及び通知先

種類	通知先
気象警報 高潮警報 波浪警報	消防庁、海上保安庁、都道府県、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社及び日本放送協会の機関
地震動警報	日本放送協会の機関
火山現象警報 津波警報	警察庁、消防庁、海上保安庁、都道府県、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社及び日本放送協会の機関
地面現象警報 洪水警報	消防庁、都道府県、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社及び日本放送協会の機関

(二 省略)

三 法第十四条の二第一項 の規定による警報の種類及び通知先

種類	通知先
水防活動用気象警報 水防活動用高潮警報 水防活動用洪水警報	消防庁、国土交通省、都道府県、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の機関
水防活動用津波警報	警察庁、消防庁、国土交通省、都道府県、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の機関

四 法第十四条の二第二項 又は第三項 の規定による警報の種類及び通知先

種類	通知先
水防活動用洪水警報	消防庁、都道府県、東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社の機関

## 8 退職水防団員等報償規程

昭和38年2月9日  
建設省告示第162号

(趣 旨)

第1条 水防団長又は水防団員(以下「団員等」という。)の勤務の特殊性にかんがみ、団員等として多年勤続した者が退職した場合において、その功労に報いたるため、この規程の定めるところにより、報償を行う。

(報償を受ける者)

第2条 報償は、団員等として15年以上勤務して退職した者に対して行う。ただし、すでに報償を受けた者については、この限りでない。

第3条 報償は、国土交通大臣が行う。

(報償の方法)

第4条 報償は、賞状及び記念品を授与して行う。

2 団員等が死亡により退職し、又は退職後報償の日前に死亡したときは、その者に対する賞状及び記念品は、その者の遺族に交付する。

(勤続期間の計算)

第5条 報償の決定の基礎となる勤続期間の計算は、団員等としての在職期間による。

2 団員等が退職した後再び団員等となったときは、前項の勤続期間の計算については、前後の在職期間を合算する。

3 前2項の規定による在職期間の計算は、団員等となった日の属する月(前項の規定による後の在職期間については、再び団員等となった日の属する月の翌月)から退職した日の属する月までの月数による。

(報償の制限)

第6条 団員等が次の各号の一に該当する場合においては、その引き続いた在職期間については、報償を行なわない。

- (1) 在職中禁こ以上の刑に処せられたとき。
- (2) 懲戒免職若しくは停職処分又はこれに準ずる処分を受けたとき。
- (3) 前各号に掲げる場合は、報償を行なうことが不相当と認められるとき。

(報償の時期)

第7条 報償は、毎年1回11月に行う。ただし、特別の必要があるときは随時報償を行う。

(報償の手続)

第8条 都道府県知事は、その統括する都道府県の区域内においてこの規程により報償を受ける資格があると認められる者を調査してその名簿(以下「名簿」という。)を作成し、毎年9月15日までに国土交通大臣に提出しなければならない。

2 前項の調査は、毎年8月1日現在において行う。

3 国土交通大臣は、前2項の規定にかかわらず、特別の必要がある場合においては、期日を示して都道府県知事に第1項の調査並びに名簿の作成及び提出を求めることができる。

4 国土交通大臣は名簿を審査して報償を受けるべき者を決定する。

5 名簿には、次の各号に掲げる事項を記載しなければならない。

- (1) 氏名及び住所
- (2) 勤続期間
- (3) 所属水防団名及び当該水防団が所属する水防管理団体名

## 9 水防功労者表彰規則

(昭和三十一年三月三十日建設省令第六号)

最終改正：平成一八年一〇月三日国土交通省令第九九号

水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第三十四条の二の規定に基づき、水防功労者報賞規則を次のように定める。

(通則)

第一条 国土交通大臣が、水防管理者の所轄の下に水防に従事した者で当該水防に関し著しい功労があると認められるもの（以下「水防功労者」という。）に対して行う表彰については、この規則の定めるところによる。

(表彰の推薦)

第二条 都道府県知事は、当該都道府県に水防功労者であると認められる者があるときは、その旨を国土交通大臣に推薦するものとする。

(表彰の方法)

第三条 国土交通大臣は、前条の規定による推薦に基づいて表彰を行うものとする。

2 前項の表彰は、賞状を授与して行うものとする。

3 第一項の表彰は、前項の賞状に報賞金その他の副賞を付して行うことができる。

(報賞金)

第四条 前条第三項の報賞金は、表彰を受ける者が水防に従事したことにより死亡し、負傷し、若しくは病気にかかり、又は水防に従事したことによる負傷若しくは病気により死亡し、若しくは障害の状態となつた場合に付するものとし、その額は次のとおりとする。

一 死亡した者に対しては、その功労の程度に応じて別表第一に定める額

二 非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令（昭和三十一年政令第三百三十五号）第六条第二項に規定する第一級から第八級までの障害等級に該当する障害の状態となつた者に対しては、その功労及び障害の程度に応じて別表第二に定める額

三 前二号に該当する者以外の者に対しては、その功労及び負傷、病気又は障害の程度に応じて百九十万円以下で国土交通大臣が定める額

(表彰の時期)

第五条 表彰は、毎年一回十一月に行う。ただし、特別の必要があるときは、随時表彰を行うことができる。

(死亡した者の表彰)

第六条 表彰を受ける者が、表彰の日以前に死亡したときは、その者に対する賞状及び報賞金その他の副賞は、その者の遺族に交付するものとする。

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

附 則（昭和五五年五月七日建設省令第五号）

この省令は、公布の日から施行する。

附 則（昭和五七年九月二九日建設省令第一三号）

この省令は、昭和五十七年十月一日から施行する。

附 則（昭和六一年七月二五日建設省令第七号）

1 この省令は、公布の日から施行する。

2 改正後の水防功労者報賞規則別表第一及び別表第二の規定は、昭和六十一年三月一日以後に行わ

れた水防に係る水防功労者に対する報賞金について適用し、同日前に行われた水防に係る水防功労者に対する報賞金については、なお従前の例による。

附 則 （平成一〇年三月三〇日建設省令第四号）

- 1 この省令は、公布の日から施行する。
- 2 改正後の水防功労者報賞規則第四条第三号、別表第一及び別表第二の規定は、平成十年一月一日以後に行われた水防に係る水防功労者に対する報賞金について適用し、同日前に行われた水防に係る水防功労者に対する報賞金については、なお従前の例による。

附 則 （平成一二年一月二〇日建設省令第四一号） 抄

（施行期日）

- 1 この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成十一年法律第八十八号）の施行の日（平成十三年一月六日）から施行する。

附 則 （平成一七年六月一日国土交通省令第六二号） 抄

（施行期日）

第一条 この省令は、水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行の日（平成十七年七月一日）から施行する。

附 則 （平成一八年一〇月三日国土交通省令第九九号）

この省令は、公布の日から施行する。

別表第一 （第四条第一号関係）

功労の程度	金額
（一）特に抜群の功労があり他の模範となると認められる者	25,200,000円
（二）抜群の功労があり他の模範となると認められる者	18,700,000円
（三）特に顕著な功労があると認められる者	13,600,000円以下9,000,000円以上
（四）多大な功労があると認められる者	4,900,000円

別表第二 （第四条第二号関係）

功労の程度 障害の程度	（一）抜群の功労があり他の模範となると認められる者	（二）特に顕著な功労があると認められる者	（三）多大な功労があると認められる者
第一級	18,700,000円	13,600,000円以下 9,000,000円以上	4,900,000円
第二級	15,500,000円	12,100,000円以下 7,900,000円以上	4,600,000円
第三級	13,600,000円	10,700,000円以下 7,100,000円以上	4,100,000円
第四級	12,100,000円	9,500,000円以下 6,400,000円以上	3,600,000円
第五級	10,300,000円	8,200,000円以下 5,500,000円以上	3,100,000円
第六級	9,000,000円	7,000,000円以下 4,700,000円以上	2,800,000円
第七級	7,600,000円	5,900,000円以下 4,100,000円以上	2,300,000円
第八級	6,400,000円	4,900,000円以下 3,400,000円以上	1,900,000円
一 この表の障害等級及び金額の決定については、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令第六条第五項から第八項まで（第六項第一号を除く。）の規定の例による。			
二 特に抜群の功労があり、他の模範となると認められる者であつて障害等級が第一級に該当するものについては、第一級の最高額に1,900,000円を加算することができる。			